ISDNターミナルアダプタ

NEC

Aterm® IT21L / IT31L

PC-IT21D1L　PC-IT31D1L

取扱説明書

目次・マニュアルの使いかた

安全に正しくお使いいただくために

1 はじめにお読みください

2 Atermをセットアップしよう

3 もっと便利に使いこなす

4 電話機からのセットアップ

5 お困りのときには

6 付録

索引



・「ソフトウェアのご使用条件」は、巻末に記載されています。添付CD-ROMを開封する前に必ずお読みください。

『らくらくセットアップガイド』を見よう

本商品添付のCD-ROM（ユーティリティ集）には、Atermに電話機やパソコンを接続し、インターネットに接続するまでを音声と動画で説明したムービー『らくらくセットアップガイド』が入っています。パソコンをお使いの方は、Atermのセットアップを始める前に、ぜひご覧ください（☞ 10ページ）。



画面はWindowsの例です。

CD-ROMを活用しよう

Atermには、『らくらくセットアップガイド』以外にも、いろいろな電子マニュアルが用意されています。『取扱説明書』には含まれていない内容を知りたいときは、添付CD-ROMに入っている電子マニュアルを参照してください。

●データ通信ガイド（pdf形式）
データ通信ガイド（Windows Vista、WindowsXP）（html形式）

らくらくアシスタントを使わずにインターネット接続の設定をする方法や、データ通信、Atermで使えるメール機能、USBネットワーク、Atermのバージョンアップなどについて詳しく説明したマニュアルです。

●お困りのときには（html形式）

主にAtermにパソコンを接続して使用しているときのトラブルについて、解決方法などを説明したマニュアルです。『取扱説明書』の「お困りのときには」に該当するトラブルが見つからない場合は、このマニュアルをチェックしてみてください。

●用語解説（html形式）

主にAtermとパソコンを接続して使用する場合の用語について解説した用語集です。

●ATコマンド解説（pdf形式）

ATコマンドについて解説しています。

『らくらくセットアップガイド』の見かたについては本書の10ページを、その他の電子マニュアルの見かたについては本書の11ページをそれぞれ参照してください。また、本書や添付CD-ROMのマニュアルの活用方法は、本書の「マニュアルの使いかた」（☞ 8ページ）をご覧ください。

はじめに

このたびは、Aterm（エーターム）IT21LまたはAtermIT31Lをお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
AtermIT21LまたはAtermIT31Lは、NTT東日本・NTT西日本のISDN(デジタル回線)サービスであるINSネット64で電話機やファクスなどのアナログ通信機器を利用したり、インターネットを快適に利用するためのターミナルアダプタです。

本書は、AtermIT21LまたはAtermIT31L(以降「Aterm」と表記します)の設置・接続のしかたから、Atermのさまざまな機能の操作や設定方法、困ったときの対処方法に至るまで、Atermを使いこなすために必要な事項について説明しています。ご使用の前に、あるいはご使用中に、本書をよくお読みくださいますようお願いいたします。また、本書は読んだあとも大切に保管してください。

なお、本書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全に正しくお使いいただくために守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次のようになっています。本商品をお使いいただく前に必ず「安全に正しくお使いいただくために」(☞12ページ)をお読みください。

安全に正しくお使いいただくための表示について

⚠ **危険**	**人が死亡するまたは重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。**
⚠ **警告**	**人が死亡するまたは重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
⚠ **注意**	**人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。**
STOP **お願い**	**本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止をまねく内容を示しています。**

絵表示の例



△ 記号は、注意(危険･警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。記号の中には、具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



分解禁止

⃠ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

目次

はじめに 1
目次 2
マニュアルの使いかた 8
「らくらくセットアップガイド」を見よう 10
電子マニュアルの見かた 11
安全に正しくお使いいただくために 12

1. はじめにお読みください

Atermでこんなことができる 1-2
添付品を確認する 1-6
各部の名称とはたらき 1-8

2. Atermをセットアップしよう

セットアップを始める前に

セットアップの流れ 2-2
事前に準備しておくこと 2-4
らくらくアシスタントでの簡単セットアップとは？ 2-5

必要な契約手続き

INSネット64を申し込む 2-6
インターネットプロバイダへ加入する 2-8

Atermをつなぐ

全体接続図 2-9
STEP 1_Atermの置き場所を決めよう 2-10
STEP 2_INSネット64につなぐ 2-12
STEP 3_電話機やファクスをつなぐ 2-13
STEP 4_電源コードをつなぐ 2-16
STEP 5_電源を入れる 2-17
STEP 6_電話は使えますか？ 2-19
STEP 7_使わないアナログポートを設定する 2-21
STEP 8_パソコンをつなぐポートを確認する 2-22

STEP 9_らくらくアシスタントをインストールする（Windows編）.................... 2-23
STEP 9_らくらくアシスタントをインストールする（Macintosh編）................ 2-26
STEP 10_パソコンをつなぐ（Windows編）.. 2-27
USBポート接続-Windows Vistaの場合.. 2-27
USBポート接続-WindowsXPの場合.. 2-29
USBポート接続-Windows2000の場合.. 2-31
USBポート接続-WindowsMe/98の場合.. 2-33
シリアルポート接続の場合 2-36
STEP 10_パソコンをつなぐ（Macintosh編）.. 2-37
USBポート接続の場合 2-37
シリアルポート接続の場合 2-39

パソコンからのセットアップ（Windows編）※WindowsNT4.0以外

STEP 1_電話機やファクスを使うための設定をする 2-40
STEP 2_電話機・ファクスは使えますか？ 2-54
STEP 3_インターネットのセットアップ 2-55
STEP 4_インターネットへ接続する 2-59

パソコンからのセットアップ（Macintosh編）

STEP 1_電話機やファクスを使うための設定をする 2-61
STEP 2_電話機・ファクスは使えますか？ 2-67
STEP 3_BIGLOBEへのオンラインサインアップ 2-68
STEP 4_インターネットのセットアップ 2-71
STEP 5_インターネットへ接続する 2-76

パソコンからのセットアップ（WindowsNT 4.0編）.. 2-79
ホームページを見よう 2-80
インターネットへうまく接続できないときは 2-82

3.もっと便利に使いこなす

らくらくアシスタントを使おう

らくらくアシスタントをもっと知りたい 3-2
らくらくアシスタントの使いかた... 3-4
Windowsの場合 3-4
Macintoshの場合 3-6
各設定欄の使いかた 3-7

電話機能

電話機能一覧 3-8

目次

基本機能
フッキング 3-11
ダイヤル後に発信するまでの時間を調整する（ダイヤル桁間タイマ） 3-13
発信方法を変更する（＃発信） 3-14
相手の声の音量を変える（受話音量調節） 3-15
短縮ダイヤルで電話をかける 3-16
電話番号や電話機（ポート）を使い分ける
2つまたは3つの電話番号を使う（ｉ・ナンバー） 3-18
複数の電話番号を使う（ダイヤルインサービス） 3-21
接続している電話機でダイヤルインを使う
モデム・ダイヤルイン 3-26
アナログ・ダイヤルイン 3-30
特定の電話機に着信させる
１台の電話機で複数の電話番号を使う（着信ダイヤルイン複数選択） 3-34
メインの電話機に優先的に着信させる（優先着信ポート指定） 3-36
サブアドレスで特定の電話機に着信させる 3-38
家の中で話す/転送する
内線で話す（内線通話） 3-42
外線をほかの電話機に転送する（内線転送） 3-44
お話し中に
電話中に別の電話を受ける（INSキャッチホン/疑似キャッチホン） 3-46
三人で同時に話す（三者通話/疑似三者通話） 3-49
電話番号を表示する
自分の電話番号を相手に知らせる（発信者番号通知） 3-53
かけてきた相手の電話番号を表示する
（INSナンバー・ディスプレイとINSナンバー・リクエスト） 3-57
キャッチホンで受ける電話の番号も表示する（キャッチホン・ディスプレイ） 3-61
電話に出られないとき
外出時や就寝中など電話に出られないときに利用する（お出かけ設定） ... 3-64
電話を転送する
かかってきた電話を転送する（着信転送/疑似着信転送/電話番号着信通知） .. 3-68
電話中に別の電話番号へ転送する（通信中転送） 3-75
ボイスワープで転送する（INSボイスワープとINSボイスワープ・セレクト） .. 3-77
特定の相手を対象にする
電話を受ける相手を限定する（INSなりわけ識別着信/疑似識別着信） 3-80
特定の相手からの着信音を変える（INSなりわけ識別リンギング/疑似なりわけ） 3-85
キャッチホンを受け付ける相手を限定する（選択キャッチホン/疑似選択キャッチホン）3-90
迷惑電話をシャットアウトする（迷惑電話おことわりサービス/迷惑電話防止） ... 3-92
相手によって着信させる電話機を指定する（マイプライベート着信） 3-96
特定の電話だけを転送する（識別着信転送） 3-100

●各種情報を表示する●
通信料金を表示する 3-102
その他の情報を表示する 3-104
Atermの設定内容を確認・記録する 3-106

4.電話機からのセットアップ—パソコンを使わない方はこちらへ

電話機からの設定について 4-2
設定のしかた一覧 4-4

5.お困りのときには

トラブルシューティング 5-2
設置に関するトラブル 5-2
電話に関するトラブル 5-4
ファクス、ファクス付き電話機に関するトラブル 5-8
モデム通信(アナログポート)に関するトラブル 5-9
その他のトラブル 5-10
Atermを購入時の状態に戻す(初期化) 5-12
Atermが故障していないか確認する(自己診断) 5-15

6.付録

停電対策 6-2
切断理由・診断情報・生成源表示一覧 6-6
製品仕様 6-10
仕様一覧 6-10
ディップスイッチ 6-13
D-SUB 9ピンインタフェース 6-14
ホームテレホン/ビジネスホンの接続 6-15
別売りオプション 6-17
ターミナルアダプタの増設(S点ユニット) 6-18
DSU機能の切り離し(DSU切り離しユニット) 6-20
文字コード一覧表 6-21
用語解説 6-22
Aterm設定記入シート 6-26
索引 索-1

ソフトウェアのご使用条件 .... 巻末

目次(電子マニュアル)

本商品添付のCD-ROM(ユーティリティ集)には、Atermについて説明した電子マニュアルが入っています。ここではその概要を示します。電子マニュアルの見かたについては11ページを参照してください。

『データ通信ガイド(Windows Vista、WindowsXP)』(ファイル名:通信ガイド.html)

手動セットアップ、データ通信、USBネットワーク他

『データ通信ガイド』(ファイル名:通信ガイド.pdf)

1. 手動セットアップ

1. _ USBドライバの手動インストール
2. _ インターネットの手動セットアップ

2. データ通信

1. _ 64K通信(非同期/同期PPP変換)・・・64kbps同期アクセスポイントにつなぐ
2. _ 128kbpsマルチリンクPPP通信・・・Bチャネル2本で高速通信する
3. _ マルチアクセス・・・パソコン2台で同時にアクセスする
4. _ PIAFS(ピアフ)データ通信・・・PHSと通信する
5. _ スティルスコールバック・・・通信料金を相手側(サーバー)に負担させる
6. _ 応答平均化・・・複数のAtermを均等に使う
7. _ 無通信監視タイマ・・・通信の切断忘れを防止する
8. _ 強制切断タイマ・・・切断の失敗を防止する
9. _ 通信中データ切断・・・通信中にデータを手動で切断する
10. _ CTI機能・・・着信情報をパソコンに通知する
11. _ OCNエコノミー・・・インターネットに常時接続する
12. _ 発信者番号通知・・・自分の電話番号を相手に知らせる
13. _ i・ナンバー・・・i・ナンバー利用時のデータ着信
14. _ ダイヤルインサービス・・・ダイヤルイン利用時のデータ着信
15. _ 優先着信ポート指定・・・シリアルポートとUSBポートの優先指定
16. _ サブアドレス・・・サブアドレスでポートに着信させる
17. _ 疑似識別着信・・・着信する相手を限定する
18. _ HLC・・・HLCが一致する相手と通信する
19. _ SmartWakeup!サービス・・・外出先のパソコンからTV録画をする

3. Atermで使えるメール機能
1. __ 利用できるUUIメールサービス
2. __ 準備
3. __ 電子メールの着信をランプで知らせる（電子メール着信通知）
4. __ Aterm同士でメールを送る（UUIメール）
5. __ メールを安く送る（遊遊メール）
6. __ 電話機からUUIメールを送る（テレホンUUIメール）
7. __ 電話機から遊遊メールを送る（テレホン遊遊メール）

4. USBネットワーク
1. __ USBネットワークとは？
2. __ 準備
3. __ サーバーパソコンがWindowsMe/98/95の場合
3.1 サーバーパソコンの設定
3.2 クライアントパソコンがWindowsMe/98/95の場合の設定
3.3 WindowsMe/98/95⇔WindowsMe/98/95構成のUSBネットワークの使いかた
3.4 クライアントパソコンがWindows2000の場合の設定
3.5 WindowsMe/98/95⇔Windows2000構成のUSBネットワークの使いかた
4. __ サーバーパソコンがWindows2000の場合
4.1 サーバーパソコンの設定
4.2 クライアントパソコンがWindowsMe/98/95の場合の設定
4.3 Windows2000⇔WindowsMe/98/95構成のUSBネットワークの使いかた
4.4 クライアントパソコンがWindows2000の場合の設定
4.5 Windows2000⇔Windows2000構成のUSBネットワークの使いかた
5. __ 外部から着信可能なダイヤルアップサーバー

5. Atermのその他の機能
1. __ Atermのバージョンアップ

『お困りのときには』（ファイル名：お困り¥index.html）

『用語解説』（ファイル名：用語解説¥index.html）

『ATコマンド解説』（ファイル名：ATコマンド.pdf）

マニュアルの使いかた

ここでは、パソコンをお使いの方とお使いでない方に分けて、Atermのいろいろなマニュアルをどのように読み進めればいいかについての目安を示します。

パソコンをお使いでない方は

●Atermを使う際の重要な注意事項などを知っておこう
→「安全に正しくお使いいただくために」（☞12ページ～20ページ）

●Atermに電話機やファクスを接続するには
→『接続早わかりガイド』
→「Atermをセットアップしよう」（☞2-1～2-21ページ）

● i・ナンバーなどINSネット64のサービスを契約している方は
→「電話機からのセットアップ」（☞4-1ページ）

必要に応じて読もう

●電話機能を便利に使いこなすには
→「電話機能」（☞3-8ページ）
●トラブルが起こって困ったときは
→「お困りのときには」（☞5-1ページ）
●わからない言葉があるときは
→「用語解説」（☞6-22ページ）

パソコンをお使いの方は

●Atermを使う際の重要な注意事項などを知っておこう
→「安全に正しくお使いいただくために」（☞12ページ～20ページ）

●Atermに電話機やファクス、パソコンを接続するには
→『らくらくセットアップガイド』、『接続早わかりガイド』
→「Atermをセットアップしよう」（☞2-1～2-39ページ）

●i・ナンバーなどINSネット64のサービスを契約している方は
→「パソコンからのセットアップ」（☞2-40ページ/2-61ページ）

●インターネットに接続するには
→「パソコンからのセットアップ」（☞2-55ページ/2-71ページ）

必要に応じて読もう

●電話機能を便利に使いこなすには
→「電話機能」（☞3-8ページ）

●手動でUSBドライバやインターネットをセットアップするには
→『データ通信ガイド』「1．手動セットアップ」

●インターネットやリモートアクセスで、データ通信機能を使いこなしたいときは
→『データ通信ガイド』「2. データ通信」

●Atermのメール機能を使いたいときは
→『データ通信ガイド』「3．Atermのメール機能」

●Windowsパソコンを2台接続して簡易LANを構築したいときは
→『データ通信ガイド』「4．USBネットワーク」

●Atermをバージョンアップしたいときは
→『データ通信ガイド』「5．Atermのその他の機能」

●トラブルが起こって困ったときは
→『お困りのときには』(html)

●わからない言葉があるときは
→『用語解説』(html)

●ATコマンドを使うには
→『ATコマンド解説』(pdf)

「らくらくセットアップガイド」を見よう

本商品添付のCD-ROM(ユーティリティ集)には、Atermの接続からインターネットに接続するまでを音声と動画で説明したビデオ「らくらくセットアップガイド」が入っています。セットアップを始める前にぜひご覧ください。

ポイント

ユーザーアカウント制御の画面が表示される場合がありますが、その場合は[続行]をクリックしてください。また、ユーザーアカウント制御の画面はタスクバーに点滅表示される場合があります。

1 パソコンを起動し、本商品添付のCD-ROM(ユーティリティ集)をセットする

Windowsの場合は、メインメニューが表示されるまでしばらくお待ちください。

Macintoshの場合は、ウィンドウが開くので、その中にある[らくらくセットアップガイド]アイコンをダブルクリックし、手順4に進みます。ウィンドウが開かないときは、CD-ROMアイコンをダブルクリックしてウィンドウを開いてください。



2 メインメニューの「ソフトウェア・マニュアル一覧」をクリックし、一覧メニューを表示する

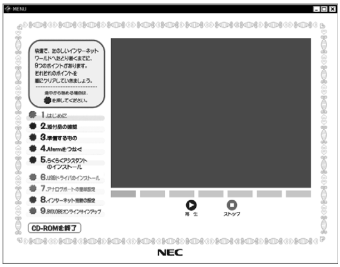
3 「らくらくセットアップガイド」をクリックする

開いたフォルダ内の「MENU.EXE」ファイルをダブルクリックします。

4 らくらくセットアップガイドメニューが表示されたら、扉アイコンをクリックする



5 画面上のボタンをクリックしながら説明をご覧ください



(画面は Windows の例)

電子マニュアルの見かた

電子マニュアルはPDF形式またはhtml形式で作成されています。Adobe Readerをお持ちでない方は、アドビシステムズ社のホームページからダウンロードしてください。

1 **パソコンを起動し、本商品添付のCD-ROM（ユーティリティ集）をセットする**

Windowsの場合は、メインメニューが表示されるまでしばらくお待ちください。

Macintoshの場合は、ウィンドウが開くので、その中にある[IT21L]または[IT31L]アイコンをダブルクリックし、手順3へ進んでください。
ウィンドウが開かないときは、CD-ROMアイコンをダブルクリックしてウィンドウを開いてください。

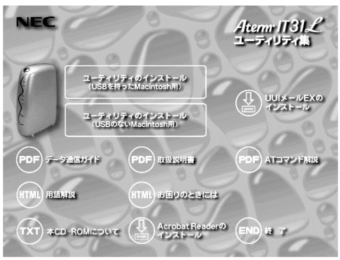


2 **(Windowsの場合)**
メインメニューから「ソフトウェア・マニュアル一覧」をクリックし、一覧メニューから読みたい電子マニュアルをクリックする

3 **(Macintoshの場合)**
らくらくセットアップガイドメニューが表示されたら[欲しいものだけインストール]をクリックする



4 **(Macintoshの場合)**
読みたい電子マニュアルをクリックする



（画面は Macintosh の例）

お知らせ

・Adobe Readerをお持ちでない方は、「PDF」とついている電子マニュアルのボタンをクリックする前に、アドビシステムズ社のホームページからAdobe Readerをダウンロードしてください。

安全に正しくお使いいただくために

本書では、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全に正しくお使いいただくために守っていただきたい事項を示してあります。本商品をご使用の前に必ずお読みください。

⚠ 危　険

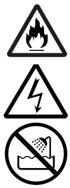
■ アルカリ乾電池ご使用時の注意 ■



● アルカリ乾電池内部の液が眼に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で充分洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。

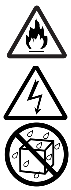
⚠ 警　告

■ 設置場所について ■



● 風呂、シャワー室への設置禁止

風呂場やシャワー室などでは使用しないでください。漏電して、火災・感電の原因となります。



● 水のかかる場所への設置禁止

水のかかる場所で使用したり、水にぬらすなどして使用しないでください。漏電して、火災・感電の原因となります。

⚠ 警　告

■ 電源について ■

●商用電源以外の禁止

AC100Vの家庭用電源以外では絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となります。差し込み口が2つ以上ある壁の電源コンセントに他の電気製品の電源プラグを差し込む場合は、合計の電流値が電源コンセントの最大値を超えないように注意してください。火災・感電の原因になります。

●電源コードの取扱注意

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら、別紙に示す修理受け付け先またはお問い合わせ先に修理をご依頼ください。

●ぬれた手での操作の禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

●たこ足配線の禁止

本商品の電源コードは、たこ足配線にしないでください。たこ足配線にするとテーブルタップなどが過熱・劣化し火災の原因となります。

●アース線の取り付け

万一、漏電した場合の感電事故防止のため、必ずアース線を取り付けてください。

⚠警　告

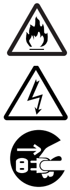
■もしもこんなときは■

●発煙した場合への対処



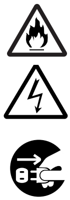
万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、別紙に示す修理受け付け先またはお問い合わせ先に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

●水が装置内部に入った場合の対処



万一、内部に水などが入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、別紙に示す修理受け付け先またはお問い合わせ先にご連絡ください。そのまま使用すると漏電して、火災・感電の原因となります。

●異物が装置内部に入った場合の対処



本商品の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、別紙に示す修理受け付け先またはお問い合わせ先にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特に、お子様のいるご家庭ではご注意ください。

●電源コードが傷んだ場合の対処



電源コードが傷んだ（芯線の露出・断線など）状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、別紙に示す修理受け付け先またはお問い合わせ先に修理をご依頼ください。

⚠ 警　告

● 破損時の対処

万一、落としたり、破損した場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、別紙に示す修理受け付け先またはお問い合わせ先に修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

■ 禁止事項について ■

● 本商品は、家庭用のOA機器として設計されております

人命に直接関わる医療機器や、極めて高い信頼性を要求されるシステム（幹線通信機器や電算機システムなど）では使用しないでください。

● 分解・改造の禁止

本商品を分解・改造しないでください。火災・感電の原因となります。

● ぬらすことの禁止

本商品に水が入ったりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。漏電して火災・感電の原因となります。

● ぬれた手での操作の禁止

ぬれた手で本商品を操作したり、接続したりしないでください。感電の原因となります。

⚠警　告

■ アルカリ乾電池ご使用上の注意 ■

- 電池の＋と－を逆にして使用しないでください。充電やショートなどで異常反応を起こしたりして、電池を漏液・発熱・破裂させるおそれがあります。
- 新しい電池と一度使用した古い電池や種類の異なる電池などを混ぜて使用しないでください。特性の違いから、電池を漏液・発熱・破裂させるおそれがあります。
- この電池は充電式ではないので、充電すると液もれ・破裂のおそれがあります。
- 電池の外装ラベルをはがしたり、傷つけないでください。電池がショートし、漏液・発熱・破裂するおそれがあります。
- ショート、分解、加熱、火に入れるなどしないでください。アルカリ性溶液がもれて眼に入ったり、発熱・破裂の原因となります。
- 万一、アルカリ性溶液が皮膚や衣服に付着した場合には皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐに多量のきれいな水で洗い流してください。眼に入ったときはきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。
- 電池のアルカリ液をなめた場合には、すぐにうがいをして医師に相談してください。

■その他のご注意 ■

- **異物を入れないための注意**

  本商品の上に花びん・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

⚠ 注　意

■ 設置場所について ■

● 火気のそばへの設置禁止
本商品や電源コードを熱器具に近づけないでください。ケースや電源コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

● 温度の高い場所への設置禁止
直射日光の当たるところや、温度の高いところ、発熱する装置のそばに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。

● 油飛びや湯気の当たる場所への設置禁止
調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● 不安定な場所への設置禁止
ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。また、本商品の上に重い物を置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

● 通風孔をふさぐことの禁止
本商品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方はしないでください。

- あお向けや逆さまにする
- 収納棚や本棚などの風通しの悪い狭い場所に押し込む
- じゅうたんや布団の上に置く
- テーブルクロスなどを掛ける

● 重ね置きの禁止
本商品を重ね置きしないでください。重ね置きすると内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

● 温度変化の激しい場所（クーラーや暖房機のそばなど）に置かないでください。本商品の内部に結露が発生し、火災・感電の原因となります。

⚠注　意

■ 電源について ■

●プラグの取り扱い注意

電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●移動させる場合は、本体の電源スイッチを切った後、電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続線をはずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●長期不在時の注意

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、停電用電池も取りはずしてください。

●電源プラグの清掃

電源プラグとコンセントの間のほこりは、定期的(半年に一回程度)に取り除いてください。火災の原因となることがあります。

■ 禁止事項について ■

●乗ることの禁止

本商品に乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。壊れてけがの原因となることがあります。

■ 雷のときの注意 ■

●雷が鳴りだしたら、電源コードに触れたり周辺機器の接続をしたりしないでください。落雷による感電の原因となります。

⚠ 注　意

■ アルカリ乾電池ご使用上の注意 ■

● **下記のことを必ず守ってください。電池の使い方を間違えると液もれや破裂のおそれがあり、機器の故障やけがなどの原因となります。**

- 使用推奨期間内の単3アルカリ乾電池をお使いください（アルカリ以外のマンガン電池などでの動作保証はしていません）。
- 使い切った電池はすぐに機器から取り出してください。使い切った電池を機器に接続したまま長時間放置すると、電池から発生するガスにより、電池を漏液・発熱・破裂させたり、機器を破損させるおそれがあります。
- 使い切った電池はすぐに機器から取り出してください。過放電・高温放置による電池の液もれでの本商品の故障については当社は保証いたしかねます。
- 電池に直接ハンダ付けをしないでください。
- 電池は直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管してください。電池を漏液させるおそれがあります。また、電池の性能や寿命を低下させることがあります。
- 電池を取りはずした場合は、小さなお子様が電池をなめたり、あやまって飲むことがないようにしてください。電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。
- 停電がなくても、1年に一度の割合で新しい電池と交換してください。長期間電池を装着したままでご使用になると、電池が漏液するおそれがあります。
- 電池を保管する場合および廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。他の電池や金属製のものと混ぜると、漏液・発熱・破裂のおそれがあります。
- 電池を入れた電池ホルダー側の面を、発熱する機器の近くや直射日光・高温・高湿の場所に置かないでください。また、通風孔をふさがないでください。漏液・発熱・破裂のおそれがあります。

STOP お願い

■ 設置場所について ■

●本商品を安全に正しくお使いいただくために、次のような所への設置は避けてください。
・ほこりや振動が多い場所
・気化した薬品が充満した場所や、薬品に触れる場所
・テレビやラジオなどのすぐそばや、強い磁界を発生する装置が近くにある場所
・高周波雑音を発生する高周波ミシン・電気溶接機などが近くにある場所

●テレビやラジオにノイズが入ることがあります。またコードレス電話や携帯電話などで通話中にノイズが入ることがあります。その場合は本商品から距離を置いてご使用ください。

■ 禁止事項について ■

●動作中に接続コードがはずれたり、接続が不安定になると誤動作の原因となります。動作中は、コネクタの接続部には絶対に触れないでください。

■ その他のご注意 ■

●本商品プラスチック部品の一部に、光の具合によってはキズに見える部分があります。プラスチック製品の製造過程で生じることがあるものですが、構造上および機能上は問題ありません。安心してお使いください。

■ 日頃のお手入れ ■

●汚れたら、乾いた柔らかい布でふきとってください。汚れのひどいときは、中性洗剤を含ませた布でふいたあと、乾いた布でふきとってください。化学ぞうきんの使用は避けてください。ベンジン・シンナーなどの有機溶剤やアルコールは絶対に使用しないでください。変形や変色の原因となることがあります。

1. はじめにお読みください

Atermの知っておきたい便利な使いかたや、各部の名称とはたらき、添付品の確認方法について説明しています。Atermを使い始めるときは、まず、ここをお読みください。

Aterm でこんなことができる 1-2

添付品を確認する 1-6

各部の名称とはたらき 1-8

1

Windows Vista™ は、Windows Vista™ Home Basic、Windows Vista™ Home Premiumの各日本語版かつ32ビット(x86)版の略です。
Windows® XPは、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft® Windows® XP Professional operating system の略です。
Windows® 2000はMicrosoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
Windows® MeはMicrosoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
Windows® 98はMicrosoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows® 95はMicrosoft® Windows® 95 operating systemの略です。
WindowsNT® 4.0はMicrosoft® WindowsNT® operating system version 4.0の略です。

Atermでこんなことができる

Atermは、INSネット64を利用するのに欠かせないTA(ターミナルアダプタ)と呼ばれる装置です。TAのしくみやその役割、Atermの知っておきたい便利な使いかたをご紹介します。

● TA(ターミナルアダプタ)って何?

今まで使っていた電話機やファクスは、アナログ通信機器といって、従来の電話網(アナログ回線)で使えるように作られたものです。一方、INSネット64は、ISDN網(デジタル回線)といって音声やデータをすべてデジタル信号でやりとりするため、従来のアナログ回線で使っていた電話機やファクスを直接つなぐことはできません。TAは、これらのアナログ通信機器をINSネット64でも使えるようにしたり※1、パソコンのデータをデジタル信号として送り受けするための装置です。

※1 INSネット64にTAをつなぐにはDSU(回線接続装置)と呼ぶ装置が必要ですが、Atermには、DSUが内蔵されているので、モジュラコンセントに直接つなぐことができます。また、いままでお使いの電話機やファックスをそのまま使うことができます。

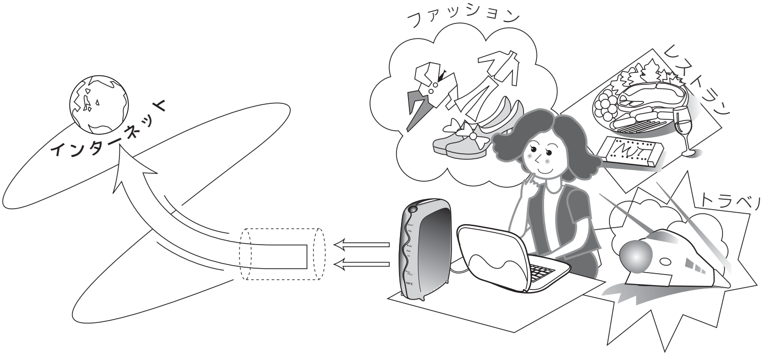
● 電話回線(アナログ回線)2本分として使う

INSネット64のケーブルは今までお使いのアナログ回線と同じですが、1本の回線契約でアナログ回線2本分として利用できます。1本のケーブルの中に音声やデータの通り道が2本あると考えてください。この通り道のことをBチャネルといいます(2本をそれぞれB1チャネル、B2チャネルと呼びます)。電話と電話、電話とファクス、電話とインターネット、ファクスとインターネットなど、Atermにつないだ「2台の機器が同時に使える」のがポイントです。



● インターネットにつなぐ

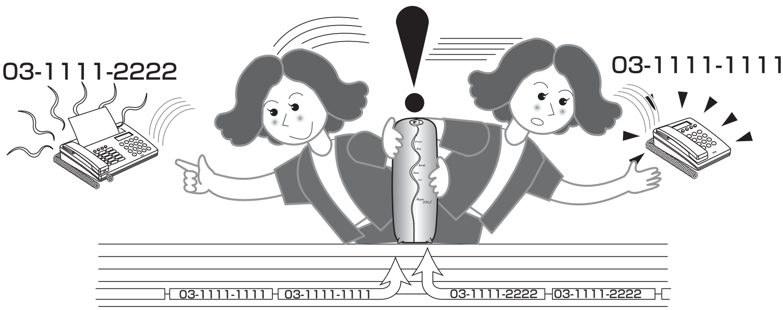
電子メールを送ったり、ホームページを見たり、今やインターネットは趣味やビジネスに欠かせません。Atermなら、モデムを使ってアナログ回線でインターネットに接続するのに比べて、接続もスピーディ。さらに、高速※2で安定した品質でインターネットを楽しむことができます。



※2 通常の同期通信では、Bチャネル1本を使い、64kbpsで接続できます。

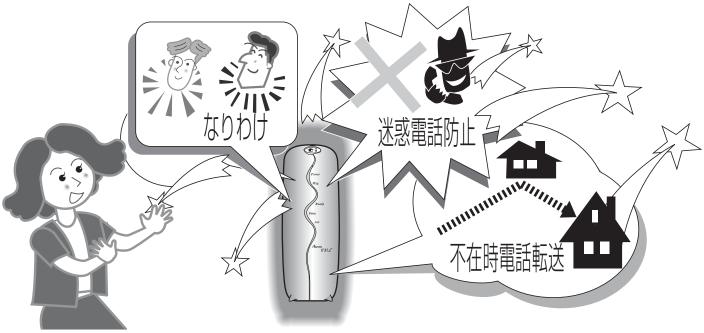
● 複数の電話番号を使う

INSネット64には、1本の回線契約で3つまでの電話番号を使えるｉ·ナンバーと、もっとたくさんの電話番号を使えるダイヤルインサービスがあります。Atermはこれらのサービスに対応しているので、つないだ電話やファクスにそれぞれ別の電話番号を割り振って使うことができます。



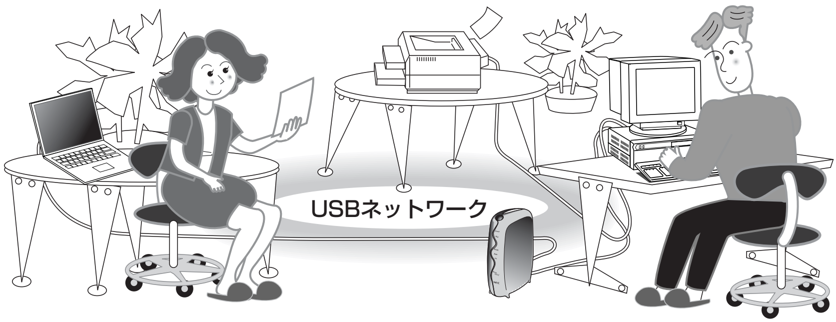
● 便利で多彩な電話機能を使う

Atermは便利な電話機能をたくさん備えています。でかけるボタンを押すだけでセットできる不在時の電話着信転送、INSネット64の付加サービスの契約なしで使える疑似キャッチホン、INSナンバー･ディスプレイ、相手によって着信音を切り替える疑似なりわけや迷惑電話防止機能など、Atermをつなぐことで今までの電話機がぐっと便利になります。



● 2台のパソコン間でのデータ共有やプリンタ共有

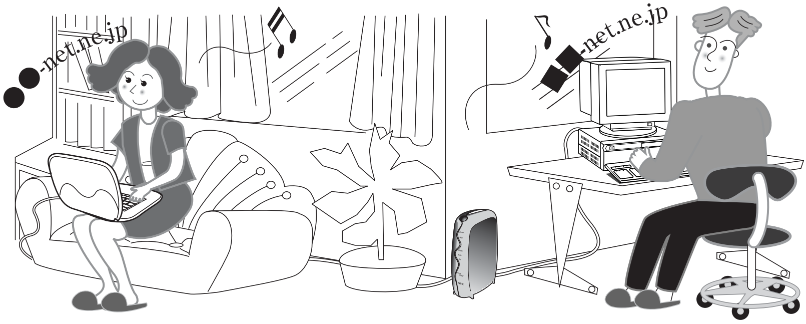
2台のパソコンをAtermにつなぐと、簡単なUSBネットワークが実現できます。パソコン間でデータをやり取りしたり、１台のプリンタを2台のパソコンで共有したりと、インターネットに接続しないときでも、便利に使えます。



● 2台のパソコンからインターネットにつなぐ（マルチアクセス）

シリアルポートとUSBポートにつないだ2台のパソコンから、別々のプロバイダへ同時に接続することができます※3。Atermなら2台のパソコンで同時にインターネットを楽しめます。

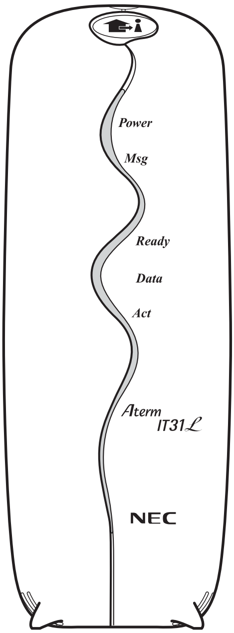
※3　2台のパソコンから同時にインターネットに接続する場合は2本の通り道を使うので、その間、電話やファクスは使用できません。

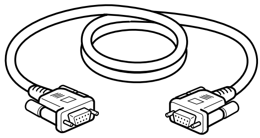
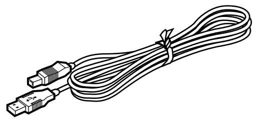
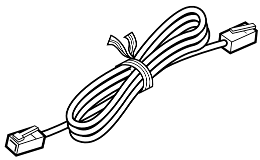


添付品を確認する

取りつけをはじめる前に、まず、添付品がすべてそろっていることを確認してください。
不足しているものがある場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ Atermの添付品 ■

<table>
<tr><td rowspan="3">□本体


（※画面はIT31L）</td><td>□RS-232Cケーブル（9ピン）
</td></tr>
<tr><td>□USBケーブル
</td></tr>
<tr><td>□INS回線ケーブル
</td></tr>
<tr><td colspan="2">□ 取扱説明書（本書）
□ 接続早わかりガイド（IT31Lのみ）
□ お問い合わせ・アフターサービス
□ 保証書（取扱説明書に含む）
□ CD-ROM</td></tr>
</table>

■ CD-ROM（ユーティリティ集）の内容 ■

▶各種ユーティリティ（Windows版/Macintosh版）

- Atermらくらくアシスタント
- Atermらくらくバージョンアップ
- UUIメールEX
- USB関連ソフトウェアなど

▶電子マニュアル

- データ通信ガイド（Windows Vista、WindowsXP）（html形式）
- データ通信ガイド（pdf形式）
- お困りのときには（html形式）
- 用語解説（html形式）
- ATコマンド解説（pdf形式）
- 取扱説明（pdf形式）

電子マニュアルは、pdfまたはhtmlというファイル形式になっています。
pdf ファイルはAdobe Readerで、htmlファイルはWebブラウザを使って読みます。
電子マニュアルの見かたは「電子マニュアルの見かた」（☞11ページ）を参照してください。

▶らくらくセットアップガイド

Atermの接続から、アナログポートの設定、インターネット設定までを動画と音声で説明しています。ターミナルアダプタをはじめて使うという方は、取りつけをはじめる前にぜひご覧ください。

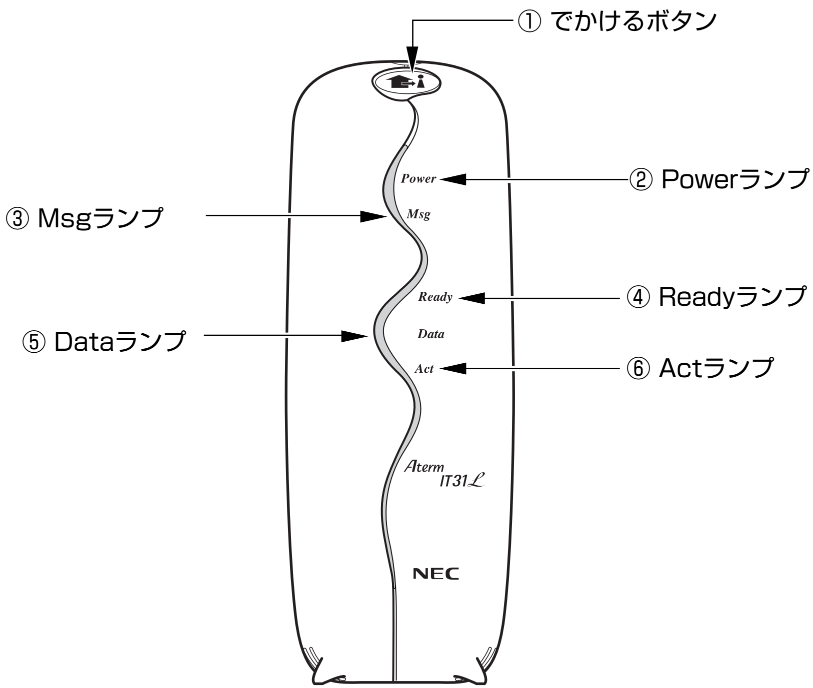
▶追加補足マニュアル

- バージョンアップ方法
  WindowsXPへのアップグレード

各部の名称とはたらき

※ IT31L の図を参考にしています。

■ 前面図 ■



※ 本商品プラスチック部品の一部に、光の具合によってはキズに見える部分があります。プラスチック製品の製作過程で生じることがあるものですが、構造上および機能上は問題ありません。安心してお使いください。

① でかけるボタン

お出かけ設定(☞3-64～3-67ページ)をするとき、通信中のデータを強制的に切断するとき(☞2-60、2-78ページ)に押します。

※お出かけ設定のとき：1秒以上押す、強制切断のとき：7秒以上押す

オレンジ色で点灯 ：・お出かけ設定がセットされているとき
・バージョンアップに失敗したときに行う強制ローダモードが開始されているとき

オレンジ色で点滅 ：・フラッシュモードで着信があったとき
・強制ローダモードが終了したとき

② Powerランプ

緑色で点灯 ：電源が入っているとき

緑色で早く点滅(1秒間に2回)：電池で動作しているとき

緑色で遅く点滅(1秒間に1回)：電池で動作中、電池残量が少なくなったとき

赤く点灯 ：バージョンアップ中

赤く点滅 ：ファームウェアのバージョンアップに失敗したとき

③ Msg(Message)ランプ

オレンジ色で点灯 ：バージョンアップ中

オレンジ色で点滅 ：電子メール着信が通知されたときまたはUUIメールを受信したとき

④ Readyランプ

緑色で点灯 ：シリアルポートに接続されたパソコンのER信号(Equipment Ready)がONのとき

赤く点灯 ：USBポートに接続されたパソコンのER信号がONのとき

赤く点滅 ：Aterm用USBドライバがインストールされて、USBポートが認識されているとき

オレンジ色で点灯 ：シリアルポートとUSBポートに接続されたパソコンの双方ともER信号がONのとき

⑤ Dataランプ

緑色で点灯 ：シリアルポートに接続されたパソコンでデータを送受信しているとき

赤く点灯 ：USBポートに接続されたパソコンでデータを送受信しているとき

⑥ Actランプ

緑色で点灯 ：B1チャネルが通信中のとき

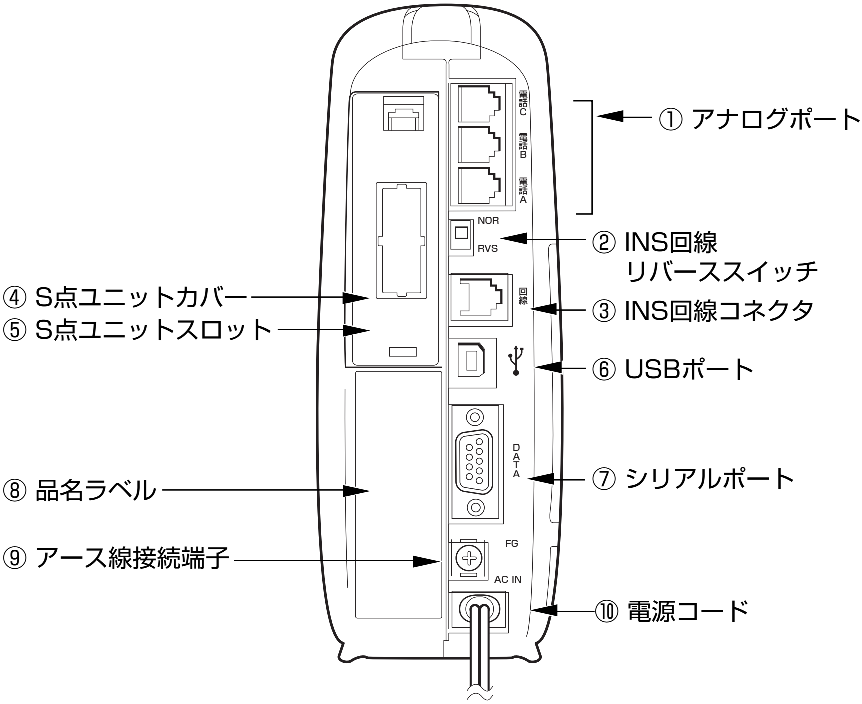
緑色で点滅 ：発信／着信があったときは、まず緑色で点滅し、その後、各Bチャネルの通信状態によって変わります

赤く点灯 ：B2チャネルが通信中のとき

赤く点滅 ：INSネット64とAtermの間で基本的なやりとり(レイヤ1同期・レイヤ2同期)ができていないとき

オレンジ色で点灯 ：B1・B2両チャネルで通信中

■ 背面図 ■



電話C
電話B
電話A
NOR
RVS
回線
DATA
FG
AC IN
① アナログポート
② INS回線リバーススイッチ
③ INS回線コネクタ
④ S点ユニットカバー
⑤ S点ユニットスロット
⑥ USBポート
⑦ シリアルポート
⑧ 品名ラベル
⑨ アース線接続端子
⑩ 電源コード

① アナログポート(電話Aポート・電話Bポート・電話Cポート※)
モジュラケーブルを使って、電話機やファクス、モデムなどのアナログ通信機器を接続します。(※電話Cポートは IT31Lのみ)

② INS回線リバーススイッチ
INSネット64の配線が逆転しているとき(同期がとれないとき)に切り替えます。切り替えるときは、細く硬いもの(つまようじの先など)を使ってください。

③ INS回線コネクタ
添付のINS回線ケーブルを使って、INSネット64と接続します。

④ S点ユニットカバー
別売りのS点ユニット(PC-IT/U03)または、DSU切り離しユニット(PC-IT/US1)の着脱時にこのカバーをはずします。

⑤ S点ユニットスロット
別売りのS点ユニット(PC-IT/U03)または、DSU切り離しユニット(PC-IT/US1)を差し込みます。

⑥ USBポート
添付のUSBケーブルを使って、パソコンのUSBポートに接続します。

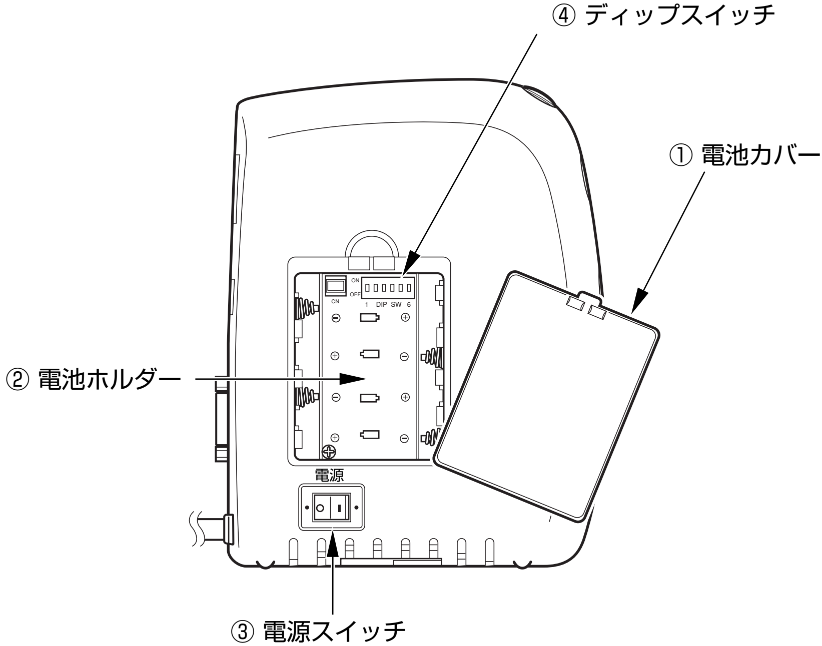
⑦ シリアルポート
添付のRS-232Cケーブルを使って、パソコンのCOMポート(Windowsの場合)またはモデムポート/プリンタポート(Macintoshの場合)に接続します。

⑧ 品名ラベル
Atermの認証番号や製造番号などが記載されています。

⑨ アース線接続端子
アース線を取り付ける端子です。(アース線は添付していません)
断面積0.75mm^2(AWG#18)以上の太さのアース線をご用意ください。

⑩ 電源コード
AC100 Vの家庭用電源コンセントに接続します。

■ 左側面図 ■



① **電池カバー**
ツメの部分を押し下げながらカバーを持ち上げるとはずれます。

② **電池ホルダー**
停電時にも使用できるように、市販の単3アルカリ乾電池（4本）を入れます（☞6-2ページ）。

③ **電源スイッチ**
電源の入／切を切り替えるスイッチです。電源を入れるときは「 ▎」側を押します。

④ **ディップスイッチ**
特別な設定をするときに使用します（☞6-13ページ）。

2. Aterm をセットアップしよう

電話やインターネットが使えるようにAtermをセットアップします。Atermをご利用いただくために欠かせない作業ですので、ページの順番にお読みください。

セットアップを始める前に 2-2

必要な契約手続き 2-6

Aterm をつなぐ 2-9

パソコンからのセットアップ（Windows 編）※ WindowsNT4.0 以外 2-40

パソコンからのセットアップ（Macintosh 編）........ 2-61

パソコンからのセットアップ（WindowsNT4.0 編）........ 2-79

ホームページを見よう 2-80

インターネットへうまく接続できないときは 2-82

Windows Vista™ は、Windows Vista™ Home Basic、Windows Vista™ Home Premiumの各日本語版かつ32ビット(x86)版の略です。
Windows® XPは、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft® Windows® XP Professional operating system の略です。
Windows® 2000はMicrosoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
Windows® MeはMicrosoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
Windows® 98はMicrosoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows® 95はMicrosoft® Windows® 95 operating systemの略です。
WindowsNT® 4.0はMicrosoft® WindowsNT® operating system version 4.0の略です。

セットアップを始める前に

セットアップの流れ

Atermが使えるようになるまでの基本的な流れを示します。
セットアップを始める前に、INSネット64の契約と工事が完了していることを確認してください。

INSネット64に接続する ▶ 電話機やファクスを接続する ▶ 電源コードをつなぎ、電源を入れる ▶ 電話が使えることを確認する ▶

2-12ページ　2-13ページ　2-16ページ　2-19ページ

A ▶▶▶ らくらくアシスタントをインストールする ▶ USBドライバをインストールする（パソコンを接続する） ▶▶▶▶

らくらくアシスタントをインストールする　Windows：2-23ページ　Macintosh：2-26ページ
USBドライバをインストールする　Windows：2-27ページ　Macintosh：2-37ページ

B ▶▶▶ らくらくアシスタントをインストールする ▶ パソコンを接続する ▶▶▶▶

らくらくアシスタントをインストールする　Windows：2-23ページ　Macintosh：2-26ページ
パソコンを接続する　Windows：2-36ページ　Macintosh：2-39ページ

C ▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶ 電話番号を設定する ▶▶▶▶

設定例：ｉ・ナンバー　3-18ページ
：ダイヤルインサービス　3-21ページ

お知らせ

ケーブルの接続からインターネット接続までを説明した「接続早わかりガイド」のほか、本商品添付のCD-ROM(ユーティリティ集)にはビデオ「Atermらくらくセットアップガイド」があります。セットアップを始める前にぜひご覧ください(☞10ページ)。

使わないアナログポートを設定する ▶

2-21ページ

- パソコンとUSBポートで接続する方は [A] へ
- パソコンとシリアルポートで接続する方は [B] へ
- パソコンを接続しない方は [C] へ

▶▶ **アナログポートを設定する** ▶ **正しく設定されたか確認する** ▶ **インターネット接続の設定をする** ▶ **インターネットに接続する**

アナログポートを設定する	正しく設定されたか確認する	インターネット接続の設定をする	インターネットに接続する
Windows : 2-40〜53ページ	Windows : 2-54ページ	Windows : 2-55ページ	Windows : 2-59ページ
Macintosh : 2-61〜66ページ	Macintosh : 2-67ページ	Macintosh : 2-71ページ	Macintosh : 2-76ページ

▶▶ **その他のサービスを設定する**

パソコンを接続しない方は、「電話機能」(3-8ページ〜)と「電話機からのセットアップ」(4-1ページ〜)を参照して正しく設定してください。

事前に準備しておくこと

セットアップを始める前に次の準備ができているか確認しましょう。

● INSネット64の申し込みと工事

INSネット64をまだ契約していない場合は、NTT東日本・NTT西日本に申し込み、工事を依頼します。現在お使いのアナログ回線をINSネット64に変える場合は、簡単な工事で済みます(☞「INSネット64を申し込む」2-6ページ)。

● プロバイダへの加入

インターネットを利用するには、プロバイダ(インターネットプロバイダ)への加入が必要です。すでに加入している方は、今までのアクセスポイントがINSネット64に対応しているかを確認してください。Atermから接続する場合は、INSネット64のアクセスポイントに接続しますが、プロバイダによっては、INSネット64とアナログ回線で、アクセスポイントの電話番号が異なることがあります。
これから加入する方は、Atermのセットアップの際に、プロバイダ「BIGLOBE(ビッグローブ)」への加入手続きが行えますのでご利用ください。準備は不要です(☞「BIGLOBEへのオンラインサインアップ」2-68ページ)。

● 電話機やファクス

プッシュ回線につないでいた電話機やファクスなら、そのまま使用できます。プッシュ回線につなげない電話機やファクスは使用できません。

● パソコン

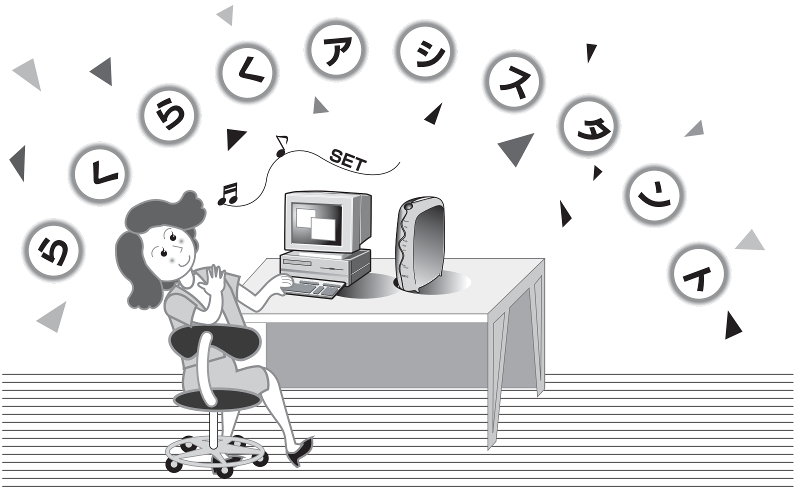
Windows Vista Home Basic および Windows Vista Home Premiumの各日本語版の32ビット(x86)版、WindowsXP/2000/Me/98/95(Windows95はシリアルポートのみ)、Macintosh(MacOS 8.6J/9.0J/9.04J/9.1J)のパソコンに対応しています。(すべて日本語版)
電話機やファクスだけを利用する場合は、パソコンはなくてもかまいません。

セットアップを始める前に

らくらくアシスタントでの簡単セットアップとは？

パソコンを接続する場合、「らくらくアシスタント」という添付のツールを使うと、Atermを簡単にセットアップできます。

はじめてAtermを利用するときは、電話番号、INSナンバー・ディスプレイなどのサービスを使う／使わないといった情報、インターネット接続用の情報などを自分の使い方に合わせてAtermに設定する必要があります。専門用語などが出てきてなんだか難しいような感じを受けますが、ご安心ください。「らくらくアシスタント」を使うと簡単に設定を行うことができます。



今までインターネットを利用したことのある方ならご存知だと思いますが、インターネットに接続できるようにするには、パソコン側にもさまざまな設定が必要です。らくらくアシスタントは、パソコンの設定も「あっ」という間にやってくれます。
パソコンには自信がないという方も大丈夫。
まだインターネットプロバイダに加入していない場合でも、らくらくアシスタントを使うと、BIGLOBEに入会できます（Macintosh版のみ）。

INSネット64を申し込む

INSネット64の申し込みを済ませていない方は、以下を参考にしてNTT東日本・NTT西日本に申し込んでください。

■ サービスを選ぶ ■

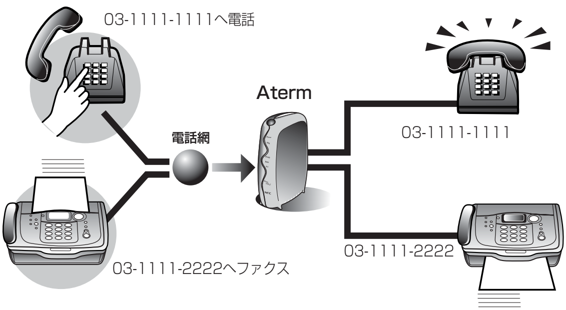
INSネット64には、便利なサービスがいくつも用意されていますので、ご自分の使用目的にあった利用サービスを選び、申し込んでください。

・サービスの申し込みは、後日必要に応じて変更・取り消し・追加もできます(有料)。
・INSネット64のサービスについて詳しくは、NTT東日本・NTT西日本にお問い合わせください。

ここでは、INSネット64で提供される代表的なサービスを目的別に紹介します。

● 電話機とファクスで呼び分けしたい(i(アイ)・ナンバーまたはダイヤルイン)

電話機やファクスを異なる電話番号で呼び分けるサービスです。2つまたは3つの電話番号で呼び分ける場合はi・ナンバー(☞3-18ページ)がお得です。4つ以上の電話番号で呼び分ける場合はダイヤルインサービス(☞3-21ページ)をご契約ください。

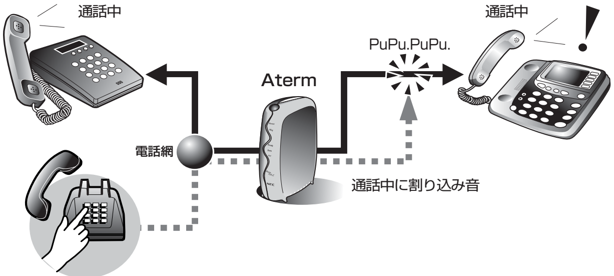


お知らせ

電話機とファクス付き電話機を使用する場合、1つの電話番号だけでご契約になると、電話がかかってきても先にファクスが応答し、ファクスで電話を受けてしまうことがあります。この場合、電話機で電話を受けることができません。また、ファクス付き電話機の自動切り替えの間、相手に通話料がかかるという問題点もあります。電話機とファクスを使用する場合は、i・ナンバー(またはダイヤルインサービス)のご契約をおすすめします。

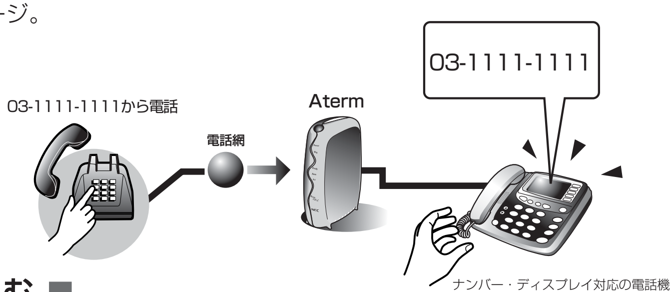
● 話し中にほかの電話を逃したくない （INSキャッチホン）

話し中でもほかの電話を受けられるサービスです。
Atermでは同様のサービスを疑似キャッチホン機能として提供しています。これを利用する場合は、INSキャッチホンの契約は不要です。詳しくは☞3-46ページ。



● 相手の電話番号を知りたい （INSナンバー・ディスプレイ）

電話を受ける前に相手の電話番号を表示するサービスです。
ナンバー・ディスプレイ対応の電話機・ファクスなどが必要です。詳しくは☞3-57ページ。



■ 申し込む ■

最寄りのNTT窓口でINSネット64の加入手続きを行ってください。手続きの詳細については、NTT窓口にご相談ください。なお、申し込みの際は、機種名「AtermIT21L」（エーターム・アイティー・ニーイチ・エル）」または「AtermIT31L（エーターム・アイティー・サンイチ・エル）」とDSU（ディー・エス・ユー）を内蔵していることを必ず伝えてください。

■ 「INS ネット 64 お申込票」記入上のヒント ■

・インターフェース形態及びレイヤ1起動種別欄では「P-MP常時」をお勧めします。「P-P」は利用できません。
・ユーザ間情報通知サービス欄では「着信許可」をチェックします。
・「通信中着信通知サービス」を契約します。
・通信機器の名称欄では「ＤＳＵ折り返し機能あり」をチェックし、機種名として「PC-IT21LD1L」または「PC-IT31D1L」を記入します。
・メーカ名欄では「他社」をチェックします。
・回線接続装置欄では「TA内蔵」をチェックします。

インターネットプロバイダへ加入する

インターネットを利用するためには、インターネットプロバイダ(以下プロバイダと呼びます)への加入が必要です。プロバイダは、家庭などのパソコンからインターネットの世界に接続するための、通り道を提供してくれます。

プロバイダにこれから加入する場合 ●●●●●●●●●●●

プロバイダにこれから加入する方は、Atermのセットアップの際に、らくらくアシスタントを使ってプロバイダ「BIGLOBE」への加入手続きを行うことができます(Macintoshのみ)。この場合には、事前の準備は不要です(☞「BIGLOBEへのオンラインサインアップ」2-68ページ)。

お願い

オンラインサインアップを行うにはクレジットカードが必要です。BIGLOBEへの支払いをクレジットカード以外の方法でご希望の場合は、添付の『インターネットスタートブック』(BIGLOBE入会申込書)を使い、郵送またはファクスでお申し込みください。

すでにプロバイダに加入している場合 ●●●●●●●●●●

すでに加入している方は、今までのアクセスポイントがINSネット64に対応しているかを確認してください。プロバイダによっては、INSネット64とアナログ回線で、アクセスポイントの電話番号が異なることがあります。Atermから接続する場合は、INSネット64用のアクセスポイントに接続します。

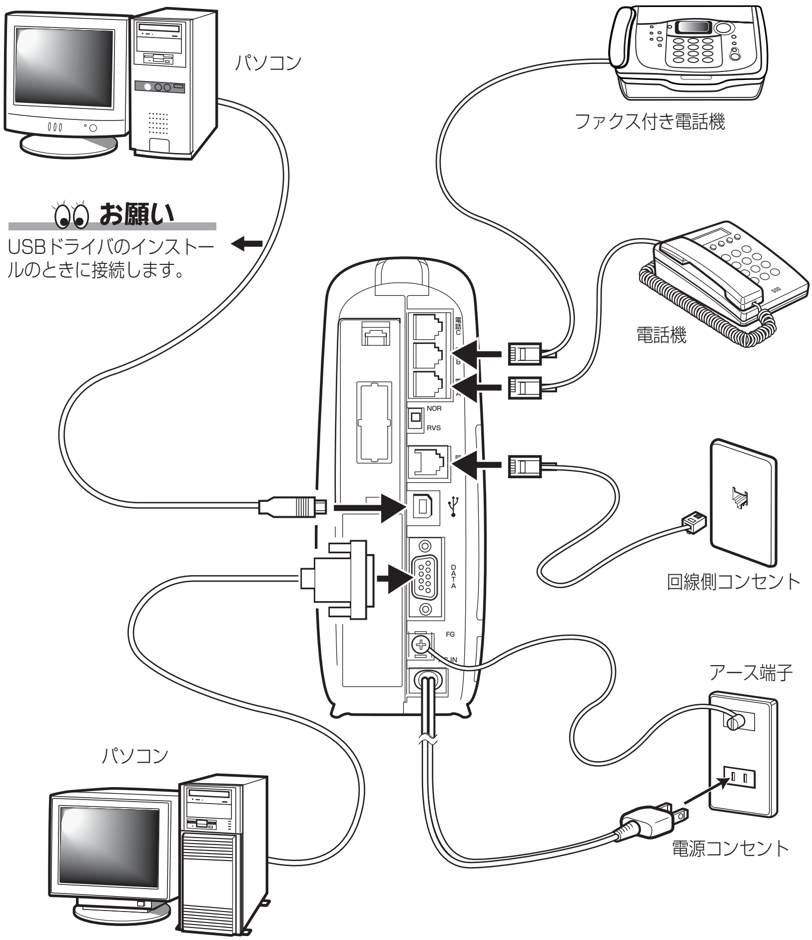
インターネット接続のためには、プロバイダから通知された以下の情報が必要です。セットアップ時に必要となりますので、あらかじめ用意しておいてください。

接続情報
・プロバイダ名称　・ユーザID注1　・パスワード　・アクセスポイント
ネームサーバアドレス注2
・プライマリDNS　・セカンダリDNS
メール情報
・POPサーバ(メールサーバ)　・SMTPサーバ(メールサーバ)
・メールアカウント　・メールパスワード　・メールアドレス
その他
・ニュースサーバ注3

注1　「ユーザID」はプロバイダによっては、「ユーザ名」「アカウント」などと呼ばれることがあります。
注2　「ネームサーバアドレス」はプロバイダによっては、自動設定のため、ない場合があります。
注3　プロバイダによっては、ない場合があります。

全体接続図

契約手続きとINSネット64の工事が済んだら、Atermを接続します。ここでは全体の接続図を示しますが、実際の接続作業は、次ページからの手順に従って着実に行ってください。

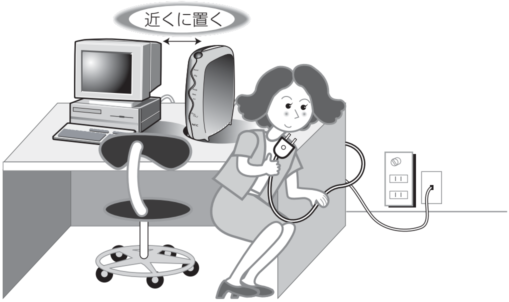


step 1 Atermの置き場所を決めよう

Atermには、電源・回線・電話機・ファクス・パソコンなど、たくさんのものを接続します。ケーブルの長さが決まっているものもあるので、Atermの置き場所は十分に考えて決めましょう。ポイントとなる点をいくつかあげます。

● パソコンはAtermのそばに置こう

Atermとパソコンは、添付のUSBケーブルまたはRS-232Cケーブルでつなぎます。どちらのケーブルもあまり長くありません。パソコンはAtermのそばに置きましょう。
Aterm用の電源コンセントを確保しましょう。Atermをパソコン連動のコンセント(パソコンの電源が入っているときだけAtermの電源が入る)につないではいけません。パソコンの電源が入っていないとAtermの電源も入らないので、電話が使えなくなります。注意しましょう。

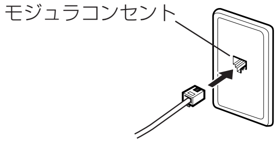


● 回線側コンセントの形はどうなっていますか？

回線側コンセントがモジュラタイプ以外では、Atermを接続できません。

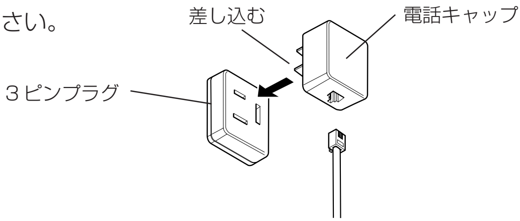
回線側コンセントがモジュラタイプの場合

そのまま接続できます。



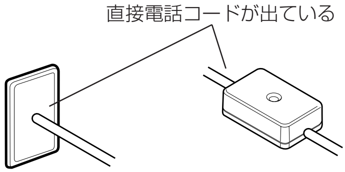
コンセントのタイプが3ピンプラグの場合

電話キャップを別途購入してください。



電話コードが壁から直接出ている場合

NTT東日本・NTT西日本に工事を依頼してください。



● 回線側コンセントはAtermの近くにありますか？

Atermと回線側コンセントは、添付のINS回線ケーブル(3m)で接続します。

● 電話機やファクスの置き場所を決める

電話機やファクスは今までとは異なり、Atermに接続します。電話機やファクスに添付のモジュラケーブルを使ってください。ケーブルの長さが足りない場合は、モジュラケーブルを別途購入してください。

お願い

電話機またはファクスを接続するモジュラケーブルの長さは200m(太さ0.5mmΦ)以内にしてください。機器の種類によってはさらに短くしなければならないことがあります。

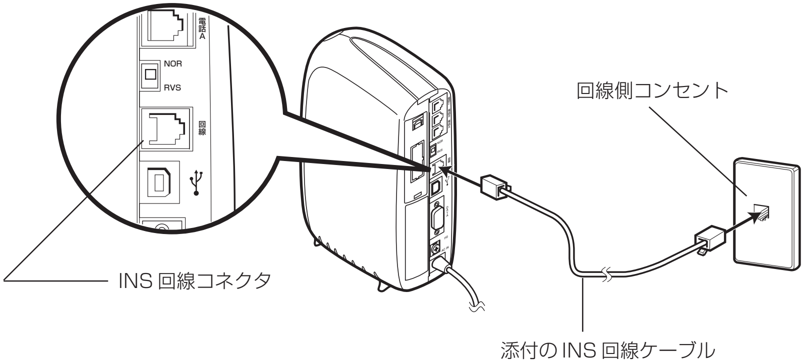
step 2 INSネット64につなぐ

Atermと回線側コンセントを接続します。

1 Atermをパソコンのそばに置く

2 AtermのINS回線コネクタと壁の回線側コンセントを接続する

添付のINS回線ケーブルを使って接続します。



お願い

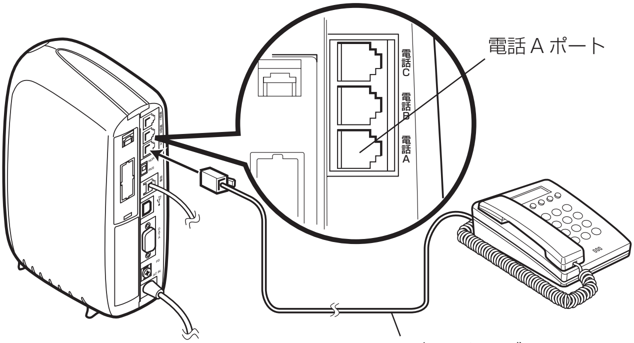
INSネット64の工事が完了してから、接続してください。完了前ではAtermは使用できません。

step 3 電話機やファクスをつなぐ

電話機やファクスを、Atermの電話Aポート・電話Bポート・電話Cポート(IT31Lのみ)に接続します。電話Aポートには、停電時に使いたいメインの機器や1台のみを使うときに接続してください。

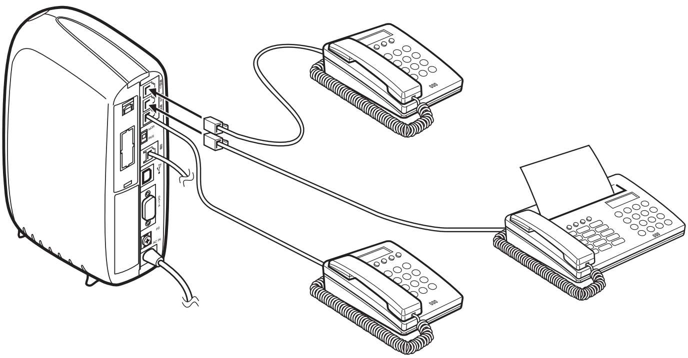
1 Atermの電話Aポートに、メインで使う電話機やファクスを接続する

モジュラケーブルを使って接続します。
モジュラケーブルとは電話機やファクスに添付のケーブルです。アナログ回線のときに回線側コンセントに差し込んでいたケーブルをそのまま使うことができます。



2 2台目の電話機またはファクスをAtermの電話Bポートに、3台目を電話Cポート(IT31Lのみ)に接続する

1台目と同様に接続します。



3 電話機やファクスの回線種別を「トーン」に切り替える

接続したすべての電話機やファクスの回線種別を、電話機やファクスの操作で「トーン(プッシュ)」に切り替えます。切り替えの方法は、電話機やファクスの取扱説明書をお読みください。ただし、今までプッシュホン契約をしていた場合は、この操作は不要です。

お願い

・ケーブルは絶対に屋外に出さないように配線してください。雷などによる障害の原因となります。

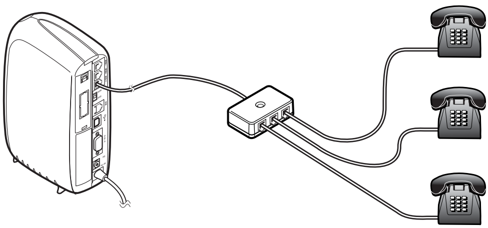
・停電時に利用できるのは、電話Aポートに接続した電話機またはファクス(電話機能のみ)だけです。停電対策については、「停電対策」(☞ 6-2ページ)をお読みください。

・アナログポートに接続できるのは、端末審査協会適合マーク「Ⓣ」または「Ⓣ」がついている通信機器です。ただし、Atermのアナログポートでは疑似的にアナログ回線相当に見せており本当のアナログ回線とは異なるため、使用できない通信機器もあります。

・電話機またはファクスを接続するモジュラケーブルの長さは200m(太さ0.5mmΦ)以内にしてください。機器の種類によってはさらに短くしなければならないことがあります。

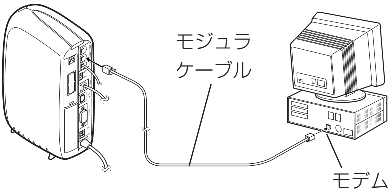
お知らせ

• 3口の分岐用ローゼットなどを使うと、1つのアナログポートに3台(合計容量：3μF/2kΩ以下)までブランチ接続ができます。ただし、通話できるのはその中の1台だけです。また、INSナンバー・ディスプレイを利用する場合は、ブランチ接続できません。

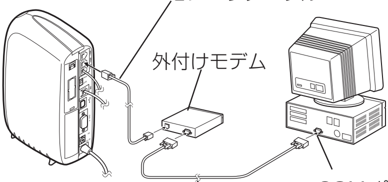


• モデムのFAX機能を使う場合には、下記のようにモデムとAtermを接続してください。

モデム内蔵パソコンの場合： パソコンのモデムポートとAtermのアナログポートをモジュラケーブルで接続します。



外付けモデムの場合：Atermのアナログポートとモデムをモジュラケーブルで接続し、モデムとパソコンのCOMポートをRS-232Cケーブルで接続します。



・**停電時にAtermを使うために**

あらかじめ電池ホルダーに停電用のアルカリ乾電池をセットしておくと、電源が切れたときに自動的に停電モードに入ります。停電モードでは、電話Aポートに接続した電話機とシリアルポートやUSBポートに接続したパソコンを使うことができますが、お客様の環境によっては使用できないこともあります。詳しくは、「停電対策」(☞ 6-2ページ)をお読みください。

step 4 電源コードをつなぐ

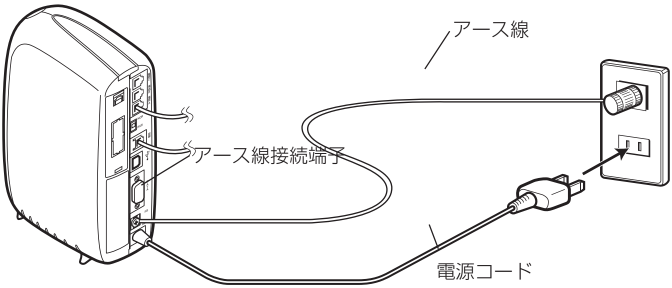
電源コードを電源コンセントに接続します。

1 Atermのアース線接続端子と壁のアース端子を接続する

アース線は添付していません。別途購入してください。
断面積0.75mm²(AWG#18)以上の太さのアース線をご用意ください。
アース線は落雷などが起こった場合に、人身への傷害や機器の損傷を防止するためのものです。

2 Atermの電源コードを壁の電源コンセントに接続する

Atermには常時電源を供給する必要があります。パソコンの電源などに連動したコンセントではなく、壁などの電源コンセントに直接、接続してください。



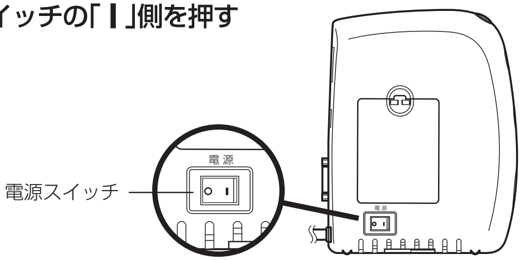
お願い

- **落雷およびノイズ対策**
  回線や電源コードから入り込むノイズ(雷など)から装置を保護するためにアース線の接続をお勧めします(アース線は別途ご用意ください)。落雷などの天災地変による故障の場合は、保証期間内でも有料修理となりますのであらかじめご了承ください。
- アース線をつなぐ際は、Atermの電源コードがぬけていることを必ず確認してください。

step 5 電源を入れる

ここでAtermの電源を入れてみましょう。

1 Aterm側面の電源スイッチの「❙」側を押す

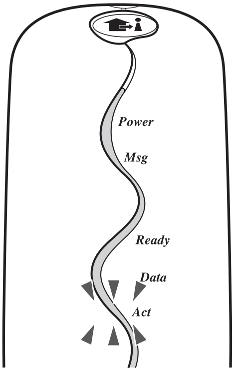


2 Powerランプが緑で点灯する

お願い

電源を切ると、Atermに接続した電話機やファクスなどで通話や通信ができなくなります。

こんなときは →→ Act ランプが赤く点滅している！



この状態ではAtermを使用できません。次ページの項目を順番に確認してActランプが消えることを確認してください。

1 INS回線ケーブルの接続を確認する

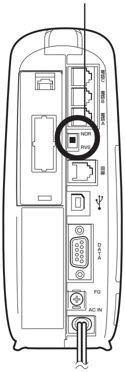
Atermの INS回線コネクタと回線側コンセントがINS回線ケーブル(または市販のモジュラケーブル)で正しく接続されていることを確認します。

2 リバーススイッチの設定(回線の極性)を確認する

Aterm背面のINS回線リバーススイッチの突起を「RVS」側に移動させ(切り替え)、そのまま約10秒間お待ちください。

これで問題が解消されない場合は、必ずリバーススイッチをもと(「NOR」側)に戻してください。

INS 回線リバーススイッチ



3 Atermを初期化する

Atermの設定を購入時の状態に戻します。Atermを初期化する方法については、「Atermを購入時の状態に戻す」(☞5-12ページ)をお読みください。

4 INSネット64への切り替えが完了しているかをNTT東日本・NTT西日本に確認する

Atermの電源を切り、INSネット64への切り替えが完了しているかどうかを、NTT東日本・NTT西日本に確認してください。

5 回線にガスの自動検針器が接続されていないことを確認する

アナログ回線からINSネット64に契約を切り替えた場合、回線にガスの自動検針器が接続されたままになっていることがあります。ガス供給業者に問い合わせて、接続されている場合は、撤去を依頼してください。

6 Atermの自己診断を行う

「Atermが故障していないか確認する」(☞5-15ページ)を参照して、Atermの自己診断を行ってください。

上記のすべてを確認しても解決しないときは、NTT東日本・NTT西日本へお問い合わせください。

step 6 電話は使えますか？

契約者回線番号を使って、電話が使えることを確認します。パソコンを接続する前に必ず確認してください。

電話をかける

電話機またはファクスの受話器をあげて電話をかけます。発信音が聞こえ、相手が出たら通話できることを確認してください。2台以上接続しているときは、それぞれについて確認してください。

1 電話機の受話器をあげる

「ツー」という音が聞こえます。

2 相手の電話番号をダイヤルする（時報117など）

ダイヤル後、約5秒（初期値）たってから発信します。
ダイヤル後、続けて [#] を押すと、すぐに発信します。

3 相手の方と通話する

4 通話が終わったら、受話器を戻す

お願い

i・ナンバーやダイヤルインサービスの追加番号、ファクス機能、各種サービスなどはまだ使用できません。

こんなときは →→ 電話がつながらない！

受話器をあげても音がしない場合

- **Atermと電話機が正しく接続されていない**
  →Atermのアナログポートと電話機の回線（LINE）コネクタを電話機に添付されているモジュラケーブルで接続してください。
- **Atermの電源が入っていない**
  →電源コードを電源コンセントに差し込んでください。
  →電源スイッチの「I」側を押した状態にしてください。
  →電源コードをパソコンの電源などに連動したコンセントに差し込んでいるときは、壁などの電源コンセントに接続し直してください。

電話がつながらない場合

- **電話機の回線種別の設定がトーン（PB）になっていない**
  →電話機の回線種別をトーン（PB）に設定してください。設定方法については、電話機の取扱説明書をお読みください。

お知らせ

・ACR内蔵の電話機から電話をかけたり、内線転送したりすると、ダイヤルを終える前に発信することがあります。このような場合は、「ダイヤル桁間タイマ」の設定を9秒以上に変更してください(☞ 3-13ページ)。

・#を含んだ電話番号をダイヤルするときは、らくらくアシスタントをインストール(☞ 2-23、2-26ページ)したあと、メニュー画面から[アナログポートの詳細設定]ボタン―[共通設定]タブ―[その他の設定]を順にクリックして、「[#]で発信」欄の「[#]で発信しない」または「[#][#]で発信する」を選択してください(☞ 3-14ページ)。

電話を受ける

友人に依頼するか、携帯電話やPHSから電話をかけます。接続した電話機の着信音が鳴り、通話できることを確認してください。

1 着信音が鳴る

両方のアナログポートに電話機やファクスをつないでいる場合は両方の着信音が鳴ります。

2 受話器をあげて相手の方と通話する

3 通話が終わったら、受話器を戻す

step 7　使わないアナログポートを設定する

電話Bポートや電話Cポートに電話機やファクスなどを接続していないときは、そのポートを「使用しない」という設定が必要です。この設定をしないと、電話Aポートを使用中に電話がかかってきたとき、相手の方にはずっと呼出音が聞こえ、電話がつながらなくなります。

1　受話器をあげる

2　[＊][＊][6][＊]を押す

3　設定するアナログポートの番号を押す

「プー」音が1回鳴ります。

[1][0][2]：電話Bポート
[1][0][3]：電話Cポート

4　[＊][3]を押す

「プー」音が3回鳴ります。

5　[#]を押す

「プー」音が1回鳴ります。

6　受話器をもどす

7　ほかに何も接続していないポートがあれば、同様に手順1から手順6を繰り返します

パソコンを使用しない方は、この他に電話機を使って電話番号やサービスの設定を行います。

・ファクス付き電話機などのファクスやモデムをアナログポートに接続した場合（☞ 4-4ページ No.1 アナログポートの設定）

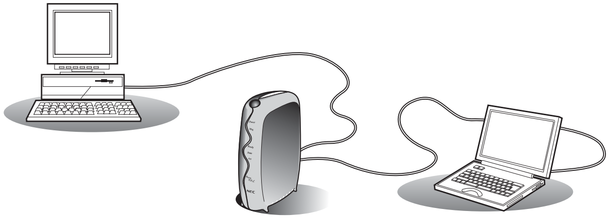
・INSネット64の付加サービスを利用している場合（主なものは下記の通りです）

　i・ナンバー(☞3-18ページ)
　ダイヤルインサービス(☞3-21ページ)
　INSナンバー・ディスプレイ(☞3-57、4-4ページ No.2 ナンバーディスプレイ)

その他については、「4.電話機からのセットアップ」(☞4-1ページ)に進んでください。

step 8 パソコンをつなぐポートを確認する

電話が使えることが確認できたら、パソコンを接続します。AtermにはUSBポートとシリアルポートがあります。どちらのポートに接続するかは、お使いのパソコンの機種やOSのバージョンに合わせて決めてください。



ポイント

お使いのパソコンに搭載されているポートの種類を確認します。Windowsパソコンの場合はCOMポートかUSBポート、Macintoshの場合はモデムポート、プリンタポート、USBポートが使用できます。USBポートの方が高速で通信できますが、使用しているOSのバージョンによっては、Atermが動作しない場合があります。USBポート接続時、Atermが動作するOSのバージョンは次のとおりです。

☑ USBポート対応OS

・Windows Vista Home Basic・ Windows Vista Home Premium 32ビット(x86)版
・Windows XP・Windows2000・WindowsMe・Windows98
・Windows98(Second Edition)
・MacOS8.6J・MacOS9J・MacOS9.04J・MacOS9.1J

USBポートが搭載されているｉMacやｉMac DV、ｉBOOK、Power Macintosh G3、Power Macintosh G4についても、必ずMacOSのバージョンをご確認ください。旧バージョンの場合は、OSをアップグレードしてください。また上記のOSでもPC-9821シリーズでUSBポート接続をすることはできません。シリアルポートをご利用ください。

☑ このあとは

Windows Vista	USBポート接続の場合☞	2-23ページ	➔	2-27ページ
	シリアルポート接続の場合☞	2-23ページ	➔	2-36ページ
WindowsXP	USBポート接続の場合☞	2-23ページ	➔	2-29ページ
	シリアルポート接続の場合☞	2-23ページ	➔	2-36ページ
Windows2000	USBポート接続の場合☞	2-23ページ	➔	2-31ページ
	シリアルポート接続の場合☞	2-23ページ	➔	2-36ページ
WindowsMe/98	USBポート接続の場合☞	2-23ページ	➔	2-33ページ
	シリアルポート接続の場合☞	2-23ページ	➔	2-36ページ
Windows95	シリアルポート接続☞	2-23ページ	➔	2-36ページ
WindowsNT4.0	シリアルポート接続☞	2-79ページ		
Macintosh	USBポート接続の場合☞	2-26ページ	➔	2-37ページ
	シリアルポート接続の場合☞	2-26ページ	➔	2-39ページ

step 9 らくらくアシスタントをインストールする（Windows編）

らくらくアシスタントはAtermの設定やインターネット接続用のセットアップが簡単にできる便利なツールです。らくらくアシスタントをぜひインストールしてお使いください。

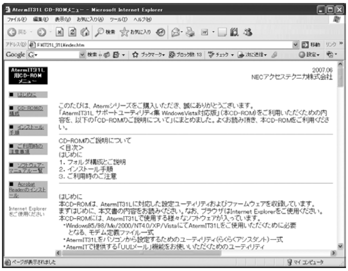
お願い

Windows Vista、WindowsXP/2000で以降の操作を行うためには、Administrator(権限のあるアカウント)でログオンしてください。

1 Windowsを起動する

2 本商品添付のCD-ROM(ユーティリティ集)をセットする

メニュー画面が表示されたら、[ソフトウェア・マニュアル一覧]をクリックしてください。



3 [ソフトウェア・マニュアル一覧]画面が表示されたら、ソフトウェアダウンロードの[らくらくアシスタント]をクリックする

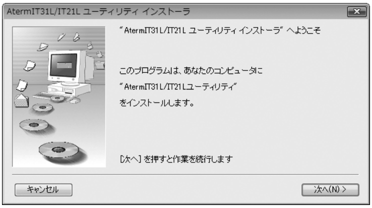


4 「ファイルのダウンロードーセキュリティ警告」の画面が表示されるので、[実行]をクリックする
ダウンロードが実行される

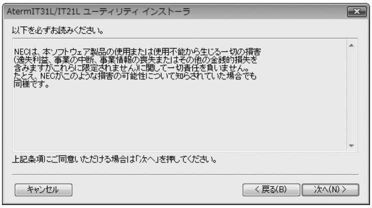
ユーザーアカウント制御の画面が表示された場合は、[続行]をクリックしてください。また、ユーザーアカウント制御の画面はタスクバーに点滅表示される場合があります。



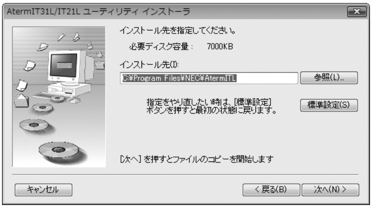
5 [次へ]ボタンをクリック



6 [次へ]ボタンをクリック

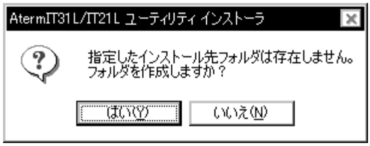


7 画面の同意書を読み、同意できる場合は[次へ]ボタンをクリックする



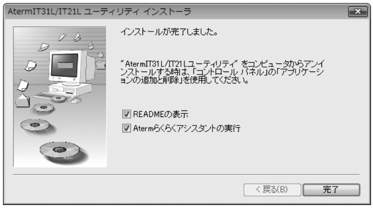
8 インストール先に変更がなければ、[次へ]ボタンをクリックする

インストール先のドライブやフォルダを変更する場合は、[参照]ボタンをクリックし、表示された画面でインストール先を指定します。



しばらくすると、らくらくユーティリティインストーラ画面に戻り、「インストールが完了しました」というメッセージが表示されます。

9 [READMEの表示]にチェックが入っていることを確認し、[完了]ボタンをクリックする



10 READMEをよく読んだ後、画面右上の[×]ボタンをクリックする

インストールが完了します。

お知らせ

らくらくアシスタント、らくらくバージョンアップなどすべてのユーティリティをアンインストールすることができます。

1) Windowsの[スタート](Windowsのロゴ)ボタンをクリックし、[プログラム](Windows Vista/WindowsXPでは[すべてのプログラム])－[AtermIT21Lユーティリティ]または[AtermIT31Lユーティリティ]－[ユーティリティのアンインストール]を順に選択する

2) [はい]ボタンをクリックする

3) [OK]ボタンをクリックする

step 9 らくらくアシスタントをインストールする（Macintosh編）

らくらくアシスタントはAtermの設定やインターネット接続用のセットアップを簡単に行うためのツールです。ここでは、らくらくアシスタントとらくらくバージョンアップ、CCLファイル(モデム情報)、USBドライバ(USBポート接続の場合のみ)をインストールします。

お願い

- AtermはMacOS8.6J/9J/9.04J/9.1Jで利用できます。これ以前のバージョンの場合は、利用できるMacOSにバージョンアップしてください。
- USBポートでAtermを使用するためには、MacintoshにUSBドライバが必要です。ただし、Aterm専用のUSBドライバをインストールする前に、AtermをMacintoshに接続すると、使用できないUSBドライバが自動的にインストールされてしまいます。らくらくアシスタントのインストールが終わるまでMacintoshを接続しないでください。

1 **Macintoshを起動する**

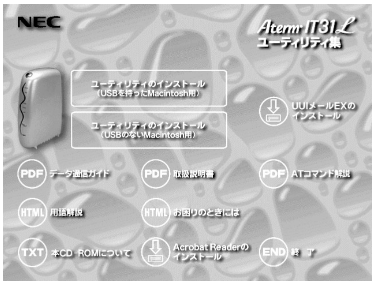
2 **本商品添付のCD-ROM(ユーティリティ集)をセットする**

3 **ウィンドウが開くので、その中にある[IT21L]または[IT31L]アイコンをダブルクリックする**

ウィンドウが開かないときは、CD-ROMアイコンをダブルクリックしてから、[IT21L]または[IT31L]アイコンをダブルクリックしてください。

4 **メニュー画面が表示されたら、接続するポートに合わせてユーティリティのインストールボタンをクリックする**

USBポートの場合　[ユーティリティのインストール](USBを持ったMacintosh用)
モデム/プリンターポート接続の場合
[ユーティリティのインストール](USBのないMacintosh用)



5 **画面の指示に従ってインストールを行う**

6 **インストールが完了すると、らくらくアシスタント、らくらくバージョンアップのアイコンが作成される**

USB接続用のインストールボタンをクリックした場合には、USBドライバもインストールされます。

step 10 パソコンをつなぐ （Windows 編）

※WindowsNT4.0以外

パソコンとAtermのつなぎかたには、USBポートで接続する方法とシリアルポートで接続する方法の2つがあります。それぞれ操作が異なりますので、接続するポートに合わせた説明をご覧ください。

USBポート接続 ： WindowsVistaの場合☞本ページ
WindowsXPの場合☞2-29ページ
Windows2000の場合☞2-31ページ
WindowsMe/98場合☞2-33ページ
シリアルポート接続 ： ☞2-36ページ

USBポート接続－WindowsVistaの場合

USBポートに接続するときは、らくらくアシスタントを使って、AtermのUSBドライバをインストールします。パソコンとAtermを接続するUSBケーブルは、画面の指示があってからつないでください。

お願い

・他のアプリケーションソフトを使用しているときは、そのアプリケーションを終了させてください。
・Aterm専用のUSBドライバをインストールする前にAtermをパソコンに接続すると、使用できないUSBドライバが自動的にインストールされてしまいます。画面に指示があるまで、パソコンとAtermを接続しないでください。
・お使いのPC環境によってはらくらくアシスタントでUSBドライバをインストールできない場合があります。その場合は、手動でインストールをしてください(☞『データ通信ガイド(Windows Vista、WindowsXP)』手動セットアップ)。
・他のAterm(ITX72/62、IT42など)でUSBを使用していた場合は、従来のドライバを削除してください。これらのドライバとIT21L/IT31Lのドライバを同一のパソコン上では利用できません。
・Windows Vistaで以降の操作を行うためには、Administrator(権限のあるアカウント)でログオンする必要があります。

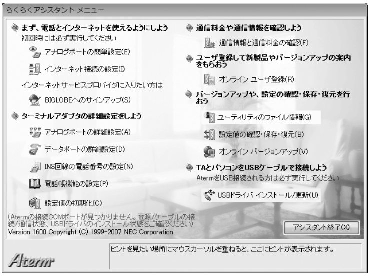
1 らくらくアシスタントを起動する

らくらくアシスタントのインストール直後は、らくらくアシスタントが自動的に起動します。
手動で起動する場合は、Windowsのロゴボタンをクリックし、［すべてのプログラム］－［AtermIT21Lユーティリティ］または[AtermIT31Lユーティリティ]－［Atermらくらくアシスタント］を選択してください。

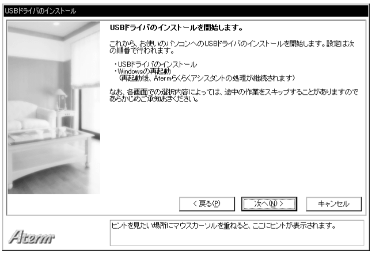
2 [次回以降はこの画面を表示しない]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックする



3 らくらくアシスタントのメニュー画面が表示されるので、[ＵＳＢドライバインストール／更新] ボタンをクリックする

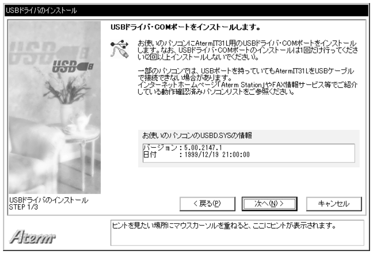


4 [次へ]ボタンをクリックする



正常に接続されると、Readyランプが赤く点滅します。点滅しないときは、Atermとパソコンが正しく接続されていません。USBケーブルを接続し直すか、USBドライバが正しくインストールされていることを確認してください。

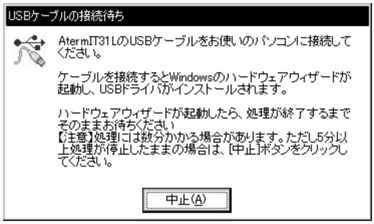
5 [次へ]ボタンをクリックする

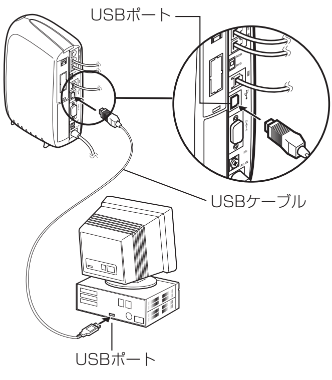


6 [実行]ボタンをクリックする

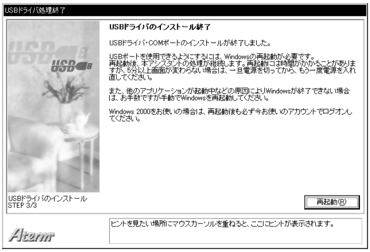


7 次の画面が表示されたら、パソコンをAtermのUSBポートに接続する



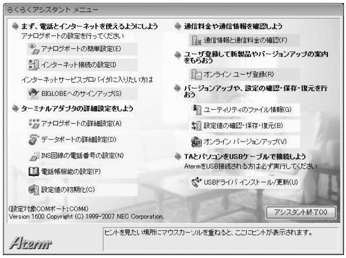


8 USBドライバのインストールが終了すると、次の画面が表示されるので、CD-ROMを取り出して[再起動]ボタンをクリックする



9 再起動後、らくらくアシスタントのメニュー画面が表示される

次のメニュー画面が表示されたら完了です。



USBポート接続－WindowsXPの場合

USBポートに接続するときは、らくらくアシスタントを使って、AtermのUSBドライバをインストールします。パソコンとAtermを接続するUSBケーブルは、画面の指示があってからつないでください。

お願い

- 他のアプリケーションソフトを使用しているときは、そのアプリケーションを終了させてください。
- Aterm専用のUSBドライバをインストールする前にAtermをパソコンに接続すると、使用できないUSBドライバが自動的にインストールされてしまいます。画面に指示があるまで、パソコンとAtermを接続しないでください。
- お使いのPC環境によってはらくらくアシスタントでUSBドライバをインストールできない場合があります。その場合は、手動でインストールをしてください(☞『データ通信ガイド(Windows Vista、WindowsXP)』手動セットアップ)。
- 他のAterm(ITX72/62、IT42など)でUSBを使用していた場合は、従来のドライバを削除してください。これらのドライバとIT21L/IT31Lのドライバを同一のパソコン上では利用できません。
- WindowsXPで以降の操作を行うためには、Administrator(権限のあるアカウント)でログオンする必要があります。

1 らくらくアシスタントを起動する

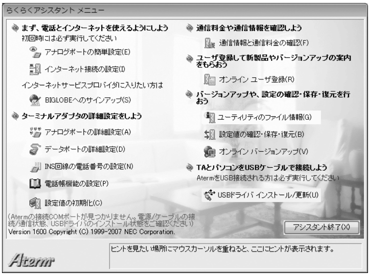
らくらくアシスタントのインストール直後は、らくらくアシスタントが自動的に起動します。

手動で起動する場合は、[スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]－[AtermIT21Lユーティリティ]または[AtermIT31Lユーティリティ]－[Atermらくらくアシスタント]を選択してください。

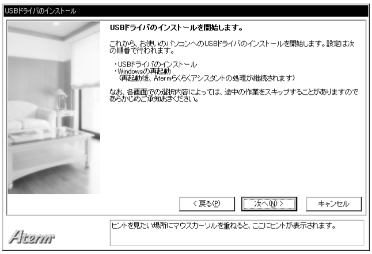
2 [次回以降はこの画面を表示しない]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックする



3 らくらくアシスタントのメニュー画面が表示されるので、[ＵＳＢドライバインストール／更新] ボタンをクリックする

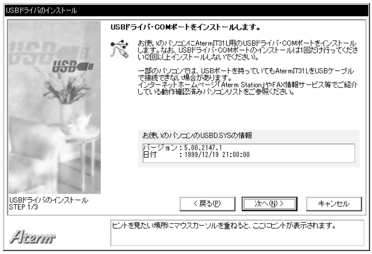


4 [次へ]ボタンをクリックする



正常に接続されると、Readyランプが赤く点滅します。点滅しないときは、Atermとパソコンが正しく接続されていません。USBケーブルを接続し直すか、USBドライバが正しくインストールされていることを確認してください。

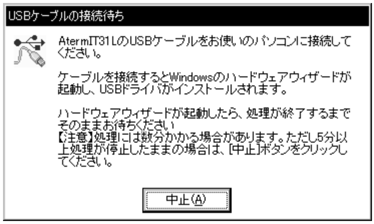
5 [次へ]ボタンをクリックする

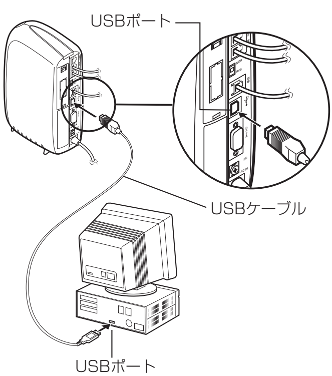


6 [実行]ボタンをクリックする

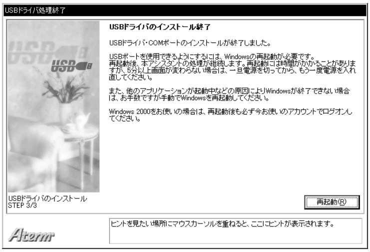


7 次の画面が表示されたら、パソコンをAtermのUSBポートに接続する



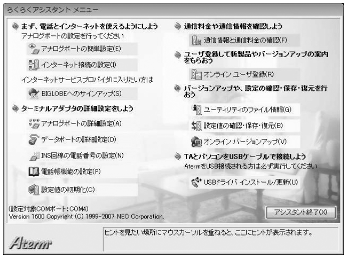


8 **USBドライバのインストールが終了すると、次の画面が表示されるので、CD-ROMを取り出して[再起動]ボタンをクリックする**



9 **再起動後、らくらくアシスタントのメニュー画面が表示される**

次のメニュー画面が表示されたら完了です。



USBポート接続－Windows2000の場合

USBポートに接続するときは、らくらくアシスタントを使って、AtermのUSBドライバをインストールします。パソコンとAtermを接続するUSBケーブルは、画面の指示があってからつないでください。

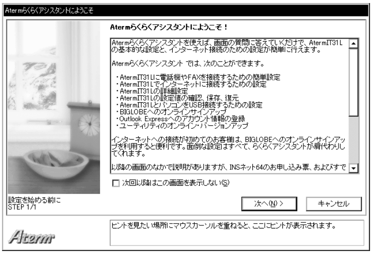
お願い

・他のアプリケーションソフトを使用しているときは、そのアプリケーションを終了させてください。
・Aterm専用のUSBドライバをインストールする前にAtermをパソコンに接続すると、使用できないUSBドライバが自動的にインストールされてしまいます。画面に指示があるまで、パソコンとAtermを接続しないでください。
・お使いのPC環境によってはらくらくアシスタントでUSBドライバをインストールできない場合があります。その場合は、手動でインストールをしてください(☞『データ通信ガイド』1.手動セットアップ)。
・他のAterm(ITX72/62、IT42など)でUSBを使用していた場合は、従来のドライバを削除してください。これらのドライバとIT21L/IT31Lのドライバを同一のパソコン上では利用できません。
・Windows2000で以降の操作を行うためには、Administrator(権限のあるアカウント)でログオンする必要があります。

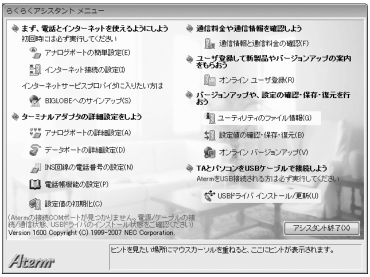
1 **らくらくアシスタントを起動する**

らくらくアシスタントのインストール直後は、らくらくアシスタントが自動的に起動します。
手動で起動する場合は、[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]－[AtermIT21Lユーティリティ]または[AtermIT31Lユーティリティ]－[Atermらくらくアシスタント]を選択してください。

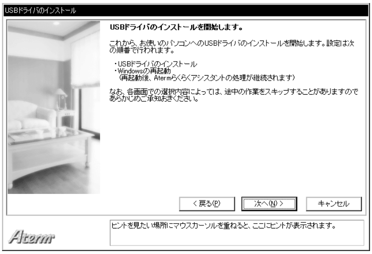
2 [次回以降はこの画面を表示しない]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックする



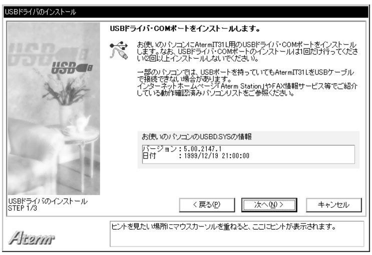
3 らくらくアシスタントのメニュー画面が表示されるので、[USBドライバインストール／更新]ボタンをクリックする



4 [次へ]ボタンをクリックする



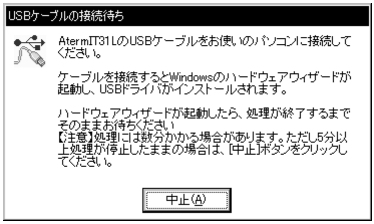
5 [次へ]ボタンをクリックする

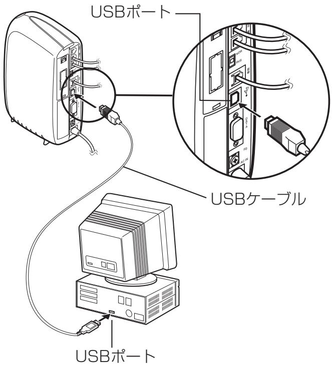


6 [実行]ボタンをクリックする



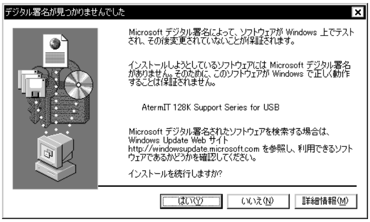
7 次の画面が表示されたら、パソコンをAtermのUSBポートに接続する



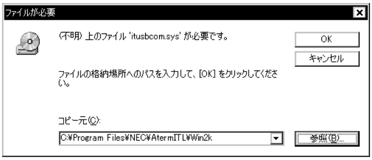


正常に接続されると、Readyランプが赤く点滅します。点滅しないときは、Atermとパソコンが正しく接続されていません。USBケーブルを接続し直すか、USBドライバが正しくインストールされていることを確認してください。

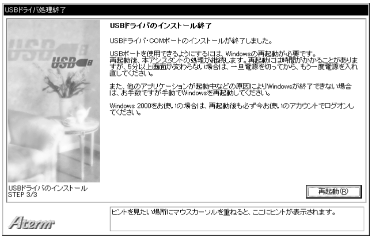
8 次の画面が表示されたときは[はい]ボタンをクリックする



次の画面が表示されたときは[参照]ボタンをクリックして、コピー元にC:¥Programfiles¥NEC¥AtermITL¥Win2kを指定し、[OK]ボタンをクリックする

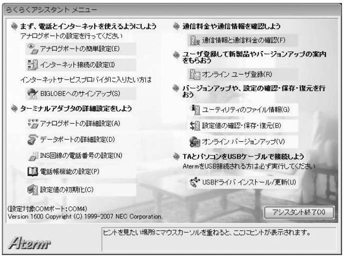


9 次の画面が表示されたら[再起動]ボタンをクリックする



10 再起動後、らくらくアシスタントのメニュー画面が表示される

次のメニュー画面が表示されたら完了です。



USBポート接続－WindowsMe/98の場合

USBポートに接続するときは、らくらくアシスタントを使って、AtermのUSBドライバをインストールします。パソコンとAtermを接続するUSBケーブルは、画面の指示があってからつないでください。

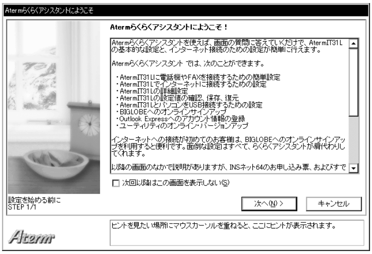
お願い

- 他のアプリケーションソフトを使用しているときは、そのアプリケーションを終了させてください。
- Aterm専用のUSBドライバをインストールする前にAtermをパソコンに接続すると、使用できないUSBドライバが自動的にインストールされてしまいます。画面に指示があるまで、パソコンとAtermを接続しないでください。
- お使いのPC環境によってはらくらくアシスタントでUSBドライバをインストールできない場合があります。その場合は、手動でインストールをしてください(『データ通信ガイド』1.手動セットアップ)。
- 他のAterm(ITX72/62、IT42など)でUSBを使用していた場合は、従来のドライバを削除してください。これらのドライバとIT21L/IT31Lのドライバを同一のパソコン上では利用できません。

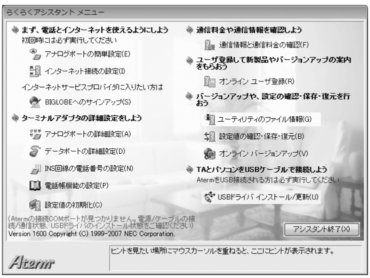
1 らくらくアシスタントを起動する

らくらくアシスタントのインストール直後は、らくらくアシスタントが自動的に起動します。
手動で起動する場合は、[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]－[AtermIT21Lユーティリティ]または[AtermIT31Lユーティリティ]－[Atermらくらくアシスタント]を選択してください。

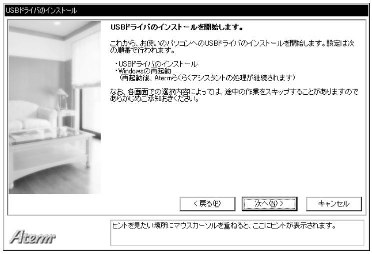
2 [次回以降はこの画面を表示しない]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックする



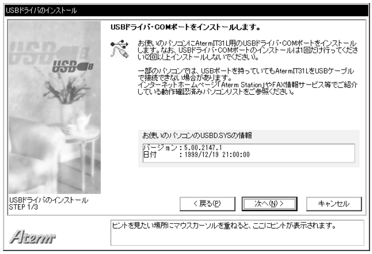
3 らくらくアシスタントのメニュー画面が表示されるので、[USBドライバインストール／更新]ボタンをクリックする



4 [次へ]ボタンをクリックする



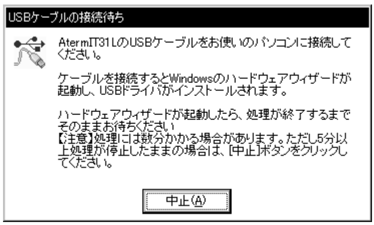
5 [次へ]ボタンをクリックする

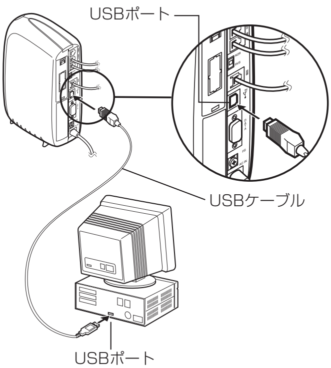


6 [実行]ボタンをクリックする



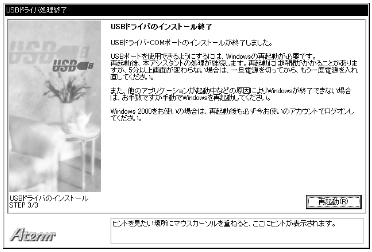
7 次の画面が表示されたら、パソコンをAtermのUSBポートに接続する





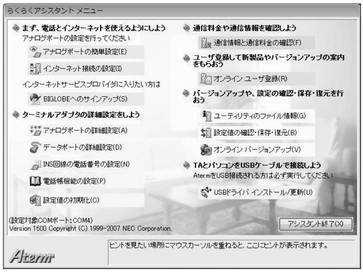
正常に接続されると、Readyランプが赤く点滅します。点滅しないときは、Atermとパソコンが正しく接続されていません。USBケーブルを接続し直すか、USBドライバが正しくインストールされていることを確認してください。

8 USBドライバのインストールが終了すると、次の画面が表示されるので、CD-ROMを取り出して[再起動]ボタンをクリックする



9 再起動後、らくらくアシスタントのメニュー画面が表示される

次のメニュー画面が表示されたら完了です。



こんなときは →→ USBドライバをインストールする前にケーブルを接続してしまった

間違ってケーブルを接続し、ハードウェアウィザードが起動した場合は、[キャンセル]をクリックしてください。ただし、この場合はAtermが「不明なデバイス」として認識されてしまっているので、次の手順で「不明なデバイス」を削除してください。

1) [スタート]ボタン-[設定]-[コントロールパネル]の[システム]をダブルクリックする

2) [デバイスマネージャ]タブの[不明なデバイス]を選択し、[削除]ボタンをクリックする

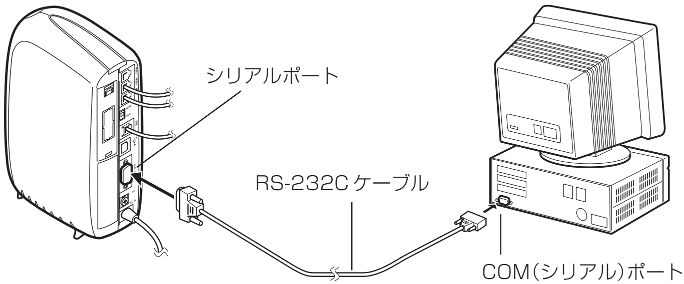
お知らせ

らくらくアシスタントを使わずに、USBドライバやモデム情報を手動でインストールできます。インストール手順は添付CD-ROMの『データ通信ガイド　1.手動セットアップ』をお読みください。

シリアルポート接続の場合

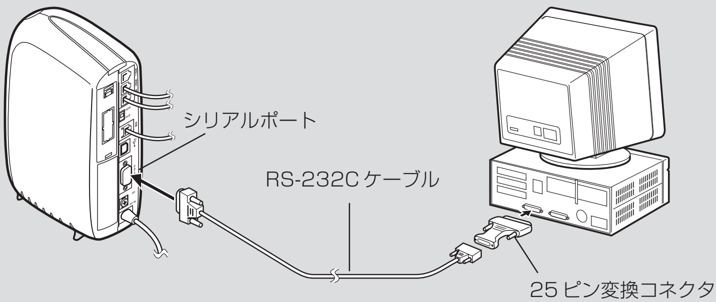
AtermのシリアルポートとパソコンのCOM(シリアル)ポートを接続する

添付のRS-232Cケーブルを使って接続します。



お願い

添付のRS-232Cケーブルのコネクタが、パソコンのCOMポートの形状に合わない場合、お使いのパソコンに合った変換コネクタまたは対応ケーブルを別途ご用意ください。



ケーブル結線図

パソコン側(25ピンオス)	2ピン	3ピン	4ピン	5ピン	6ピン	7ピン	8ピン	20ピン	22ピン
	|	|	|	|	|	|	|	|	|
RS-232Cケーブル側(9ピンオス)	3ピン	2ピン	7ピン	8ピン	6ピン	5ピン	1ピン	4ピン	9ピン

購入の際は、左記結線図を参照して正しくお求めください。

step 10 パソコンをつなぐ

（Macintosh編）

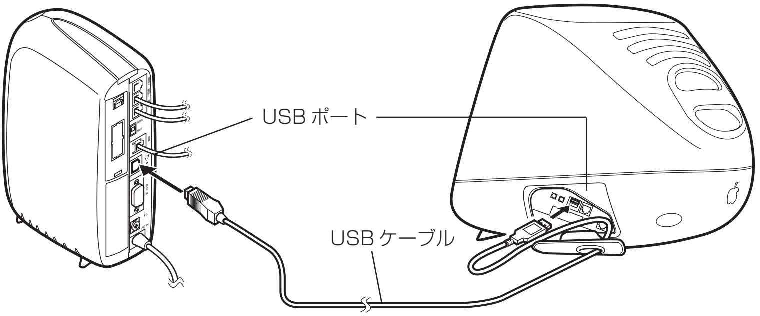
パソコンとAtermのつなぎかたには、USBポートで接続する方法とシリアルポートで接続する方法の2つがあります。それぞれ操作が異なりますので、接続するポートに合わせた説明をご覧ください。

USBポート接続の場合

Macintoshを接続する前に、USB接続用のらくらくアシスタントをインストールしていることを確認してください（☞2-26ページ）。

1 AtermのUSBポートとMacintosh本体のUSBポートを接続する

添付のＵＳＢケーブルを使って接続します。コネクタには向きがあります。Macintosh側の端子にコネクタが合うように、向きを確認して奥までしっかり差し込んでください。



2 Readyランプが赤く点滅する

お願い

・Atermの動作を安定させるため、できるだけキーボードのUSBポートではなく、Macintosh本体のUSBポートに接続してください。

・ご利用のMacintoshの環境によっては、USBケーブルを接続してもAtermが認識されないことがあります。この場合は、USBケーブルを接続し直してください。

・ご利用の環境によっては、Macintoshのスリープ機能動作時に、キーボードやマウスからスリープの復帰ができなくなることがあります。この場合、キーボードとMacintosh本体を接続しているUSBケーブルを一度抜いてから、差し直してください。これで問題が解消されないときは、電子マニュアルの「お困りのときには」をお読みください。

・Macintoshの環境が原因で頻繁にフリーズやエラーが発生する場合、USBの動作が安定しません。この場合、新たにMacintoshのシステムを再構築してからUSBドライバのインストールを行うことをおすすめします。

・USBネットワークはMacintoshでは利用できません。

・万一Atermの電源を切る際、Macintoshの電源を先に切ってからAtermの電源を切ると、Macintoshの電源が再び入ることがあります。この場合は、Atermの電源を先に切ってください。

・他のAterm(ITX72/62、IT42など)でUSB接続していた場合は、従来のドライバを削除してください。これらのドライバとIT21L/IT31Lのドライバは同一のMacintosh上では利用できません。

お知らせ

• お使いのMacintoshのOSバージョンがわからないときは、アップルメニューの[このコンピュータについて]を選択して確認してください。



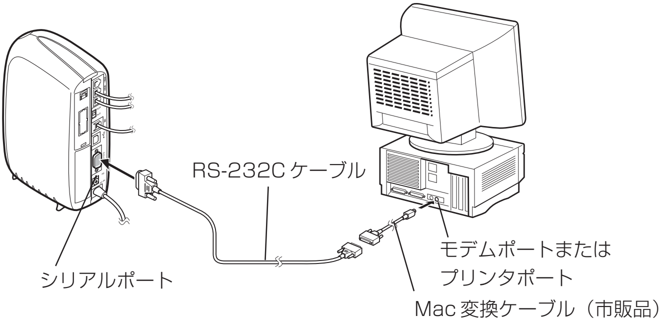
• Readyランプが点滅しないときは、Atermとパソコンが正しく接続されていません。USBケーブルを接続し直すか、USBドライバが正しくインストールされていることを確認してください。

• AtermをUSBポート接続でご利用になる場合、「SerialShimLib」が必要です。[システムフォルダ]内の[機能拡張]の中に「SerialShimLib」が入っていることを確認してください。

シリアルポート接続の場合

Atermのシリアルポートと Macintoshのモデムポートまたはプリンタポートを接続する

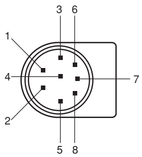
添付のRS-232Cケーブルを使って接続します。ただし、Macintoshのモデムポート(またはプリンタポート)の形状に合わないため、市販のMac変換ケーブルをご用意ください。

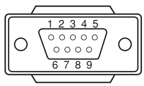


購入の際は、左記結線図を参照して正しくお求めください。

ケーブル結線図

Macintosh側		RS232Cケーブル接続側
1ピン	——	4,7ピン
2ピン	——	8ピン
3ピン	——	3ピン
4ピン	——	5ピン
5ピン	——	2ピン
6ピン	——	—
7ピン	——	1ピン
8ピン	——	5ピン





step 1　電話機やファクスを使うための設定をする

らくらくアシスタントの[アナログポートの簡単設定]を使い、アナログポートに接続する機器の種類、i・ナンバー、ダイヤルインサービスの利用の有無、電話番号など、電話やファクスを利用するための基本の設定を行います。

下記の「ポイント」と次ページ以降の利用例を参考にして、設定内容を決めてください。実際の設定は2-49ページから説明しています。

お願い

設定内容は、今後の予定ではなく、現在の状況に合わせてください。実際の契約内容(工事完了済みのもの)や接続機器と設定内容が一致していないと、電話やファクスを正しくご利用いただけません。サービスを追加したり機器を購入するなど、状況が変わったときは、設定し直してください。

ポイント

☑ アナログポートの簡単設定について

らくらくアシスタントの[アナログポートの簡単設定]は、電話やファクスを使うために必須の設定を、間違いなく簡単に行うためのものです。電話番号が1つの場合や、i・ナンバーを契約している場合、電話番号が3つまでのダイヤルインサービスを契約している場合に、電話機やファクスを使えるようにします。ダイヤルインサービスで4つ以上の電話番号を設定する機能や、ナンバー・ディスプレイ以外の各種サービスやAtermの電話機能を設定する機能は含まれていません。これらの設定は、[アナログポートの簡単設定]が終了してから行います(「電話機能」☞3-8ページ)。

☑ i・ナンバーとダイヤルインサービスについて

電話機やファクス付き電話機などを異なった電話番号で複数台使う場合や、ファクスが1台でも電話番号とファクス番号を使い分けたい場合などは、INSネット64のi・ナンバーまたはダイヤルインサービスを契約します。電話番号を2つまたは3つ使いたいときはi・ナンバー、4つ以上使いたいときはダイヤルインサービスと覚えておきましょう。

i・ナンバーについて
2つまたは3つの電話番号が必要なとき、通常はｉ・ナンバーを契約します*1。通常の電話番号として契約者回線番号(i・ナンバー情報1)のほかに、追加電話番号を2つまで(i・ナンバー情報2、i・ナンバー情報3)をもらうことができます。

＊1　ダイヤルインサービスとグローバル着信を組み合わせても可能ですが、i・ナンバーの方が毎月の料金が安くなります。

ダイヤルインサービスについて

4つ以上の電話番号が必要なときは、ダイヤルインサービスを契約します。基本契約でもらえる電話番号(契約者回線番号)のほかに、必要な分だけの電話番号を追加できます。また、INSネット64の基本サービスのグローバル着信を利用すると料金が安くなるので、忘れずに申し込みましょう。

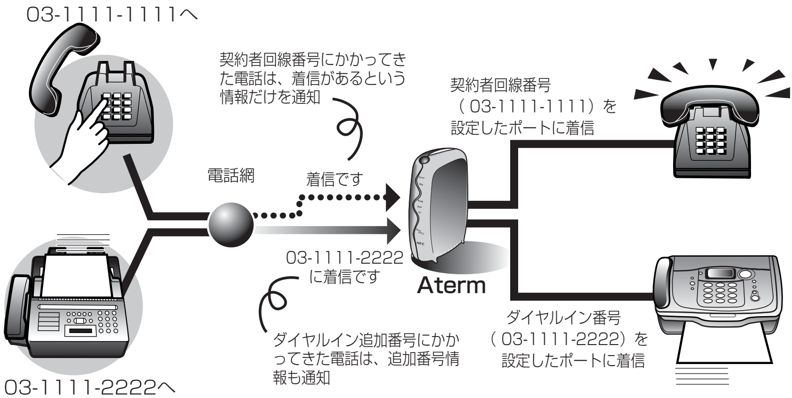
ダイヤルインサービスとグローバル着信について詳しくは下記「お知らせ」をお読みください。

お知らせ

ダイヤルインサービスとグローバル着信について

ダイヤルインサービスを利用すると、各電話番号への着信があったときに、その電話番号が交換機からAtermに通知されます。Atermは通知された電話番号を識別して、呼び出す電話機やファクスを選ぶことができます。通知される番号には、追加した番号だけではなく契約者回線番号も含まれるので、通常、ダイヤルインサービスの料金は、『(契約者回線番号+追加した番号の個数)×ダイヤルインサービス料金単価』となります。

ところで、INSネット64の基本サービスの中に、グローバル着信という項目があります。これを利用すると、契約者回線番号へ着信があったとき電話番号はAtermに通知されず、電話番号なしの着信となります。ダイヤルインサービスと組み合わせると、追加した番号への着信時のみ番号が通知されることになるので、ダイヤルインサービスの料金は『追加した番号の個数×ダイヤルインサービス料金単価』と安くすみます。Atermは、「電話番号が通知されない」=「契約者回線番号への着信」と判断できますので、グローバル着信を利用しない場合との利用上の違いはありません。



Atermの利用例一覧

ここでは、電話機やファクスの代表的な利用例を7つ示します。自分の利用パターンに最も近い例を探してください。ぴったりの利用例がない場合は、i·ナンバーまたはダイヤルインサービスの有無が一致するものの中から一番近いものを参考にしてください。それぞれの利用例に対応する設定方法を2-49ページ以降で説明しています。

利用例1：電話機1台、電話番号1つ（☞ 2-43ページ）

電話Aポート	電話Bポート	電話Cポート	INSネット64の契約
電話機	ー	ー	基本サービスのみ

利用例2：電話機2台、電話番号1つ（☞ 2-43ページ）

電話Aポート	電話Bポート	電話Cポート	INSネット64の契約
電話機	電話機	ー	INSナンバー・ディスプレイ

利用例3：電話機1台、ファクス1台、電話番号2つ（☞ 2-44ページ）

電話Aポート	電話Bポート	電話Cポート	INSネット64の契約
電話機	ファクス	ー	i・ナンバー

利用例4：電話機2台、ファクス1台、電話番号3つ（☞ 2-45ページ）

電話Aポート	電話Bポート	電話Cポート	INSネット64の契約
電話機	電話機	ファクス	i・ナンバー

利用例5：ファクス付き電話機1台、電話番号2つ（☞ 2-46ページ）

電話Aポート	電話Bポート	電話Cポート	INSネット64の契約
ファクス付き電話機	ー	ー	i・ナンバー

利用例6：電話機1台、ファクス付き電話機1台、電話番号3つ（☞ 2-47ページ）

電話Aポート	電話Bポート	電話Cポート	INSネット64の契約
電話機	ファクス付き電話機	ー	i・ナンバー INSナンバー・ディスプレイ

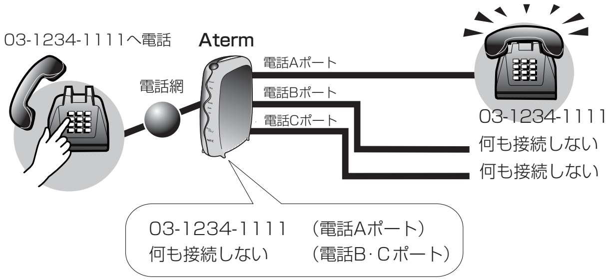
利用例7：ファクス付き電話機2台、電話番号4つ（☞ 2-48ページ）

電話Aポート	電話Bポート	電話Cポート	INSネット64の契約
ファクス付き電話機	ファクス付き電話機	ー	ダイヤルインサービス グローバル着信 INSナンバー・ディスプレイ

利用例1（電話機1台、電話番号1つ）

1台の電話機（またはファクス付き電話機）のみを使用し、電話番号を追加契約しない例です。

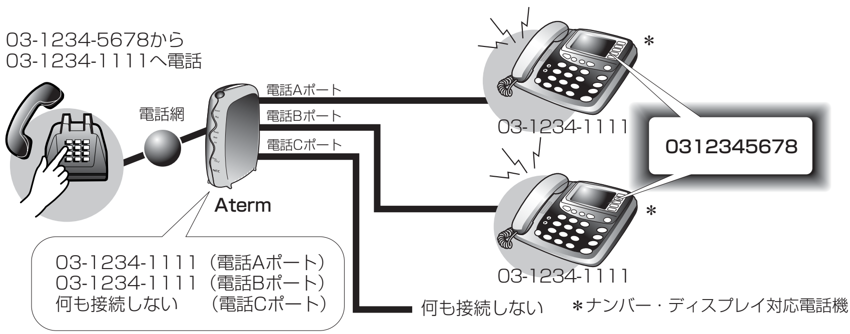
INSネット64の契約内容…基本サービスのみ
接続形態…電話Aポート：電話機（またはファクス付き電話機）
例 03-1234-1111
電話B・Cポート：何も接続しない



利用例2（電話機2台、電話番号1つ）

電話Aポートと電話Bポートに電話機を接続し、1つの電話番号を1Fと2Fで使うようなケースです。電話がかかってくると、両方の電話が鳴り、どちらでも受けることができます。
電話がかかってきたときに相手の番号がわかるように、INSナンバー・ディスプレイを契約している例です。

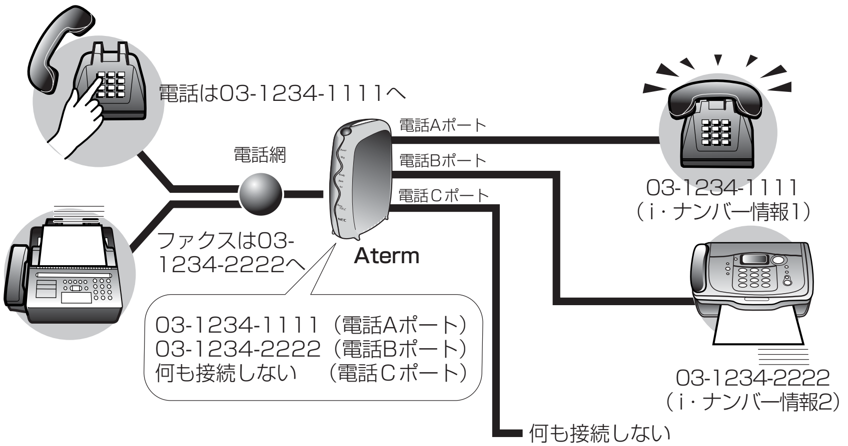
INSネット64の契約内容…INSナンバー・ディスプレイ：利用する
接続形態…電話Aポート：電話機 例 03-1234-1111
電話Bポート：電話機 例 03-1234-1111
電話Cポート：何も接続しない



利用例3（電話機1台・ファクス1台・電話番号2つ）

電話Aポートに電話機を、電話Bポートにファクスを接続し、それぞれに別の電話番号を割り当てるケースです。ファクスを自動受信にしておくと、ファクス受信のために電話に出る必要がありません。ファクス受信件数が多い場合に適しています。電話番号を2つもらうために、i・ナンバーを契約している例です。

INSネット64の契約内容…i・ナンバー：利用する 追加番号(03-1234-2222)
接続形態…電話Aポート：電話機　例 03-1234-1111（i・ナンバー情報1）
　　　　　電話Bポート：ファクス 例 03-1234-2222（i・ナンバー情報2）
　　　　　電話Cポート：何も接続しない



お願い

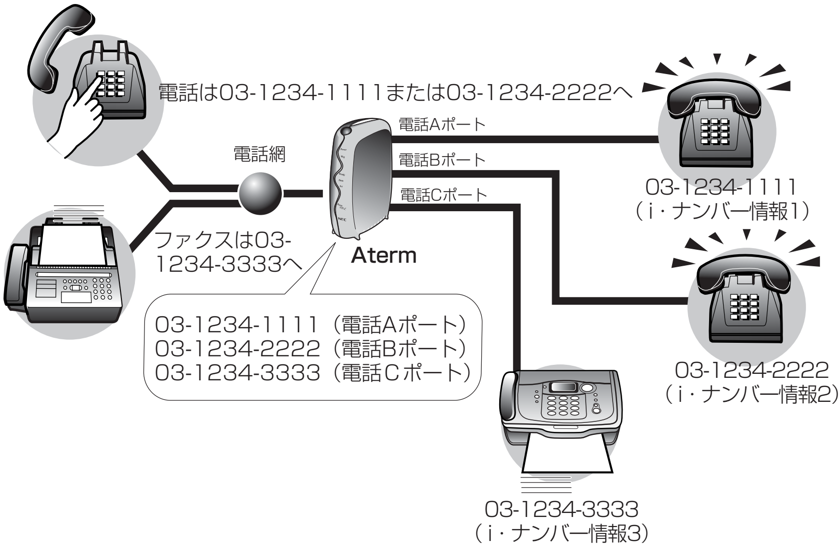
接続するファクスが自動受信機能を持っている場合に、i・ナンバーまたはダイヤルインサービスを契約せずに1つの電話番号で電話機とファクスを接続すると、電話がかかってきたとき先にファクスが応答し、電話機では電話を受けることができなくなります。この場合は、i・ナンバーまたはダイヤルインサービスの契約をおすすめします。

利用例4※（電話機2台、ファクス1台、電話番号3つ）

電話Aポートおよび電話Bポートに電話機を、電話Cポートにファクスを接続し、それぞれに別々の番号を割り当てるケースです。電話機はそれぞれ別の番号で呼び出されるので、電話を切り替えたり、転送する必要がなくなります。また、ファクスを自動受信にしておくと、ファクス受信のために電話に出る必要もありません。i・ナンバーを契約して、電話番号を3つ使用する場合の例です。
（※電話CポートはIT31Lのみ）

INSネット64の契約内容…i・ナンバー：利用する 追加番号2つ
（03-1234-2222、03-1234-3333）

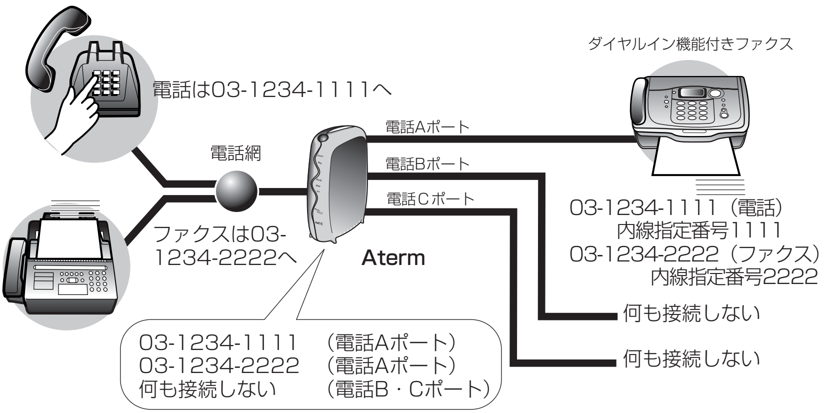
接続形態…電話Aポート：電話機　例 03-1234-1111（i・ナンバー情報1）
電話Bポート：電話機　例 03-1234-2222（i・ナンバー情報2）
電話Cポート：ファクス　例 03-1234-3333（i・ナンバー情報3）



利用例5（ファクス付き電話機1台 電話番号2つ）

ファクス付き電話機（ダイヤルイン機能付き）1台を電話Aポートに接続し、i・ナンバーを契約して電話用の電話番号とファクス用の電話番号を別にする例です。このようにすると、電話がかかってきたときには着信音が鳴るようにし、ファクスは自動受信にすることができます。

INSネット64の契約内容…i・ナンバー：利用する 追加番号（03-1234-2222）
接続形態…電話Aポート：ファクス 例 03-1234-1111（電話）、内線指定番号1111
03-1234-2222（ファクス）、内線指定番号2222
電話B・Cポート：何も接続しない



ポイント

電話とファクスに別々の電話番号を割り当てるには、ファクスのダイヤルイン機能を使用します。ファクスのダイヤルイン機能を動作させるためには、Atermからファクスに対し、電話機とファクスの着信を区別するための信号を送出するための設定が必要になります。この設定が、アナログ・ダイヤルインまたはモデム・ダイヤルインです。

アナログ・ダイヤルインとモデム・ダイヤルインの違いは、ファクスに送出する信号の形式の違いです。お使いのファクス付き電話機がナンバー・ディスプレイに対応している場合は、通常、モデム・ダイヤルインとなりますが、詳しくはファクス付き電話機の取扱説明書でお調べください。

また、アナログ・ダイヤルインを使用する場合は、内線指定番号というダイヤルインの内線番号を指定する必要があります（☞3-30ページ）。

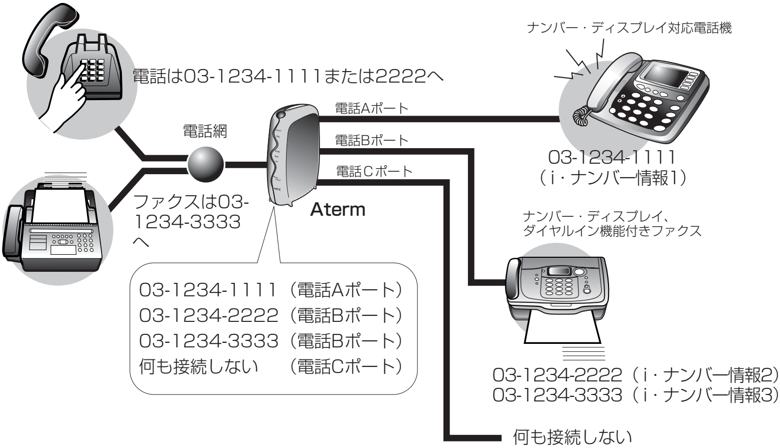
さらに、Atermの設定だけでなくファクス側にもダイヤルインの番号や内線指定番号の設定が必要です。

利用例6（電話機1台・ファクス付き電話機1台 電話番号3つ）

電話Aポートに電話機を、電話Bポートにファクス付き電話機を接続し、i・ナンバーを契約して、電話Aポートの電話機に1つ、電話Bポートのファクス付き電話機に2つ、合計3つの電話番号を割り当てた例です。

INSネット64の契約内容…i・ナンバー：利用する 追加番号2つ
（03-1234-2222、03-1234-3333）
INSナンバー・ディスプレイ：利用する

接続形態…電話Aポート：電話機　例 03-1234-1111（i・ナンバー情報1）
電話Bポート：ファクス 例 03-1234-2222(電話)（i・ナンバー情報2）
03-1234-3333(ファクス)（i・ナンバー情報3）
電話Cポート：何も接続しない



ポイント

この例では、Atermにモデム・ダイヤルイン(☞3-26ページ)の設定が必要です。利用例5とは異なり、ここでは、ナンバー・ディスプレイを使用するため、アナログ・ダイヤルインは使用できません。

電話とファクスに別々の電話番号を割り当てるには、ファクスのダイヤルイン機能を使用します。ファクスのダイヤルイン機能を動作させるためには、Atermからファクスに対し、電話機とファクスの着信を区別するための信号を送出するための設定が必要になります。この設定が、アナログ・ダイヤルインまたはモデム・ダイヤルインです。

アナログ・ダイヤルインとモデム・ダイヤルインの違いは、ファクスに送出する信号の形式の違いです。お使いのファクス付き電話機がナンバー・ディスプレイに対応している場合は、通常、モデム・ダイヤルインとなりますが、詳しくはファクス付き電話機の取扱説明書で調べてください。

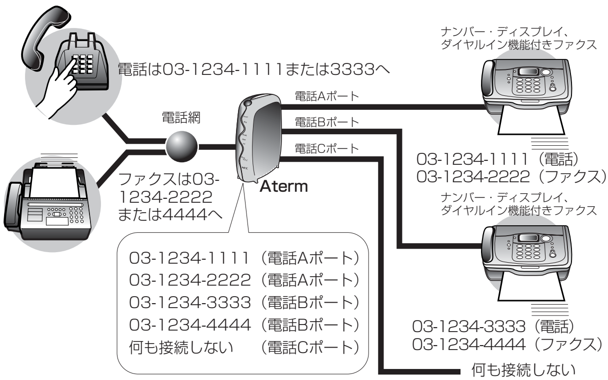
さらに、Atermの設定だけでなくファクス側にもダイヤルインの番号の設定が必要です。

利用例7（ファクス付き電話機2台、電話番号4つ）

ファクス付き電話機を電話Aポートと電話Bポートに接続し、電話とファクスをそれぞれ別の電話番号で受ける例です。電話番号が4つ必要になるため、ダイヤルインサービスを契約します。

INSネット64の契約内容…ダイヤルインサービス：利用する 追加番号3つ
（03-1234-2222、03-1234-3333、03-1234-4444）
グローバル着信：利用する
INSナンバー・ディスプレイ：利用する

接続形態…電話Aポート：ファクス 例 03-1234-1111（電話）
03-1234-2222（ファクス）
電話Bポート：ファクス 例 03-1234-3333（電話）
03-1234-4444（ファクス）
電話Cポート：何も接続しない



ポイント

電話番号を4つ以上使うためにはダイヤルインサービスとグローバル着信（☞2-41ページ）の契約が必要です。また、利用例6と同様に、Atermにモデム・ダイヤルインの設定が必要です。さらに、ファクス側にもダイヤルインの番号の設定が必要です。

電話とファクスに別々の電話番号を割り当てるには、ファクスのダイヤルイン機能を使用します。ファクスのダイヤルイン機能を動作させるためには、Atermからファクスに対し、電話機とファクスの着信を区別するための信号を送出するための設定が必要になります。この設定が、アナログ・ダイヤルインまたはモデム・ダイヤルインです。

アナログ・ダイヤルインとモデム・ダイヤルインの違いは、ファクスに送出する信号の形式の違いです。お使いのファクス付き電話機がナンバー・ディスプレイに対応している場合は、通常、モデム・ダイヤルインとなりますが、詳しくはファクス付き電話機の取扱説明書で調べてください。

ただし、ナンバー・ディスプレイを使用する場合は、アナログ・ダイヤルインは使用できません。

設定 接続機器と電話番号を設定する

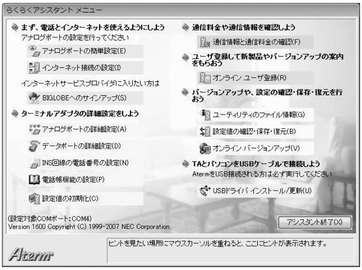
お願い

Windows Vista、WindowsXP/2000で以降の操作を行うためには、Administrator(権限のあるアカウント) でログオンする必要があります。

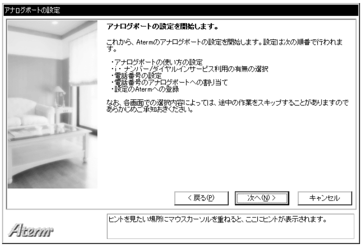
1 らくらくアシスタントを起動し、メニュー画面を表示する

らくらくアシスタントが起動していないときは、[スタート](Windowsのロゴ)ボタンをクリックし、[プログラム](Windows Vista/WindowsXPでは[すべてのプログラム]－[AtermIT21Lユーティリティ]または[AtermIT31Lユーティリティ]－[Atermらくらくアシスタント]を選択します。

2 メニュー画面の[アナログポートの簡単設定]ボタンをクリックする

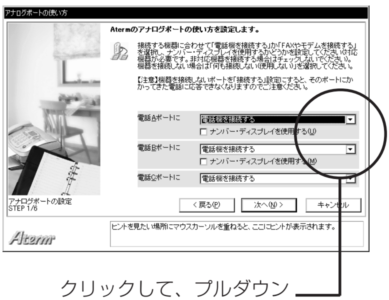


3 [次へ]ボタンをクリックする



4 アナログポート(電話A、B、Cポート)に接続した機器とナンバー・ディスプレイの利用の有無を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

- **電話Aポート・電話Bポート・電話Cポート**
  接続した機器を選択します。何も接続しない場合は、「何も接続しない(使用しない)」を必ず選択してください。この選択をしないと、電話がかかってきたとき、かけてきた相手にはずっと呼び出し中のままで、電話がつながらない場合があります。
- **ナンバー・ディスプレイを使用する**
  ナンバー・ディスプレイを利用するには、INSナンバー・ディスプレイの契約と、ナンバー・ディスプレイ対応の電話機やファクスが必要です。INSナンバー・ディスプレイの工事が完了し、ナンバー・ディスプレイ対応の電話機やファクスを接続している場合だけ、接続したポートにチェックを入れてください。
  ナンバー・ディスプレイ対応以外の電話機が接続されている場合、この欄にチェックを入れてしまうと、電話の呼び出しが短くなったり、受話器をあげても電話が切れてしまう場合があります。

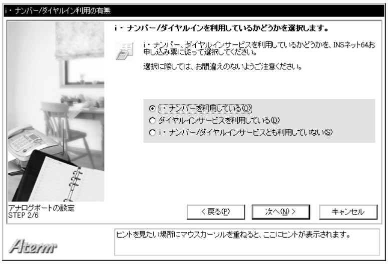


	電話Aポート	ナンバー・ディスプレイを使用する	電話Bポート	ナンバー・ディスプレイを使用する
利用例1	電話機を接続する（ファクス付き電話機の場合は、「FAXやモデムを接続する」）	チェックしない	何も接続しない（使用しない）	チェックしない
利用例2	電話機を接続する	チェックする	電話機を接続する	チェックする
利用例3	電話機を接続する	チェックしない	FAXやモデムを接続する	チェックしない
利用例4	電話機を接続する	チェックしない	電話機を接続する	チェックしない
利用例5	FAXやモデムを接続する	チェックしない	何も接続しない（使用しない）	チェックしない
利用例6	電話機を接続する	チェックする	FAXやモデムを接続する	チェックする
利用例7	FAXやモデムを接続する	チェックする	FAXやモデムを接続する	チェックする

	電話Cポート	ナンバー・ディスプレイを使用する
利用例1	何も接続しない（使用しない）	チェックしない
利用例2	何も接続しない（使用しない）	チェックしない
利用例3	何も接続しない（使用しない）	チェックしない
利用例4	FAXやモデムを接続する	チェックしない
利用例5	何も接続しない（使用しない）	チェックしない
利用例6	何も接続しない（使用しない）	チェックしない
利用例7	何も接続しない（使用しない）	チェックしない

5 i･ナンバー、ダイヤルインサービスの利用の有無を選択し、次へボタンをクリックする

現在利用できるサービスを選択します。

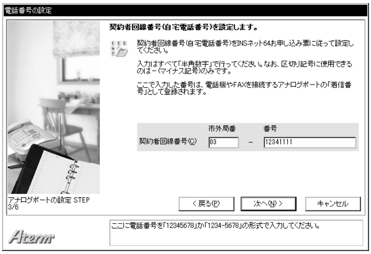


	i·ナンバー／ダイヤルインサービス
利用例1	i·ナンバー／ダイヤルインサービスとも利用していない
利用例2	i·ナンバー／ダイヤルインサービスとも利用していない
利用例3	i·ナンバーを利用している
利用例4	i·ナンバーを利用している
利用例5	i·ナンバーを利用している
利用例6	i·ナンバーを利用している
利用例7	ダイヤルインサービスを利用している

6 電話番号を入力し、[次へ]ボタンをクリックする

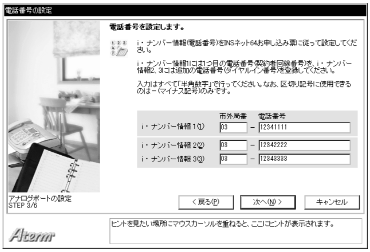
契約した電話番号を入力します。利用するサービスによって画面は異なります。

- **i・ナンバーもダイヤルインサービスも利用しない場合−利用例1、利用例2**
  [契約者回線番号]に契約者回線番号の市外局番と電話番号を入力します。



	契約者回線番号
利用例1	03-12341111
利用例2	03-12341111

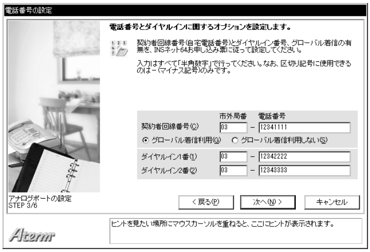
- **i・ナンバーを利用する場合−利用例3、利用例4、利用例5、利用例6**
  [i・ナンバー情報1]に契約者回線番号の市外局番と電話番号を入力します。[i・ナンバー情報2]に追加番号の電話番号を入力します(市外局番は自動で入力されます)。
  電話番号が3つある場合は、[i・ナンバー情報3]に入力します。



	i·ナンバー情報1	i·ナンバー情報2	i·ナンバー情報3
利用例3	03-12341111	03-12342222	−
利用例4	03-12341111	03-12342222	03-12343333
利用例5	03-12341111	03-12342222	−
利用例6	03-12341111	03-12342222	03-12343333

・**ダイヤルインサービス利用の場合－利用例7**

[契約者回線番号]に契約者回線番号の市外局番と電話番号を入力します。通常は、[グローバル着信利用]を選択します。
[ダイヤルイン1番]に1つ目の追加番号の電話番号を入力します(市外局番は自動で入力されます)。
[ダイヤルイン2番]に2つ目の追加番号の電話番号を入力します(市外局番は自動で入力されます)。

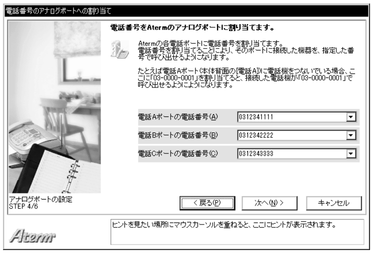


ダイヤルイン3番以降の追加番号(利用例7では03-12344444)は、あとから[INS回線の電話番号の設定]で追加します。「ダイヤルインサービス」(☞3-21ページ)

	契約者回線番号	グローバル着信	ダイヤルイン1番	ダイヤルイン2番
利用例7	03-12341111	グローバル着信利用	03-12342222	03-12343333

7 アナログポートごとに電話番号を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

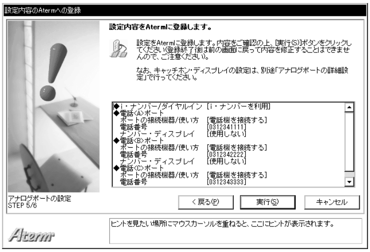
i・ナンバー、ダイヤルインサービスを利用する場合、アナログポートごとに電話番号を設定します。
ここでは1つのアナログポートに1つの電話番号を設定します。利用例4・利用例5のように、1つのアナログポートに複数の電話番号を割り当てたい場合は、あとから[INS回線の電話番号の設定]で変更します。
「i・ナンバー」(☞3-18ページ)
「ダイヤルインサービス」(☞3-21ページ)



	電話Aポートの電話番号	電話Bポートの電話番号	電話Cポートの電話番号
利用例1	(この画面は表示されません)		
利用例2	(この画面は表示されません)		
利用例3	03-12341111	03-12342222	(設定する必要はありません)
利用例4	03-12341111	03-12342222	03-12343333
利用例5	03-12341111 (03-12342222はあとで設定)	(設定する必要はありません)	(設定する必要はありません)
利用例6	03-12341111	03-12342222 (03-12343333はあとで設定)	(設定する必要はありません)
利用例7	03-12341111 (03-12342222はあとで設定)	03-12343333 (03-12344444はあとで設定)	(設定する必要はありません)

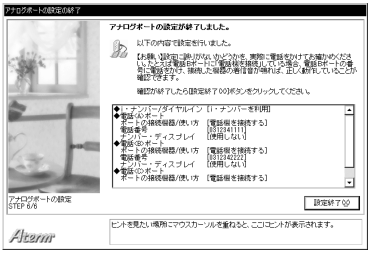
8 設定した内容を画面で確認し、[実行]ボタンをクリックする

[実行]ボタンをクリックすると、電話番号などがAtermに書き込まれます。



9 [設定終了]ボタンをクリックする

アナログポートの簡単設定を終了し、らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

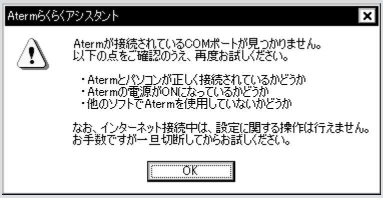


10 らくらくアシスタントを終了するには、メニュー画面の[アシスタント終了]ボタンをクリックする

11 [はい]ボタンをクリックする

お願い

らくらくアシスタントのメニュー画面で何かボタンを押したときに次の画面が表示された場合は、下記の点を確認したあと、[再試行]ボタンをクリックしてください。



- RS-232CケーブルまたはUSBケーブルは、Atermとパソコンに正しく接続されていますか？
- Atermの電源が入っていますか？
- らくらくバージョンアップやUUIメールEXなど、Atermのソフトウェアを起動している場合は終了させてください。

step 2 電話機・ファクスは使えますか？

アナログポートの設定が正しく行われたかどうかを確認するため、携帯電話・PHSなどを利用して、Atermに接続した電話機やファクスを使ってみます。
電話機・ファクスの操作方法については、接続した機器の取扱説明書をお読みください。

電話をかける・ファクスを送る

- 接続したすべての電話機やファクスから「117(時報)」や携帯電話・PHSなどに電話をかけます。発信音が鳴り、通話できることを確認してください。

  電話をかける方法については、「Step6 電話は使えますか？」(☞ 2-19ページ)を参照してください。
- ファクスを接続した場合は、ファクスが送信できることを確認してください。
- モデムを接続した場合は、パソコン通信ができることを確認してください。

電話を受ける・ファクスを受ける

- 携帯電話やPHSから契約者回線番号に(契約した場合はｉ・ナンバーやダイヤルイン番号にも)電話をかけます。対応するポートに接続した電話機の着信音が鳴り、通話できることを確認してください。

  電話を受ける方法については、「Step6 電話は使えますか？」(☞ 2-20ページ)を参照してください。
- ファクスを接続した場合は、ファクスが受信できることを確認してください。

step 3 インターネットのセットアップ

らくらくアシスタントの[インターネット接続の設定]を使い、インターネットに接続するための各種設定を行います。

インターネットのセットアップには、プロバイダ名称やユーザIDなどの情報が必要です(☞2-8ページ)。

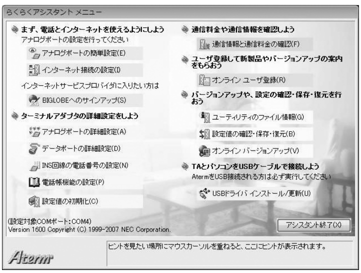
お願い

- ・Windows Vista、WindowsXP/2000で以降の操作を行うためには、Administrator(権限のあるアカウント)でログオンする必要があります。
- ・INSネット64を契約する以前からインターネットを使っていた方も、下記の設定操作は必要です。
- ・画面で表示しているプロバイダ名称やユーザIDなどは例です。ご利用のプロバイダから通知された情報を入力してください。

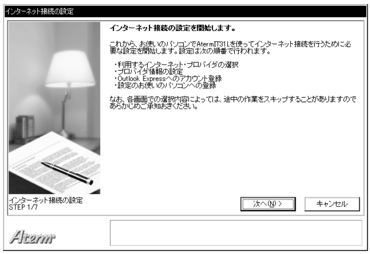
1 **らくらくアシスタントを起動し、メニュー画面を表示する**

らくらくアシスタントが起動していないときは、[スタート](Windowsのロゴ)ボタンをクリックし、[プログラム](Windows Vista/WindowsXPでは[すべてのプログラム])－[AtermIT21Lユーティリティ]または[AtermIT31Lユーティリティ]－[Atermらくらくアシスタント]を選択します。

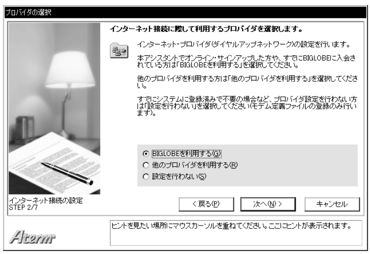
2 **メニュー画面の[インターネット接続の設定]ボタンをクリックする**



3 **[次へ]ボタンをクリックする**



4 **BIGLOBEを利用する場合は[BIGLOBEを利用する]を、その他のプロバイダを利用する場合は[他のプロバイダを利用する]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする**



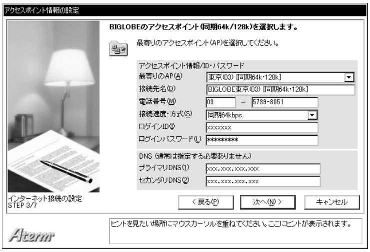
5 プロバイダ接続するための情報を入力し[次へ]ボタンをクリックする

・BIGLOBEの場合

1）パソコンに設定してある所在地情報に基づいて最寄りのアクセスポイントが表示されます。プルダウンメニューから、ほかのアクセスポイントに変えることもできます。

2）接続速度は通常、「同期64kbps」を選択します。

3）さらに、ログインID（ユーザID）とログインパスワードを半角英数字で入力します。

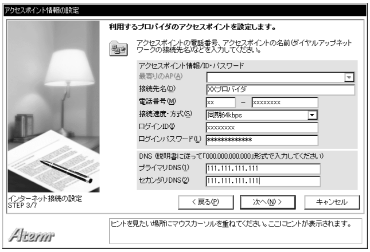


・他のプロバイダの場合

1）プロバイダの名称、アクセスポイントの電話番号を入力します。

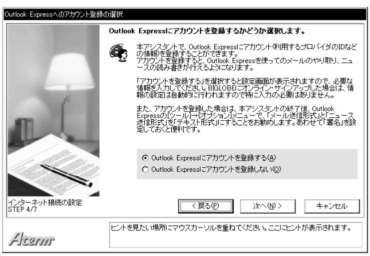
2）接続速度は通常、「同期64kbps」を選択します。

3）ログインID（ユーザID）、パスワード、プライマリDNS、セカンダリDNSを半角英数字で入力します（プロバイダによってはプライマリDNS・セカンダリDNSの入力は不要です）。

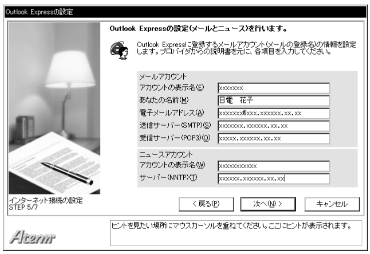


6 Outlook Expressを使用する場合はメールアカウント情報が登録できます。その場合は[Outlook Expressにアカウントを登録する]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

Outlook Expressを使わない場合、あとから登録する場合などは、[Outlook Expressにアカウントを登録しない]を選択し、手順8に進んでください。

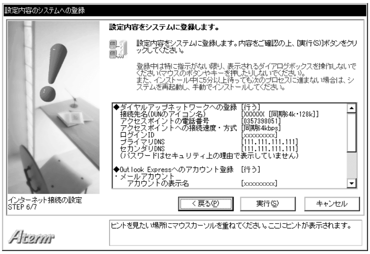


7 メールアカウントやニュースアカウント関連の情報を入力し、[次へ]ボタンをクリックする



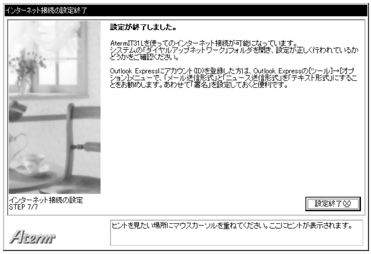
8 **設定する内容を画面上で確認し、[実行]ボタンをクリックする**

Atermで通信するためのモデム情報の組み込み、ダイヤルアップ接続情報の作成などが自動で行われます。



9 **次の画面が表示されたら[設定終了]ボタンをクリックする**

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

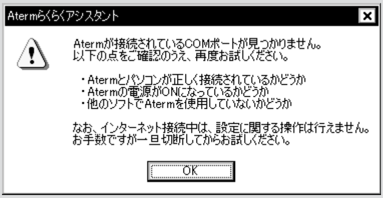


Windowsのダイヤルアップ接続用のフォルダには、ここで設定した接続先のダイヤルアップネットワークアイコンが作成されます(☞2-59ページ)。

10 **らくらくアシスタントを終了するには、メニュー画面の[アシスタント終了]ボタンをクリックする**

お願い

らくらくアシスタントのメニュー画面で何かボタンを押したときに、次の画面が表示された場合は、下記の点を確認した後、[再試行]ボタンをクリックしてください。



・RS-232CケーブルまたはUSBケーブルは、Atermとパソコンに正しく接続されていますか？

・Atermの電源が入っていますか？

・らくらくバージョンアップやUUIメールEXなど、Atermのソフトウェアを起動している場合は終了させてください。

お知らせ

- アクセスポイントや目的に合わせて、手順5で接続速度・方式を選択します。これによって、組み込まれるモデム情報(Windows Me/98/95)やモデムプロトコル(Windows Vista、WindowsXP/2000)が決まります。

アクセスポイント	ISDN回線64kbps(同期)	ISDN回線128kbps(同期)	ISDN回線非同期	PIAFS 32K	PIAFS 64K
目的	64kbps同期通信、マルチアクセス	128kbpsマルチリンクPPP接続、OCNエコノミー	非同期通信	PIAFS 32K通信	PIAFS 64K通信
接続速度・方式	同期64kbps	同期128kbps	非同期	同期64kbps	同期64kbps
モデム情報(WindowsMe/98/95)	AtermIT SYNC115	AtermIT MP128	AtermIT ASYNC115	AtermIT SYNC115	AtermIT SYNC115
モデム情報*1(Windows Vista、WindowsXP/2000)	AtermIT 128 Support Series	AtermIT 128 Support Series	AtermIT 128 Support Series	AtermIT 128 Support Series	AtermIT 128 Support Series
モデムプロトコル(Windows Vista、WindowsXP/2000)	PPP(64K)	PPP(128K)	V.110(57.6)	PIAFS発信*2	PIAFS発信*2
パソコン本体の最高速度	115200bps	230400bps*3	57600bpsまたは11520bps		

*1 USB接続の場合、AtermIT 128K Support Series for USBとなります。
*2 モデムプロトコル(PIAFS発信)は手動で設定してください。
*3 230400bpsで利用するためには、USBポート接続とするか、高速シリアルボードを使用してください。

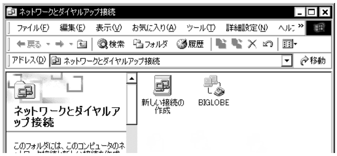
- らくらくアシスタントを使わず、インターネット接続を行う場合は、モデム情報・ダイヤルアップ接続情報のインストールや設定を手動で行うことができます。具体的な手順は添付CD-ROMの『データ通信ガイド』1.手動セットアップを参照してください。
- [アナログポートの簡単設定]を行わずに、[インターネット接続の設定]を選択すると、最初に市外局番の入力画面が表示されます。Atermを使用する場所の市外局番を入力してください。

step 4 インターネットへ接続する

Step3で正しく設定できたか、ダイヤルアップ接続でインターネットへ接続して、確認してみましょう。

1 ダイヤルアップ接続用のフォルダを開く

- Windows Vistaの場合は、Windowsロゴボタン→[接続先]の順にクリックします。
- WindowsXPの場合は、[マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[ネットワークとインターネット接続]→[ネットワーク接続]の順にクリックします。
- Windows2000の場合は、[マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[ネットワークとダイヤルアップ接続]アイコンを順にダブルクリックします。
- WindowsMeの場合は、[マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[ダイヤルアップネットワーク]の順に各フォルダをダブルクリックします。
- Windows98／95の場合は、[マイコンピュータ]フォルダ内の[ダイヤルアップネットワーク]フォルダをダブルクリックします。



(Windows2000の場合)



(WindowsMe/98/95の場合)

2 Step4で作成した接続先のダイヤルアップネットワークアイコンをダブルクリックする

接続先名がアイコン名になります。



(Windows Vistaの場合)



(WindowsXPの場合)

3 ユーザー名とパスワードを入力し、[接続]または[ダイヤル]ボタンをクリックする

[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワード入力の手間が省けます。

4 サーバーに接続される

回線がつながると、ユーザー名とパスワードが確認されます。サーバーへの接続が受け付けられると、画面右下のタスクトレイにダイヤルアップネットワークモニタインジケータが表示されます。


Windows Vista


WindowsXP


Windows2000/Me


Windows98/95

また、AtermのReadyランプ・Actランプが点灯します。

5 電子メールソフトやWWWブラウザなどのアプリケーションを起動する

この状態でさまざまなインターネットアプリケーション*を使用できます。

＊Atermにはインターネットアプリケーションは付属していません。Windowsに付属のものをご利用になるか、別途ご用意ください。

お願い

アクセスポイントまで接続したあと、認証の失敗などでインターネットに接続できないことがあります。その場合は、接続できなくても通信料金がかかります。

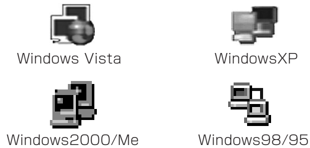
お知らせ

自動発信の場合、話中時の再発信の回数は、「最初の発信から3分間に2回以内」と制限されています。したがって、3回目からの再発信は受け付けられません。時間をおいてから再発信してください。

インターネットへの接続を切断する

1 **タスクトレイのダイヤルアップネットワークインジケータをダブルクリックし、[切断]ボタンをクリックする**

回線が正常に切断されると、AtermのDataランプとActランプが消灯します。



お願い

- ダイヤルアップネットワークモニタインジケータが表示されている間は、ずっと電話がつながったままで、通信料金がかかります(WWWブラウザを終了しても切断されません)。インターネットを使用していないときは、[切断]ボタンをクリックするのを忘れないでください。
- パソコンのストールなどにより、パソコンから回線を切断できない場合があります。インターネットの利用を終了して回線を切断したあとは、必ずAterm本体前面のActランプが消え、回線が切断されたことをご確認ください。
  AtermのActランプが点灯しているときは、回線がつながったままです。そのまま放置すると通信費用がかかります。このようなときは、他の機器が通信中(通話中)でないことを確認してから、下記のいずれかの方法で回線を強制的に切断してください。
  - AtermとINSネット64を接続している回線ケーブルを抜く
  - Aterm本体の電源を切る
  - でかけるボタンを7秒以上押す

  電源を切った場合は、累積料金や着信履歴のデータは消去されます。また、このときは10秒以上おいてから再度電源を入れてください。
  データ通信中にでかけるボタンを押すと、途中でアラーム音が「ピッピッピッピッピッ」と鳴りますがそのまま押し続けてください。そのおよそ6秒後にデータ通信が切断されると「ピッ」音が鳴ります。通信中のデータがないときは、再度「ピッピッピッピッピッ」と鳴ります。なお、通話中にでかけるボタンを押しても電話は切断されません。
- ターミナルソフトを使用した非同期通信を行うと、転送速度が遅くなったり、データ抜けが発生する場合があります。
- AtermのUSBポートにパソコンを接続して通信アプリケーションを実行中に、AtermのUSBケーブルを抜いたり電源を切ったりすると、通信アプリケーションとUSBドライバとの結合をシステムで解放します。引き続き通信アプリケーションをご利用になる場合は、通信アプリケーションをいったん終了して、再度実行し直してください。これは、Atermを初期化するコマンド(atz98、atz99など)を通信アプリケーションで実行したときも同様です。通信アプリケーションをいったん終了して、再度実行し直してください。

step 1　電話機やファクスを使うための設定をする

らくらくアシスタントの[アナログポートの簡単設定]を使い、アナログポートに接続する機器の種類、i・ナンバー、ダイヤルインサービスの利用の有無、電話番号など、電話機やファクスを利用するための基本の設定を行います。

設定を始める前に、Atermの利用例（☞2-42〜2-48ページ）を参照してください。代表的な利用例とその設定内容を説明しています。

お願い

設定内容は、今後の予定ではなく、現在の状況に合わせてください。実際の契約内容（工事完了済みのもの）や接続機器と設定内容が一致していないと、電話やファクスを正しくご利用いただけません。サービスを追加したり機器を購入するなど、状況が変わったときは、設定し直してください。

ポイント

☑ アナログポートの簡単設定について

らくらくアシスタントの[アナログポートの簡単設定]は、電話やファクスを使うために必須の設定を、間違いなく簡単に行うためのものです。電話番号が1つの場合や、i・ナンバーを契約している場合、電話番号が3つまでのダイヤルインサービスを契約している場合に、電話機やファクスを使えるようにします。ダイヤルインサービスで4つ以上の電話番号を設定する機能や、ナンバー・ディスプレイ以外の各種サービスやAtermの電話機能を設定する機能は含まれていません。これらの設定は、[アナログポートの簡単設定]が終了してから行います（「電話機能」☞3-8ページ）。

☑ i・ナンバーとダイヤルインサービスについて

電話機やファクス付き電話機などを異なった電話番号で複数台使う場合や、ファクスが1台でも電話番号とファクス番号を使い分けたい場合などは、INSネット64のi・ナンバーまたはダイヤルインサービスを契約します。電話番号を2つまたは3つ使いたいときはi・ナンバー、4つ以上使いたいときはダイヤルインサービスと覚えておきましょう。
i・ナンバーについては3-18ページ、ダイヤルイン・サービスについては3-21ページをそれぞれ参照してください。

☑ 利用例

Atermの一般的な利用例をいくつか示しています（☞2-42〜48ページ）。次ページからの設定手順の中には、これらの各利用例に対応する設定内容を記載していますので、利用例の中から、ご自分の利用パターンに一番近い例を探してください。ぴったりの利用例がない場合は、i・ナンバーまたはダイヤルインサービスの有無が一致するものの中から一番近いものを参考にしてください。

1 ［AtermIT21Lユーティリティ］または［IT31Lユーティリティ］フォルダの［Atermらくらくアシスタント］アイコンをダブルクリックする

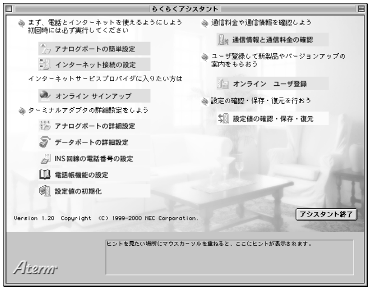
らくらくアシスタントが起動します。

2 接続ポートを選択し、［OK］ボタンをクリックする

USBポート接続の場合は、［Aterm］を選択してください。



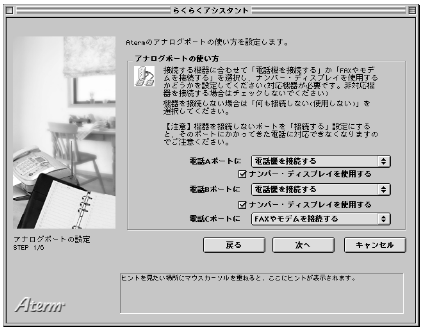
3 メニュー画面の［アナログポートの簡単設定］ボタンをクリックする



4 ［次へ］ボタンをクリックする



5 アナログポートに接続した機種とナンバー・ディスプレイの利用の有無を選択し、［次へ］ボタンをクリックする



・電話Aポート・電話Bポート・電話Cポート
接続した機器を選択します。何も接続しない場合は、「何も接続しない」を必ず選択してください。この選択をしないと、電話がかかってきたとき、かけてきた相手にはずっと呼び出し中のままで、電話がつながらない場合があります。

・ナンバー・ディスプレイを使用する
ナンバー・ディスプレイを利用するには、INSナンバー・ディスプレイの契約と、ナンバー・ディスプレイ対応の電話機やファクスが必要です。INSナンバー・ディスプレイの工事が完了し、ナンバー・ディスプレイ対応の電話機やファクスを接続した場合だけ、接続したポートにチェックを入れてください。ナンバー・ディスプレイ対応以外の電話機が接続されている場合、この欄にチェックを入れてしまうと、電話の呼び出しが短くなったり、受話器をあげても電話が切れてしまう場合があります。

	電話Aポート	ナンバー・ディスプレイを使用する	電話Bポート	ナンバー・ディスプレイを使用する
利用例1	電話機を接続する（ファクス付き電話機の場合は、「FAXやモデムを接続する」）	チェックしない	何も接続しない（使用しない）	チェックしない
利用例2	電話機を接続する	チェックする	電話機を接続する	チェックする
利用例3	電話機を接続する	チェックしない	FAXやモデムを接続する	チェックしない
利用例4	電話機を接続する	チェックしない	電話機を接続する	チェックしない
利用例5	FAXやモデムを接続する	チェックしない	何も接続しない（使用しない）	チェックしない
利用例6	電話機を接続する	チェックする	FAXやモデムを接続する	チェックする
利用例7	FAXやモデムを接続する	チェックする	FAXやモデムを接続する	チェックする

	電話Cポート	ナンバー・ディスプレイを使用する
利用例1	何も接続しない（使用しない）	チェックしない
利用例2	何も接続しない（使用しない）	チェックしない
利用例3	何も接続しない（使用しない）	チェックしない
利用例4	FAXやモデムを接続する	チェックしない
利用例5	何も接続しない（使用しない）	チェックしない
利用例6	何も接続しない（使用しない）	チェックしない
利用例7	何も接続しない（使用しない）	チェックしない

6 i・ナンバー、ダイヤルインサービスの利用の有無を選択し、次へボタンをクリックする

現在利用できるサービスを選択します。



	i･ナンバー／ダイヤルインサービス
利用例1	i･ナンバー／ダイヤルインサービスとも利用していない
利用例2	i･ナンバー／ダイヤルインサービスとも利用していない
利用例3	i･ナンバーを利用している
利用例4	i･ナンバーを利用している
利用例5	i･ナンバーを利用している
利用例6	i･ナンバーを利用している
利用例7	ダイヤルインサービスを利用している

7 電話番号を入力し、[次へ]ボタンをクリックする

契約した電話番号を入力します。利用するサービスによって画面は異なります。

・i・ナンバーもダイヤルインサービスも利用しない場合－利用例1、利用例2

[契約者回線番号]に契約者回線番号の市外局番と電話番号を入力します。



	契約者回線番号
利用例1	03-12341111
利用例2	03-12341111

・i・ナンバー利用の場合－利用例3、利用例4、利用例5、利用例6

[i・ナンバー情報1]に契約者回線番号の市外局番と電話番号を入力します。
[i・ナンバー情報2]に追加番号の市外局番と電話番号を入力します。
電話番号が3つある場合は、[iナンバー情報3]に入力します。



	i･ナンバー情報1	i･ナンバー情報2	i･ナンバー情報3
利用例3	03-12341111	03-12342222	－
利用例4	03-12341111	03-12342222	03-12343333
利用例5	03-12341111	03-12342222	－
利用例6	03-12341111	03-12342222	03-12343333

・ダイヤルインサービス利用の場合－利用例7

[契約者回線番号]に契約者回線番号の市外局番と電話番号を入力します。
通常は、[グローバル着信利用]を選択します。
[ダイヤルイン1番]に1つ目の追加番号の電話番号を入力します(市外局番は自動で入力されます)。
[ダイヤルイン2番]に2つ目の追加番号の電話番号を入力します(市外局番は自動で入力されます)。



ダイヤルイン3番以降の追加番号を使用する場合(利用例7では03-12344444)は、あとから[INS回線の電話番号の設定]で追加します。
「ダイヤルインサービス」(☞3-21ページ)

	契約者回線番号	グローバル着信	ダイヤルイン1番	ダイヤルイン2番
利用例7	03-12341111	グローバル着信利用	03-12342222	03-12343333

8 アナログポートごとに電話番号を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

i・ナンバー、ダイヤルインサービスを利用する場合、アナログポートごとに電話番号を設定します。
ここでは1つのアナログポートに1つの電話番号しか設定できません。利用例4・利用例5のように、1つのアナログポートに複数の電話番号を割り当てたい場合は、あとから[INS回線の電話番号の設定]で変更します。
「i・ナンバー」(☞3-18ページ)
「ダイヤルインサービス」(☞3-21ページ)



	電話Aポートの電話番号	電話Bポートの電話番号	電話Cポートの電話番号
利用例1	(この画面は表示されません)		
利用例2	(この画面は表示されません)		
利用例3	03-12341111	03-12342222	(設定する必要はありません)
利用例4	03-12341111	03-12342222	03-12343333
利用例5	03-12341111 (03-12342222はあとで設定)	(設定する必要はありません)	(設定する必要はありません)
利用例6	03-12341111	03-12342222 (03-12343333はあとで設定)	(設定する必要はありません)
利用例7	03-12341111 (03-12342222はあとで設定)	03-12343333 (03-12344444はあとで設定)	(設定する必要はありません)

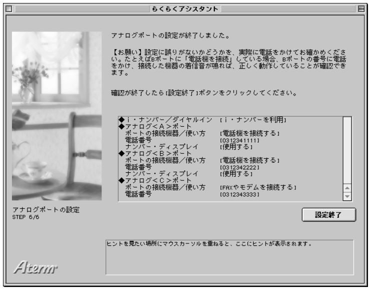
9 **設定した内容を画面で確認し、[実行]ボタンをクリックする**

[実行]ボタンをクリックすると、電話番号などがAtermに書き込まれます。



10 **[設定終了]ボタンをクリックする**

アナログポートの簡単設定を終了し、らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。



11 **らくらくアシスタントを終了するには、メニュー画面の[アシスタント終了]ボタンをクリックする**

12 **[OK]ボタンをクリックする**

step 2 電話機・ファクスは使えますか?

アナログポートの設定が正しく行われたかどうかを確認するため、携帯電話・PHSなどを利用して、Atermに接続した電話機やファクスを使ってみます。
電話機・ファクスの操作方法については、接続した機器の取扱説明書をお読みください。

電話をかける・ファクスを送る

- 接続したすべての電話機やファクスから「117(時報)」や携帯電話・PHSなどに電話をかけます。発信音が鳴り、通話できることを確認してください。

  電話をかける方法については、「Step6 電話は使えますか?」(☞ 2-19ページ)を参照してください。
- ファクスを接続した場合は、ファクスが送信できることを確認してください。
- モデムを接続した場合は、パソコン通信ができることを確認してください。

電話を受ける・ファクスを受ける

- 携帯電話やPHSから契約者回線番号に(契約した場合はｉ・ナンバーやダイヤルイン番号にも)電話をかけます。対応するポートに接続した電話機の着信音が鳴り、通話できることを確認してください。

  電話を受ける方法については、「Step6 電話は使えますか?」(☞ 2-20ページ)を参照してください。
- ファクスを接続した場合は、ファクスが受信できることを確認してください。

パソコンからのセットアップ(Macintosh編)

step 3 BIGLOBEへのオンラインサインアップ

インターネットのセットアップに進むには、プロバイダに加入している必要があります。プロバイダにまだ加入していない場合は、パソコンを使ってBIGLOBEへ入会手続きを行うことができます(オンラインサインアップ)。

プロバイダにすでに加入している方は、Step4(☞2-71ページ)へお進みください。

お願い

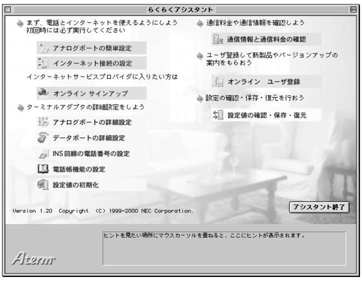
オンラインサインアップを行うにはクレジットカードが必要です。BIGLOBEへの支払いをクレジットカード以外の方法でご希望の場合は、添付の『おいでまシート』(BIGLOBE入会申込書)を使い、郵送またはファクスでお申し込みください。

お知らせ

インターネット接続アシスタントの画面は一例です。MacOSのバージョンによっては画面が異なっていることがあります。

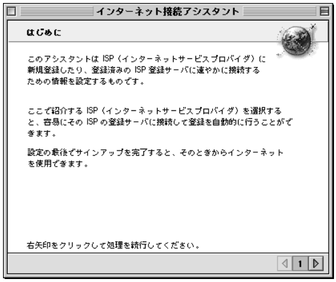
1 **らくらくアシスタントを起動し、メニュー画面を表示する**

2 **メニュー画面の[オンラインサインアップ]ボタンをクリックする**



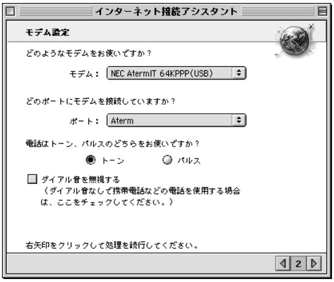
3 **[実行]ボタンをクリックする**

4 **インターネット接続アシスタントが起動したら、右下の▷をクリックする**

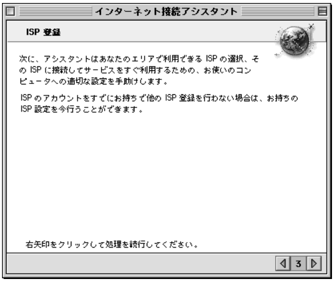


5 **モデムの種類から「NEC AtermIT64KPPP」または「AtermIT64KPPP(USB)」(USBポート接続の場合)を選択し、Atermを接続したポートの種類を選択し、右下の▷をクリックする**

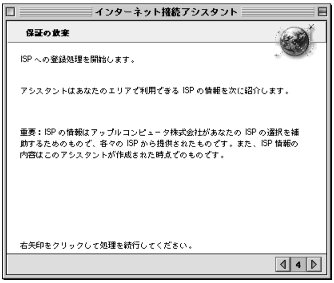
USBポートに接続した場合、ポートの種類は「Aterm」となります。
トーン/パルスの種別は「トーン」を選択してください。



6 右下の▷をクリックする



7 右下の▷をクリックする



8 プロバイダリストから「BIGLOBE、NEC」を選択し、右下の▷をクリックする

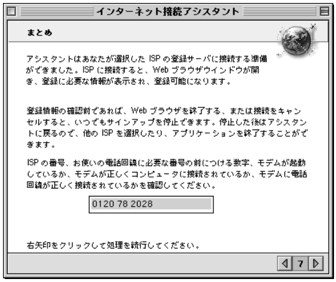


9 右下の▷をクリックする

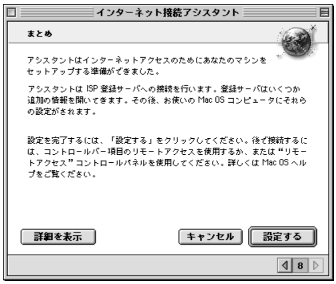


10 BIGLOBEオンラインサインアップ用の電話番号が表示されたら、右下の▷をクリックする

電話番号を変更しないでください。



11 ［設定する］ボタンをクリックする



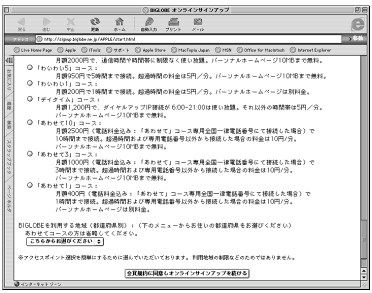
12 サインアップセンターに接続される



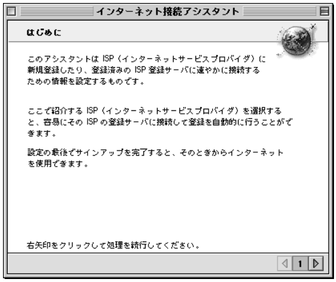
13 WWWブラウザでオンラインサインアップのページが表示されたら、ページの説明や会員規約を読む



14 契約コースと最寄りのアクセスポイントを選択し、[会員規約に同意し、オンラインサインアップを続ける]ボタンをクリックする



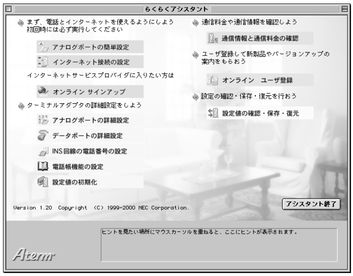
15 名前、住所などの個人情報、クレジットカード情報などを順番に入力する



16 以降、画面の指示に従って操作する

17 オンラインサインアップが終了したら、[戻る]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。



18 らくらくアシスタントを終了するには、メニュー画面の[アシスタント終了]ボタンをクリックする

19 [OK]ボタンをクリックする

こんなときは →→ オンラインサインアップがうまくいかない！

オンラインサインアップがうまくいかない場合は、添付の『インターネットスタートブック』(BIGLOBE入会申込書)を使い、郵送またはファクスでお申込みください。

パソコンからのセットアップ（Macintosh編）

step 4 インターネットのセットアップ

らくらくアシスタントの[インターネット接続の設定]を使い、インターネットに接続するための各種設定を行います。

インターネットのセットアップには、プロバイダ名称やユーザIDなどの情報が必要です（☞2-8ページ）。

お願い

・手順9以降の数字や文字の入力は、すべて半角英数字を使用してください。

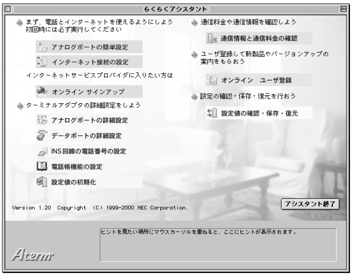
・画面で表示しているプロバイダ名称やユーザIDなどは例です。ご利用のプロバイダから通知された情報を入力してください。

お知らせ

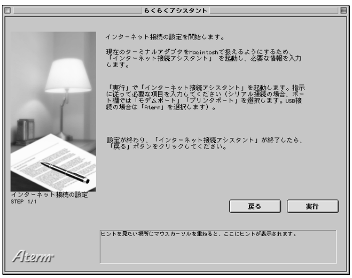
インターネット接続アシスタントの画面は一例です。MacOSのバージョンによっては画面が異なっていることがあります。

1 らくらくアシスタントを起動し、メニュー画面を表示する

2 メニュー画面の[インターネット接続の設定]ボタンをクリックする



3 [実行]ボタンをクリックする



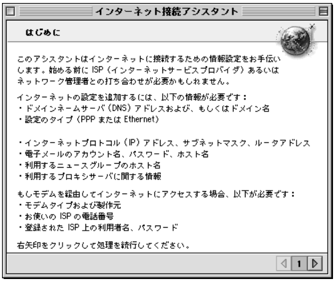
4 インターネット接続アシスタントが起動したら、[はい]ボタンをクリックする



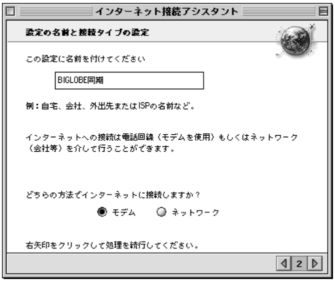
5 [はい]ボタンをクリックする



6 右下の▷をクリックする

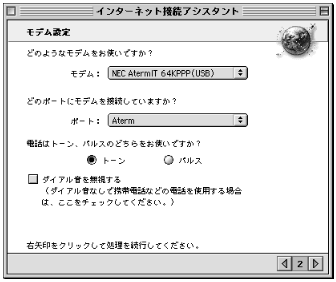


7 プロバイダの名称を入力し、接続方法から[モデム]を選択して右下の▷をクリックする

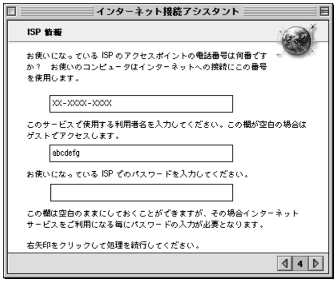


8 モデムから[NEC AtermIT 64KPPP]を、Atermを接続したポートを選択し、右下の▷をクリックする

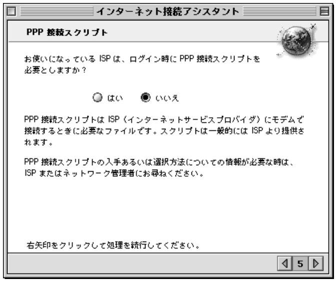
[モデム]：通常の64K同期通信を行う場合は、[NEC AtermIT 64KPPP]または[NEC AtermIT64KPPP(USB]（USBポート接続の場合）を選択します。
[ポート]：Atermを接続したポートを選択します。USBポートの場合は、[Aterm]を選択してください。
[トーン／パルス]：[トーン]を選択します。
[ダイヤル音を無視する]：チェックしません。



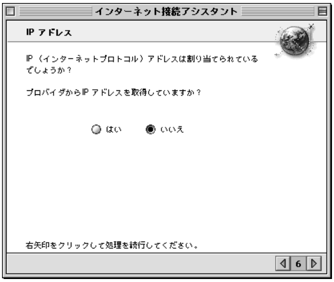
9 アクセスポイントの電話番号、ユーザID（ログインID）、パスワードを入力し、右下の▷をクリックする



10 [いいえ]を選択し、右下の▷をクリックする

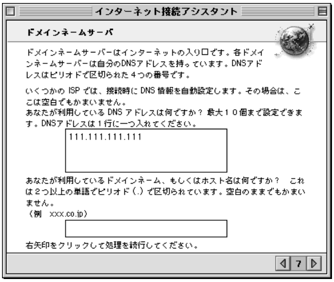


11 ［いいえ］を選択し、右下の▷をクリックする

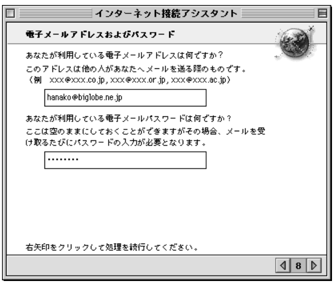


12 プライマリDNS、セカンダリDNSの値を入力し、右下の▷をクリックする

プロバイダによっては、プライマリDNS・セカンダリDNSの入力は不要です。



13 メールアドレスとメールパスワードを入力し、右下の▷をクリックする



14 メールアカウントとSMTPサーバーを入力し、右下の▷をクリックする

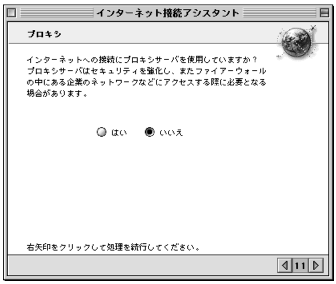
BIGLOBEの場合、メールアドレスとメールアカウントは同じものです。



15 ニュースサーバーを入力し、右下の▷をクリックする

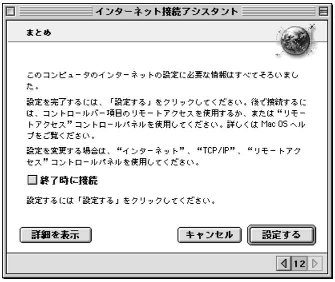


16 ［いいえ］を選択し、右下の▷をクリックする



17 **[終了時に接続]のチェックをはずし、[設定する]ボタンをクリックする**

入力した内容で設定されます。



18 **[戻る]ボタンをクリックし、らくらくアシスタントに戻る**

19 **らくらくアシスタントを終了するには、メニュー画面の[アシスタント終了]ボタンをクリックする**

20 **[OK]ボタンをクリックする**

お知らせ

- アクセスポイントや目的に合わせ、手順8で適切なモデム(情報)を選択してください。詳細は、添付CD-ROMの『データ通信ガイド』1.手動セットアップを参照してください。

アクセスポイント	目的	接続速度・方式	モデム情報*1	パソコン本体の最高速度
ISDN回線64kbps(同期)	64kbps同期通信、マルチアクセス	同期64kbps	NEC AtermIT 64KPPP	115200bps
ISDN回線128kbps(同期)	128kbpsマルチリンクPPP接続、OCNエコノミー	同期128kbps	NEC AtermIT MP	230400bps
ISDN回線非同期	非同期通信	非同期	NEC AtermIT 57.6K	57600bps または115200bps
PIAFS 32K	PIAFS 32K通信	同期64kbps	NEC AtermIT PIAFS32K	
PIAFS 64K	PIAFS 64K通信	同期64kbps	NEC AtermIT PIAFS64K	

*1 USBポート接続の場合は、後ろに(USB)のついたモデム情報を選択してください。

- らくらくアシスタントを使わず、インターネット接続を行う場合は、USBドライバ・モデム情報・ダイヤルアップ接続情報のインストールや設定を手動で行うことができます。具体的な手順については添付CD-ROMの『データ通信ガイド』1.手動セットアップを参照してください。

プロトコルを「PPP」に設定する ●●●●●●●●●●●●●

MacOSのバージョンによっては、使用プロトコルが「自動」に設定されていると、そのままでは接続できない場合があります。プロトコルを「PPP」に変更してください。

1 アップルメニューの[コントロールパネル]を選択する

2 [リモートアクセス]アイコンをダブルクリックする


リモートアクセス

3 [オプション]ボタンをクリックする

4 [プロトコル]タブをクリックする

5 プロトコルに「PPP」を指定する



6 [OK]ボタンをクリックする

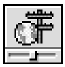
7 □(クローズボックス)をクリックして閉じる

step 5 インターネットへ接続する

Step4で正しく設定できたか、ダイヤルアップ接続でインターネットへ接続して、確認してみましょう。

1 アップルメニューの[コントロールパネル]を選択する

2 [リモートアクセス]アイコンをダブルクリックする



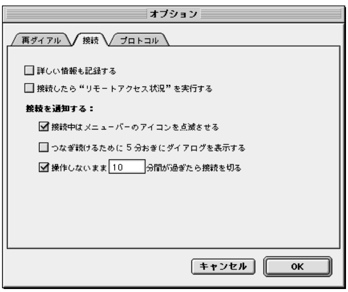
リモートアクセス

3 [オプション]ボタンをクリックする



4 [接続]タブをクリックする

5 [操作しないまま10分間が過ぎたら接続を切る]をチェックする



MacOSのリモートアクセスを使う場合、Atermの無通信監視タイマは動作しません。必ず上記をチェックしてください。

6 [OK]ボタンをクリックする

7 [接続]ボタンをクリックする



8 サーバーに接続される

回線がつながると、ユーザー名（名前）とパスワードが確認されます。



接続に成功すると、メニューバー左端にアイコンが点滅します。



また、AtermのReadyランプ・Actランプが点灯します。

9 **電子メールソフトやWWWブラウザなどのアプリケーションを起動する**

この状態でさまざまなインターネットアプリケーションを使用できます。

Atermにはインターネットアプリケーションは付属していません。
Macintoshに付属のものをご利用になるか、別途ご用意ください。

お願い

- アクセスポイントまで接続したあと、認証の失敗などでインターネットに接続できないことがあります。その場合は、接続できなくても通信料金がかかります。
- Mac OS8.6では「使用プロトコル」が「自動」に指定されていると正しく接続ができません(OS8.6では出荷時に自動が選択されていますので変更が必要です)。間違って「使用プロトコル」が「自動」に設定されている場合は、いったんMacintoshとAtermのケーブルを抜き差ししてから「使用プロトコル」に「PPP」を選択してください。

お知らせ

自動発信の場合、話中時の再発信の回数は、「最初の発信から3分間に2回以内」と制限されています。したがって、3回目からの再発信は受け付けられません。時間をおいてから再発信してください。

インターネットへの接続を切断する

1 **リモートアクセス画面の[接続を切る]ボタンをクリックするか、アップルメニューの[リモートアクセス状況]を選択し、[接続を切る]ボタンをクリックする**

回線が正常に切断されると、AtermのDataランプとActランプが消灯します。



お願い

・メニューバー左端のリモートアクセスアイコンが点滅表示されている間は、ずっと電話がつながったままで、通信料金がかかります(WWWブラウザを終了しても切断されません)。インターネットを使用していないときは、[接続を切る]ボタンをクリックするのを忘れないでください。

・パソコンのストールなどにより、パソコンから回線を切断できない場合があります。インターネットの利用を終了して回線を切断したあとは、必ずAterm本体前面のActランプが消え、回線が切断されたことをご確認ください。
AtermのActランプが点灯しているときは、回線がつながったままです。そのまま放置すると通信費用がかかります。このようなときは、他の機器が通信中(通話中)でないことを確認してから、下記のいずれかの方法で回線を強制的に切断してください。
- AtermとINSネット64を接続している回線ケーブルを抜く
- Aterm本体の電源を切る
- でかけるボタンを7秒以上押す
電源を切った場合は、累積料金や着信履歴のデータは消去されます。また、このときは10秒以上おいてから再度電源を入れてください。
データ通信中にでかけるボタンを押すと、途中でアラーム音が「ピッピッピッピッピッ」と鳴りますがそのまま押し続けてください。そのおよそ6秒後にデータ通信が切断されると「ピッ」音が鳴ります。通信中のデータがないときは、再度「ピッピッピッピッピッ」と鳴ります。なお、通話中にでかけるボタンを押しても電話は切断されません。

・MacOS9をお使いの場合、ブラウザを起動したままリモートアクセスを切断しても再発信してしまうときは、AppleTalkをOFFにしてください。

・ターミナルソフトを使用した非同期通信を行うと、転送速度が遅くなったり、データ抜けが発生する場合があります。

・接続先のプロバイダやサーバー・接続時間帯・データ転送の特徴などにより、接続回線速度のパフォーマンスが十分に得られないことがあります。また、ファイルのアップロードを行うとき、ご利用の通信アプリケーションによってはフロー制御が使用できないなどの理由から、通信パフォーマンスが十分得られないことがあります。

・AtermのUSBポートにパソコンを接続して通信アプリケーションを実行中に、AtermのUSBケーブルを抜いたり電源を切ったりすると、通信アプリケーションとUSBドライバとの結合をシステムが解放します。引き続き通信アプリケーションをご利用になる場合は、通信アプリケーションをいったん終了して、再度実行し直してください。
これは、Atermを初期化するコマンド(atz98、atz99など)を通信アプリケーションで実行したときも同様です。通信アプリケーションをいったん終了して、再度実行し直してください。

パソコンからのセットアップ（WindowsNT4.0編）

WindowsNT4.0でも、らくらくアシスタントを使うことができますが一部の機能に制限があります。

Step1　らくらくアシスタントをインストールする

Windows編をお読みください（☞2-23ページ）。

Step2　接続するポートを選択する

Windows編のシリアルポート接続の場合をお読みください（☞2-36ページ）。
WindowsNT4.0ではUSBポート接続をサポートしていません。

Step3　電話機やファクスを使うための設定をする

Windows編をお読みください（☞2-40ページ）。

Step4　電話機・ファクスは使えますか？

Windows編をお読みください（☞2-54ページ）。

Step5　インターネットのセットアップ

らくらくアシスタントの[インターネットの接続の設定]は、WindowsNT4.0には対応していません。
添付CD-ROMの『データ通信ガイド』「1.手動セットアップ　WindowsNT4.0の場合」を参照し、手動セットアップを行ってください。

Step6　インターネットへ接続する

基本手順は、Windows Vista、WindowsXP/2000/Me/98/95と同じです。
詳細は、添付ＣＤ-ＲＯＭの『データ通信ガイド』「１.手動セットアップ　WindowsNT4.0の場合」を参照してください。

ホームページを見よう

セットアップが終わったら、さっそくネットサーフィンしてみましょう。ホームページを閲覧するためのWWWブラウザ(Internet Explorerなど)はインストールされていますか。まずは、AtermStationを訪ねてみます。

1 ダイヤルアップ接続をする

2 [WWWブラウザ]を起動する

3 WindowsでInternet Explorer を使う場合は、デスクトップの[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックする

ほかのWWWブラウザを使う場合は、それらのソフトウェアの取扱説明書やヘルプなどをご覧ください。



Macintoshの場合は、アップルメニューから[インターネットアクセス]→[WWWブラウザ]を選択する

4 見たいホームページのURLをアドレス欄に入力し、Enterキーを押す

ホームページが表示されます。
画面は、AtermStation(URL http://121ware.com/aterm/)の例です。AtermStationでは、Atermに関するさまざま情報を提供しています。



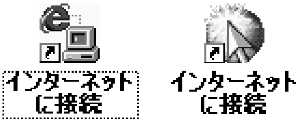
(平成19年5月現在)

お願い

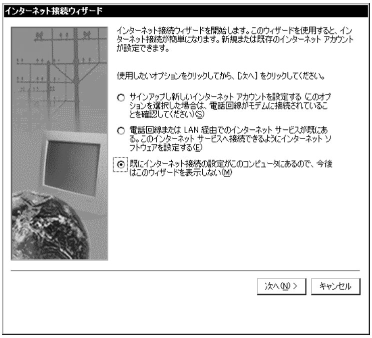
ホームページを見たあとにWWWブラウザ(InternetExplorerなど)を終了させるだけでは、プロバイダへの回線接続は切断されません。「インターネットへの接続を切断する」(☞Windowsは2-60ページ、Macintoshは2-77ページ)を参照して、必ず回線を切断してください。

こんなときは →→ デスクトップにInternet Explorerのアイコンが見あたらないときは

Windows98でInternet Explorerを初めて使うときは、[インターネットに接続]アイコンをダブルクリックしてください。



インターネット接続ウィザードが起動したら、[既にインターネット接続の設定が・・・表示しない]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



● データ通信中のランプ表示

データ通信中、Aterm前面のランプは次のように点灯します。

	USBポート接続の場合		シリアルポート接続の場合	
発信／着信時	Readyランプ	赤色で点灯	Readyランプ	緑色で点灯
	Actランプ	緑色で点滅	Actランプ	緑色で点滅
通信中	Readyランプ	赤色で点灯	Readyランプ	緑色で点灯
	Dataランプ	赤色で点灯	Dataランプ	緑色で点灯
	Actランプ	緑色で点灯(B1、B2両チャネル使用しているときはオレンジ色)	Actランプ	緑色で点灯(B1、B2両チャネル使用しているときはオレンジ色)
切断後	Readyランプ	赤色で点滅	Readyランプ	消灯
	Dataランプ	消灯	Dataランプ	消灯
	Actランプ	消灯	Actランプ	消灯

インターネットへうまく接続できないときは

● 接続手順や設定内容などを確認してください。

接続できない原因は、下記のような理由であることがしばしばあります。もう一度確認してみてください。

- ケーブルがはずれている、またはゆるんでいる
- 各項目の入力ミス
- Atermの電源が入っていない

● 時間をおいて接続し直してみてください

プロバイダのサーバーのトラブルなどによって接続できないこともあります。原因が見つからないときは、時間をおいてやり直してみてください。
また、いつもとは違うアクセスポイントに接続してみたり、複数のプロバイダに加入している場合は、別のプロバイダに接続できるかを確認してください。

● 電子マニュアルの「お困りのときには」を参考にしてください

「お困りのときには」には、さまざまなトラブルに合わせた対処方法がのっています。

● 自分で解決できないときは、インフォメーションセンターにお問い合わせください（☞別紙または裏表紙）

MEMO

MEMO

2

3. もっと便利に使いこなす

Aterm のいろいろな機能を使いたい、Aterm をさらに便利に使いこなしたい方のためのガイドです。添付 CD-ROM の『データ通信ガイド』（電子マニュアル）とあわせてご利用ください。

らくらくアシスタントを使おう 3-2

電話機能 3-8

各種情報を表示する 3-102

3

本章は、らくらくアシスタントがパソコンにインストールされていることを前提に説明しています。インストールがまだ済んでいない場合は、「らくらくアシスタントをインストールする」（Windowsの場合☞2-23ページ、Macintoshの場合☞2-26ページ）を参照して、インストールを行ってください。

らくらくアシスタントを使おう

らくらくアシスタントをもっと知りたい

ここまでで、電話やインターネットの基本的な機能は使えるようになったはずです。しかしAtermにはまだまだたくさんの機能があります。らくらくアシスタントを使うと、さまざまな機能や便利なサービスが使えるようになります。

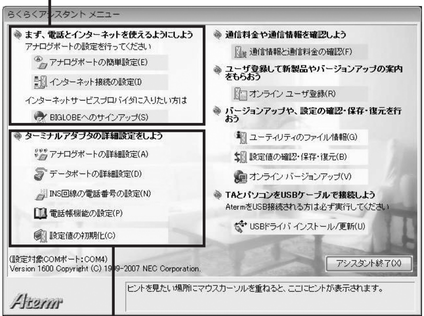
らくらくアシスタントでどんなことができるか、メニュー画面を使って説明しましょう。

<まず、電話とインターネットを使えるようにしよう>

[アナログポートの簡単設定]
電話を使うための基本的な設定を行います。これは前章ですでに使いました。

[インターネット接続の設定]
インターネット接続のためにパソコンの設定を行います。これは前章ですでに使いました。

[オンラインサインアップ](Macintosh版)
インターネットサービスプロバイダBIGLOBEへの入会手続きを、オンラインで行います。



<ターミナルアダプタの詳細設定をしよう>

[アナログポートの詳細設定]
電話Aポート、電話Bポート、電話Cポートの詳細設定を行います。キャッチホン・ディスプレイや内線通話など電話関係のサービスや機能を利用する場合に使います。

[データポートの詳細設定]
シリアルポートとUSBポートの詳細設定を行います。自動切断に関する設定やリソースBODなどデータ通信関係の機能を利用する場合に使います。

[INS回線の電話番号の設定]
使用する電話番号を登録します。[アナログポートの簡単設定]で入力した電話番号を変更したり、i·ナンバーやダイヤルイン番号でシリアルポートやUSBポートに着信させる場合に使います。

[電話帳機能の設定]
短縮ダイヤル用、マイプライベート着信用、疑似識別着信用、疑似なりわけ用、迷惑電話防止用などの電話帳に電話番号を登録します。

[設定値の初期化]
Atermの設定をご購入時の状態に戻します。ただし、電話帳、着信番号、通知番号、内線指定番号、着信転送番号などは設定した値が残ります。

<通信料金や通信情報を確認しよう>

[通信情報と通信料金の確認]

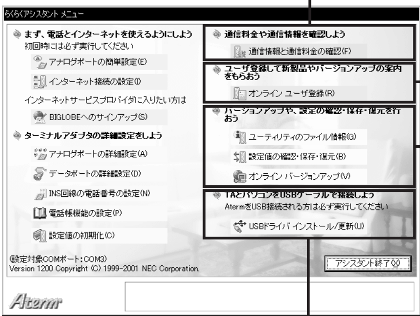
通信料金や、最後にかかってきた相手の電話番号や、最後にかけた相手の電話番号などを表示します。

<ユーザ登録して新製品やバージョンアップの案内をもらおう>

[オンラインユーザ登録]

AtermのホームページAtermStationに接続して、ユーザ登録を行います。登録しておくと、新製品情報やバージョンアップ情報など、Atermに関する役立つ情報が電子メールで届きます。

（Windows用画面）



<TAとパソコンをUSBケーブルで接続しよう>（Windows版のみ）

[USBドライバインストール/更新]

USBドライバのインストールや更新（アップデート）を行います。

＊Macintoshでは、USBドライバは、らくらくアシスタントのインストールの際に同時にインストールされます。

お願い

以降のページでは、らくらくアシスタントの操作を説明するのに、WindowsとMacintoshを一緒に扱います。WindowsとMacintoshでは画面のボタンの形などが一部異なりますが、内容は同じです。

<バージョンアップや、設定の確認・保存・復元を行おう>

[ユーティリティのファイル情報]（Windows版のみ）

Atermを構成するユーティリティ類のファイル一覧やそのバージョンを表示します。

[設定値の確認・保存・復元]

設定内容の確認、ディスクへのバックアップ・復元を行います。パソコンを買い換えたり、OSをインストールし直したりしたとき、誤って設定を変更してしまった場合などにお使いください。

[オンラインバージョンアップ]（Windows版のみ）

最新のユーティリティやファームウェアをAtermStationからダウンロードし、Atermをバージョンアップします。（☞添付CD-ROM『データ通信ガイド』5.Atermのその他の機能）（※現在、サービスは終了しています）

らくらくアシスタントの使いかた

ここでは、らくらくアシスタントの起動・終了のしかた、基本的な設定方法を説明します。

お願い

・らくらくアシスタントをインストールしていない方は、以下のページを参照して、インストールを行ってください。

Windowsをお使いの方　→「Step9　らくらくアシスタントをインストールする」
（☞2-23ページ）

Macintoshをお使いの方→「Step9　らくらくアシスタントをインストールする」
（☞2-26ページ）

・らくらくアシスタントを使う場合は、データポートを使用するほかのアプリケーションを終了してください。Windowsをお使いの方でUUIメールEXをタスクトレイに入れている場合は、アイコンにカーソルを合わせてから右クリックをして、[終了]を選択してください。

Windowsの場合 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

1 **[スタート]（Windowsのロゴ）ボタンをクリックし、[プログラム]（Windows Vista/WindowsXPでは[すべてのプログラム]）－[AtermIT21Lユーティリティ]または[AtermIT31Lユーティリティ]－[Atermらくらくアシスタント]を選択する**

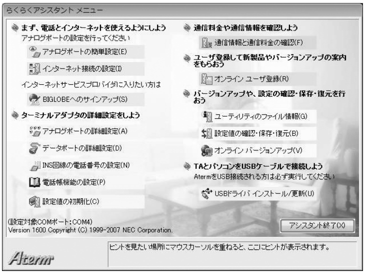
らくらくアシスタントが起動します。

2 **下記の画面が表示されたときは[次へ]ボタンをクリックする**



3 **メニュー画面から設定したい項目のボタンをクリックする**

［らくらくアシスタントメニュー画面］



4 **必要な項目を選択・入力する**

5 **設定が終了したら［OK］ボタンをクリックする**

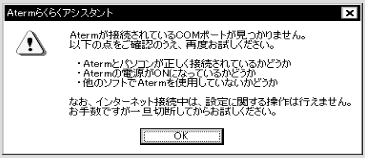
設定内容がAtermに書き込まれ、らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

6 **らくらくアシスタントを終了するときは、［アシスタント終了］ボタンをクリックする**

7 **［はい］ボタンをクリックする**

お願い

らくらくアシスタントのメニュー画面でいずれかのボタンを押したときに次の画面が表示される場合は、以下の点を確認したあと、［再試行］ボタンをクリックしてください。



・RS-232CケーブルまたはUSBケーブルはAtermとパソコンのポートに正しく接続されていますか？

・Atermの電源は入っていますか？

・らくらくバージョンアップやUUIメールEXなど、Atermのソフトウェアが起動している場合は終了させてください。

Macintoshの場合

1 **[Macintosh HD]アイコンをダブルクリックして、[AtermIT21Lユーティリティ]または[AtermIT31Lユーティリティ]フォルダの[Atermらくらくアシスタント]アイコンをダブルクリックする**

らくらくアシスタントが起動します。

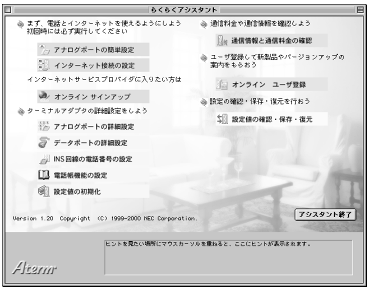
2 **接続されているポートを選択し、[OK]ボタンをクリックする**

USBポート接続の場合は、[Aterm]を選択してください。



3 **メニュー画面から設定したい項目のボタンをクリックする**

[らくらくアシスタントメニュー画面]



4 **必要な項目を選択・入力する**

5 **設定が終了したら[OK]ボタンをクリックする**

設定内容がAtermに書き込まれ、らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

6 **[アシスタント終了]ボタンをクリックする**

7 **[OK]ボタンをクリックする**

各設定欄の使いかた

各設定欄の使いかたを[アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックしたときの画面を例にして説明しています。

タブ
クリックすると、別の画面が表示されます。

ドロップダウンリストボックス
をクリックすると、1つの項目を選択できます。

設定項目選択
項目をクリックすると画面が切り替わります。



(Windows用画面)

表示ボックス
すでに入力されている電話番号などが表示されます。

テキストボックス
電話番号などを入力できます。

オプションボタン
をクリックすると、どれか1つだけ選択できます。

チェックボックス
をクリックすると、チェックをしたりチェックをはずすことができます。

ボタン
クリックすると、次の画面が表示されます。

電話機能一覧

Atermで使える電話機能・サービスの一覧です。INSネット64やBIGLOBEでの契約が必要なサービスも含まれていますのでご注意ください。

機能・サービスの名称			必要な契約	内　容
基本機能	フッキング			電話の保留や切り替えなどのためにフックスイッチなどを押す操作です(☞3-11ページ)。
	ダイヤル桁間タイマ			ダイヤル後、発信するまでの時間を設定します(☞ 3-13ページ)。
	＃発信			＃で発信するか、＃を2回押すと発信するかを設定します(☞ 3-14ページ)。
	受話音量調節			相手の声の音量を調節します(☞ 3-15ページ)。
	短縮ダイヤル			短縮ダイヤルで電話をかけます(☞ 3-16ページ)。
電話番号を使い分ける	i・ナンバー		INS i・ナンバー	2つまたは3つの電話番号を使い分けます(☞ 3-18ページ)。
	ダイヤルインサービス		INS ダイヤルイン	4つ以上の電話番号を使い分けます(☞ 3-21ページ)。
接続している電話機でダイヤルインを使う	モデム・ダイヤルイン		INS i・ナンバーまたはダイヤルイン	着信した電話番号をモデム信号としてアナログ通信機器に送出します。アナログ通信機器のダイヤルインに対応します(☞3-26ページ)。
	アナログ・ダイヤルイン		INS i・ナンバーまたはダイヤルイン	着信した電話番号をプッシュボタン信号としてアナログ通信機器に送出します。アナログ通信機器のダイヤルインに対応します(☞ 3-30ページ)。
特定の電話機に着信させる	着信ダイヤルイン複数選択		INS ダイヤルイン	1つのアナログポートに複数の電話番号を着信させます(☞ 3-34ページ)。
	優先着信ポート指定			着信する電話機に優先順位を付けます(☞ 3-36ページ)。
	サブアドレス			電話番号にサブアドレスを付けて発信・着信させます(☞ 3-38ページ)。
家の中で話す／転送する	内線通話			Atermにつないだ電話機同士で通話します(☞ 3-42ページ)。
	内線転送			外線からの電話をAtermにつないだほかの電話機に転送します(☞ 3-44ページ)。
お話し中に	キャッチホン	INSキャッチホン	INS キャッチホン	通話中に別の相手からの電話を受けることができます(☞ 3-46ページ)。
		疑似キャッチホン		
	三者通話	三者通話	INS 三者通話 INS 通信中転送	三人で通話します(☞ 3-49ページ)。
		疑似三者通話	INS ナンバー・ディスプレイ	

機能・サービスの名称			必要な契約	内　容
電話番号を表示する	発信者番号通知		INS ナンバー・ディスプレイ	電話をかけたときに自分の電話番号を相手に知らせます（☞ 3-53ページ）。
	INSナンバー・ディスプレイとINSナンバー・リクエスト		INS ナンバー・ディスプレイ INS ナンバー・リクエスト	電話がかかってきたとき、相手の電話番号をアナログ通信機器に表示します（☞ 3-57ページ）。
	キャッチホン・ディスプレイ		INS ナンバー・ディスプレイ INS キャッチホン	通話中に別の電話がかかってきたとき、相手の電話番号をアナログ通信機器に表示します（☞ 3-61ページ）。
電話に出られないとき	お出かけ設定	電話着信転送モード	INS 着信転送 BIGLOBE	外出時や就寝時など、電話に出られないときのための機能です。電話の着信音を鳴らさないおやすみモードとフラッシュモード、電話を転送する電話着信転送モードとボイスワープ転送モードがあります（☞ 3-64ページ）。
		ボイスワープ転送モード	INS ボイスワープ INS ボイスワープ・セレクト	
		フラッシュモード		
	着信転送	着信転送	INS 着信転送	かかってきた電話をほかの電話番号に転送します。電話番号着信通知は、かかってきた相手の電話番号を電子メールで知らせる機能です（☞ 3-68ページ）。
		疑似着信転送		
		電話番号着信通知	INS ユーザ間情報通知 BIGLOBE	
	通信中転送		INS 通信中転送	通話中に、別の相手に転送します（☞ 3-75ページ）。
	INSボイスワープとINSボイスワープ・セレクト		INS ボイスワープ INS ボイスワープ・セレクト	電話がかかってきたとき、NTTの交換機側で転送するサービスです（☞ 3-77ページ）。
特定の相手を対象にする	識別着信	INSなりわけ識別着信	INS なりわけサービス	あらかじめ登録した相手のみを着信させ、その他の着信を受け付けないようにします（☞ 3-80ページ）。
		疑似識別着信	INS ナンバー・ディスプレイ	
	なりわけ	INSなりわけ識別リンギング	INS なりわけサービス	あらかじめ登録した相手からの着信があったとき、特別な呼出音を鳴らしてお知らせします（☞ 3-85ページ）。
		疑似なりわけ	INS ナンバー・ディスプレイ	
	選択キャッチホン	選択キャッチホン	INS なりわけサービス INS キャッチホン	通話中に別の電話がかかってきたとき、あらかじめ登録した相手に限って、電話を受けることができます（☞ 3-90ページ）。
		疑似選択キャッチホン	INS ナンバー・ディスプレイ	
	迷惑電話おことわり	迷惑電話おことわり	INS 迷惑電話おことわりサービス	迷惑電話やいたずら電話を着信させないようにします（☞ 3-92ページ）。
		迷惑電話防止	INS ナンバー・ディスプレイ	
（続く）	マイプライベート着信		INS ナンバー・ディスプレイ	相手によって、着信させる電話機を変えます（☞ 3-96ページ）。

機能・サービスの名称			必要な契約	内　容
特定の相手を対象にする	識別着信転送	識別着信転送	INS なりわけサービス	あらかじめ登録した相手からの着信のみを転送します(☞ 3-100ページ)。
		疑似識別着信転送	INS ナンバー・ディスプレイ	

※1．必要な契約欄の INS は、INSネット64の付加サービスの契約が必要であることを示しています。また、BIGLOBE は、インターネットプロバイダBIGLOBEで追加の申し込みが必要であることを示しています。
※2．INSキャッチホン・三者通話・着信転送・通信中転送は、INSネット64のフレックスホンサービスです。
※3．INSキャッチホンは、以前コールウェイティングと呼ばれていたサービスです。
※4．電話番号着信通知サービスは、遊遊メールのサービス停止によりご利用できません。

フッキング

通話中に別の電話がかかってきたとき（キャッチホン使用時）などは、電話を「フッキング」して切り替えます。

ポイント

・フッキングは、内線通話と外線通話の切り替えや、内線転送、三者通話のときにも使います。

・フッキングがうまく働かないとき（受話器を置くと呼び返しがあるときなど）は、フッキング検出タイマを調整してください。

設定　フッキング検出タイマを調整する

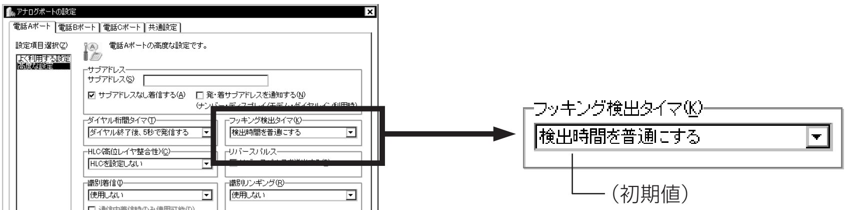
1 らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2 ［アナログポートの詳細設定］ボタンをクリックする

3 ［電話Ａポート］／［電話Ｂポート］／［電話Ｃポート］ タブをクリックする

4 設定項目から［高度な設定］を選択する

5 フッキング検出タイマの時間を設定する



6 ［OK］ボタンをクリックする

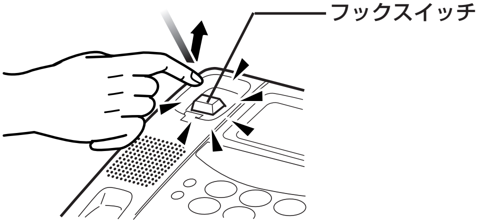
らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ

電話機から設定することができます。
「設定のしかた一覧」No.6（☞4-4ページ）

操作　電話をフッキングする

電話機にフッキングの機能ボタンがある場合はそのボタン（例：「フック」「キャッチ」など）を押します。フッキングの機能ボタンがない場合は、フックスイッチを軽く（1秒以内）押して離します（長い時間押すと電話が切れます）。



ダイヤル後に発信するまでの時間を調整する
（ダイヤル桁間タイマ）

ダイヤル後、実際に発信するまでの時間を調整します。

ポイント

ダイヤル桁間タイマは、電話番号の最後のボタンを押した後、実際に電話機から発信するまでの時間を設定しています。初期状態では、ダイヤル後、発信するまでの時間は5秒です。ダイヤル後、すぐに発信するには、最後に [#] を押してください。

設定　ダイヤル桁間タイマを調整する

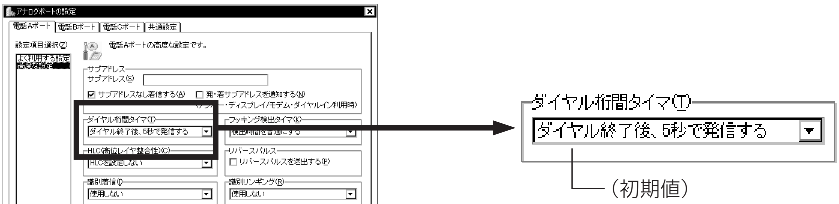
1 らくらくアシスタントメニュー画面を表示する

2 [アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする

3 [電話Ａポート]／[電話Ｂポート]／[電話Ｃポート] タブをクリックする

4 設定項目から[高度な設定]を選択する

5 ダイヤル桁間タイマの時間を設定する



6 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ

電話機から設定することができます。
「設定のしかた一覧」No.5（☞4-4ページ）

発信方法を変更する（#発信）

最後に # を押すと発信するか、 # を2回押すと発信するか、または # を押しても発信しないようにするかを設定します。

ポイント

初期設定では、ダイヤル後、 # を押すと発信するように設定されています。途中に#が含まれている電話番号に電話をかけたい場合などは、 # で発信しないように設定するか、または # を2回押すと発信するように、設定を変更することができます。

設定　#発信の方法を変更する

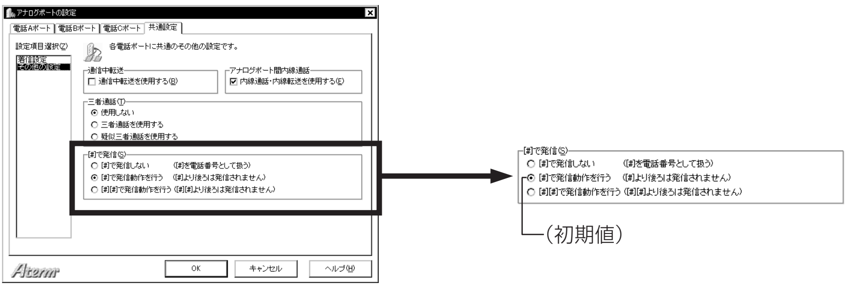
1 らくらくアシスタントメニュー画面を表示する

2 [アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする

3 [共通設定] タブをクリックする

4 設定項目から[その他の設定]を選択する

5 # 発信を設定する



6 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

相手の声の音量を変える（受話音量調節）

通話中、相手の話が聞きづらいときに音量を調節します。

設定　受話音量を調節する

1 らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2 ［アナログポートの詳細設定］ボタンをクリックする

3 ［電話Ａポート］／［電話Ｂポート］／［電話Ｃポート］タブをクリックする

4 設定項目から［よく利用する設定］を選択する

5 受話音量を選択する

音量・小／音量・中／音量・大のいずれかを選択します。

6 ［OK］ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ

通話中に［＊］［#］を押して音量を調節することができます。押すたびに、中→大→小の3段階で音量が切り替わります。下記のATコマンドを入力して、［＊］［#］が使えるように設定を変えてください(ATコマンドについて詳しくは、添付CD-ROMの『ATコマンド解説』を参照してください)。

電話Aポート：AT＄A14=1
電話Bポート：AT＄B14=1
電話Cポート：AT＄C14=1

お願い

・相手の電話機の機種によっては、相手が［＊］［#］を押すと、こちら側の電話機の音量が切り替わることがあります。このような場合は、ATコマンドで受話音量を変更できない設定に戻してください。

・ファクスなどを接続していると、発信するたびに音量が切り替わってファクスの送受信ができなくなることがあります。このような場合は、ATコマンドで受話音量を変更できない設定に戻してください。

・ACRの電話機を接続していると、データの受信の際に音量が切り替わってデータの送受信に失敗することがあります。このような場合は、ATコマンドで受話音量を変更できない設定に戻してください。

短縮ダイヤルで電話をかける

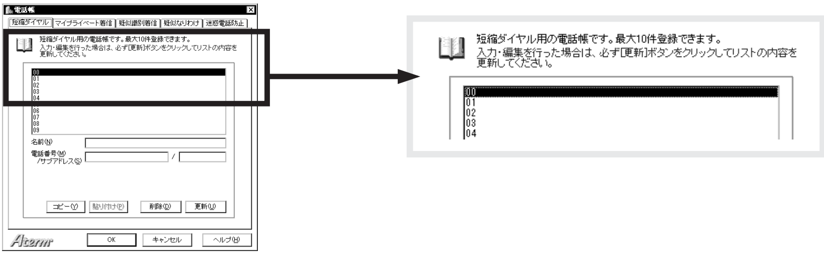
長い電話番号も［＊］と［0］～［9］(短縮ダイヤル番号)を押すだけで電話をかけることができます。

ポイント

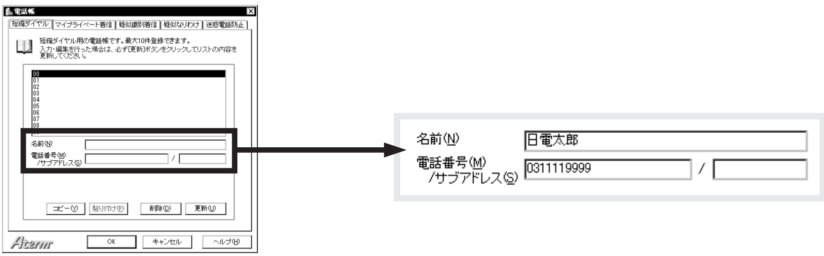
相手の電話番号を電話帳に登録しておくと、短縮ダイヤルで電話をかけることができます。短縮ダイヤルは10件まで登録できます。

設定　相手の電話番号を短縮ダイヤルに登録する

1. らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する
2. [電話帳機能の設定]ボタンをクリックする
3. [短縮ダイヤル]タブをクリックする
4. 一覧から空いている番号を選択する



5. 名前・電話番号・サブアドレスを入力する
   1) 相手の名前を入力する
   2) 電話番号を市外局番から入力する
   3) 必要ならサブアドレスを入力する



6 [更新]ボタンをクリックする

7 続けてほかの番号を登録するときは、手順4～6を繰り返す

8 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ

- 登録済みの電話番号を変更したい場合は、手順4で修正する番号を選択し、新しい電話番号に変更したあとで、[更新]ボタンをクリックしてください。
- 登録済みの電話番号を削除したい場合は、手順4で削除する番号を選択したあと、[削除]ボタンをクリックしてください。

操作 短縮ダイヤルで電話をかける

登録した短縮ダイヤルを使って電話をかけます。

1 電話機の受話器をあげる

「ツー」という音が聞こえます。

2 [＊][短縮ダイヤル番号(0～9)]を押す

短縮ダイヤルの電話帳に登録した「00」～「09」までの短縮ダイヤル番号を押します。「01」に登録したときは、[＊][1]と押します。

3 通話する

4 通話が終わったら、受話器を戻す

2つまたは3つの電話番号を使う(i・ナンバー)

電話とファクスを別々の電話番号で受けるなど、1回線で2つまたは3つの電話番号を使いたいときは、INSネット64のｉ・ナンバーを利用します。

ポイント

1回線で複数の電話番号を使いたいときは、i・ナンバーかダイヤルインサービスを契約します。使いたい電話番号が3つまでのときは、i・ナンバーがお得です。

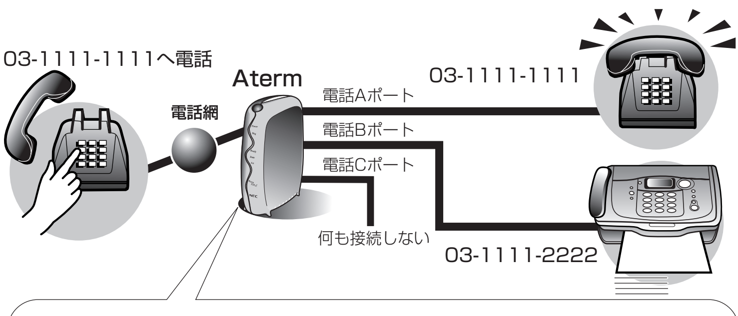
ｉ・ナンバーを契約すると、契約時の電話番号(契約者回線番号)のほかに追加番号を1つまたは2つもらうことができます。

☑ 利用条件

	i･ナンバー
追加契約	i･ナンバー
追加料金	付加サービス使用料
利用条件	−
その他	i･ナンバーで使えるのは3つまでの電話番号です。4つ以上の電話番号を使用したいときは、ダイヤルインサービスをご利用ください。

☑ 呼び分けの設定

i・ナンバーの設定では、契約者回線番号をi・ナンバー情報1に、追加番号が1つの場合はi・ナンバー情報2に、追加番号が2つの場合はi・ナンバー情報2および3に、それぞれ正しく設定してください。また、各電話番号で呼び出されたとき、どのポートの電話機を鳴らすか(着信させるか)を決めなければなりません。i・ナンバー情報ごとに、着信させるポートを選択してください。



ｉ・ナンバー情報1　03-1111-1111→電話Aポートの電話機へ着信

ｉ・ナンバー情報2　03-1111-2222→電話Bポートのファクスへ着信

お知らせ

ファクス付き電話機で電話とファクスを別々の番号で呼び分けるなど、1台のアナログ通信機器を複数の電話番号で呼び分けるときは、モデム・ダイヤルイン(☞ 3-26ページ)またはアナログ・ダイヤルイン(☞ 3-30ページ)もあわせて設定します。

設定 i・ナンバーを設定する

i・ナンバーを利用する設定、着信番号の登録、着信させるポートの設定を行います。

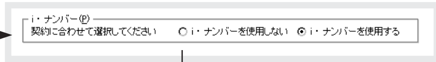
1 らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2 [INS回線の電話番号の設定]ボタンをクリックする

3 i・ナンバー使用を選択する



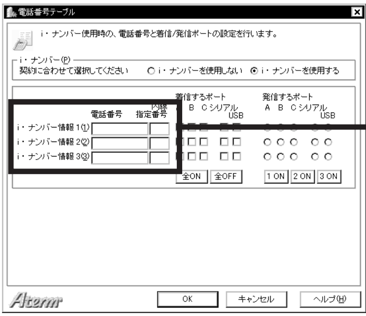
「i・ナンバーを使用する」を選択します。

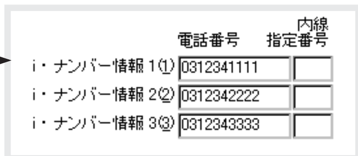


(初期値)

4 電話番号を入力する

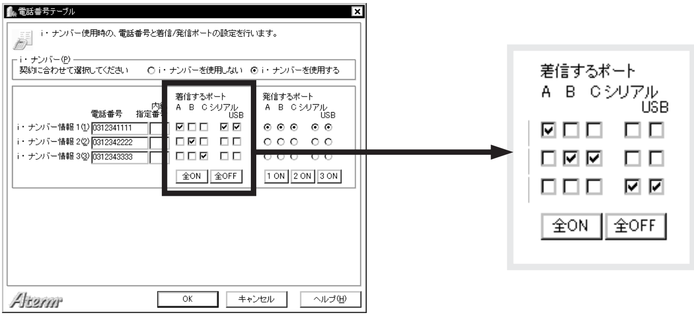
i・ナンバー情報1に契約者回線番号を、i・ナンバー情報2、i・ナンバー情報3に追加番号を入力します。





5 着信させるポートを選択する

i・ナンバー情報ごとに、着信させるポートをチェックします。複数のポートをチェックしてもかまいません。
[全ON]ボタンをクリックすると、すべてのポートにすべての電話番号が着信するようになります。[全OFF]ボタンをクリックすると、すべてのポートのチェックがはずれます。



6 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

設定 i・ナンバーを電話機から設定する

i・ナンバーを電話機から設定します。

1 アナログポートに接続した機器を設定する

「設定のしかた一覧」No.1アナログポートの設定(☞4-4ページ)をご参照ください。

2 i・ナンバーを使用する設定をする

1) 受話器をあげる
2) [*] [*] [6] [*] [9] [0] [0] [*] を押す
3) [2] を押す(初期値は [1] :i・ナンバーを使用しない)
4) [#] を押す
5) 受話器を戻す

3 i・ナンバー情報を着信させるポートに割り当てる

1) 受話器をあげる
2) [*] [*] [6] [*] を押す
3) 設定するアナログポートを押す

アナログポート番号
[7] [1] [1] [*] :電話Aポート
[7] [1] [2] [*] :電話Bポート
[7] [1] [3] [*] :電話Cポート

4 着信させたいi・ナンバー情報の番号を押す

着信させたいi・ナンバーが複数あるときは、[1] [2] のように続けて押してください。

[1] :i・ナンバー情報1
[2] :i・ナンバー情報2
[3] :i・ナンバー情報3

5 [#] を押す

6 受話器を戻す

複数の電話番号を使う（ダイヤルインサービス）

1回線で4つ以上の電話番号（8つまで）を使いたいときは、INSネット64のダイヤルインサービスを利用します。

ポイント

1回線で4つ以上の電話番号を使いたいときは、ダイヤルインサービスを契約します。

☑ 利用条件

	ダイヤルインサービス
追加契約	ダイヤルインサービス
追加料金	付加サービス使用料（追加した番号分だけ料金が加算される）
利用条件	グローバル着信「利用する」を同時に契約してください。
その他	電話番号は7つまで追加できます。契約者回線と合わせて、8つの電話番号が使えます。

☑ グローバル着信

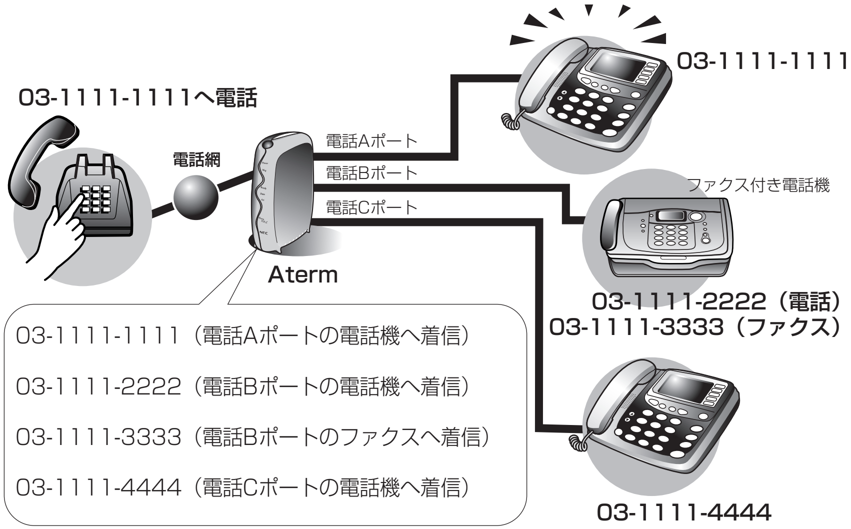
ダイヤルインサービスだけで電話番号を追加契約すると、契約者番号への電話番号の通知も電話番号1個分としてカウントされ、仮にダイヤルインで番号を3つ追加すれば、計4つ分のダイヤルインサービスの料金がかかります。

しかし、グローバル着信の利用とあわせて契約する（追加料金不要）と、契約者回線番号への着信時は電話番号が通知されないので、料金が追加の3つ分だけで済みます。このとき、Atermにグローバル着信を設定すると、「電話番号が通知されない＝契約者回線番号への着信」と解釈し、契約者回線番号への着信とダイヤルイン番号への着信を区別することができます。

☑ 呼び分けの設定

ダイヤルインサービスの設定では、グローバル着信の利用の有無、契約者回線番号と追加したダイヤルイン番号を正しく設定してください。また、各電話番号で呼び出されたとき、どのポートの電話機を鳴らすか（着信させるか）を決めなければなりません。電話番号ごとに、着信させるポートを選択してください。

例：契約者回線番号　03-1111-1111（電話機）
　　ダイヤルイン番号1　03-1111-2222（電話機）
　　ダイヤルイン番号2　03-1111-3333（ファクス）
　　ダイヤルイン番号3　03-1111-4444（電話機）



お願い

INSネット64の契約が、「グローバル着信を利用する」となっていても、Atermの設定が「グローバル着信しない」になっていると、契約者回線番号で着信できなくなります。ご注意ください。

お知らせ

ファクス付き電話機で電話とファクスを別々の番号で呼び分けるなど、1台のアナログ通信機器を複数の電話番号で呼び分けるときは、モデム・ダイヤルイン(☞ 3-26ページ)またはアナログ・ダイヤルイン(☞ 3-30ページ)もあわせて設定します。

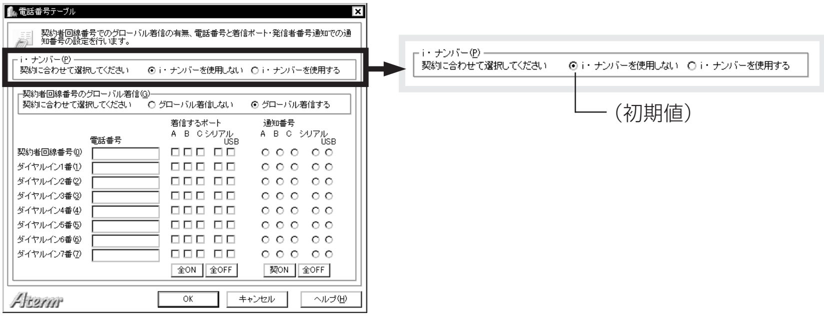
設定 ダイヤルインサービスを設定する

グローバル着信を利用する設定、着信番号の登録、着信させるポートの設定を行います。

1 らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

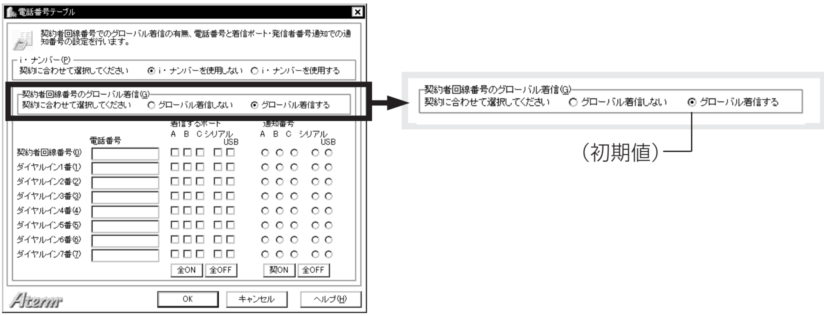
2 [INS回線の電話番号の設定]ボタンをクリックする

3 i・ナンバーを使用しないを選択する



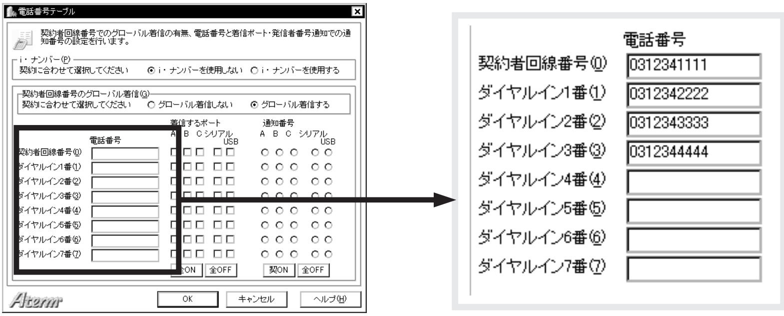
4 グローバル着信するを選択する

「グローバル着信する」を選択します。



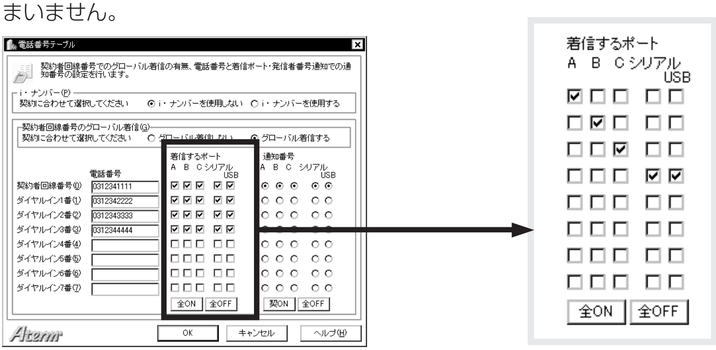
5 電話番号を入力する

契約者回線番号とダイヤルイン番号を入力します。



6 電話番号ごとに着信させるポートを選択する

電話番号ごとに、着信させるポートをチェックします。複数のポートをチェックしてもかまいません。



[全ON]ボタンをクリックすると、すべてのポートにすべての電話番号が着信するようになります。[全OFF]ボタンをクリックすると、すべてのポートのチェックがはずれます。

7 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

設定 ダイヤルインサービスを電話機から設定する

ダイヤルインサービスを電話機から設定します。

1 アナログポートに接続する機器を設定する

「設定のしかた一覧」No.1アナログポートの設定(☞4-4ページ)をご参照ください。

2 i・ナンバーを使用しないに設定する(初期値:しない)

1) 受話器をあげる
2) [*] [*] [6] [*] [9] [0] [0] [*] を押す
3) [1] を押す(初期値)
4) [#] を押す
5) 受話器を戻す

3 グローバル着信するに設定する(初期値:する)

1) 受話器をあげる
2) [*] [*] [6] [*] [8] [4] [0] [*] を押す
3) [1] を押す(初期値)
4) [#] を押す
5) 受話器を戻す

4 電話番号を登録する

1) 受話器をあげる
2) [*] [*] [6] [*] を押す
3) 契約者回線番号またはダイヤルイン番号を選択する
   [8] [0] [0] [*] :契約者回線番号
   [8] [0] [1] [*] :ダイヤルイン番号1
   ∫ ∫
   [8] [0] [7] [*] :ダイヤルイン番号7
4) 電話番号(32桁まで)を入力する
   電話番号は市外局番から入力してください。
   ここで電話番号を入力せずに受話器を戻すとそれまで設定されていた値がクリアされます。
5) [#] を押す
6) 受話器を戻す

5 電話番号を着信させるポートに割り当てる

1) 受話器をあげる
2) [*] [*] [6] [*] を押す
3) 着信させるアナログポートを押す
   [8] [1] [1] [*] :電話Aポート
   [8] [1] [2] [*] :電話Bポート
   [8] [1] [3] [*] :電話Cポート
4) 契約者回線番号またはダイヤルイン番号を選択する
   [0] :契約者回線番号
   [1] [*] :ダイヤルイン番号1
   ∫ ∫
   [7] [*] :ダイヤルイン番号7
   着信させたい契約者回線番号またはダイヤルイン番号が複数あるときは、[0] [2] のように続けて押してください。ポートに着信させる電話番号を割り当てない場合は、ここで番号を入力せずに次の手順5へに進みます。
4) [#] を押す
5) 受話器を戻す

お知らせ

電話機からは、ファクス付き電話機で2つの電話番号で電話とファクスを使い分ける設定はできません。パソコンでらくらくアシスタントを使って設定してください。

モデム･ダイヤルイン

ファクス付き電話機の電話とファクスに別々の電話番号を割り当てるなど、モデム・ダイヤルイン対応のアナログ通信機器では、複数の電話番号で呼び分けることができます。

ポイント

1台のアナログ通信機器を複数の電話番号で呼び分けるためには、交換機から通知された電話番号を、アナログ通信機器に通知する必要があります。モデム・ダイヤルインは、この電話番号をモデム信号で通知する方式です。

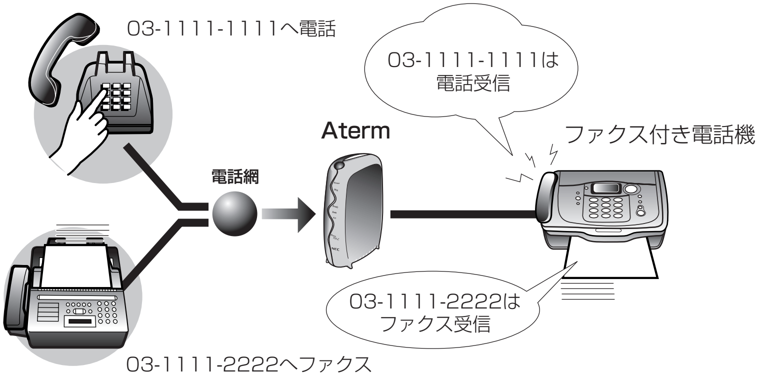
☑ 利用条件

	モデム・ダイヤルイン
追加契約	INSネット64のｉ・ナンバーか、ダイヤルインサービスで最低1つの追加番号の契約が必要です。
追加料金	付加サービス使用料
利用条件	モデム・ダイヤルインに対応したアナログ通信機器が必要です。
その他	電話Cポートにはモデム・ダイヤルインを設定できません。電話Aポートまたは電話Bポートを使用してください。

☑ 呼び分けの設定

i・ナンバーまたはダイヤルインサービスの電話番号と着信するアナログポートを設定します(☞3-18、3-21ページ)。さらにモデム・ダイヤルインを選択し、アナログ通信機器に送出する番号(電話番号または内線指定番号)を設定します。この番号はアナログ通信機器にも登録してください。

例：電話Aポートにファクス付き電話機を接続し、電話は03-1111-1111、ファクスは03-1111-2222(自動受信)で受けるようにします。



・03-1111-1111(電話用)の番号に電話がかかってきた場合
Atermは、ファクス付き電話機に03-1111-1111をモデム信号で通知します。電話機の着信音が鳴り、電話を受けることができます。

・03-1111-2222(ファクス用)の番号に電話がかかってきた場合
Atermは、ファクス付き電話機に03-1111-2222をモデム信号で通知します。ファクスが呼び出され、ファクスを自動的に受信します。

お知らせ

・ナンバー・ディスプレイ対応のアナログ通信機器は、モデム・ダイヤルイン対応となっていますので、モデム・ダイヤルイン機能での呼び分けをご利用ください。

・サブアドレスを設定すると、サブアドレスも送出されます。ただし、アナログ通信機器によってはサブアドレスが付いていると呼び分けできない場合があります。そのような場合は、「発・着サブアドレスを通知する」のチェックをはずしてください(☞3-40ページ)。

・ファクス付き電話機でキャッチホンを設定したときは、通話中にファクスあての着信が入った場合も、通話中の電話機に「ププッ」という音が聞こえます。

・ファクス付き電話機でリンガ呼び返し動作の場合は、ファクスと電話機の両方が呼び出されます。

設定 step 1 モデム・ダイヤルインを設定する

モデム・ダイヤルインを選択し、アナログ通信機器に送出する番号を登録します。

1 らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2 [アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする

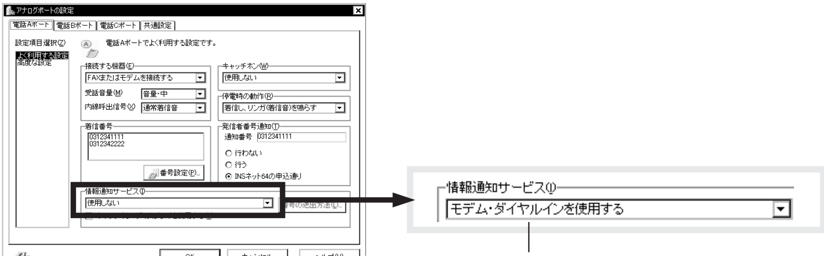
3 [電話Aポート]／[電話Bポート]タブをクリックする

設定するポートのタブをクリックします。

4 設定項目から[よく利用する設定]を選択する

5 情報通知サービスからモデム・ダイヤルインを選択する

Windowsの場合は「モデム・ダイヤルインを使用する」または「ナンバー・ディスプレイ＋モデム・ダイヤルインを使用する」を選択します。
Macintoshの場合は、「モデム・ダイヤルイン」または「ナンバー・ディスプレイ＋モデム・ダイヤルイン」を選択します。



（初期値　使用しない）

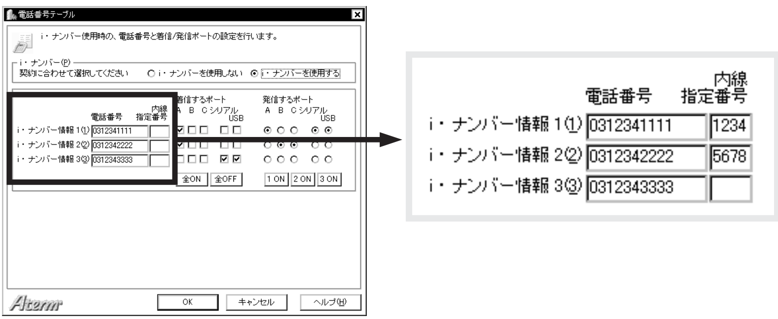
6 必要に応じて内線指定番号で呼び分ける（アナログポートへの番号を4桁以内で出したいとき）

● i・ナンバーの場合

①[着信番号]欄にある[番号設定]ボタンをクリックする



②内線指定番号（4桁以内）を入力し、[OK]ボタンをクリックする



●ダイヤルイン・サービスの場合

①[番号の送出方法]ボタンをクリックする



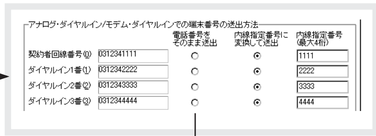
②必要に応じて内線指定番号の設定をする

1) [内線指定番号に変換して送出]を選択する

2) 内線指定番号を4桁以内で入力する

3) [OK]ボタンをクリックする





(初期値:電話番号をそのまま送出する)

お知らせ

・モデム・ダイヤルインは、電話機から設定することができます。
(☞4-8ページ　その他のテレホン設定No.2)

・内線指定番号は、電話機から設定することができます。
(☞4-8ページ　その他のテレホン設定No.3，No.4)

設定 step 2 アナログ通信機器にダイヤルイン番号を登録する

登録方法は、お使いのアナログ通信機器の取扱説明書をお読みください。
登録する電話番号は、Atermに設定した(送出する)電話番号と一致させてください。

アナログ･ダイヤルイン

ファクス付き電話機の電話とファクスに別々の電話番号を割り当てるなど、アナログ・ダイヤルイン対応のアナログ通信機器では、複数の電話番号で呼び分けることができます。

ポイント

1台のアナログ通信機器を複数の電話番号で呼び分けるためには、交換機から通知された電話番号を、アナログ通信機器に通知する必要があります。アナログ・ダイヤルインは、この電話番号をプッシュボタン信号で通知する方式です。

☑ 利用条件

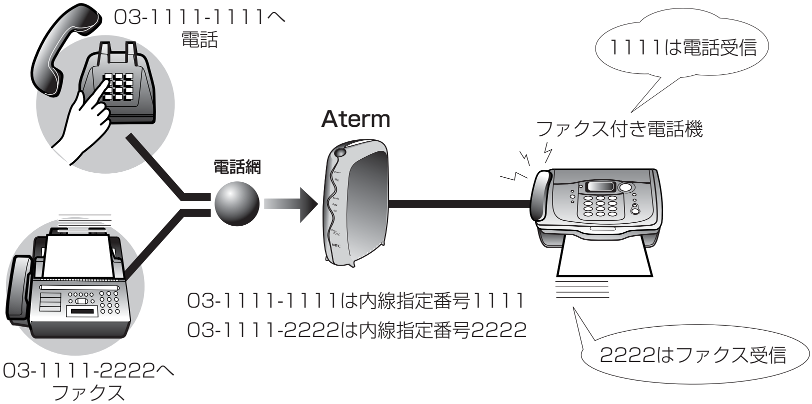
	アナログ・ダイヤルイン
追加契約	INSネット64のｉ・ナンバーか、ダイヤルインサービスで最低1つの追加番号の契約が必要です。
追加料金	付加サービス使用料
利用条件	アナログ・ダイヤルインに対応したアナログ通信機器が必要です。
その他	電話Cポートにはアナログ・ダイヤルインを設定できません。電話Aポートまたは電話Bポートを使用してください。

☑ 呼び分けの設定

i・ナンバーまたはダイヤルインサービスの電話番号と着信するアナログポートを設定します(☞3-18、3-21ページ)。さらにアナログ・ダイヤルインを選択し、アナログ通信機器に送出する番号(電話番号または内線指定番号)を設定します。この番号をアナログ通信機器にも登録してください。

例：電話Aポートにファクス付き電話機を接続し、電話は03-1111-1111、ファクスは03-1111-2222(自動受信)で受けるようにします。

電話Aポートに接続されたファクス付き電話機を、電話は03-1111-1111(内線指定番号1111)、ファクスは03-1111-2222(内線指定番号2222)で受けるように設定しておきます。ファクス受信のときは、着信音を鳴らさず、自動受信するように設定しておきます。



・03-1111-1111(電話用)の番号に電話がかかってきた場合
Atermは、ファクス付き電話機に1111をプッシュボタン信号で通知します。電話機の着信音が鳴り、電話を受けることができます。

・03-1111-2222(ファクス用)の番号に電話がかかってきた場合
Atermは、ファクス付き電話機に2222をプッシュボタン信号で通知します。ファクスが呼び出され、ファクスを自動的に受信します。

お願い

・INSナンバー・ディスプレイ契約時は、アナログ・ダイヤルインの使用はできませんので、モデム・ダイヤルインをご使用ください。

・アナログ・ダイヤルインを使用するときは、内線指定番号を設定する必要があります。

お知らせ

・アナログ・ダイヤルインを使用するように設定したアナログポートに対して、内線通話や内線転送はできません。

・フラッシュモード中、INSなりわけ・疑似なりわけ利用中およびブザー呼出時は利用できません。

設定 step 1 アナログ・ダイヤルインを設定する -

アナログ・ダイヤルインを選択し、アナログ通信機器に送出する番号を登録します。

1 **らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する**

2 **[アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする**

3 **[電話Aポート]/[電話Bポート]タブをクリックする**

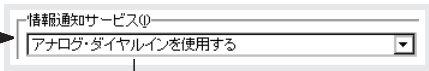
設定するポートのタブをクリックします。

4 **設定項目から[よく利用する設定]を選択する**

5 **情報通知サービスからアナログ・ダイヤルインを選択する**

Windowsの場合は、「アナログ・ダイヤルインを使用する」を選択します。
Macintoshの場合は、「アナログ・ダイヤルイン」を選択します。





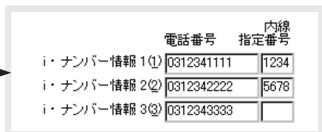
(初期値　使用しない)

6 **内線指定番号を設定する**

● i･ナンバーの場合

内線指定番号は以下の手順で設定します。
1) [着信番号]欄にある[番号設定]ボタンをクリックする
2) 内線指定番号4桁を入力する
3) [OK]ボタンをクリックする





● ダイヤルインサービスの場合

内線指定番号は以下の手順で設定します。

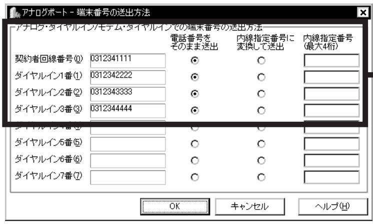
1)「番号の送出方法」ボタンをクリックする

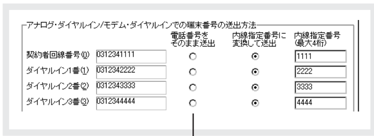


2)「内線指定番号に変換して送出」を選択する

3) 内線指定番号4桁を入力する

4) [OK]ボタンをクリックする





（初期値：電話番号をそのまま送出する）

7 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ

・アナログ・ダイヤルインは、電話機から設定することができます。
（☞4-8ページ　その他のテレホン設定No.2）

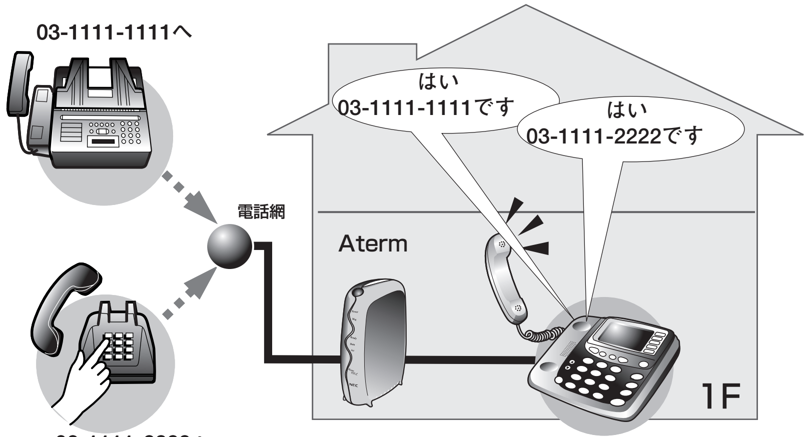
・内線指定番号は、電話機から設定することができます。
（☞4-8ページ　その他のテレホン設定No.3，No.4）

設定 step 2 アナログ通信機器にダイヤルイン番号を登録する

登録方法は、お使いのアナログ通信機器の取扱説明書をお読みください。
登録する電話番号は、Atermに設定した（送出する）電話番号と一致させてください。

1台の電話機で複数の電話番号を使う
（着信ダイヤルイン複数選択）

1台の電話機に複数の電話番号を割り当てることができます。相手がどの電話番号にかけても、同じ電話機が鳴ります。



ポイント

複数の電話番号を使うとき、電話番号と着信させるアナログポートを1対1に対応させるのが一般的ですが、複数の電話番号を1つのアナログポートに着信させることもできます。

☑ **利用条件**

	着信ダイヤルイン複数選択
追加契約	i・ナンバーまたはダイヤルインサービス
追加料金	付加サービス利用料
利用条件	i・ナンバーまたはダイヤルインサービスで複数の追加番号の契約が必要です。

お知らせ

・ダイヤルインサービスを使用する場合は、グローバル着信を使用する設定をし、使用する電話番号を登録しておきます(☞ 3-21ページ)。

・ファクス付き電話機の電話機能とファクス機能を別の電話番号で使い分ける場合は、モデム・ダイヤルイン(☞ 3-26ページ)またはアナログ・ダイヤルイン(☞ 3-30ページ)も設定してください。

設定　各ポートに電話番号を設定する

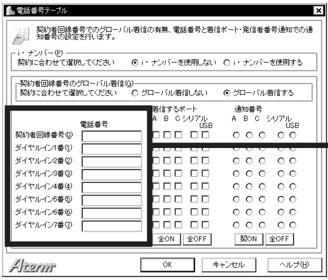
契約者回線番号やｉ・ナンバー情報、ダイヤルイン番号を、着信させたいポートに割り当てます。

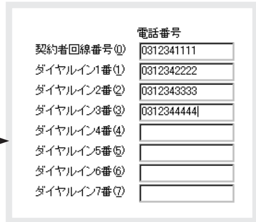
1 **らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する**

2 **［INS回線の電話番号の設定］ボタンをクリックする**

3 **追加の電話番号を入力する**

ダイヤルイン番号を追加で契約した場合は、追加分を入力します。

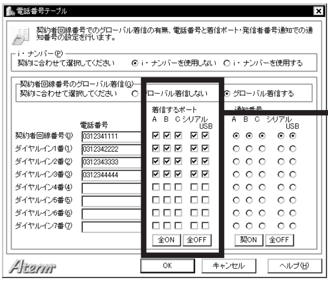


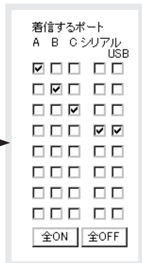


（画面はｉ・ナンバーを使用しないを選択したとき）

4 **電話番号ごとに着信させるポートを選択する**

電話番号ごとに、着信させるポートをチェックします。





（画面はｉ・ナンバーを使用しないを選択したとき）

［全ON］ボタンをクリックすると、すべてのポートにすべての電話番号が着信するようになります。［全OFF］ボタンをクリックすると、すべてのポートのチェックがはずれます。

5 **［OK］ボタンをクリックする**

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ

着信番号の割り当ては、電話機から設定することもできます。

- ｉ・ナンバーの場合☞3-20ページ 手順3～6
- ダイヤルインサービスの場合☞3-25ページ 手順5

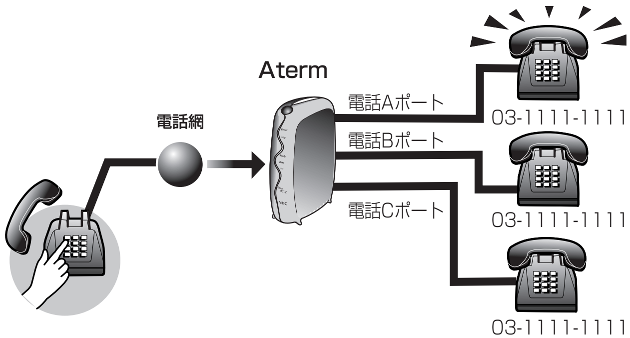
メインの電話機に優先的に着信させる
（優先着信ポート指定）

同じ電話番号で複数の電話機やファクスを使っている場合でも、メインで使いたい電話機が空いていれば、その電話機だけに着信させることができます。

ポイント

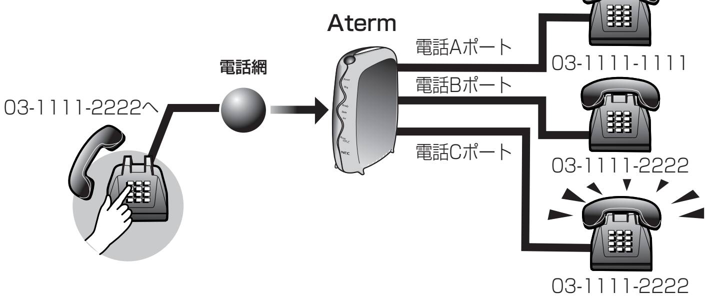
同じ電話番号を複数のアナログポートの着信電話番号に割り当てた場合に、優先的に着信させるアナログポートが指定できます。

たとえば、電話A・B・Cの各ポートが同じ電話番号の場合、電話Aポートを優先着信ポートにすると、電話Aポートが空いていれば電話Aポートに接続している電話機だけに着信します。電話Aポートが空いていないときだけ、電話Bポートおよび電話Cポートに接続している電話機に着信します。



i・ナンバーやダイヤルインサービスで複数の電話番号を利用している場合は、優先着信で選択したアナログポートと同じ電話番号が割り当てられているアナログポートだけが、優先着信の対象となります。

たとえば、下図のように電話番号が割り当てられていて、電話Cポートを優先着信ポートに設定したとします。03-1234-2222に電話がかかると、電話Cポートが電話Bポートよりも優先されます(電話Aポートには影響しません)。



設定 優先するポートを選択する

1 らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

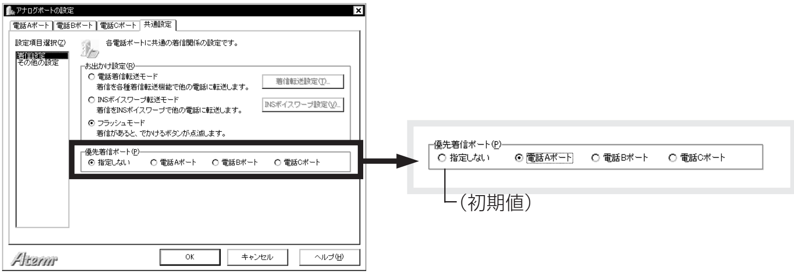
2 [アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする

3 [共通設定]タブをクリックする

4 設定項目から[着信設定]を選択する

5 優先着信ポートを選択する

優先着信ポートを1つ選択します。



6 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ

・データポートにも同様に優先順位をつけることができます。

・ホームテレホン／ビジネスホンと接続する場合(☞6-15ページ)は、優先着信させるポートを必ず指定してください。

・優先着信ポートは、電話機から設定することができます。
「その他のテレホン設定」No.1(☞4-8ページ)

サブアドレスで特定の電話機に着信させる

サブアドレスを利用すると、電話番号が1つしかなくても電話機を呼び分けることができます。サブアドレスが正しいときだけ着信させることができるので、着信を制限するために使うこともできます。

ポイント

INSネット64やPHSでは、電話をかけるときに電話番号にサブアドレスを加えることができます。サブアドレスは、電話番号に加えることのできる補助番号で、19桁までの任意の番号を使用できます。

着信側で、サブアドレスを設定し、サブアドレスが一致したときだけ着信させるようにしておくと、相手が正しいサブアドレスを付けてダイヤルしたときにしか着信しません。サブアドレスはポートごとに設定できるので、電話番号が同じでも、異なったサブアドレスを使うことによって、特定のポートに着信させることが可能になります。

☑ 利用条件

	サブアドレス
追加契約	不要
追加料金	不要
利用条件	INSネット64の基本サービスです。
その他	－

☑ 通話可能な組み合わせ

発信側のサブアドレス通知の有無と、着信側の設定の組み合わせによって、実際に通話できるかどうかが決まります。

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2"></th><th colspan="2">発信側の設定</th></tr>
<tr><th>サブアドレス
通知なし</th><th>サブアドレス
通知あり</th></tr>
<tr><th rowspan="4">着信側の設定</th><th rowspan="2">サブアドレスなし着信する</th><th>サブアドレス
登録なし</th><td>○</td><td>×</td></tr>
<tr><th>サブアドレス
登録あり</th><td>○</td><td>アドレス一致　○
アドレス不一致　×</td></tr>
<tr><th rowspan="2">サブアドレスなし着信しない</th><th>サブアドレス
登録なし</th><td>×</td><td>×</td></tr>
<tr><th>サブアドレス
登録あり</th><td>×</td><td>アドレス一致　○
アドレス不一致　×</td></tr>
</table>

○:通話可能　×:通話拒否

設定　自己サブアドレスを設定する（着信側）

着信側は、あらかじめポートごとにサブアドレスを設定しておきます。サブアドレスに使う番号は自由に決めることができます。
相手に電話番号と設定したサブアドレスを知らせてください。

1 **らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する**

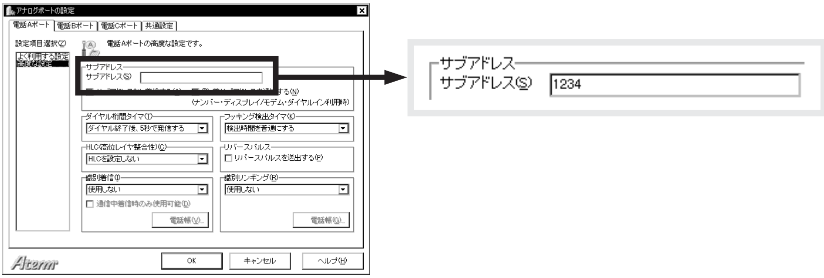
2 **[アナログポートの詳細設定] ボタンをクリックする**

3 **[電話Aポート]／[電話Bポート]／[電話Cポート] タブをクリックする**

4 **設定項目から、[高度な設定] を選択する**

5 **サブアドレスを入力する**

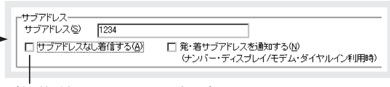
サブアドレスを19桁以内の数字で入力します。



6 必要ならサブアドレスなし着信を解除する

サブアドレスが指定されない着信を拒否するときは、「サブアドレスなし着信する」のチェックをはずします。





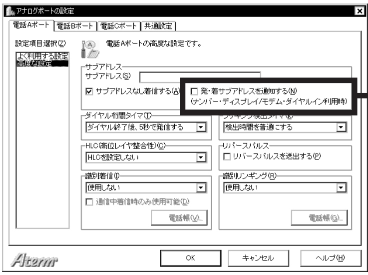
（初期値　チェック済み）

お願い

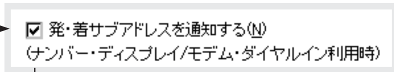
「サブアドレスなし着信をしない」に設定すると、サブアドレスが指定されない着信を一切受け付けなくなります。相手が電話回線(アナログ網)のときは、サブアドレスを付けて電話をかけることはできないので、着信することができません。ご注意ください。

7 必要に応じて発・着サブアドレス通知を選択する(電話Cポートは設定できません)

ナンバー・ディスプレイまたはモデム・ダイヤルインを使用する際に、相手のサブアドレスをサブアドレス表示機能のあるアナログ通信機器に通知するときは、以下の設定を行います。



「発・着サブアドレスを通知する」をチェックします。



（初期値　チェックなし）

8 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ

サブアドレスは、電話機から登録することもできます。
「設定のしかた一覧」No.15(☞4-6ページ)

操作　サブアドレスを付けて電話をかける（発信側）

相手を呼び出す際にサブアドレスを使用する場合、相手の電話番号にサブアドレスを付けて電話をかけます。双方がINSネット64に加入している必要があります。

1 **電話機の受話器をあげる**

2 **[電話番号]＋[＊]＋[サブアドレス]をダイヤルする**

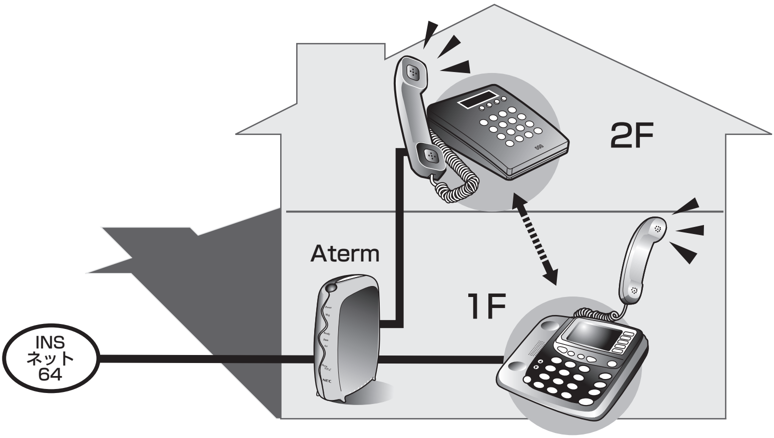
(例)電話番号　03-1111-1234、
　サブアドレス　100の場合
[0][3][1][1][1][1]
[1][2][3][4][＊][1][0][0]
を押します。

お知らせ

着信時はサブアドレスを自動的にチェックするので、特別な操作は必要ありません。

内線で話す（内線通話）

アナログポートにつないだ2台の電話機同士で、通話できます。



操作　内線で話す

1 電話機の受話器をあげる

「ツー」という音が聞こえます。

2 [#] [＊] [ポート番号]を押す

[相手の電話機のポート番号]

[1]：電話Aポート

[2]：電話Bポート

[3]：電話Cポート

ダイヤル後、約5秒（初期値）たってから呼び出します。

ダイヤル後、続けて[#]を押すと、すぐに呼び出します。

3 通話する

4 通話が終わったら、受話器を戻す

お知らせ

・外線と内線の着信音は同じです。

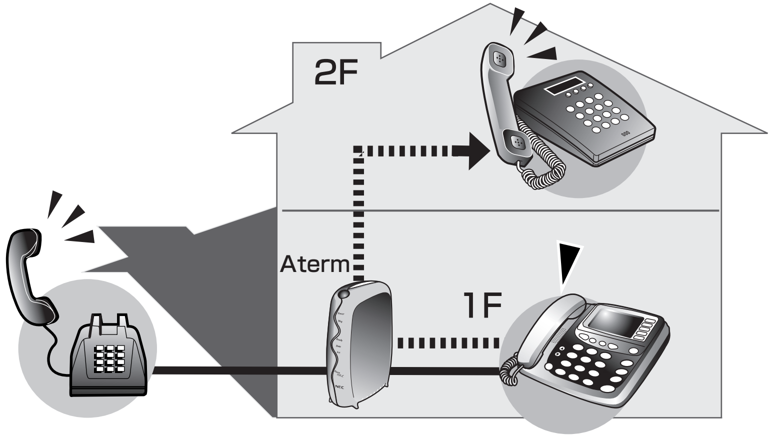
・内線通話中に外線から電話がかかってきたときは、「プップッ」と割込音を鳴らしてお知らせします。フッキングすると、内線通話は終了し外線との通話に切り替わります。

・停電時は利用できません。

・フッキングがうまく働かないときは、フッキング検出タイマを調整してください。

外線をほかの電話機に転送する(内線転送)

外からかかってきた電話を、別のアナログポートにつないだ電話機に転送します。



操作　外線をほかの電話機に転送する

1 **外線と通話中にフッキングする(☞3-12ページ)**

「プププ」という音が聞こえます。外線で通話中の相手には、疑似保留音(「ピッポッパ」)が聞こえます。

2 **[#] [*] [ポート番号]を押す**

[内線相手の電話機のポート番号]

[1]：電話Aポート
[2]：電話Bポート
[3]：電話Cポート

3 **転送先の電話機が鳴る**

そのまま受話器を戻すか、転送先が電話に出てから、転送する旨を伝えて受話器を戻します。

4 **転送先と外線相手が通話する**

お知らせ

・同一回線にバス接続されている別のターミナルアダプタに接続された電話機へは、内線転送できません。

・フッキングしたあと、すぐに次の操作をしないと、外線との通話に戻ります。「ププププ」音が止んだときは、もう一度フッキングしてください。

・転送中(内線相手を呼出中)にフッキングすると、外線との通話に戻ります。

・停電時は利用できません。

電話中に別の電話を受ける

（INSキャッチホン／疑似キャッチホン）

通話中に別の相手から電話がかかってきたときに「ププ、ププ・・・」という割込音でお知らせします。
INSキャッチホンと疑似キャッチホンがあります。

ポイント

☑ **フレックスホンのINSキャッチホン（INSネット64）と疑似キャッチホン（Aterm機能）の違い**

	INSネット64フレックスホン INSキャッチホン	Aterm 疑似キャッチホン
追加契約	フレックスホンのINSキャッチホン	不要
追加料金	付加サービス使用料	不要
サービスの違い	Bチャネルを1本しか使わないため、空いているポートで通話や通信ができます。	B1・B2チャネルを両方使うため、ほかのポートを使用できません（内線通話のみ可能）。
利用条件	通信中着信通知サービスも契約してください。	－

お知らせ

・INSナンバー･ディスプレイ契約時はキャッチホン・ディスプレイ機能を使うことができます（☞ 3-61ページ）。

・INSキャッチホンで割り込みさせる相手をあらかじめ制限しておくことができます。（「キャッチホンを受け付ける相手を限定する（選択キャッチホン／疑似選択キャッチホン）」（☞ 3-90ページ）。

・フレックスホン（キャッチホン・通信中転送・三者通話・着信転送）を契約している場合も疑似キャッチホンは利用できますが、INSキャッチホンと疑似キャッチホンを同時に利用することはできません。

・Atermに接続した2台の電話機がそれぞれ通話中に、さらに別の相手から電話がかかってきたときは、INSキャッチホンを設定しているアナログポートの中で若い番号のポートにのみ「ププ、ププ…」という割込音が聞こえます。たとえば、電話Aポートと電話BポートにINSキャッチホンを設定している場合は、電話Aポートに割込音が聞こえます。また、この割込音が聞こえている間は、Bチャネルを2本使っているので、インターネットの発信などはできません。

設定　キャッチホンを設定する

フレックスホンのINSキャッチホンと疑似キャッチホンの、どちらを利用するかをポートごとに設定します。

1 **らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する**

2 **[アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする**

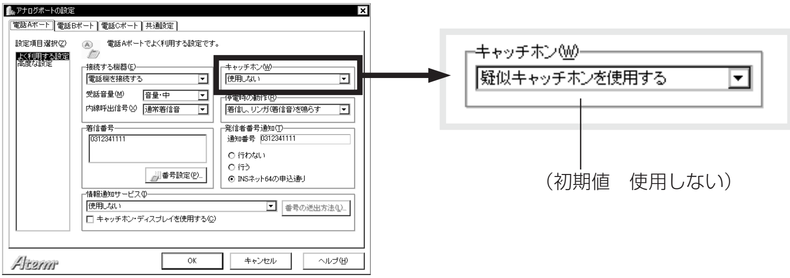
3 **[電話Aポート]／[電話Bポート]／[電話Cポート]タブをクリックする**

設定するポートのタブをクリックします。

4 **設定項目から[よく利用する設定]を選択する**

5 **キャッチホンの方法を選択する**

「INSキャッチホンを使用する」または「疑似キャッチホンを使用する」を選択します。



6 **[OK]ボタンをクリックする**

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お願い

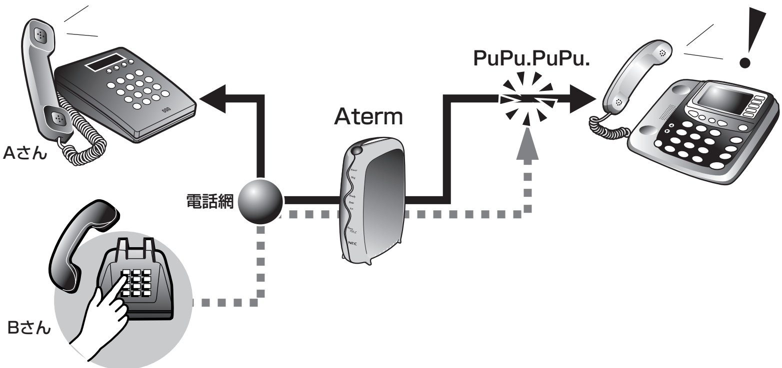
ファクスやモデムを接続したポートには、キャッチホンを設定しないでください。通信中に割込音が入ると、通信エラーとなります。

お知らせ

キャッチホンは電話機から設定することもできます。
「設定のしかた一覧」No.3(☞4-4ページ)

操作 キャッチホンを受ける

通話中に別の電話がかかってきたとき(割込音が聞こえたとき)は、フッキングで相手を切り替えます。



1 Aさんとの通話中に「ププ、ププ…」という割込音が聞こえる

Bさんから電話がかかっています。Bさんには、呼出音が聞こえています。

2 フッキングする(☞ 3-11ページ)

Bさんとの電話に出ることができます。Bさんと話している間、Aさんには保留音が流れます。もし、この間にAさんが電話を切ると、Aさんとの通話は終了します。

3 もう一度フッキングする

Aさんとの通話に戻り、Bさんには保留音が流れます。
以降、フッキングするたびに、相手が交互に切り替わります。

三人で同時に話す（三者通話／疑似三者通話）

通話中にもう一人を呼び出して三人で通話します。INSネット64のフレックスホンの三者通話と疑似三者通話があります。

ポイント

INSネット64のフレックスホンの三者通話とAtermの機能の疑似三者通話には、次のような違いがあります。

☑ **INSネット64三者通話と疑似三者通話の違い**

	INSネット64フレックスホン 三者通話	Aterm 疑似三者通話
追加契約	フレックスホンの三者通話	不要
追加料金	付加サービス使用料	不要
サービスの違い	Bチャネルを1本しか使わないため、三者通話中でも空いているポートで通話や通信が可能です。	・B1･B2チャネルを両方使うため、三者通話中は他のポートは使用できません。（内線電話のみ可能） ・通信中転送は利用できません。 ・ミキシングモードから切替モードには移行できません。
利用条件	―	―
その他	通信中転送の契約は必要ありません。	―

お知らせ

疑似三者通話（ミキシングモード）の終了時は、最後の発信にかかった通話料金がらくらくアシスタントの直前通信料金に表示されます（☞3-102ページ）。

設定　三者通話を設定する

フレックスホンの三者通話と疑似三者通話のどちらを利用するかを設定します。

1 **らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する**

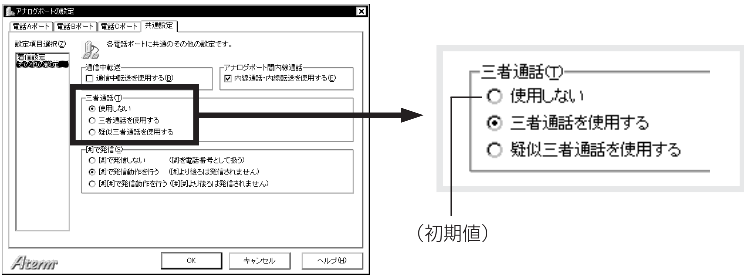
2 **[アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする**

3 **[共通設定]タブをクリックする**

4 **設定項目から[その他の設定]を選択する**

5 **三者通話の方法を選択する**

「三者通話を使用する」または「疑似三者通話を使用する」を選択します。



6 **[OK]ボタンをクリックする**

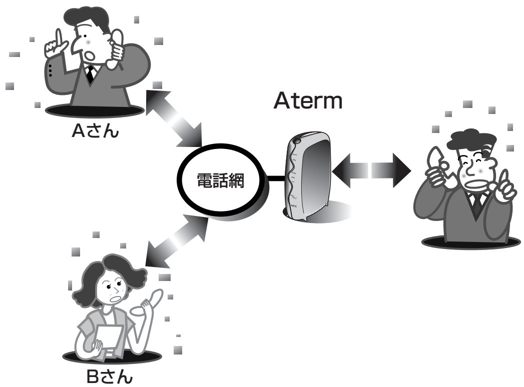
らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

操作 三者通話する

三者同時に会話するミキシングモードと、二者を切り替えて会話する切替モードがあります。

●ミキシングモード(三者同時に会話する)

三人で同時に会話できます。



1 Aさんとの通話中にBさんを呼び出す

1) フッキングする(☞ 3-11ページ)
Aさんには、保留音が聞こえます。

2)「プププ・・・」という音が聞こえたら、Bさんの電話番号をダイヤルする
Bさんが電話に出れば、話ができます。

2 Aさん、Bさん、自分の三人で会話する

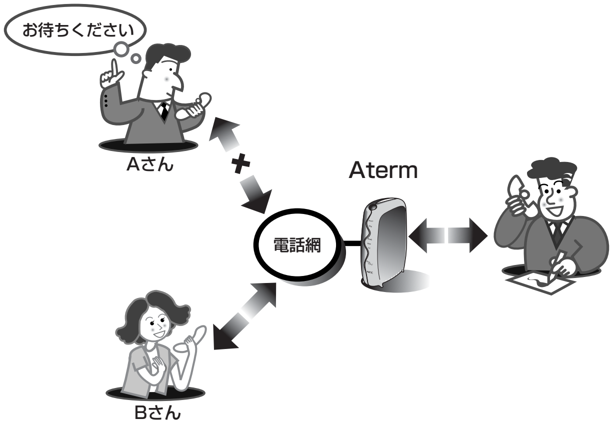
フッキングし、「プププ・・・」という音が聞こえたらもう一度フッキングする
Aさん、Bさん,自分の三人で同時に会話できます。

3 通話が終わったら、電話を切る

1秒以上受話器を戻すか、フックスイッチを長く押す
AさんとBさん両方との電話が切れます。

●切替モード(二者を切り替えて会話する)

通話中の相手を切り替えて交互に会話します。同時に会話できるのは二人です。



1 **Aさんとの通話中にBさんを呼び出す**

1) フッキングする(☞ 3-11ページ)
Aさんには、保留音が聞こえます。

2) 「プププ・・・」という音が聞こえたら、Bさんの電話番号をダイヤルする
Bさんが電話に出れば、話ができます。

2 **Aさんとの通話に戻る**

Bさんとの通話中にフッキングすると「ププッ、ププッ」という音が聞こえ、その音が停止した後にAさんとの通話に戻ります。
この操作を繰り返し、何度でも通話を切り替えることができます。

3 **通話が終わったら、電話を切る**

1) 1秒以上受話器を戻すか、フックスイッチを長く押す
現在通話中の相手との電話が切れます。

2) 着信音が鳴ったら、受話器を取る
保留中の相手と話ができます。

お知らせ

・切替モードとミキシングモードを切り替えるには、2回続けてフッキングします。ただし、疑似三者通話の場合は、切替モードからミキシングモードへは移行できますが、ミキシングモードから切替モードに切り替えることはできません。

自分の電話番号を相手に知らせる（発信者番号通知）

電話をかけるときに、自分の電話番号を相手に知らせます。相手の方がナンバー・ディスプレイを使っている場合やINSネット64を使っている場合、相手側の電話機にこちらの電話番号を表示します。

ポイント

通知した電話番号が相手側に表示されるのは、次のような場合です。
- INSナンバー・ディスプレイを契約し、ナンバー・ディスプレイ対応の電話機を使っている場合
- PHSやデジタル携帯電話の場合

☑ 186／184を付ける

発信者番号の通知する／しないを一時的に変更したい場合は、相手の電話番号をダイヤルする前に、［1］［8］［6］または［1］［8］［4］をダイヤルしてください。INSネット64の契約やAtermの設定内容に関係なく、通知する／通知しないを指定できます。

186（通知する）：電話番号が通知されます。
184（通知しない）：電話番号は通知されません。

☑ 発信者番号を通知する／通知しないの組み合わせ

INSネット64の契約やAtermの設定、186／184の付加の組み合わせによって、実際に通知する／しないは次のようになります。

INSネット64の契約	発信時の付加番号	Atermの設定		
		通知しない	通知する	INSネット64の申込内容に従う
通常通知（通話ごと非通知）	相手の電話番号	×	○	○
	184＋相手の電話番号	×	×	×
	186＋相手の電話番号	○	○	○
通常非通知（回線ごと非通知）	相手の電話番号	×	○	×
	184＋相手の電話番号	×	×	×
	186＋相手の電話番号	○	○	○

○：通知する　×：通知しない

お知らせ

・INSネット64で常時通知拒否をご契約の場合、Atermの設定や186／184の付加に関係なく、常に通知されません(常時通知拒否は以前にあった契約パターンです。現在、新しく常時通知拒否を契約することはできません)。

設定 step 1 発信者番号通知を設定する

発信者番号を通知するかどうかを、ポートごとに設定します。

1 **らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する**

2 **[アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする**

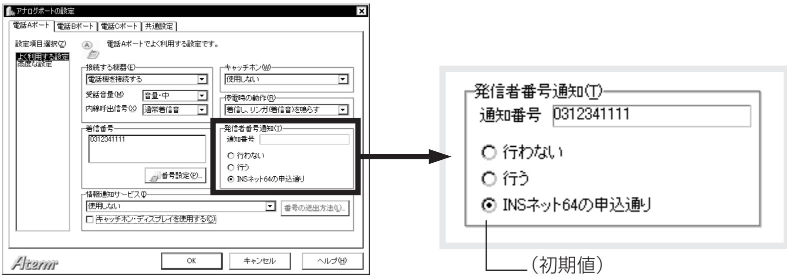
3 **[電話Aポート]／[電話Bポート]／[電話Cポート]タブをクリックする**

設定するポートのタブをクリックします。

4 **設定項目から[よく利用する設定]を選択する**

5 **番号通知を選択する**

契約内容に関わりなく通知するときは「行う」を、契約通りとするときは「INSネット64の申込通り」を選択します。



6 **[OK]ボタンをクリックする**

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お願い

発信者番号通知の設定はアナログポートごとに設定してください。

お知らせ

・発信者番号通知は、電話機から設定することもできます。
「設定のしかた一覧」No.7(☞4-4ページ)

・データポートの設定は、添付CD-ROMの『データ通信ガイド』2.データ通信を参照してください。

設定 step 2 通知する電話番号を設定する

相手に通知する電話番号を、ポートごとに設定します。契約者回線番号、ダイヤルイン番号、i・ナンバー情報として登録した番号の中から、通知する番号をポートごとに選択できます。何も設定しなければ、契約者回線番号が通知されます。

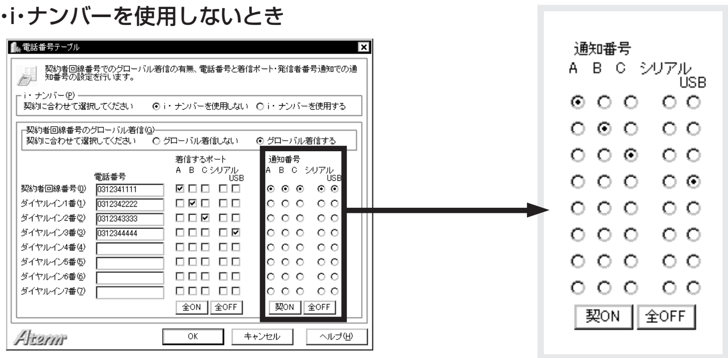
1 **らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する**

2 **[INS回線の電話番号の設定]ボタンをクリックする**

3 **ポートごとに電話番号を選択する**

通知する電話番号を選択します。ポートごとに1つの電話番号を選択できます。

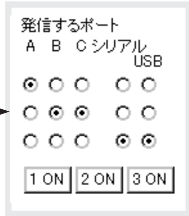
・i・ナンバーを使用しないとき



[契ON]ボタンをクリックすると、すべてのポートの通知番号が契約者回線番号となります。[全OFF]ボタンをクリックすると、すべてのポートのチェックがはずれます。

・i・ナンバーを使用するとき





[1 ON]ボタンをクリックすると、すべてのポートの通知番号が、i･ナンバー情報1となります。[2 ON]ボタンをクリックすると、すべてのポートの通知番号が、i･ナンバー情報 2となります。[3 ON]ボタンをクリックすると、すべてのポートの通知番号が、i･ナンバー情報3となります。

4 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります

お知らせ

通知する電話番号は、電話機から設定することもできます。
「設定のしかた一覧」No,10、No,13(☞4-4、4-6ページ)

かけてきた相手の電話番号を表示する

（INSナンバー・ディスプレイとINSナンバー・リクエスト）

電話がかかってきたときに、相手の電話番号をナンバー・ディスプレイに対応した電話機に表示します。電話に出る前に相手が誰なのかわかるので安心です。

ポイント

☑ **INSナンバー・ディスプレイ**

INSナンバー・ディスプレイを契約し、ナンバー・ディスプレイ対応の電話機やファクス（アナログ通信機器）を使用すると、電話がかかってきたときに相手の電話番号がAtermや電話機・ファクスのディスプレイに表示されます。相手が電話番号を通知（発信者番号通知）してこない場合は、電話番号が表示されず、通知しない理由（非通知・公衆電話・表示圏外）が表示されます。

☑ **INSナンバー・リクエスト**

電話番号を通知してこない相手に、音声で電話番号を通知してかけ直すようメッセージを流します。電話番号を通知してこない電話は、こちらには着信しません。

☑ **利用条件**

	INSナンバー・ディスプレイ	INSナンバー・リクエスト
追加契約	INSナンバー・ディスプレイ	INSナンバー・ディスプレイ INSナンバー・リクエスト
追加料金	付加サービス使用料	付加サービス使用料
利用条件	相手の電話番号を表示させるには、ナンバー・ディスプレイに対応したアナログ通信機器が必要です。	INSナンバー・リクエストは、INSナンバー・ディスプレイのオプションサービスです。
その他	電話Cポートでは、INSナンバー・ディスプレイが働きません。電話Aポートまたは電話Bポートを使用してください。	—

お願い

- INSナンバー・ディスプレイを契約しないでAtermにナンバー・ディスプレイを設定しても、接続したナンバー・ディスプレイ対応のアナログ通信機器に電話番号は表示されません。
- 1つのアナログポートに複数のアナログ通信機器を接続した場合、ナンバー・ディスプレイ対応のアナログ通信機器を使用していても電話番号が正常に表示されません。
- INSナンバー・ディスプレイを使用中は、着信中はらくらくアシスタントの[OK]ボタンや[登録]ボタンをクリックしないでください。

お知らせ

- 相手が使用しているPHSやデジタル携帯電話の機種によっては、電話番号が表示されないことがあります。
- INSナンバー・リクエストで相手に応答している場合、こちらの電話機の着信音は鳴りません。電話をかけた人には電話料金がかかります。
- INSネット64加入者・デジタル携帯電話・PHSから発信者番号を通知して電話がかかってきた場合は、INSナンバー・ディスプレイの契約をしなくても、Atermの液晶ディスプレイやナンバー・ディスプレイ対応のアナログ通信機器に相手の電話番号が表示されます。INSナンバー・ディスプレイを契約すると、アナログ回線からかかってきた電話番号も表示されるようになります。
- 発信者番号通知については、「自分の電話番号を相手に知らせる(発信者番号通知)」(☞ 3-53ページ)をお読みください。
- お使いのアナログ通信機器がナンバー・ディスプレイに対応していても、機種によっては、発信者番号が正常に表示されないことがあります。
- INSキャッチホン(☞ 3-46ページ)を契約すると、キャッチホンの相手の電話番号も表示されます(☞ 3-61ページ)。
- 通話が終了してすぐに着信音が鳴った場合、発信者番号は表示されません。

設定 ナンバー・ディスプレイを設定する

ナンバー・ディスプレイを使用するように設定します。

1 **らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する**

2 **[アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする**

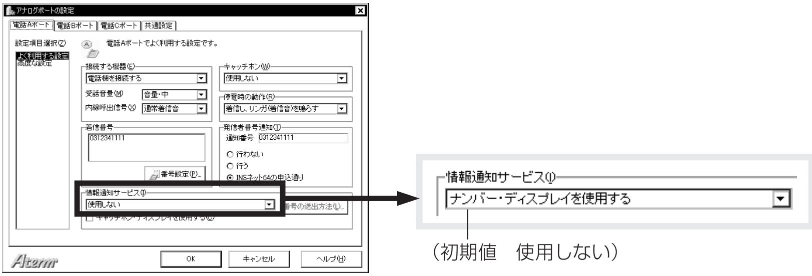
3 **[電話Aポート]／[電話Bポート]タブをクリックする**

設定するポートのタブをクリックします。

4 **設定項目から[よく利用する設定]を選択する**

5 **情報通知サービスからナンバー・ディスプレイを選択する**

Windowsの場合は、「ナンバー・ディスプレイを使用する」または「ナンバー・ディスプレイ＋モデム・ダイヤルインを使用する」（モデム・ダイヤルイン使用の場合）を選択します。
Macintoshの場合は、「ナンバー・ディスプレイ」または「ナンバー・ディスプレイ＋モデム・ダイヤルイン」（モデム・ダイヤルイン使用の場合）を選択します。

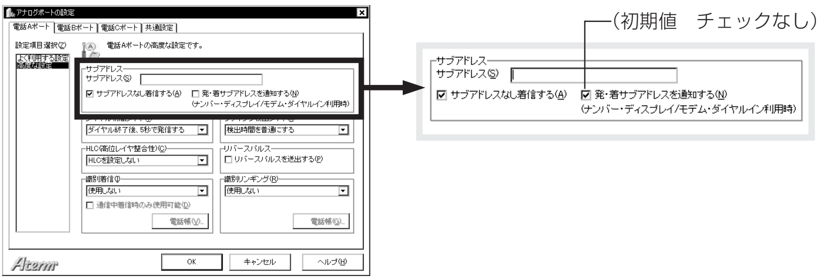


（初期値　使用しない）

6 **設定項目から、[高度な設定]を選択する**

7 **必要に応じて発・着サブアドレス通知を選択する**

接続するアナログ通信機器にサブアドレスの表示機能がある場合には、相手のサブアドレスを表示することができます。
「発・着サブアドレスを通知する」をチェックします。



8 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お願い

相手からサブアドレスが通知された場合、Atermは電話番号とサブアドレスを／(スラッシュ)などで区切って、アナログ通信機器に通知します。アナログ通信機器にサブアドレスの表示機能がない場合は、Atermの「発・着サブアドレスを通知する」のチェックをはずしてください(☞3-40ページ)。

お知らせ

ナンバー・ディスプレイは、電話機から設定することもできます。
「設定のしかた一覧」No.2(☞4-4ページ)

キャッチホンで受ける電話の番号も表示する（キャッチホン・ディスプレイ）

通話中に別の相手から電話がかかってきたときにも、相手の電話番号を電話機に表示します。

ポイント

キャッチホン・ディスプレイは、ナンバー・ディスプレイをキャッチホンのときにも表示できるように機能を拡張したものです。INSナンバー・ディスプレイを利用する場合の条件に加えて、電話機やファクス付き電話機がキャッチホン・ディスプレイに対応していなければなりません。さらに、INSキャッチホンまたは疑似キャッチホンの設定が必要です。

☑ **利用条件**

	INSキャッチホンを利用する場合	疑似キャッチホンを利用する場合
追加契約	INSナンバー･ディスプレイ INSキャッチホン	INSナンバー･ディスプレイ
追加料金	両方のサービスの付加サービス使用料	付加サービス使用料
利用条件	キャッチホン･ディスプレイに対応したアナログ通信機器が必要です。	

電話Cポートでは、キャッチホン・ディスプレイがはたらきません。電話Aポートまたは電話Bポートを使用してください。

設定 step 1 ナンバー・ディスプレイを設定する

ナンバー・ディスプレイを使用するように設定します。
かけてきた相手の電話番号を表示する（INSナンバー・ディスプレイとINSナンバー・リクエスト）（☞3-57ページ）

設定 step 2 キャッチホンを設定する

INSキャッチホンまたは疑似キャッチホンの設定をします。
「電話中に別の電話を受ける（INSキャッチホン／疑似キャッチホン）」（☞3-46ページ）

設定 step 3 キャッチホン・ディスプレイを設定する

1 **らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する**

2 **[アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする**

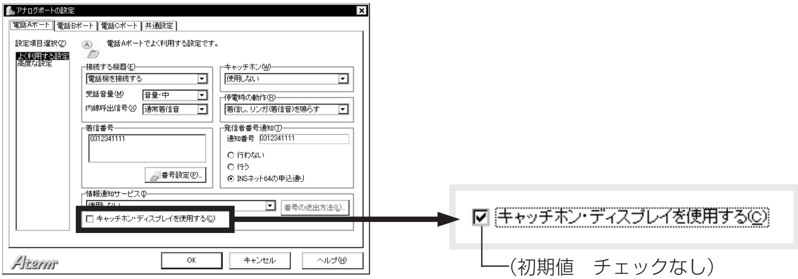
3 **[電話Aポート]／[電話Bポート]タブをクリックする**

設定するポートのタブをクリックします。

4 設定項目から[よく利用する設定]を選択する

5 キャッチホン・ディスプレイの使用をチェックする

キャッチホン・ディスプレイを使用するかどうかを、電話ポートごとに設定します。



6 必要に応じて、発・着サブアドレスを選択する

接続するアナログ通信機器にサブアドレス機能がある場合には、相手のサブアドレスを表示することができます。設定項目から[高度の設定]を選択し、「発・着サブアドレスを通知する」をチェックします。

7 [OK]ボタンをクリックする

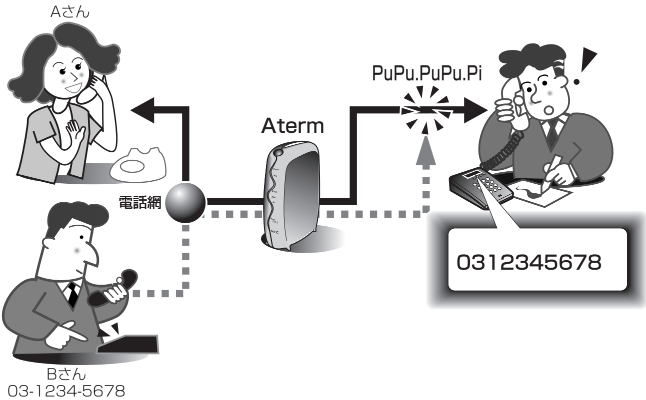
らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ

キャッチホン・ディスプレイは、電話機から設定することもできます。
「設定のしかた一覧」No.4(☞4-4ページ)

操作 キャッチホンを受ける

通話中に別の電話がかかってくると、新しい相手の電話番号が、電話機のディスプレイに表示されます。受ける操作は、通常のキャッチホンと同じです。



1 Aさんとの通話中に「ププ、ププ…、ピッ」という音が聞こえる

電話機のディスプレイに新しくかけてきた相手であるBさんの電話番号が表示されます。

2 フッキングする

Bさんの電話に出ることができます。
Bさんと話している間、Aさんには保留音が流れます。

3 もう一度フッキングする

Aさんとの通話に戻り、Bさんには保留音が流れます。
以降、フッキングするたびに相手が交互に切り替わります。

お願い

- お使いのアナログ通信機器がキャッチホン・ディスプレイに対応していても、機種によっては、発信者番号が正常に表示されないことがあります。
- 相手からサブアドレスが通知された場合、Aterm は電話番号とサブアドレスを／(スラッシュ)などで区切って、キャッチホン・ディスプレイ対応のアナログ通信機器に通知します。ただし、アナログ通信機器にサブアドレスの表示機能がない場合は、Atermの発・着サブアドレスを通知しないように設定してください(☞3-40ページ手順7)。
- キャッチホン・ディスプレイの割り込み音は、「ププ、ププ…」のあとに「ピッ」という音が聞こえます。「ピッ」が通話の声などに重なると、電話番号が正しく表示されないことがあります。また、1秒程度通話がとぎれます。
- お出かけ設定の「フラッシュモード」、または「停電時にブザーを鳴らす」を設定していると、電話番号が正しく表示されないことがあります。
- 内線通話中に外線から着信があったときは、キャッチホンの設定をしていなくても、キャッチホン・ディスプレイ対応のアナログ通信機器に電話番号を表示します。

お知らせ

相手から電話番号が通知されなかったときは、通知されない理由(非通知・公衆・表示圏外)が表示されます。

外出時や就寝中など電話に出られないときに利用する（お出かけ設定）

外出時や就寝時など電話に出られないときは、お出かけ設定を使うと便利です。でかけるボタンを1秒以上押すだけで、電話を転送したり、電話のベル（着信音）を鳴らさないようにしたりできます。

ポイント

お出かけ設定には3種類のモードがあります。前もって、下記のいずれか1つのモードを選択し、転送条件などの設定作業を行います。

お出かけ設定を開始するときは、でかけるボタンを1秒以上押してください（☞3-67ページ）。

☑ 電話着信転送モード

フレックスホンの着信転送やAtermの疑似着信転送でかかってきた電話を転送します。

また、BIGLOBEに加入し遊遊メールを契約している場合は、電話番号着信通知を使って相手の電話番号を電子メールで知らせることもできます。

フレックスホンの着信転送を使う場合はINSネット64の追加契約が、電子メールで通知する場合はBIGLOBEの遊遊メールの契約が必要です。また、転送方法や転送条件などの設定作業も必要です。以下のページもあわせてお読みください。
「かかってきた電話を転送する（着信転送／疑似着信転送／電話番号着信通知）」（☞3-68ページ）

なお、疑似着信転送を使用する場合はBチャネルが2本とも空いている状態のときだけ、電話を転送することができます。

☑ ボイスワープ転送モード

INSボイスワープを使って電話を転送します。INSボイスワープ／INSボイスワープ・セレクトの契約や転送条件などの設定作業が必要です。以下のページもあわせてお読みください。
「ボイスワープで転送する（INSボイスワープとINSボイスワープ・セレクト）」（☞3-77ページ）

☑ フラッシュモード

電話のベル（着信音）を鳴らしたくないときは、フラッシュモードにします。着信時は、でかけるボタンが点滅します。どのポートに着信したかはわかりません。

☑ 各モードの違い

	電話着信転送モード	ボイスワープ転送モード	フラッシュモード
追加契約	「着信転送」利用時は必要。疑似着信転送利用時は不要	INSボイスワープ／INSボイスワープ･セレクト	不要
追加料金	「着信転送」利用時は付加サービス使用料が必要。疑似着信転送利用時は不要	付加サービス使用料	不要
着信時の動作	着信転送と疑似着信転送の場合は、設定された電話番号に転送されます。電話番号着信通知の場合は、相手の電話番号が電子メールで通知されます。	設定された電話番号に転送されます。	でかけるボタンを点滅させます。どのポートに着信したかはわかりません。電話が切断されると、点灯に変わります。
利用条件	「電話番号着信通知」を利用するには、BIGLOBEへの加入、遊遊メールの契約、INSネット64の発信者番号通知の契約が必要です。	―	―
その他	参照☞3-68ページ	参照☞3-77ページ	

設定

お出かけ設定の3種類のモードから、使用するモードを選択します。

1 らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

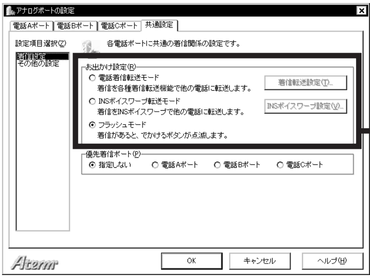
2 [アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする

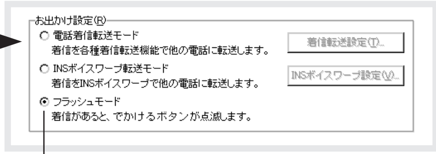
3 [共通設定]タブをクリックする

4 設定項目から[着信設定]を選択する

5 モードを選択する

使用するモードを選択します。





(初期値　フラッシュモード)

6 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お願い

・電話着信転送モードを利用する場合、着信転送の種類や転送条件、転送元・転送先電話番号などは、あらかじめ登録しておいてください。「かかってきた電話を転送する(着信転送／疑似着信転送／電話番号着信通知)」(☞3-68ページ)。

・ボイスワープ転送モードを利用する場合、転送開始モードや契約電話番号はらくらくアシスタントを使ってあらかじめ登録しておいてください。「INSボイスワープとINSボイスワープ・セレクト」(☞3-77ページ)。

操作 でかけるボタンのロックを解除する

Atermでは「お出かけ設定」の開始／停止を行うためのでかけるボタンは、ロックした状態で出荷しています。「お出かけ設定」をご利用になる場合はでかけるボタンのロックを解除してください。

1 Atermに接続した電話機の受話器をあげる

2 [＊][＊][6][9]を押す

「プー」と鳴って解除されます。

3 受話器を戻す

お知らせ

でかけるボタンのロック／解除は交互に設定されます。

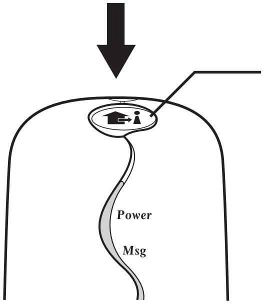
ロックが解除された状態でこの操作を行うと、でかけるボタンは再びロックされます。

操作 お出かけ設定を開始／停止する

でかけるボタンを1秒以上押して、お出かけ設定を開始します。

1 **でかけるボタンを1秒以上押す**

「ピー」と音がして、でかけるボタンがオレンジ色に点灯します。お出かけ設定が有効になります。



2 **お出かけ設定を解除するときは、でかけるボタンをもう一度1秒以上押す**

お知らせ

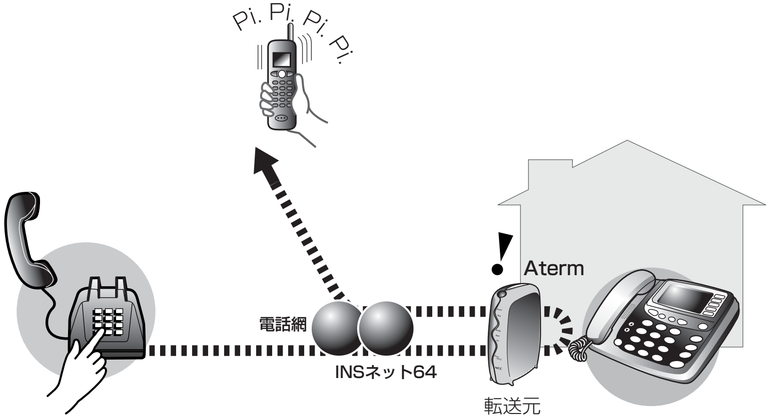
でかけるボタンを続けて操作するときは、1秒以上時間を空けてください。

かかってきた電話を転送する

（着信転送／疑似着信転送／電話番号着信通知）

かかってきた電話をほかの電話番号に自動的に転送します。INSネット64の着信転送と疑似着信転送があります。電話への転送ではなく、かけてきた相手の電話番号をメールで知らせる電話番号着信通知も利用できます。

●着信転送または疑似着信転送を利用される方は☞ 3-70ページ
●電話番号着信通知を利用される方は☞ 3-72ページ



ポイント

着信転送には、INSネット64の着信転送と、Atermの機能の疑似着信転送があります。

電話番号着信通知は、電話を転送する代わりに、電子メールで相手の電話番号を知らせるもので、BIGLOBEの遊遊メールサービスを使います。アナログポートには、通常どおり着信しますので、留守番電話に残されたメッセージ相手の確認や着信したファクスの送り主の確認などに便利です。
（※ 遊遊メールサービスは、サービスを終了いたしました。）

着信転送か電話番号着信通知のいずれか1つを選択し、転送条件などの設定を行います。転送を開始するときは、でかけるボタンを1秒以上押すだけです。

☑ フレックスホン　着信転送（INSネット64）／疑似着信転送（Aterm機能）／電話番号着信通知（遊遊メール）の違い

	INSネット64 フレックスホン 着信転送	Aterm 疑似着信転送	電話番号着信通知 （遊遊メール） ※サービスを終了いたしました
追加契約	フレックスホンの着信転送	不要	NECのインターネットプロバイダ「BIGLOBE」への加入と「遊遊メール」の契約が必要 INSネット64のユーザ間情報通知サービスの契約が必要
追加料金	付加サービス使用料	不要	BIGLOBE接続料金など
サービスの違い	・Bチャネルを1本しか使わないため、空いているポートで通話や通信が可能です。 ・着信時に転送トーキ*1、転送元トーキ*2の流し方を指定できます。	・B1・B2チャネルを両方使うため、着信転送時は、他のポートは使用できません。（内線電話のみ可能） ・転送トーキや転送元トーキが流れません。	かけてきた相手の電話番号を遊遊メール形式にして「BIGLOBE」のメールサーバへ自動的に送信します。電子メールで、かけてきた相手の電話番号を知ることができます。
利用条件	―	―	発信者番号通知を行う必要があります。
その他	―	INSネット64の申込内容が通常通知（通話ごと非通知）の場合は、転送先には契約者回線番号を通知します。	―

*1　転送トーキ：「ただいま電話を転送しますので、そのままお待ちください」という音声メッセージ
*2　転送元トーキ：「電話が転送されますので、そのままお待ちください」という音声メッセージ

お知らせ

・でかけるボタンを使って電話を転送する
「外出時や就寝中など電話に出られないときに利用する（お出かけ設定）」（☞3-64ページ）

・特定の相手からの電話のみを転送する場合は、識別着信転送を使います。
「特定の電話だけを転送する（識別着信転送）」（☞3-100ページ）

・話中時や無応答時など条件付きで転送する場合は、INSボイスワープを使います。
かけてきた相手の電話番号を表示する（INSナンバー・ディスプレイとINSナンバー・リクエスト）（☞3-57ページ）

・Atermまでの通話料金は発信者に、Atermから転送先の通話料金はAterm側にかかります。疑似着信転送を使う場合、かかった料金は電話Aポートに蓄積されます。

・着信転送／疑似着信転送はアナログポートに電話機を接続しなくても利用できます。

・Atermに着信があっても着信音は鳴りません。

設定　着信転送または疑似着信転送を利用する場合

電話着信転送モードを選び、転送の種類や転送条件などを登録します。転送元や転送先電話番号も登録してください。

1 らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

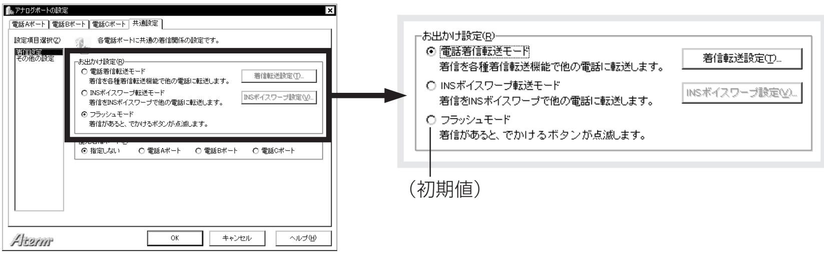
2 [アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする

3 [共通設定]タブをクリックする

4 設定項目から[着信設定]を選択する

5 「電話着信転送モード」を選択する

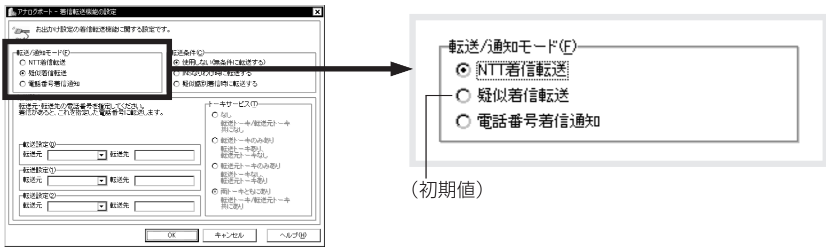
お出かけ設定から使用するモードを選択します。



6 [着信転送設定]ボタンをクリックする

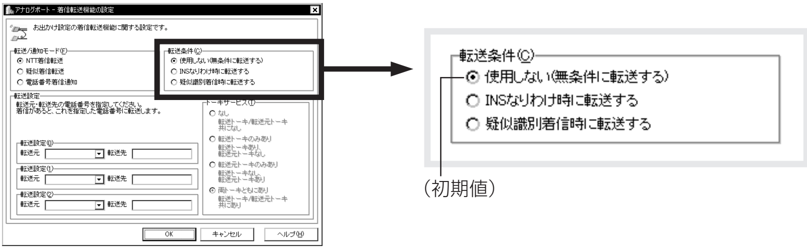
7 「着信転送」または「疑似着信転送」を選択する

転送／通知モードから「NTT着信転送」または「疑似着信転送」を選択します。



8 無条件転送を選択する

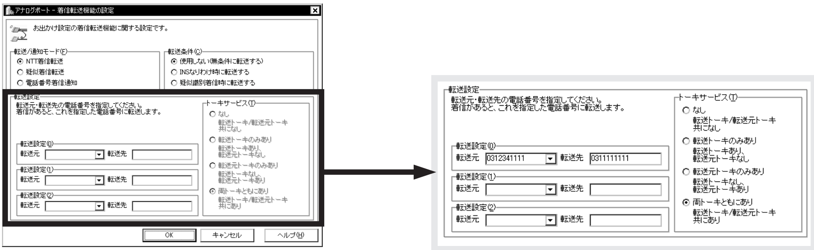
転送条件から「使用しない(無条件に転送する)」を選択します。



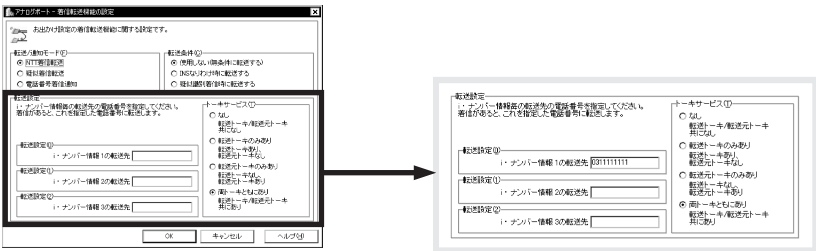
9 転送元と転送先の電話番号とトーキの有無を選択する

1) 転送元の電話番号を選択する
   Atermに登録してある、契約者回線番号やi・ナンバーまたはダイヤルイン番号を3つまで登録できます。
2) 転送先の電話番号を入力する
3) 着信転送の場合は、トーキの有無を選択する

・i・ナンバーを使用しないとき



・i･ナンバーを使用するとき



10 [OK]ボタンをクリックする

11 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

設定 電話番号着信通知を利用する場合

遊遊メールの電話番号着信通知を利用するときは、電話着信転送モードと電話番号着信通知を設定します。着信転送先メールアドレスとBIGLOBE-IDを登録してください。
（※ 遊遊メールサービスは、サービスを終了いたしました。）

1 らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

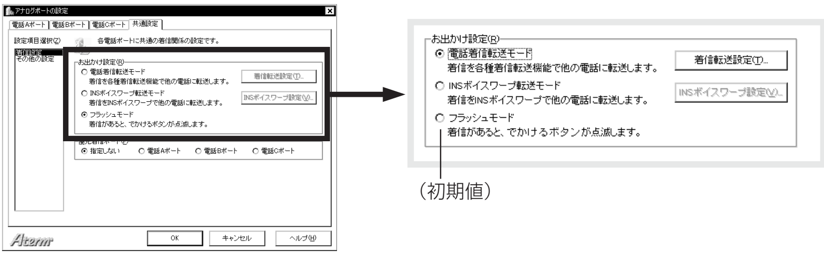
2 [アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする

3 [共通設定]タブをクリックする

4 設定項目から[着信設定]を選択する

5 「電話着信転送モード」を選択する

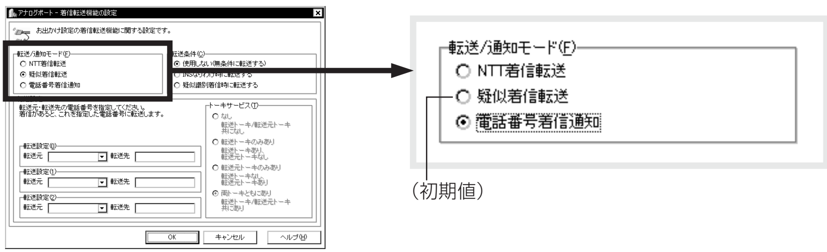
お出かけ設定から「電話着信転送モード」を選択します。



6 [着信転送設定]ボタンをクリックする

7 「電話番号着信通知」を選択する

転送／通知モードから「電話番号着信通知」を選択します。

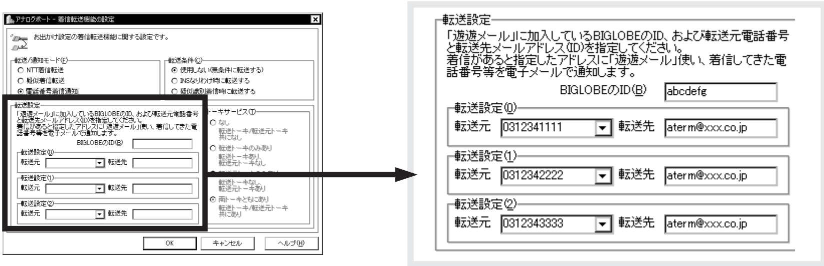


8 BIGLOBE-ID・転送元電話番号・転送先メールアドレスを設定する

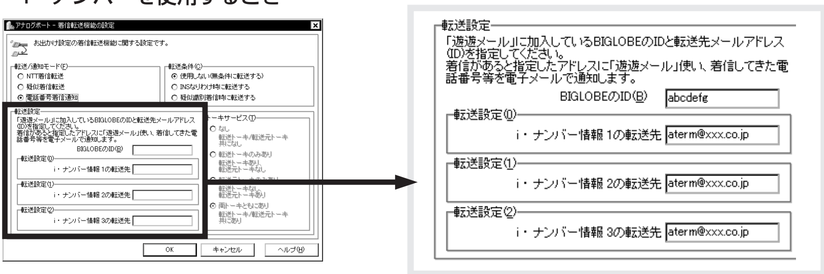
1) BIGLOBEのIDを入力する
2) 転送元の電話番号を選択する
   Atermに登録してある、契約者回線番号やｉ・ナンバーまたはダイヤルイン番号を3つまで登録できます。

転送元電話番号、転送先メールアドレスは、3パターン設定できます。

・i・ナンバーを使用しないとき



・i・ナンバーを使用するとき



9 [OK]ボタンをクリックする

10 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

操作　着信転送を開始／停止する

でかけるボタンを1秒以上押して転送を開始します。

1　**でかけるボタンを1秒以上押す**

「ピー」と音がして、でかけるボタンがオレンジ色に点灯します。以降の着信が転送されます。

2　**転送を停止するときは、でかけるボタンをもう一度1秒以上押す**

でかけるボタンが消灯します。

お知らせ

でかけるボタンを続けて操作するときは、1秒以上時間を空けてください。

電話中に別の電話番号へ転送する
（通信中転送）

通話中にもう一人を呼び出して、現在の通話をそちらに転送します。

ポイント

☑ **利用条件**

	INSネット64　フレックスホン　通信中転送
追加契約	フレックスホンの通信中転送
追加料金	付加サービス使用料
利用条件	－
その他	Bチャネル1本のみを使用するので、転送中でも、もう１本のチャネルを別の電話や通信で使用できます。 通話中転送ができるのは、着信した電話を第三者に転送する場合です。

設定　通信中転送を設定する

通信中転送を使用するように設定します。

1 **らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する**

2 **[アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする**

3 **[共通設定]タブをクリックする**

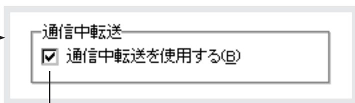
4 **設定項目から[その他の設定]を選択する**

5 **通信中転送を選択する**

「通信中転送を使用する」をチェックします。



「通信中転送を使用する」をチェックします。



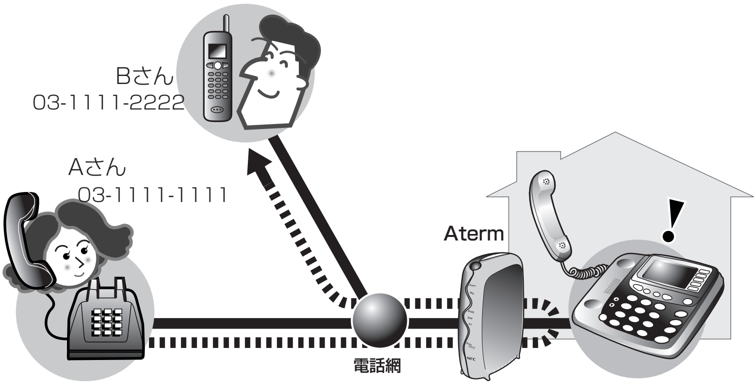
（初期値　チェックなし）

6 **[OK]ボタンをクリックする**

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

操作　通話中に転送する

通話中にフッキングしたあと、新しい相手を呼び出します。



1 **Aさんとの通話中にBさんを呼び出す**

1) フッキングする
　Aさんには保留音が聞こえます。
2) 「プププ」という音が聞こえたら、Bさんの電話番号をダイヤルする

2 **Bさんと会話する(省略可)**

3 **転送する**

1) フッキングする
2) 「プププ」という音が聞こえたら、受話器を戻す
　AさんとBさんが通話できます。

お願い

フッキングしたあと、すぐに次の操作をしないと、通話に戻ります。「プププ」音が止んだときは、もう一度フッキングしてください。

お知らせ

・転送先が応答する前に転送(応答前通信中転送)することもできます。転送先の電話番号をダイヤルしたあと、相手が電話に出る前にフッキングしてから受話器を戻してください。ただし、転送先がアナログ回線でナンバー・ディスプレイを契約している場合は、応答前通信中転送は利用できません。

・うまく転送できないときは、ダイヤル桁間タイマを長くして試してみてください。
　らくらくアシスタントで設定する場合　(☞ 3-13ページ)
　電話機から設定する場合　「設定のしかた一覧」No.5(☞ 4-4ページ)

ボイスワープで転送する

（INSボイスワープとINSボイスワープ・セレクト）

通話中や応答できなかった場合など条件に応じた着信転送を行うには、INSボイスワープやINSボイスワープ・セレクトを使います。INSボイスワープ・セレクトは、登録済みの相手だけを転送の対象にするものです。

ポイント

INSボイスワープ、INSボイスワープ・セレクトは、ネットワーク転送型の転送サービスです。以下の4つの転送条件から1つを選択することができます。

・かかってきた電話を無条件で転送する（無条件転送）

・無応答のまま設定した時間を超えた場合に転送する（無応答時転送）

・通話中でふさがっているときのみ転送する（話中時転送）

・無応答または話中時に転送する（無応答時または話中時転送）

☑ INSボイスワープとINSボイスワープ・セレクトの違い

INSボイスワープは、契約者回線番号や追加番号ごとに契約できます。

INSボイスワープ、INSボイスワープ・セレクトの詳細については、NTT東日本・NTT西日本の窓口にお問い合わせください。

	INSボイスワープ	INSボイスワープ・セレクト
追加契約	INSボイスワープ	INSボイスワープ・セレクト
追加料金	付加サービス使用料	付加サービス使用料
サービスの違い	相手を問わず、転送します。	あらかじめ登録された相手からの着信のみ転送することなどができます。
利用条件	・Atermは「スティミュラスプロトコル（キーパッドプロトコル）手順」をサポートしています。 ・INSネット64に転送先の電話番号などを登録する必要があります。登録方法などサービスの詳細は、NTT東日本・NTT西日本の窓口にお問い合わせください。	

お知らせ

・INSボイスワープ、INSボイスワープ・セレクトの詳細については、NTT東日本・NTT西日本の窓口にお問い合わせください。

設定 step 1 転送先電話番号を登録する

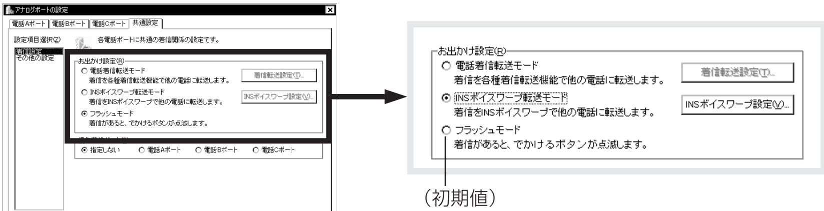
転送先電話番号の登録は電話機から行います。設定方法については、NTT 東日本または NTT 西日本から配布される『INS ボイスワープの操作方法』をあわせてお読みください。
また詳細はNTT東日本・NTT西日本の窓口にお問い合わせください。

設定 step 2 ボイスワープ転送を設定する

ボイスワープ転送モードを選び、転送開始モードを登録します。初めてのときは、INS ボイスワープを契約した電話番号も登録してください。
設定は、下記のほか、NTT東日本またはNTT西日本から配布される「INSボイスワープの操作方法」もあわせて参照してください。

1. らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する
2. [アナログポートの詳細設定] ボタンをクリックする
3. [共通設定] タブをクリックする
4. 設定項目から [着信設定] を選択する
5. お出かけ設定のモードからINSボイスワープ転送モードを選択する

「INSボイスワープ転送モード」を選択します。



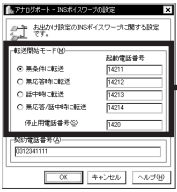
6. [INSボイスワープ設定] ボタンをクリックする
7. ボイスワープを契約した電話番号を入力する

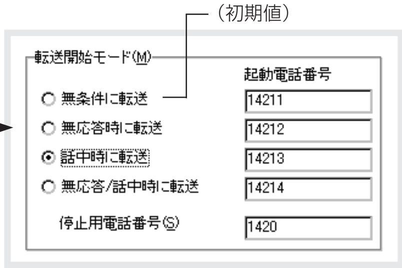
ボイスワープを契約した電話番号を入力します。



8 転送開始モードを選択する

転送開始モードから１つを選択します。





9 [OK]ボタンをクリックする

10 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お願い

・でかけるボタンで転送できる電話番号は1つです。複数の電話番号を転送したい場合は、INSボイスワープの説明書を参照して、残りの電話番号の転送操作を電話機から行ってください。

・起動電話番号、停止用電話番号とはボイスワープサービス開始／停止用の電話番号です。INSボイスワープサービスの番号が変更されたときだけ、ここの番号を変更します。通常は初期値のままにして、変更しないでください。

操作 ボイスワープ転送を開始／停止する

でかけるボタンを1秒以上押して転送を開始します。

1 でかけるボタンを１秒以上押す

でかけるボタンがオレンジ色に点灯し、ボイスワープが開始されます。
Atermがボイスワープセンタに自動的に電話をかけて、転送サービスを開始します。

2 転送を停止するときは、もう一度1秒以上でかけるボタンを押す

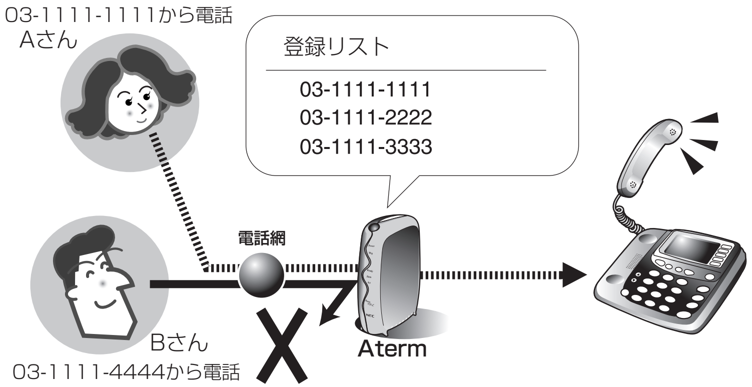
でかけるボタンが消灯します。
Atermがボイスワープセンタに自動的に電話をかけて、転送サービスを停止します。

お知らせ

でかけるボタンを続けて操作するときは、１秒以上時間を空けてください。

電話を受ける相手を限定する
（INSなりわけ識別着信／疑似識別着信）

特定の相手からの電話だけを着信させ、ほかの電話は一切受け付けないようにします。INSなりわけサービスのセキュリティ機能（INSなりわけ識別着信）と、Atermの疑似識別着信があります。



ポイント

相手の電話番号をあらかじめ登録しておきます。電話がくると、相手の電話番号を確認し、登録された電話番号と一致した場合のみ着信させます。

疑似識別着信の場合は、ナンバー・ディスプレイを使って相手の電話番号を確認するので、INSナンバー・ディスプレイの契約が必要です。相手の電話番号は、Atermに登録します。一方、INSなりわけ識別着信の場合は、相手の電話番号をINSネット64に登録します。登録した相手からの電話の場合、「識別着信情報」がAtermに通知されます。この情報を使って、識別着信を行います。

☑ INSなりわけ識別着信(INSネット64)／疑似識別着信(Aterm機能)の違い

	INSネット64 INSなりわけサービス セキュリティ機能 (INSなりわけ識別着信)	Aterm 疑似識別着信
追加契約	INSなりわけサービス	INSナンバー・ディスプレイ
追加料金	付加サービス使用料	付加サービス使用料
サービスの違い	－	－
利用条件	Atermは「スティミュラスプロトコル(キーパッドプロトコル)手順」をサポートしています。	INSナンバー・ディスプレイの契約をしていない場合は、アナログ回線からの着信は識別できません。
その他	INSネット64に相手の電話番号を登録します。登録方法などについては、NTT東日本・NTT西日本の窓口にお問い合わせください。	Atermの電話帳に相手の電話番号を登録します。最大で30件まで登録できます。

お願い

識別着信と選択キャッチホンを同時に利用することはできません。

お知らせ

・INSなりわけでは、セキュリティ機能のほかに、以下の機能を利用できます。
識別リンギング機能(☞ 3-85ページ)
選択キャッチホン機能(☞ 3-90ページ)

・識別着信番号として登録した番号は、すべてのアナログポートで共用です。

・登録した番号と通知された番号は桁数の末尾から照合され、桁数の短い方と一致したときに着信を受け付けます。

設定 step 1 識別着信の方法を設定する

INSなりわけサービスの識別着信(INSネット64)と疑似識別着信の、どちらを利用するかを設定します。ポートごとに設定できるので、ファクスには識別着信を利用しないといった設定が可能です。

1 らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2 [アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする

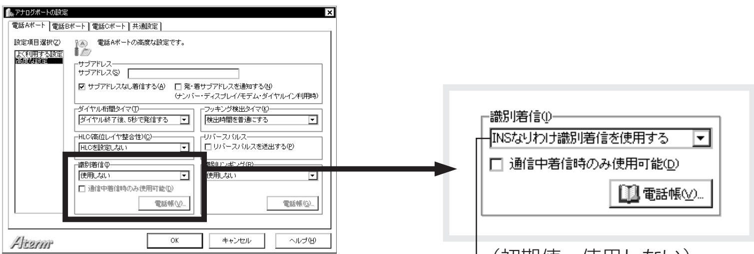
3 [電話Aポート]/[電話Bポート]/[電話Cポート]タブをクリックする

設定するポートのタブをクリックします。

4 設定項目から[高度な設定]を選択する

5 識別着信の方法を設定する

1) 「INSなりわけ識別着信を使用する」または「疑似識別着信を使用する」を選択します。
2) 話し中に別の着信があったときだけ識別着信させたい場合は、「通信中着信時のみ使用可能」をチェックします。



(初期値　使用しない)

6 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

設定 step 2 電話番号を登録する

●INSなりわけ用の電話番号を登録する場合

INSなりわけ用の電話番号の登録は、電話機から行います。詳細はNTT東日本・NTT西日本の窓口にお問い合わせください。

●疑似識別着信用の電話番号を登録する場合

疑似識別着信の場合、着信を許可する電話番号を疑似識別着信用の電話帳に登録します。30件まで登録可能です。

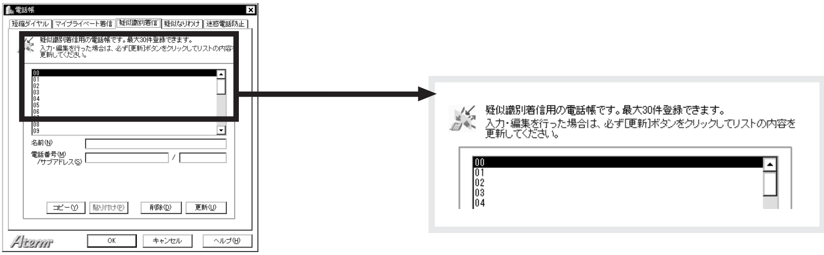
1 らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

2 [電話帳機能の設定]ボタンをクリックする

3 [疑似識別着信]タブをクリックする

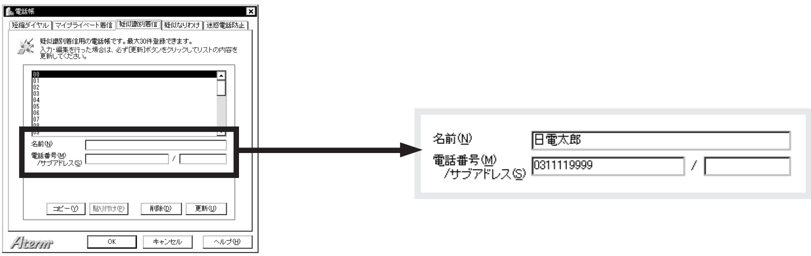
4 一覧から空いている番号を選択する

一覧の中で空いている番号をクリックします。



5 名前・電話番号・サブアドレスを入力する

1) 相手の名前を入力する
2) 電話番号（市外局番から）を入力する
3) 必要ならサブアドレスを入力する



6 [更新]ボタンをクリックする

7 続けてほかの番号を登録するときは、手順4～6を繰り返す

8 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お願い

・相手が自分の電話番号を通知しないで電話をかけてきた場合、電話帳に登録してあってもその相手を着信させることはできません。

・疑似識別着信を使用する設定を選んだ場合、疑似識別着信用の電話帳に電話番号を1件も登録しないと、どこからの着信も受け付けなくなります。

お知らせ

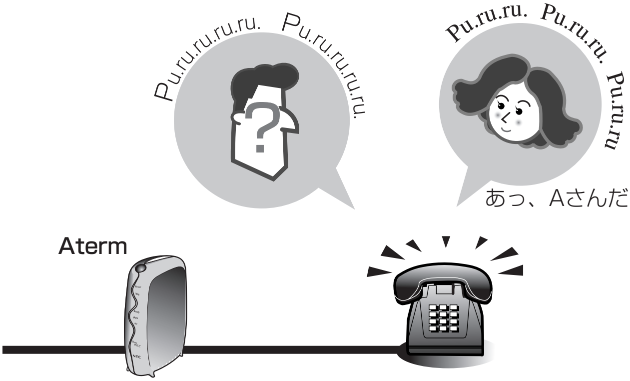
・登録済みの電話番号を変更したい場合は、変更する番号を手順4で選択し、新しい電話番号に変更したあと、[更新]ボタンをクリックしてください。

・登録済みの電話番号を削除したい場合は、削除する番号を手順4で選択したあと、[削除]ボタンをクリックしてください。

・疑似識別着信用の電話番号は疑似選択キャッチホンと共用です。

特定の相手からの着信音を変える
(INSなりわけ識別リンギング／疑似なりわけ)

特定の相手からの電話を、通常とは異なる着信音でお知らせします。着信音で相手がわかります。
INSなりわけサービスの識別リンギング機能と疑似なりわけがあります。



"プルルルルル、プルルルルル"　普通の着信音
"プルル、プルル、プルル"　Aさんからの電話がすぐにわかる

ポイント

なりわけする相手の電話番号をあらかじめ登録しておくと、その相手からの電話の場合に通常とは異なる着信音を鳴らします。

疑似なりわけの場合は、ナンバー・ディスプレイを使って相手の電話番号を確認するので、INSナンバー・ディスプレイの契約が必要です。相手の電話番号は、Atermに登録します。一方、INSなりわけの識別リンギング機能の場合は、相手の電話番号を交換機に登録します。登録した相手からの電話の場合、「識別着信情報」がAtermに通知されます。この情報を使って、なりわけを行います。

☑ INSなりわけ識別リンギング(INSネット64)／疑似なりわけ(Aterm機能)の違い

	INSネット64 INSなりわけサービス 識別リンギング機能	Aterm 疑似なりわけ
追加契約	INSなりわけサービス	INSナンバー・ディスプレイ
追加料金	付加サービス使用料	付加サービス使用料
サービスの違い	－	－
利用条件	Atermは「スティミュラスプロトコル(キーパッドプロトコル)手順」をサポートしています。	INSナンバー・ディスプレイの契約をしていない場合は、アナログ回線からの着信をなりわけることはできません。
その他	INSネット64に相手の電話番号を登録します。登録方法などについては、NTT東日本・NTT西日本の窓口にお問い合わせください。	Atermの電話帳に相手の電話番号を登録します。最大で30件まで登録できます。

お願い

電話機側で着信音をメロディに設定している場合は、なりわけできません。なりわけをご利用になる場合は、通常の着信音にしてください。

お知らせ

・INSなりわけでは、識別リンギング機能のほかに、以下の機能を利用できます。
　セキュリティ機能(☞ 3-80ページ)
　選択キャッチホン機能(☞ 3-90ページ)

・識別着信番号として登録した番号は、すべてのアナログポートで共用です。

・登録した番号と通知された番号は桁数の末尾から照合され、桁数の短い方と一致したときに着信を受け付けます。

設定 step 1 なりわけの方法を設定する

INSなりわけの識別リンギング(INSネット64)と疑似なりわけの、どちらを利用するかを設定します。ポートごとに設定できるので、ファクスにはなりわけを利用しないといった設定が可能です。

1 **らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する**

2 **[アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする**

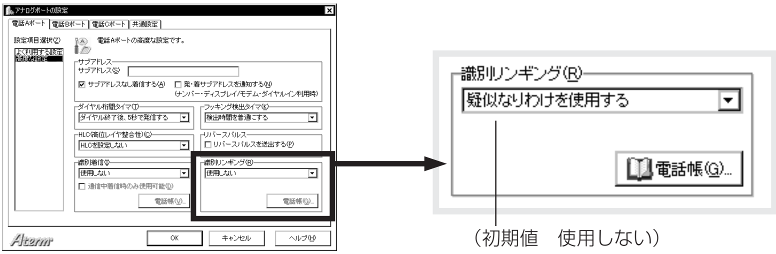
3 **[電話Aポート]／[電話Bポート]／[電話Cポート]タブをクリックする**

設定するポートのタブをクリックします。

4 **設定項目から[高度な設定]を選択する**

5 **識別リンギングの方法を設定する**

「INSなりわけを使用する」または「疑似なりわけを使用する」を選択します。



6 **[OK]ボタンをクリックする**

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

設定 step 2 電話番号を登録する

●INSなりわけ用の電話番号を登録する場合

INSなりわけ用の電話番号の登録は、電話機から行います。詳細はNTT東日本・NTT西日本の窓口にお問い合わせください。

●疑似なりわけ用の電話番号を登録する場合

疑似なりわけの場合、特別の着信音で鳴らす電話番号を疑似なりわけ用の電話帳に登録します。30件まで登録可能です。

1 らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する

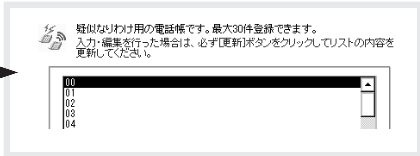
2 [電話帳機能の設定]ボタンをクリックする

3 [疑似なりわけ]タブをクリックする

4 一覧から空いている番号を選択する

一覧の中で空いている番号をクリックします。

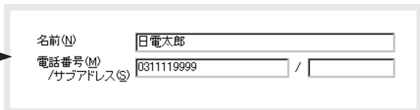




5 名前・電話番号・サブアドレスを入力する

1) 相手の名前を入力する
2) 電話番号(市外局番から)を入力する
3) 必要ならサブアドレスを入力する





6 [更新]ボタンをクリックする

7 続けてほかの番号を登録するときは、手順4〜6を繰り返す

8 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

電話機能 3 特定の相手からの着信音を変える(INSなりわけ識別リンギング/疑似なりわけ)

お願い

相手が自分の電話番号を通知しないで電話をかけてきた場合、電話帳に登録してあってもその相手をなりわけることはできません。

お知らせ

・登録済みの電話番号を変更したい場合、変更する番号を手順4で選択し、新しい電話番号に変更したあと、[更新]ボタンをクリックしてください。

・登録済みの電話番号を削除したい場合、削除する番号を手順4で選択したあと、[削除]ボタンをクリックしてください。

キャッチホンを受け付ける相手を限定する
（選択キャッチホン／疑似選択キャッチホン）

特定の相手から電話がかかってきた場合は、通話中でも割込音を鳴らしてお知らせします。ほかの相手からのキャッチホンは受け付けません。INSなりわけサービスの選択キャッチホン機能と、Atermの疑似選択キャッチホンがあります。

ポイント

相手の電話番号をあらかじめ登録しておきます。電話がくると、相手の電話番号を確認し、登録された電話番号と一致した場合のみ通話中でも着信させます。

☑ **INSなりわけ選択キャッチホン（INSネット64）／疑似選択キャッチホン（Aterm機能）の違い**

	INSネット64 INSなりわけサービス 選択キャッチホン機能	Aterm 疑似選択キャッチホン
追加契約	INSなりわけサービス INSキャッチホン	INSナンバー・ディスプレイ
追加料金	付加サービス使用料	付加サービス使用料
サービスの違い	Bチャネルを1本しか使わないため、空いているポートで通話や通信ができます。	B1・B2チャネルを両方使うため、キャッチホンが入ったときは、ほかのポートは使用できません。
利用条件	Atermは「スティミュラスプロトコル（キーパッドプロトコル）手順」をサポートしています。	・INSナンバー・ディスプレイの契約をしていない場合は、アナログ回線からの選択キャッチホンは受け付けられません。 ・ナンバー・ディスプレイに対応したアナログ通信機器が必要です。
その他	INSネット64に相手の電話番号を登録します。登録方法などについては、NTT東日本・NTT西日本の窓口にお問い合わせください。	Atermの電話帳に相手の電話番号を登録します。最大で30件まで登録できます。

お願い

選択キャッチホンと識別着信を同時に利用することはできません。

お知らせ

INSなりわけでは、選択キャッチホン機能のほかに、以下の機能を利用できます。
識別リンギング機能(☞3-85ページ)
セキュリティ機能(☞3-80ページ)

設定 step 1 キャッチホンの方法を設定する

INSなりわけ選択キャッチホンを利用するときは「INSキャッチホン」を、疑似選択キャッチホンを利用するときは「疑似キャッチホン」を設定します(☞3-46ページ)。

設定 step 2 識別着信の方法を設定する

INSなりわけサービスの選択キャッチホンを利用するときは「INSなりわけ識別着信」を、疑似選択キャッチホンを利用するときは「疑似識別着信」を設定します(☞3-80ページ)。

設定 step 3 電話番号を登録する

●INSなりわけ用の電話番号を登録する場合

INSなりわけ用の電話番号の登録は、電話機から行います。詳細はNTT東日本・NTT西日本の窓口にお問い合わせください。

●疑似選択キャッチホン用の電話番号を登録する場合

疑似選択キャッチホンの場合は、着信を許可する電話番号を、疑似識別着信用の電話帳に登録します。30件まで登録可能です。
登録方法は、「疑似識別着信用の電話番号を登録する場合」(☞3-83ページ)をお読みください。

迷惑電話をシャットアウトする
（迷惑電話おことわりサービス／迷惑電話防止）

迷惑電話やいたずら電話を着信させないようにします。登録しておけば、相手から電話がかかってきても、着信音が鳴りません。
INSネット64の迷惑電話おことわりサービスと、Atermの迷惑電話防止があります。

ポイント

☑ **迷惑電話おことわりサービス（INSネット64）／迷惑電話防止（Aterm機能）の違い**

	INSネット64 迷惑電話おことわりサービス	Aterm 迷惑電話防止
追加契約	迷惑電話おことわりサービス6／ 迷惑電話おことわりサービス30	INSナンバー･ディスプレイ
追加料金	付加サービス使用料	付加サービス使用料
サービスの違い	･迷惑電話がかかってきたときにすぐに登録します。 ･相手にはメッセージが流れます。 ･登録できる最大件数は、迷惑電話おことわりサービス6の場合は6件、迷惑電話おことわりサービス30の場合は30件です。	･迷惑電話がかかってきたときにすぐに登録する方法とあとから登録する方法があります。 ･相手には話中音が聞こえます。 ･登録できる最大件数は20件です。
利用条件	－	･INSナンバー･ディスプレイの契約をしていない場合は、アナログ回線からの着信を拒否することはできません。 ･相手が発信者番号通知をしていない場合、電話番号を登録していても迷惑電話防止機能は働きません。ただし、発信者番号を通知しない着信すべてを拒否することは可能です。 ･公衆電話や表示圏外からの電話を拒否することもできます。
その他	迷惑電話があったらすぐにINSネット64に登録する必要があります。登録方法などについては、NTT東日本･NTT西日本の窓口にお問い合わせください。	－

設定　迷惑電話おことわりサービスの場合

迷惑電話おことわりサービスの場合は、相手から電話があったらすぐに電話機から登録操作を行います。登録方法は、NTT東日本・NTT西日本の窓口にお問い合わせください。

設定　迷惑電話防止の場合(電話機から登録する)

相手から電話があったらすぐ登録する方法です。

1. **受話器をあげる**
2. **[＊][＊][5][2]を順に押す**

   「プーッ」と鳴ります。
3. **受話器を戻す**

お知らせ

- 「プップップッ」と鳴ったときはうまく登録されません。
- 迷惑電話の登録をすべて消去するには、受話器をあげて[＊][＊][5][9]を押します。

お願い

相手が電話番号を通知してこない場合も迷惑電話防止として登録されますが、非通知の理由が同じ電話はすべて拒否することになります。たとえば、相手が公衆電話からかけていた場合にこの操作をすると、ほかの人が公衆電話からかけた電話も受けつけなくなります。ご注意ください。

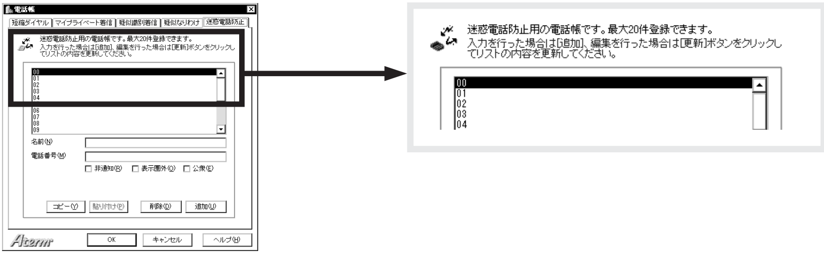
設定　迷惑電話防止の場合(らくらくアシスタントで登録)

相手の電話番号がわかる場合は、らくらくアシスタントから登録できます。

1. **らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する**
2. **[電話帳機能の設定]ボタンをクリックする**
3. **[迷惑電話防止]タブをクリックする**

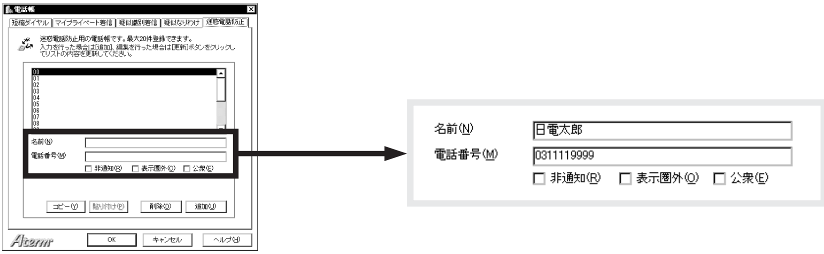
4 一覧から空いている番号を選択する

一覧の中で空いている番号をクリックします。



5 名前・電話番号を入力する

1) 相手の名前を入力する
2) 電話番号（市外局番から）を入力する



6 [追加]ボタンをクリックする

7 続けてほかの番号を登録するときは、手順4～6を繰り返す

8 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お願い

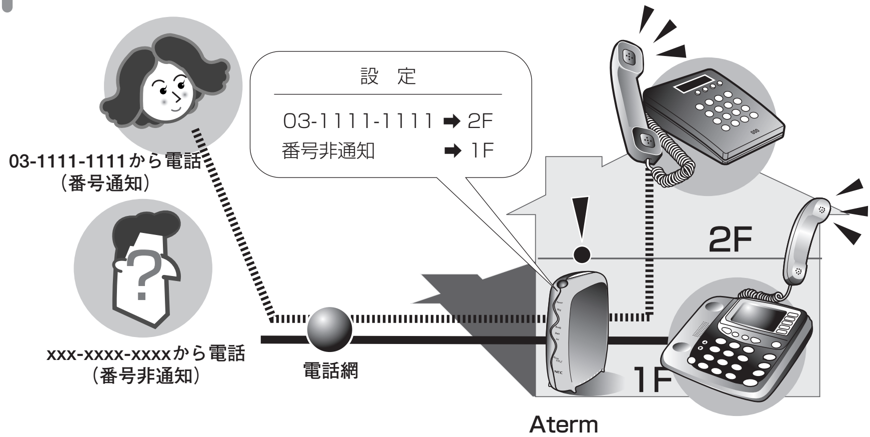
迷惑電話防止で電話番号を登録していても、相手が自分の電話番号を通知してこない場合は、迷惑電話防止機能は働きません。ご注意ください。

お知らせ

- 自分の電話番号を通知してこない電話の着信を拒否するときは、手順5で電話番号を入力する代わりに、「非通知」・「表示圏外」・「公衆」のいずれかをチェックしてください。「非通知」は自分の電話番号を通知しない着信、「表示圏外」は電話番号を通知できない地域や機種からの着信、「公衆」は公衆電話からの着信です。
- 登録済みの電話番号を変更したい場合は、手順4で変更する番号を選択し、新しい電話番号に変更したあと、[更新]ボタンをクリックしてください。
- 登録済みの電話番号を削除したい場合は、手順4で削除する番号を選択したあと、[削除]ボタンをクリックしてください。

相手によって着信させる電話機を指定する（マイプライベート着信）

職場からの電話は仕事部屋へ、子供の友達からの電話は子供部屋へと、かけてくる相手に応じて着信させる電話機を指定することができます。



ポイント

相手の電話番号と着信させるポートをあらかじめAtermに登録しておきます。電話がくると、相手の電話番号を確認し、登録されたポートに着信させます。

☑　**利用条件**

	マイプライベート着信
追加契約	INSナンバー･ディスプレイ
追加料金	付加サービス使用料
利用条件	･INSナンバー･ディスプレイの契約をしていない場合は、アナログ回線からの着信を識別することはできません。 ･識別着信を使用している場合、登録していない電話や電話番号を通知してこない電話には着信させません。
その他	－

設定 step 1 マイプライベート着信を設定する

マイプライベート着信を使用するように設定します。

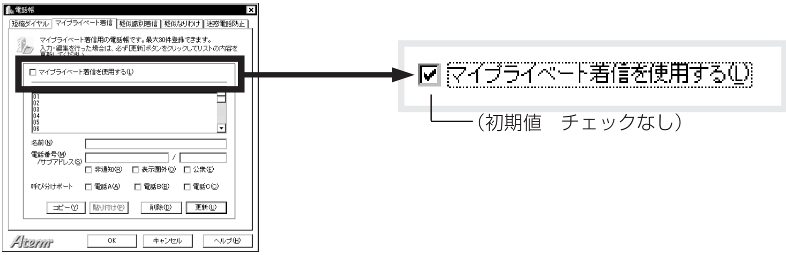
1 **らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する**

2 **[電話帳機能の設定]ボタンをクリックする**

3 **[マイプライベート着信]タブをクリックする**

4 **一覧から空いている番号を選択する**

「マイプライベート着信を使用する」をチェックします。



5 **[OK]ボタンをクリックする**

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

設定 step 2 マイプライベート着信用の電話番号を登録する

マイプライベート着信させる電話番号と着信ポートを登録します。30件まで登録可能です。

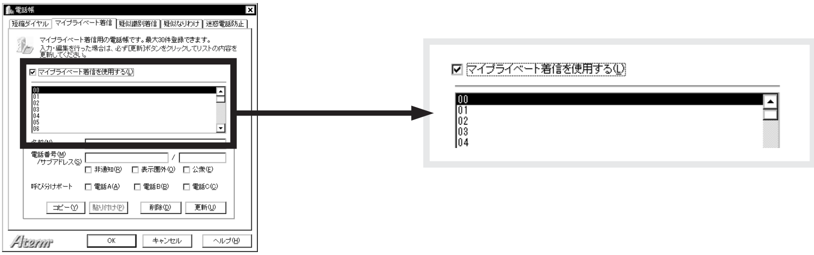
1 **らくらくアシスタントのメニュー画面を表示する**

2 **[電話帳機能の設定]ボタンをクリックする**

3 **[マイプライベート着信]タブをクリックする**

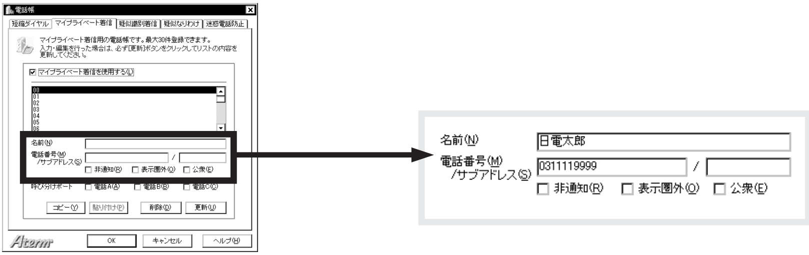
4 一覧から空いている番号を選択する

一覧の中で空いている番号をクリックします。



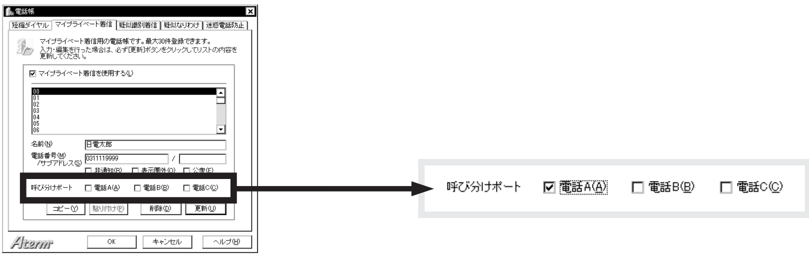
5 名前・電話番号・サブアドレスを入力する

1) 相手の名前を入力する
2) 電話番号（市外局番から）を入力する
3) 必要ならサブアドレスを入力する



6 ポートを選択する

着信させるポートをチェックします。



7 [更新]ボタンをクリックする

8 続けてほかの番号を登録するときは、手順4～7を繰り返す

9 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

お知らせ

- 発信者番号を通知してこない電話を受ける着信ポートを設定するときは、手順5で電話番号やサブアドレスを入力する代わりに、「非通知」・「表示圏外」・「公衆」のいずれかをチェックしてください。「非通知」は自分の電話番号を通知しない着信、「表示圏外」は電話番号を通知できない地域や機種からの着信、「公衆」は公衆電話からの着信です。
- 登録済みの電話番号を変更したい場合は、変更する番号を手順4で選択し、新しい電話番号に変更したあと、[更新]ボタンをクリックしてください。
- 登録済みの電話番号を削除したい場合は、削除する番号を手順4で選択したあと、[削除]ボタンをクリックしてください。
- i・ナンバーやダイヤルインサービスにより複数の電話番号をご利用の場合は、マイプライベート着信で登録したポートに割り当てられた着信電話番号を相手に伝えてください。これ以外の番号に電話をかけた場合は、マイプライベート着信になりません。

特定の電話だけを転送する（識別着信転送）

特定の相手からの電話だけを転送します。

ポイント

識別着信と着信転送を組み合わせて利用するもので、識別着信(INSなりわけ識別着信／疑似識別着信)で登録した相手からの電話のみを転送する機能です。転送方法には、着信転送または疑似着信転送を使います。

相手の識別の方法と転送の方法	INSなりわけサービスで相手を識別し､着信転送で転送する	INSなりわけサービスで相手を識別し､疑似着信転送で転送する	疑似識別着信で相手を識別し､疑似着信転送で転送する
追加契約	INSなりわけサービス 着信転送	INSなりわけサービス	INSナンバー･ディスプレイ
利用条件	着信させる電話番号をINSネット64に登録	着信させる電話番号をINSネット64に登録	着信させる電話番号をAtermに登録

設定

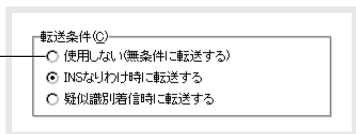
step 1　着信転送の設定をする

転送条件や転送元・転送先の電話番号など、INSなりわけ時転送または疑似識別着信転送の設定をします。

「着信転送または疑似着信転送を利用する場合」(3-70ページ)の設定をします。ただし、手順8で以下のいずれかを設定してください。

- INSなりわけサービスを利用する場合は、「INSなりわけ時に転送する」
- 疑似識別着信を利用する場合は、「疑似識別着信時に転送する」





(初期値)

step 2 疑似識別着信用の電話番号を登録する

Step1で「疑似識別着信時に転送する」を選択した場合は、「電話を受ける相手を限定する(INSなりわけ識別着信／疑似識別着信)」の「疑似識別着信用の電話番号を登録する場合」(☞3-83ページ)で設定します。

操作 識別着信転送を開始／停止する

でかけるボタンを1秒以上押して転送を開始します。

1 でかけるボタンを1秒以上押す

でかけるボタンがオレンジ色に点灯し、以降、登録している電話番号からの着信のみが転送されます。

2 転送を停止するときは、でかけるボタンをもう一度1秒以上押す

でかけるボタンが消灯します。

お知らせ

でかけるボタンを続けて操作するときは、1秒以上時間を空けてください。

通信料金を表示する

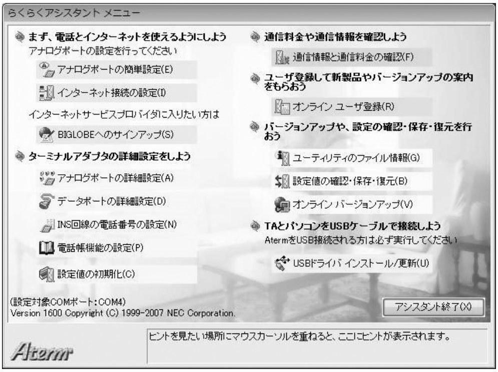
直前の通信料金と、今までにかけた通信料金の合計をポートごとに表示します。

ポイント

累積料金はいつでもクリアできます。クリアすると、再び0円からカウントされます。たとえば、毎月初めに累積料金をクリアして月ごとの料金の概算を知る、という使いかたができます。

操作

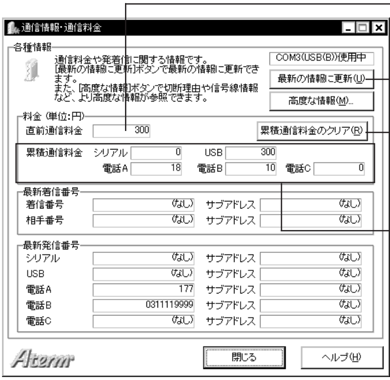
1 らくらくアシスタントを起動し、メニュー画面を表示する



（画面はWindowsの例）

2 [通信情報と通信料金の確認] ボタンをクリックする

直前の料金、各ポートの累積料金が表示されます。



直前の通信料金を表示します。

[最新の情報に更新]ボタンをクリックすると、最新の情報に更新できます。

[累積通信料金のクリア]ボタン

現在までの通信料金の累計を、ポートごとに表示します。

3 [閉じる]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

4 [アシスタント終了]ボタンをクリックする

お知らせ

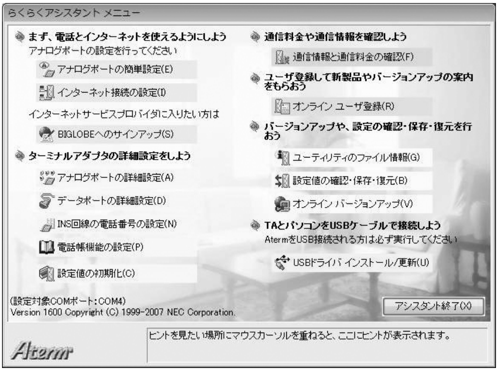
- 累積料金をクリアしたいときは手順2で[累積通信料金のクリア]ボタンをクリックし、確認メッセージが表示されたら[はい]ボタンをクリックします。
- 表示される累積料金は通話ごとにINSネット64から通知される料金を累積したものです。INSテレホーダイなどをご利用の場合、実際の請求額とは異なります。

その他の情報を表示する

直前の通話の電話番号、INSネット64側から通知された情報、回線状態など、Atermの現在の状態を表示します。

操作

1 らくらくアシスタントを起動し、メニュー画面を表示する



（画面はWindowsの例）

2 [通信情報と通信料金の確認] ボタンをクリックする

各種情報が表示されます。

[最新の情報に更新]ボタンをクリックすると、最新の情報に更新できます。

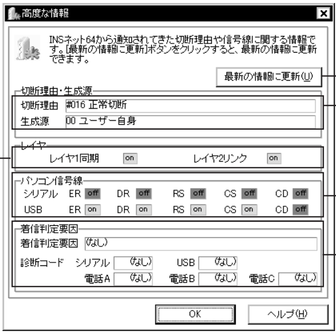


Atermがパソコンのどのポートに接続されているかを表示します。

直前の着信電話番号を表示します。

最後にかけた電話番号を、ポートごとに表示します。

3 [高度な情報]ボタンをクリックする



[最新の情報に更新]ボタンをクリックすると、最新の情報に更新します。

発信側のデータポートの切断理由と切断した場所を表示します。発信したが接続できなかった場合に、その原因を探ることができます。切断理由と生成源は、INSネット64から通知されたものです(☞「切断理由・診断情報・生成源表示一覧」6-6ページ)。

データポートの各信号線の状態を表示します。緑色のときはオン、灰色のときはオフです。

INSネット64のレイヤ1同期・レイヤ2リンクが正常に確立しているかを表示します。緑色なら正常、灰色なら異常です(☞「お困りのときには」5-3ページ)。

Atermが着信を拒否した理由を表示します。アナログポート・データポートに表示されるコードは診断情報です(☞「切断理由・診断情報・生成源表示一覧」6-6ページ)。

4 確認したら[OK]ボタンをクリックする

5 [閉じる]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

6 [アシスタント終了]ボタンをクリックする

お知らせ

各種情報を表示している間は通信できません。

Atermの設定内容を確認・記録する

Atermの設定内容を一覧形式で確認できます。パソコンを初期化するときや新しいパソコンにつなぎ換えるとき、またはAtermがうまく動作しないときにご利用ください(らくらくバックアップ)。

ポイント

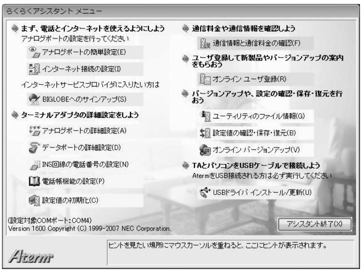
らくらくアシスタントを使うと、現在のAtermの設定内容の一覧を表示・印刷・保存できます。設定内容をパソコンのハードディスクにバックアップファイルとして保存しておくと、保存済みのバックアップファイルからAtermに設定内容を復旧することも可能です。

お知らせ

お使いのパソコンによって表示内容が異なる場合があります。

操作

1. らくらくアシスタントを起動し、メニュー画面を表示する
2. [設定値の確認・保存・復元]ボタンをクリックする



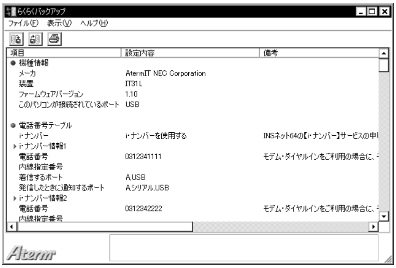
(画面はWindowsの例)

3 設定値の一覧が表示される

設定値を印刷するときは をクリックしてください(Windowsのみ)。印刷条件を指定し、[OK]ボタンをクリックすると印刷されます。

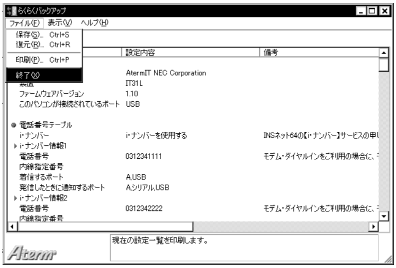
設定値をファイルに保存するときは、Windowsでは を、Macintoshでは[保存]ボタンをクリックしてください。ファイル名を指定し、[保存]ボタンをクリックすると、バックアップファイルが作成されます。

設定値を復元するときは、Windowsでは を、Macintoshでは[復元]ボタンをクリックしてください。設定値を保存したファイル名を指定すると復元されます。



(画面はWindowsの例です。また設定内容は一例です。)

4 メニューから[ファイル]ー[終了]を選択し、らくらくアシスタントのメニュー画面に戻る



(画面はWindowsの例です。また設定内容は一例です。)

5 [アシスタント終了]ボタンをクリックする

3

4. 電話機からのセットアップ

パソコンを使わない方はこちらへ

Aterm のさまざま機能を利用するためには、自分の電話番号などを Aterm に設定する必要があります。パソコンを使わない場合は、Aterm につないだ電話機を使って設定を行います。

電話機からの設定について 4-2

設定のしかた一覧 4-4

4

電話機からの設定について

電話機やファクスを使うためのさまざまな設定やAtermの初期化などの操作を、電話機のボタンを押して行います。各設定項目について詳しくは、「電話機能」(☞3-8ページ以降)を参照してください。

●電話機から設定できる項目一覧

らくらくテレホン設定

No.	機　　能	参照ページ
1	アナログポートの設定	☞4-4ページ
2	ナンバー･ディスプレイ	☞3-57ページ
3	キャッチホン	☞3-46ページ
4	キャッチホン･ディスプレイ	☞3-61ページ
5	ダイヤル桁間タイマ	☞3-13ページ
6	フッキング検出タイマ	☞3-11ページ
7	発信者番号通知	☞3-53ページ
8	i･ナンバー使用の設定	☞3-18ページ
9	各ポートに着信させるi･ナンバー情報	☞3-18ページ
10	各ポートから発信するときのi･ナンバー情報	☞3-53ページ
11	契約者回線番号、ダイヤルイン番号(自己アドレス)の設定	☞3-21ページ
12	各ポートに着信させる電話番号(自己アドレス)	☞3-21ページ
13	各ポートから発信する電話番号(自己アドレス)	☞3-53ページ
14	グローバル着信	☞3-21ページ
15	自己サブアドレス	☞3-38ページ

その他のテレホン設定

No.	機　　能	参照ページ
1	優先着信ポート	☞3-36ページ
2	情報通知サービス (モデム･ダイヤルイン／アナログ･ダイヤルイン)	☞3-26/30ページ
3	i･ナンバー利用時の内線指定番号	☞3-28/32ページ
4	ダイヤルインサービス利用時の内線指定番号	☞3-29/33ページ

お願い

パソコンをお持ちの場合は、らくらくアシスタントをお使いください。

その他の操作

機　　能	参照ページ
でかけるボタンをロックする／ロックを解除する [＊][＊][6][9]	☞3-67ページ
迷惑電話登録(直前の着信電話番号を迷惑防止用の電話帳に登録) [＊][＊][5][2]	☞3-92ページ
迷惑電話登録の全消去 [＊][＊][5][9]	☞3-92ページ
内線通話 [#][＊][電話ポート番号] [1] ：電話Aポート [2] ：電話Bポート [3] ：電話Cポート	☞3-42ページ
初期化 [＊][＊][9][8][＊]	☞5-12ページ
AtermのMsgランプ点滅を消灯する [＊][＊][0]	－

4 電話機からの設定について

設定

設定する項目によって押すボタンが異なります。次ページからの表を見て、該当する項目のボタンを順番に押してください。

例：電話Aポートで疑似キャッチホンを使う場合

1 **Atermにつないだ電話機の受話器をあげる**

2 [＊] [＊] [6] [＊] **を押す**

3 **機能番号を押す**

ここでは電話Aポートに設定するので[1] [2] [1]を押します。
確認音が「プー」と鳴ります。
この確認音は現在の設定内容を表しています。「プー」と1回鳴ると、現在の設定値が「1」、「プープー」と鳴ると、現在の設定値が「2」という意味です。
キャッチホンの場合、1回鳴ったら、「使用しない」に設定されています。

4 [＊] **を押す**

5 **設定内容を入力する**

ここでは疑似キャッチホンを設定するので[3]を押します。
確認音が「プープープー」と鳴ります。
この確認音は設定した内容を表しています。「プー」と1回鳴ると、「1」を設定した、「プープー」と鳴ると、「2」を設定したという意味です。

6 [#] **を押す**

設定が終了し「プーッ」と鳴ります。

7 **受話器を戻す**

お知らせ

- 途中で操作を間違うと、「プップップッ…」と鳴ります。この音が聞こえた場合は、いったん受話器を戻し、最初からやり直してください。
- 下記の機能では、設定する際に機能番号を押したとき、電話番号やサブアドレスが登録されていると、確認音が「プー」と1回鳴り、何も登録されていない場合には「プープー」と2回鳴ります。
  - 各ポートに着信させるi・ナンバー情報(No.9)
  - 各ポートから発信するときのi・ナンバー情報(No.10)
  - 契約者回線番号・ダイヤルイン番号(自己アドレス)の設定(No.11)
  - 各ポートに着信させる電話番号(自己アドレス)(No.12)
  - 各ポートから発信する電話番号(自己アドレス)(No.13)
  - 自己サブアドレス(No.15)
- 電話番号やサブアドレスは電話機の[0]～[9]ボタンを使って入力します。

設定のしかた一覧

Atermに接続した電話機の受話器をあげ、[＊][＊][6][＊]または[＊][＊][1][＊]、機能番号（[1][0][1]など）というように表の左側から順番にボタンを押します。機能番号、設定値のように選択肢がある場合は、いずれか1つを選択してください。

らくらくテレホン設定

No.	機能	開始操作	機能番号
1	アナログポートの設定＊1	[＊][＊][6][＊] →	[1][0][1]：電話Aポートに設定 [1][0][2]：電話Bポートに設定 [1][0][3]：電話Cポートに設定
2	ナンバー・ディスプレイ	[＊][＊][6][＊] →	[1][1][1]：電話Aポートに設定 [1][1][2]：電話Bポートに設定
3	キャッチホン	[＊][＊][6][＊] →	[1][2][1]：電話Aポートに設定 [1][2][2]：電話Bポートに設定 [1][2][3]：電話Cポートに設定
4	キャッチホン・ディスプレイ	[＊][＊][6][＊] →	[1][3][1]：電話Aポートに設定 [1][3][2]：電話Bポートに設定
5	ダイヤル桁間タイマ	[＊][＊][6][＊] →	[2][1][1]：電話Aポートに設定 [2][1][2]：電話Bポートに設定 [2][1][3]：電話Cポートに設定
6	フッキング検出タイマ	[＊][＊][6][＊] →	[2][2][1]：電話Aポートに設定 [2][2][2]：電話Bポートに設定 [2][2][3]：電話Cポートに設定
7	発信者番号通知	[＊][＊][6][＊] →	[2][3][1]：電話Aポートに設定 [2][3][2]：電話Bポートに設定 [2][3][3]：電話Cポートに設定
8	i・ナンバー使用の設定	[＊][＊][6][＊] →	[9][0][0]
9	各ポートに着信させるi･ナンバー情報＊2	[＊][＊][6][＊] →	[7][1][1]：電話Aポートに設定 [7][1][2]：電話Bポートに設定 [7][1][3]：電話Cポートに設定
10	各ポートから発信するときのｉ･ナンバー情報＊2	[＊][＊][6][＊] →	[7][2][1]：電話Aポートに設定 [7][2][2]：電話Bポートに設定 [7][2][3]：電話Cポートに設定

＊1　ファクス付き電話機の場合、設定値は [2]（ファクスまたはモデムを接続する）になります。

No.1～8の機能の初期値は、設定内容に下線を引いて示しています。

設定値：設定内容	終了操作
→ [＊] → [1]：電話機を接続する → [#] [2]：ファクスまたはモデムを接続する [3]：使用しない	
→ [＊] → [1]：使用しない → [#] [2]：使用する	
→ [＊] → [1]：使用しない → [#] [2]：INSキャッチホン [3]：疑似キャッチホン	
→ [＊] → [1]：使用しない → [#] [2]：使用する	
→ [＊] → [1]：5秒 [3]：11秒 → [#] [2]：9秒 [4]：13秒	
→ [＊] → [1]：0.03秒～1秒 → [#] [2]：0.3秒～1秒 [3]：0.5秒～1.5秒	
→ [＊] → [1]：通知しない → [#] [2]：通知する [3]：INSネット64の申込内容に従う	
→ [＊] → [1]：使用しない → [#] [2]：使用する	
→ [＊] → [1]：i·ナンバー情報1 → [#] [2]：i·ナンバー情報2 [3]：i·ナンバー情報3 1つのポートに複数の電話番号を設定する場合は、[1][2][3]のように続けて入力します。	
→ [＊] → [1]：i·ナンバー情報1 → [#] [2]：i·ナンバー情報2 [3]：i·ナンバー情報3	

＊2　発信者番号通知（No.7）を「通知する」、i・ナンバー使用の設定（No.8）を「i・ナンバーを使用する」に設定してください。

No.	機能	開始操作	機能番号
11	契約者回線番号、ダイヤルイン番号（自己アドレス）の設定*3	[受話器] [＊][＊][6][＊] →	[8][0][0]：契約者回線番号 [8][0][1]：ダイヤルイン1 〜：〜 [8][0][7]：ダイヤルイン7
12	各ポートに着信させる電話番号（自己アドレス）*3・*4	[受話器] [＊][＊][6][＊] →	[8][1][1]：電話Aポートに設定 [8][1][2]：電話Bポートに設定 [8][1][3]：電話Cポートに設定
13	各ポートから発信する電話番号（自己アドレス）*3・*4 *5	[受話器] [＊][＊][6][＊] →	[8][2][1]：電話Aポートに設定 [8][2][2]：電話Bポートに設定 [8][2][3]：電話Cポートに設定
14	グローバル着信*3	[受話器] [＊][＊][6][＊] →	[8][4][0]
15	自己サブアドレス	[受話器] [＊][＊][6][＊] →	[9][3][1]：電話Aポートに設定 [9][3][2]：電話Bポートに設定 [9][3][3]：電話Cポートに設定

＊3　i・ナンバー使用の設定（No.8）が「i・ナンバーを使用する」になっていると設定できません。
＊4　契約者回線番号・ダイヤルイン番号（自己アドレス）の設定（No.11）が済んでいないと設定できません。
＊5　発信者番号通知（No.7）を「通知する」に設定してください。

	設定値：設定内容	終了操作
→ [＊] →	電話番号（32桁まで） → [#] ここで電話番号を入力せずに次の [#] を押すと、それまで設定されていた値がクリアされます。	
→ [＊] →	[0]：契約者回線番号 → [#] [1]：ダイヤルイン番号1 ～：～ [7]：ダイヤルイン番号7 1つのポートに8件まで指定可能。例えば契約者回線番号とダイヤルイン1の両方を指定するとき（複数の番号を指定するとき）は、[0] [1] のように続けて入力してください。 また、ポートに着信番号を割り当てない場合は、設定値（[0]～[7]）は入力しません。	
→ [＊] →	[0]：契約者回線番号 → [#] [1]：ダイヤルイン番号1 ～：～ [7]：ダイヤルイン番号7	
→ [＊] →	[1]：着信する → [#] [2]：着信しない	
→ [＊] →	サブアドレス（19桁まで） → [#]	

その他のテレホン設定

No.	機能	開始操作	機能番号
1	優先着信ポート*6	＊＊1＊ →	4＊23：優先着信ポートを選択
2	情報通知サービス*7	＊＊1＊ →	1＊10：電話Aポートに設定 2＊10：電話Bポートに設定
3	i・ナンバー利用時の内線指定番号	＊＊1＊ →	5＊901：i・ナンバー情報1 5＊902：i・ナンバー情報2 5＊903：i・ナンバー情報3
4	ダイヤルインサービス利用時の内線指定番号	＊＊1＊ →	4＊80：契約者回線番号 4＊81：ダイヤルイン番号1 4＊82：ダイヤルイン番号2 4＊83：ダイヤルイン番号3 4＊84：ダイヤルイン番号4 4＊85：ダイヤルイン番号5 4＊86：ダイヤルイン番号6 4＊87：ダイヤルイン番号7

＊6　アナログポートの設定で「使用しない」に設定したアナログポートは選択できません。
＊7　モデム・ダイヤルインまたはアナログ・ダイヤルイン使用時の内線指定番号の設定をすることができます（☞ No.3，No.4）。

各機能の初期値は、設定内容に下線を引いて示しています。

設定値：設定内容	終了操作
→ [＊] → [0]：優先なし → [#][#] [1]：電話Aポートを優先 [2]：電話Bポートを優先 [3]：電話Cポートを優先	
→ [＊] → [0]：使用しない → [#][#] [1]：ナンバー・ディスプレイ＊8 [2]：モデム・ダイヤルイン [3]：アナログ・ダイヤルイン [4]：ナンバー・ディスプレイ&モデム・ダイヤルイン	
→ [＊] → i・ナンバー情報の電話番号 [#][＊] 内線指定番号（4桁以内） → [#][#]	
→ [＊] → 契約者回線番号またはダイヤルイン番号(追加番号) [#][＊] 内線指定番号（4桁以内） → [#][#]	

＊8 らくらくテレホン設定のナンバー･ディスプレイで設定することもできます(☞4-4ページNo.2)。

4 設定のしかた一覧

5. お困りのときには

Atermがうまく動かない、操作しても違う結果になる・・・。
こんなときにお読みください。

トラブルシューティング 5-2

Atermを購入時の状態に戻す（初期化）.......................... 5-12

Atermが故障していないか確認する（自己診断）........... 5-15

Windows Vista™ は、Windows Vista™ Home Basic、Windows Vista™ Home Premiumの各日本語版かつ32ビット(x86)版の略です。
Windows® XPは、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft® Windows® XP Professional operating system の略です。
Windows® 2000はMicrosoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
Windows® MeはMicrosoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
Windows® 98はMicrosoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows® 95はMicrosoft® Windows® 95 operating systemの略です。
WindowsNT® 4.0はMicrosoft® WindowsNT® operating system version 4.0の略です。

トラブルシューティング

トラブルが起きたときや疑問点があるときは、まずここを読んで対処してください。該当項目がない場合や対処をしても問題が解決しない場合は、Atermを初期化し(☞5-12ページ)、初めから設定し直してみてください。販売店またはインフォメーションセンター(☞別紙または裏表紙)でも問い合わせにお応えしております。
なお、Atermをパソコンに接続してお使いの方は、添付CD-ROMに収録されている『お困りのときには』も合わせてご利用ください。

- 設置に関するトラブル ☞本ページ
- 電話に関するトラブル ☞5-4ページ
- ファクス、ファクス付き電話機に関するトラブル ☞5-8ページ
- モデム通信(アナログポート)に関するトラブル ☞5-9ページ
- その他のトラブル ☞5-10ページ

■ 設置に関するトラブル ■

症状		原因と対策
電源を入れたとき	Powerランプが点灯しない	電源が入っていません。 ●電源コードがはずれている →電源コードを壁の電源コンセントに差し込んでください。 ●電源スイッチが入っていない →電源スイッチの[I](オン)側を押してください。 ●電源コードがパソコンのコンセントに差し込まれている →電源は壁の電源コンセントに差し込んでください。パソコンの電源が切れるとAtermの電源も切れてしまいます。また、Atermに電池を入れている場合、パソコンの電源を切ると停電モードになり、電池が消耗します。
	Powerランプが点灯し、しばらくすると赤く点滅する	フラッシュROMに書かれているプログラム(ファームウェア)が消えています。Atermをバージョンアップしてください(☞『データ通信ガイド』「5.Atermのその他の機能」)。
	Msgランプが点滅している	●BIGLOBEのメール着信通知サービスに加入している場合は、電子メールが届いたことをお知らせしています。 ●UUIメールが届いたことをお知らせしています。『UUIメールEX』を使って消灯させることができます。または、電話機の受話器を上げて、[＊][＊][0]とダイヤルすると消灯します。
	通信していないのにDataランプが点灯する	●DOS/V機などを使用している場合で、誤ってパソコンのプリンタポート(25ピンコネクタ)に接続している →接続しているパソコンのコネクタがCOMポート(シリアルポート)かどうか、パソコンの取扱説明書で確認してください。

症状		原因と対策
電源を入れたとき	通信していないのにDataランプが点灯する	●一部のパソコンでは、パソコンの電源を切ってもSD信号を出している機種があります →パソコンの電源コードを抜けば消えます。通信中に支障がなければそのままお使いください。
	通信していないのにDataランプがほんのり点灯する	お使いのパソコンがPC98-NX Mate(Windows2000)の場合、通信していないときでもDataランプが暗く点灯しますが、故障ではありません。
	Actランプが赤く点滅する	INSネット64とAtermの間で基本的なやりとり(レイヤ1同期)ができていない ●INS回線ケーブルがはずれている →Atermと回線コンセント(またはローゼット)をAtermに添付のケーブルで接続してください。 ●回線の極性が反転している →背面のINS回線リバーススイッチを反対側に切り替えてください。 ●INSネット64への切り替えが完了していない →INSネット64への切り替えが完了しているかNTT東日本・NTT西日本に確認してください。 ●電話回線にガスの自動検針器が接続されている(アナログ回線から変更した場合) →ガス供給業者に問い合わせ、接続されている場合は撤去してもらってください。 INSネット64とAtermの間で基本的なやりとり(レイヤ2同期)ができていない ●電話回線にガスの自動検針器が接続されている(アナログ回線から変更した場合) →ガス供給業者に問い合わせ、接続されている場合は撤去してもらってください。 ●Atermが故障している →自己診断(☞5-15ページ)を行い、Atermが故障していないか確認してください。自己診断の結果が正常な場合は、NTT東日本・NTT西日本にご相談ください。
	通信していないのにReadyランプが点灯する	この現象は、お使いのパソコンがPC98-NX Mate/PC98-NX Versa Pro(Windows2000)の場合に報告されています。この状態で着信があるとAtermが自動応答してしまいます。以下の設定を行ってください。 →ハイパーターミナルを起動し、「ats0=0」を入力してください(☞『ATコマンド解説』)。
本商品添付のCD-ROM(ユーティリティ集)をパソコンにセットしたとき	メインメニュー画面を表示したくない	CD-ROMをセットすると、メインメニュー画面が表示されるように設定されています →表示したくない場合は、以下のどちらかの方法でメニューを消してください。 ・不要な場合はメニューの[終了]をクリックします。 ・WindowsMe/98/95/2000の場合、Shiftキーを押しながらCD-ROMをセットします。

症状		原因と対策
本商品添付のCD-ROM(ユーティリティ集)をパソコンにセットしたとき	メニュー画面を表示したくない	･WindowsMe/98/95の場合、CD-ROMを入れたときに最初の画面が表示されないようにできます(Atermだけでなく、ほかのCD-ROMでも表示されなくなります)。 1) [コントロールパネル]の[システム]をダブルクリックする 2) [デバイスマネージャ]タブの[CD-ROM]をダブルクリックする 3) 使用するCD-ROMドライブをクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックする 4) [設定]タブをクリックする 5) [オプション]の[自動挿入]または「挿入の自動通知」のチェックをはずす 6) [OK]ボタンをクリックし、WindowsMe/98/95を再起動する
落雷に対する対策をしたい		回線や電源コードから入り込むノイズ(雷など)から装置を保護するために、アース線の接続をお勧めします。アース線は別途ご用意ください。また、ケーブルは絶対に屋外に出さないように配線してください。なお、落雷などの天災地変による故障の場合は、保障期間内でも有料修理となりますのであらかじめご了承ください。

■ 電話に関するトラブル ■

症状		原因と対策
電話をかけるとき	受話器を上げても音がしない	●Atermの電源が入っていない →電源コードを壁の電源コンセントに差し込んでください。 →電源スイッチの[I](オン)を押した状態にしてください。 →電源コードをパソコンのコンセント(サービスコンセント)に差し込んでいる場合は、壁の電源コンセントに接続し直してください。 ●Atermと電話機が正しく接続されていない →Atermのアナログポートと電話機の回線(LINE)コネクタを電話機に添付されているケーブルで接続してください。
	受話器を上げると「プープープー」という音がする	●INSネット64とAtermの間で基本的なやりとり(レイヤ1同期)ができていない →「電源を入れたとき」「Actランプが赤く点滅する」の欄を参照し、同様の対処を行ってください。 ●アナログポートを「使用しない」にしている →アナログポートを使用可能にします。

症状		原因と対策
電話をかけるとき	受話器を上げると「プープープー」という音がする	受話器を上げて[＊][＊][6][＊][1][0][ポート番号][＊][接続機器の種別][#]と押し、受話器を戻します。 ポート番号　接続機器の種別 1:電話Aポート　1:電話 2:電話Bポート　2:FAX／モデム 3:電話Cポート
	電話をかけることができない	●電話機の設定がトーン(PB)になっていない →電話機の取扱説明書を参照して、ダイヤル方式をトーン(PB)へ切り替えてください。 ●疑似キャッチホン、疑似着信転送、疑似三者通話中である →疑似キャッチホン、疑似着信転送、疑似三者通話中は、Bチャネルを2つ使用するので別の電話はかけられません。 ●128kbpsマルチリンクPPP通信をしている →128kbpsマルチリンクPPP通信中はBチャネルを2つ使用するので、電話はかけられません。「リソースBOD」の設定とINSネット64契約「通信中着信通知」の契約を行い、電話をかけられるようにすることをお勧めします。 ●データポート(シリアルポート/USBポート)を使ってマルチアクセスしている →マルチアクセス中は、Bチャネルを2本使用しているので電話はかけられません。
	[#]を含む電話番号をかけることができない	●初期状態では、[#]をダイヤルすると発信するように設定されています。 →らくらくアシスタントで[#]で発信しないようにするか、または2回続けて[#]を押すと発信するように設定を変更します。
	電話をかけたときに、相手とつながるまでの時間が長くかかる	ダイヤル桁間タイマが働いて、最後にダイヤルしてから発信するまで5秒以上かかっている →ダイヤル後、電話機の[#]を押すとすぐに発信します。
	ACR機能付き電話機を使用したときに、電話がつながらない	ACR機能付き電話機を使用しているとダイヤルしている途中で発信する →ダイヤル桁間タイマを5秒(初期状態)より長くします。 受話器を上げて[＊][＊][6][＊][2][1][アナログポート番号][＊][時間][#]と押し、受話器を戻します。 アナログポート番号　時間 1:電話Aポート　1:5秒 2:電話Bポート　2:9秒 3:電話Cポート　3:11秒 4:13秒

症状		原因と対策
電話がかかってきたとき	着信音が短く鳴り、受話器を上げると切れてしまう、ファクスの信号のような音がする	ナンバー・ディスプレイ、モデム・ダイヤルイン、アナログ・ダイヤルイン対応の電話機を接続していないのにも関わらず、ナンバー・ディスプレイ、モデム・ダイヤルイン、アナログ・ダイヤルインの設定をしている →上記サービスを「使用しない」に設定してください。
	着信音が鳴っているが、受話器を上げたのに通話できない。または電話をかけて相手が応答すると電話が切れる	電話機に秘話回路を内蔵している →秘話回路とはブランチ接続（1つのアナログポートに複数台の電話機が接続されること）されている電話機のうちの1台が使用中は、他の電話機に通話内容が聞こえないようにする回路です。ブランチ電話機使用中の検出電圧が高いと、秘話回路が働くことがあります。電話機の取扱説明書を参照して、秘話回路を使用しないように設定してください。
	電話がかかってきても着信音が鳴らない	着信音が鳴らない原因はさまざまですが、設定に誤りがあることがあります。以下の設定を確認してください。なお、購入時は、すべてのアナログポートが呼び出される（＝着信音が鳴る）ように設定されていて、設定によって着信する条件が追加されます。Atermをいったん購入時の状態に戻し、呼び出されることを確認してから再度設定すると、設定の誤りを見つけやすくなります。ただし、設定した内容（電話番号など）はすべて無効になりますのでご注意ください。
	電話がかかってきても着信音が鳴らない （続く）	「Atermを購入時の状態に戻す」（☞5-12ページ） ●お出かけ設定（電話着信転送モード、ボイスワープ転送モード、フラッシュモード）が設定されている →フラッシュモードが設定されていると、でかけるボタンがオレンジ色に点滅して着信を知らせますが、電話機の着信音は鳴りません。電話着信転送モード（着信転送、疑似着信転送）またはボイスワープ転送モードが設定されていて、設定した転送条件が一致したときは、着信音を鳴らさずに転送します。着信音を鳴らして電話をとりたいときはお出かけ設定を解除してください。 ●i・ナンバーまたはダイヤルイン番号の呼び分けがうまくいかない →i・ナンバーまたはダイヤルイン番号をもう一度正しく設定し直してください。 「i・ナンバー」（☞3-18ページ） 「ダイヤルインサービス」（☞3-21ページ） ●ダイヤルイン契約している場合は、グローバル着信の設定が間違っている →INSネット64で契約した「グローバル着信を利用する／利用しない」の内容と、Atermの設定内容を合わせてください。

症状		原因と対策
電話がかかってきたとき	（続き）	●優先着信ポートが指定されている →優先着信指定されたアナログポートが空いているときは、そのアナログポートだけが呼び出され、ほかのポートには着信しません。優先着信の必要がないときは、指定しないでください。 ●識別着信（INSなりわけ、疑似識別着信）が設定されている →識別着信が設定されていると、登録した相手から以外は着信しなくなります。必要がないときは、識別着信を設定しないでください。 ●サブアドレスが違っている →相手側（INSネット64加入者）が指定したサブアドレスが、自分側のAtermに設定されているサブアドレスと違っています。サブアドレスを使用しないときは、サブアドレスに何も入力せず、「サブアドレスなし着信する」を設定してください。 ●HLC（高位レイヤ整合性）が一致しない →相手側（INSネット64加入者）が設定したHLCが、自分側のAtermに設定されているHLCと違っています。「HLCを設定しない」にしてください。
	電話機とファクスをつないでいるが、ファクスが先に応答してしまい、電話機で電話を取れない	●電話番号が1 つしかない →ｉ·ナンバーやダイヤルインサービスの契約をお勧めします。1 つの電話番号だけを使う場合、電話機とファクスを接続すると、電話がかかってきたとき先にファクスが応答し、電話機では電話を受けることができなくなります。また、ファクスで電話を受けても、ファクスが電話に切り替える間、相手に余計な通話料がかかってしまいます。 ●電話話機の受話器を上げる前にファクスが自動応答している。 →ファクスの取扱説明書を参照して、自動応答するまでの呼び出し回数を多くします。
その他のとき	留守番電話機などで相手が受話器を置いても電話が切れない	留守番電話機が回線切断時のリバースパルスを検出して切断するしくみになっている →相手切断時にAtermからリバースパルスを出すように設定します。 1) らくらくアシスタントを起動する 2) ［アナログポートの詳細設定］ボタンをクリックする 3) 留守番電話機を接続しているポート（電話Aポートまたは電話Bポート、電話Cポート）のタブをクリックする 4) ［高度な設定］を選択し、「リバースパルスを送出する」をチェックする

症状		原因と対策
その他のとき	電話を転送できない	●携帯電話やPHSの電源が切れているか、圏外になっている →携帯電話やPHSが使用できることを確認してください。 ● i·ナンバーを契約しているのに、「i·ナンバーを使用しない」設定になっている →i·ナンバーを契約している場合は、「i·ナンバーを使用する」を設定してください。
	使用中ランプ表示付き電話アクセサリが使用できない	Atermでは、使用中ランプ表示付き電話アクセサリは使用できません。
	停電時に電話が使えない	停電用の電池がセットされていません。 →停電時にも電話が使えるようにするには、電池ホルダーに停電用のアルカリ乾電池をセットしておきます(☞6-2ページ)。電池をセットしておくと、電源が切れたときにAterm は自動的に停電モードに入ります。停電モードでは、電話A ポートに接続した電話機を使うことができます。ただし、お客様の環境によっては使用できないこともあります。

■ ファクス、ファクス付き電話機に関するトラブル ■

症状		原因と対策
ファクス通信ができない	ファクス通信ができない	電話が使えないときの症状が当てはまる場合があります。対策は、ファクスの場合でも同じです。「電話が使えない」の欄を参照してください。 ●相手のファクスがG4タイプのファクスである →アナログポートに接続したファクスは、G3モードに対応していないG4タイプのファクスとは通信できません。 ●ファクスの回線種別を自動選択する機能がONになっている →INSネット64に接続したターミナルアダプタでは、ファクスの回線種別を自動選択する機能は使用できません。ファクスの取扱説明書を参照して、回線種別のトーン(PB)を手動で設定してください。 ●データポートからはファクス通信できません →アナログポートに接続してご使用ください。
	ファクスに着信できない (続く)	●アナログポートの接続機器が「電話機」に設定されている →「ファクスまたはモデム」に設定します。 受話器を上げて [*] [*] [6] [*] [1] [0] [ポート番号] [*] [2] [#] と押し、受話器を戻します。 ポート番号 1:電話Aポート 2:電話Bポート 3:電話Cポート

症状		原因と対策
ファクス通信ができない	（続き）	●Fネットの無鳴動着信機能を利用している →無鳴動着信を行うには、アナログポートから特殊な周波数をファクスに出さなければなりません。Atermは対応していないため、無鳴動着信を利用できません。
	実際には着信していないのにファクスに自動着信することがある、またはファクスから発信できない	ノイズにより誤って無鳴動着信をしている →パソコンを接続している場合、パソコンにもアース線を接続してください。 →ファクスの設定を無鳴動着信しないように変更してください。
	ファクスで発信しても相手から切断される	相手側のターミナルアダプタの設定が誤っている →相手側のターミナルアダプタの設定を確認してもらってください。

■ モデム通信（アナログポート）に関するトラブル ■

症状		原因と対策
モデム通信できない、速度が遅い	モデム通信できない	●「電話が使えない」の「受話器を上げると「プープープー」という音がする」の欄を参照し、同じ対策を行ってください。 ●パソコン上のモデムの設定がトーン(PB)になっていない →モデムの取扱説明書を参照して、ダイヤル方式をトーン(PB)へ切り替えてください。 ●Atermの受話音量がモデムと合わない →受話音量を「小」または「大」に変更してみてください。 ●モデムがダイヤルトーンを検出できていない →モデムの取扱説明書をご覧になり、パソコン上のモデムの設定を「ダイヤルトーンを無視する」にしてください。 ●モデムをデータポートに接続している →データポートではモデム通信はできません。アナログポートに接続してください。
	モデムの速度が遅い	●回線が込み合っている →回線状態によっては、通信スピードが上がらない場合があります。一度切断してから再度通信してみてください。 ●モデムの送出レベルが低い →モデムの取扱説明書を参照して、モデムの送出レベルを上げてください。

■ その他のトラブル ■

症状		原因と対策
Atermが正常に動作しないが、原因がわからない		Atermが正常に動作しない場合、設定に誤りがあることが多いようです。現在の設定内容の一覧を表示したり、プリントして確認してみてください。 「Atermの設定内容を確認·記録する」(☞3-106ページ) どうしても動作しない場合は、購入時の状態に戻し、最初から設定し直す方法もあります。 「Atermを購入時の状態に戻す」(☞5-12ページ)
料金がおかしい	累積料金と実際の電話料金が異なる	●「INSタイムプラス」、「INSテレホーダイ」、「i·アイプラン」·「フレッツ·ISDN」などのサービスに加入していたり、PHS網など他事業者経由で通信を行っている →累積料金と実際の請求額は異なります。Atermでは切断時に網から通知された金額をそのまま表示し、累積料金として計算しています。また、PHS網やNCC網などの他事業者と通信を行うと、料金情報がネットワークから送出されないため、累積料金と実際の請求額が異なることになります。 ●Atermの電源を切る、または初期化した →累積料金は、Atermの電源を切ったり、初期化したりすると、0円や前回保存した値に戻ってしまいます。また、らくらくアシスタントなどで累積料金を表示したあとに設定値を保存すると、表示されていた累積料金の値も保存されます。
電源を切ったとき	Readyランプが消えない	一部のパソコンでは、パソコンの電源を切ってもER信号がOFF(オフ)にならない →このままでは、通信が切断されない場合があります。Readyランプは、パソコンの電源コンセントを抜けば消えますが、通信は切断されない場合があります。Actランプ、Dataランプも点灯したままでいるときは、AtermとINSネット64を接続しているケーブルを抜いて、30秒程待ってから再び差してください。これで通信が切断されます。
	でかけるボタンを押しても、お出かけ設定できない(でかけるボタンが点灯しない)	でかけるボタンがロックされています。 1)Atermにつないでいる電話機の受話器をあげる 2) [＊] [＊] [6] [9] を押す 「ピッピッ」と鳴ってロックが解除されます。 3)受話器を戻す

症状		原因と対策
停電時に動作しない	Powerランプが点滅しない	●Atermの電源スイッチがOFF[○]になっている →電源スイッチが[I](オン)を押した状態でないと停電モードが使えません。[I](オン)にしてください。 ●単3アルカリ乾電池がセットされていない、または＋－を間違えてセットしている →市販の単3アルカリ乾電池を正しくセットしてください。 ●単3アルカリ乾電池の容量がなくなっている →電池を交換してください。
	電話をかけることができない	電話Bポート電話Cポートに電話機を接続している →停電時に使用できるアナログポートは電話Aポートだけです。電話機を電話Aポートに接続してください。
	電池がすぐになくなる	●電話Bポート電話Cポートの電話機の受話器を上げている →受話器を置いてください。 ●S点ユニットに他のISDN通信機器を接続している →S点ユニットにも給電されるので、S点ユニットを使用していると使用時間が短くなります。
購入したときの状態に戻したい、Atermの設定を最初からすべてやり直したい		Atermの設定値を購入時の状態に戻します。ただし、今までで設定した内容は無効になりますのでご注意ください。 「Atermを購入時の状態に戻す」(☞5-12ページ)
海外で使用したい		AtermシリーズはI日本国内のISDN(INSネット64)で使用することを前提としているため、海外では使用できません。

Atermを購入時の状態に戻す(初期化)

初期化とは、Atermに設定した内容を消去して購入時の状態に戻すことをいいます。今までとは違う回線を使う場合やAtermがうまく動作しない場合は、Atermを初期化して初めから設定し直すことをおすすめします。

ポイント

初期化の方法には下記の3通りがあります。操作方法は次ページ以降をご覧ください。

● らくらくアシスタントで初期化する

らくらくアシスタントを使う方法では、着信番号・通知番号・電話帳・自己サブアドレス・内線指定番号・着信転送電話番号・累積通信料金・受話音量設定値の各情報を残したまま初期化することができます。

● 電話機から初期化する

● ディップスイッチで初期化する

初期化する前に、現在の設定内容を保存しておくことができます(☞3-106ページ)。

お知らせ

・ATコマンドを使用して初期化することもできます。詳しくは、添付CD-ROM『ATコマンド』を参照してください。

操作 らくらくアシスタントで初期化する

1 らくらくアシスタントを起動する

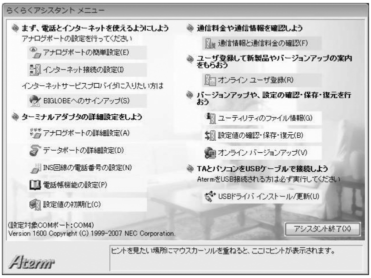
●Windowsをお使いの方

[スタート]（Windowsのロゴ）ボタンをクリックし、[プログラム]（Windows Vista/WindowsXPでは[すべてのプログラム]）-[AtermIT21Lユーティリティ]または[AtermIT31Lユーティリティ]-[Atermらくらくアシスタント]を選択する

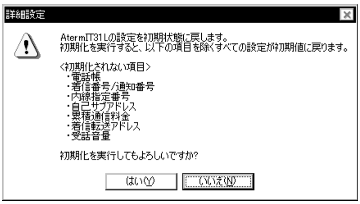
●Macintoshをお使いの方

[Macintosh HD]アイコンをダブルクリックし、[AtermIT21Lユーティリティ]または[AtermIT31Lユーティリティ]フォルダの中の[Atermらくらくアシスタント]アイコンをダブルクリックする

2 メニュー画面の[設定値の初期化]ボタンをクリックする

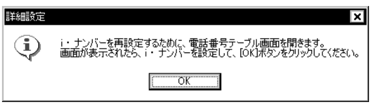


3 [はい]ボタンをクリックする

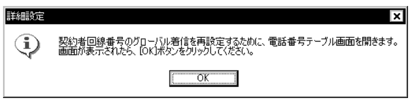


4 [OK]ボタンをクリックする

● i・ナンバーを使用する場合



● i・ナンバーを使用しない場合



5 電話番号を再設定する

6 [OK]ボタンをクリックする

らくらくアシスタントのメニュー画面に戻ります。

7 [アシスタント終了]ボタンをクリックする

操作 電話機から初期化する

1 Atermにつないだ電話機の受話器をあげる

2 [＊] [＊] [9] [8] [＊] を押す

3 受話器を戻す

操作 ディップスイッチで初期化する

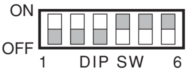
ディップスイッチを使って初期化を行います。ディップスイッチは電池ケースの中にあります。

1 Atermの電源を切る

2 電池カバーを開け、電池が入っている場合は電池を抜き出す

3 ディップスイッチの4〜6をONにする

つまようじなど先の細いものでディップスイッチをONの側に倒します。



4 Atermの電源を入れる

5 電源を入れてから3秒後にAtermの電源を切る

6 ディップスイッチの4〜6をOFFに戻す

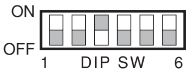
7 Atermの電源を入れる

Atermが故障していないか確認する（自己診断）

自己診断を行うと、Atermのハードウェアに異常がないかを確認することができます。

操作

1 ディップスイッチを下図のように設定する（3をONに）



2 Atermの電源を切り、再度入れ直す

3 自己診断が行われる

自己診断中はMsgランプが緑色に点灯します。
正常に終了すると、「ピピピ…」と鳴った後にMsgランプが緑色で点滅します。

お願い

自己診断を行っている最中に、電源を切らないでください。電源を切るとバックアップしている設定内容が正しく保持されないことがあります。

4 試験を終了するときは、電源を切ってディップスイッチの設定を戻してから、再び電源を入れ直す

■ 異常を発見したとき ■

自己診断で異常が発見されるとMsgランプが赤色に点灯し、ブザーが鳴り続けます。
異常があった場合は、別紙に示す修理受け付け先またはお問い合わせ先に修理を依頼してください。

5

6. 付 録

停電対策 6-2
切断理由・診断情報・生成源表示一覧 6-6
製品仕様 6-10
仕様一覧 6-10
ディップスイッチ 6-13
D-SUB 9 ピンインタフェース 6-14
ホームテレホン／ビジネスホンの接続 6-15
別売りオプション 6-17
ターミナルアダプタの増設（S 点ユニット） 6-18
DSU 機能の切り離し（DSU 切り離しユニット） 6-20
文字コード一覧表 6-21
用語解説 6-22
Aterm 設定記入シート 6-26

停電対策

Atermに電池を入れておくと、停電時も電話が使用できます。

ポイント

停電するとAtermは使用できなくなり、通話中でも通話が切断されます。電池を入れておくと、停電時には自動的に停電モードに切り替わって動作します。

Atermでは、単3アルカリ乾電池が使用できます。

☑ 使用できるポート：電話Aポート、シリアルポートまたはUSBポート、S点ユニット

電源不要なもの、またはバッテリなどで動作する機器を接続してください。UUIメールも利用できます。

☑ 電池使用時の連続動作可能時間の目安（電話Aポートのみを利用する場合）

電　池	連続待ち受け時間	連続通話時間
単3アルカリ乾電池（新品）	約4時間	約2時間

乾電池メーカや周囲の温度差などにより、値は大きく異なる場合があります。

お願い

・停電中は、電話Bポート、電話Cポートの電話機の受話器をあげても使用できません。また、電池の消耗が早くなりますので、受話器は置いたままにしておいてください。

・S点ユニット、シリアルポート、USBポートに機器を接続すると、電池の消耗が早くなります。停電中は、不要な機器をはずしておいてください。

・停電モード中に電池が消耗し、Atermが使用できなくなった状態で停電から復旧した場合、その後Atermを使用できなくなることがあります。このようなときは、Atermの電源を切り、電池を取り外してから、もう一度電源を入れてください。

設定

停電モード中に着信を受付けるかどうかを選択できます。また、着信時にリンガ(着信音)とブザーのどちらを鳴らすかを選択できます。

1 **らくらくアシスタントのメインメニュー画面を表示する**

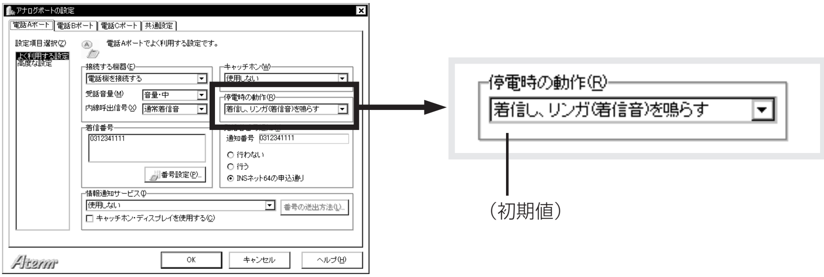
2 **[アナログポートの詳細設定]ボタンをクリックする**

3 **[電話Aポート]タブをクリックする**

4 **設定項目から[よく利用する設定]を選択する**

5 **停電時の動作を選択する**

ドロップダウンリストボックスから「着信し、リンガを鳴らす」「着信し、ブザーを鳴らす」「着信しない」のいずれかを選択します。



6 **[OK]ボタンをクリックする**

らくらくアシスタントのメインメニュー画面に戻ります。

お知らせ

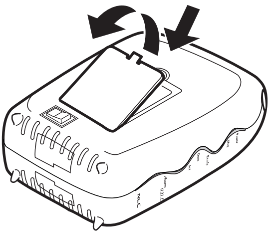
- ブザーを鳴らすを選択すると、リンガ(着信音)を鳴らすにしたときよりも動作可能時間を延ばすことができます。
- アナログ・ダイヤルインを使用している場合は、設定の内容にかかわらずリンガが鳴ります。
- ナンバー･ディスプレイやモデム・ダイヤルインを利用する場合は、リンガを選択してください。ブザーを選択すると、発信者番号や着信番号が正常に表示されません。

電池のセットのしかた ●●●●●●●●●●●●●●●●●●

単3アルカリ乾電池4本を使用します。

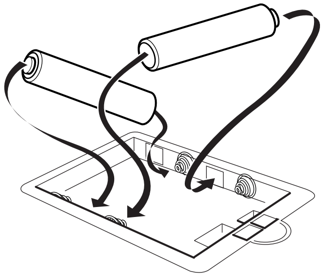
1 Atermの電源を切る

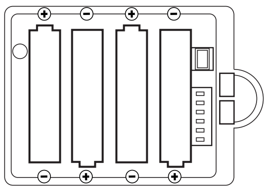
2 電池カバーをあける



3 電池を入れる

＋－の向きを間違えないように図のようにセットしてください。





4 電池カバーを閉じる

5 Atermの電源を入れる

お願い

・電池を入れてご利用になる場合は特に、直射日光・高温・高湿の場所にAtermを設置しないでください。

・電池を入れた側を発熱する機器の近くに置かないでください。

・通風口をふさがないでください。

・ご使用の電池の使用上の注意をよく守ってお使いください。

・3カ月に1回程度は、電池カバーを開けて電池の点検を行うことをおすすめします。アルカリ乾電池を長期間入れたままにしておくと、電池の液もれが起こることがあります。**アルカリ乾電池は、使用の有無にかかわらず1年で交換してください。なお、電池の交換忘れを防止するため、アルカリ乾電池は停電してからセットすることをおすすめします。**

お知らせ

• 停電モードでアルカリ乾電池使用の場合、Aterm前面のPowerランプの点滅がゆっくり(1秒間に1回)になったときは、電池の容量がなくなってきています。通話/通信が途中で切断される可能性がありますので、早めに電池を交換してください。

⚠ 危険
●アルカリ乾電池内部の液が眼に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で充分洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。 ⚠

6 停電対策

切断理由・診断情報・生成源表示一覧

Atermが通信を切断した理由などをらくらくアシスタントで表示することができます。(☞ 3-104ページ)

操作 切断理由などを見る

1. らくらくアシスタントを起動し、[通信情報と通信料金]ボタンをクリックする
2. [高度な情報]ボタンをクリックする

切断理由表示一覧

	AT#Cコマンド表示 らくらく表示	理由種別
正常クラス	001	欠番
	002	中継網ルートなし
	003	相手ルートなし
	006	チャネル不許可
	007	設定済みのチャネルへ着呼
	016	正常切断
	017	着ユーザビジー
	018	着ユーザ応答なし
	019	相手ユーザ呼び出し中、応答なし
	020	加入者不在
	021	相手ユーザ通信拒否
	022	相手加入者端末番号変更
	026	選択されなかったユーザの切断復旧
	027	相手端末故障中
	028	無効番号フォーマット(不完全番号)
	029	ファシリティ拒否
	030	状態問い合わせ応答
	031	その他
リソース使用不可クラス	034	利用可回線／チャネルなし
	038	網故障
	041	一時的故障
	042	交換機輻輳
	043	アクセス情報破棄
	044	要求回線/チャネル利用不可
	047	その他

	AT#Cコマンド表示 らくらく表示	理由種別
サービス提供不可クラス	049 050 057 058 063	QOS利用不可 要求されたファシリティ未契約 伝達能力不許可 現在利用不可伝達能力 その他
サービス未提供クラス	065 066 069 070 079	未提供伝達能力指定 未提供チャネル種別指定 未提供ファシリティ要求 制限デジタル情報能力のみ可能 その他
無効メッセージクラス	081 082 083 084 085 086 087 088 091 095	無効呼番号使用 無効チャネル番号使用 指定された中断呼識別番号未使用 中断呼識別番号使用中 中断呼なし 指定された中断呼はすでに切断復旧済み ユーザはCUGのメンバーではない 端末属性不一致 無効中継網選択 その他
手順誤りクラス	096 097 098 099 100 101 102 111	必須情報要素不足 メッセージ種別未定義 呼状態とメッセージ不一致、またはメッセージ種別未定義 情報要素未定義または未提供 情報要素の内容が無効 呼状態とメッセージ不一致 タイマ満了の回復 その他
インタワーキング	127	その他

診断情報表示一覧

AT¥L1コマンド表示 らくらく表示	診断情報
000	本ポートは正常に着信を受け付けました。
201 211 212	本ポートは使用中のため着信を受け付けませんでした。 本ポートの着信番号設定とINSネット64からの宛先番号が一致していないため着信を受け付けませんでした。着信番号設定を確認してください。 本ポートのグローバル着信設定が「着信しない」に設定されているため、グローバル着信を受け付けませんでした。グローバル着信設定を確認してください。

AT¥L1コマンド表示 らくらく表示	診断情報
213	本ポートの自己サブアドレス設定とINSネット64からの宛先サブアドレスが一致していないため着信を受け付けませんでした。自己サブアドレス設定を確認してください。
214	本ポートのサブアドレスなし着信設定が「着信しない」に設定されているため、サブアドレスなし着信を受け付けませんでした。サブアドレスなし着信設定を確認してください。
215	本ポートの識別着信設定が「着信する」になっており、識別番号設定に相手からの発信番号と一致するものがなかったため着信を受け付けませんでした。識別着信設定、および識別番号設定を確認してください。
221	着信があったポートのHLC設定がINSネット64からの着信通知のなかのHLCと一致しませんでした。HLCの設定を確認してください。
231	パケット端末からの着信がきましたが、着信を拒否しました。
301	スティルスコールバック要求の着信がきましたが、着信を受けることができませんでした。スティルスコールバックが「使用する」になっているか設定を確認してください。
302	スティルスコールバック要求に対してサーバ側がかけ直しているときに、別の着信がありましたが、その着信を拒否しました。
311	INSネット64からの着信通知の中の伝達能力情報転送速度が64kbps以外の着信でした。
312	INSネット64からの着信通知の中の伝達能力ユーザ情報レイヤ１プロトコルが違っていました。
313	INSネット64からの着信通知の中の伝達能力ユーザ速度が56kbpsでしたので着信を拒否しました。
321	INSネット64からの着信通知の中にLLC速度情報が含まれていなかったため、着信を拒否しました。
322	INSネット64からの着信通知の中のLLCユーザ速度が本TAの受けられない速度でした。通信相手機器を確認してください。
323	INSネット64からの着信通知の中のLLCユーザ速度が本TAの速度設定と不一致でした。「着信速度チェックしない」に設定し、通信速度が異なるパソコン同士でも通信できるようにしてください。
324	INSネット64からの着信通知の中のLLC同期／非同期が同期であるが、速度が64kbps以外の着信のため拒否しました。
325	INSネット64からの着信通知の中のLLC中間速度が本TAの受けられない速度のため拒否しました。
326	INSネット64からの着信通知の中のLLCフロー制御が本TAの設定と不一致でした。本TAのフロー制御方式設定をしてください。
327	INSネット64からの着信通知の中のLLCストップビット長、データビット長、パリティ情報が本TAの設定と不一致でした。通信相手と設定を合わせてください。
331	G4ファクシミリからの着信でした。相手側の装置を確認してください。

AT¥L1コマンド表示 らくらく表示	診断情報
341	データポート通信中、またはアナログポート通信中で2チャネル使用中のため着信が受け付けられませんでした。
361	応答平均化機能が「使用する」に設定されており、着信できる順番でないため、着信を無視しました。
371	電子メール着信通知またはUUIメール着信通知がありました。
401	停電時のアナログ着信設定が「着信しない」になっているため、着信を受け付けませんでした。停電時着信設定を確認してください。
402	停電中のため電話Bポート、電話Cポートへの着信は受け付けませんでした。
411	アナログポートの設定が「使用しない」になっているため、着信を受け付けませんでした。アナログポート設定を確認してください。
421	内線通話中にチャネルなしの着信を受けました。チャネルなしの着信はキャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
422	使用していないアナログポートにチャネルなしの着信を受けました。チャネルなしの着信はキャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
423	疑似キャッチホン設定ポートにチャネルなしの着信を受けました。チャネルなしの着信はキャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
424	キャッチホンなしの設定ポートにチャネルなしの着信を受けました。チャネルなしの着信はキャッチホン中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
431	優先着信ポートの設定がされているため、優先着信ポートが着信を受けました。そのため、優先着信ポートでないアナログポートには着信しませんでした。
999	その他の理由

生成源表示一覧

AT#Cコマンド表示 らくらく表示	場　所
00	ユーザ自身
01	ユーザが直接接続する私設網
02	ユーザが直接接続する国内網
03	中継網
04	相手ユーザが直接接続する国内網
05	相手ユーザが直接接続する私設網
07	国際網
10	インタワーキング先の網

製品仕様

仕様一覧

項　目			諸　元	備　考
接続回線			INSネット64 OCNエコノミー回線	
交換形態			データポート:回線交換 アナログポート:回線交換	
使用チャネル			Bチャネル	
インタフェース形態および レイヤ１起動種別			P-MP常時またはP-MP呼毎契約	INSネット64接続の 場合
回線 インタ フェース		コネクタ形状	6ピンモジュラジャック(RJ-11)	DSU内蔵
		伝送方式	2線、時分割伝送方式	
		伝送路速度	320kbps	
		伝送路符号	AMI符号	
		DSU折り返し機能	あり	
パソコン インタ フェース	呼接続機能		ATコマンド	
	シリアル ポート (RS-232C)	機械的条件	D-Sub9ピンコネクタ	
		電気的条件	V.28	
		回路定義	V.24	
		通信速度 (kbps)	非同期: 1.2、2.4、4.8、9.6、14.4、 19.2、(28.8、38.4、57.6) 同期／非同期PPP変換:64 128kマルチリンクPPP :128 PIAFS:32、64	・()はV.110規格外 ・同期は同期PPP変換 ・128KはMPのみ
		パソコン速度 (kbps)	非同期: 1.2、2.4、4.8、9.6、14.4、 19.2、(28.8、38.4、 57.6、115.2、230.4)	・()はV.28規格外
	USB	通信速度(kbps)	非同期: 1.2、2.4、9.6、14.4、 19.2、(28.8、38.4、57.6) 非同期／同期PPP変換:64 128kマルチリンクPPP:128 PIAFS:32、64	・()はV.110規格外
		パソコン速度	12Mbps	
		速度整合方式	ITU-T V.110方式	
(続く)		サービス機能 (続く)	発信者番号、着信番号 自己サブアドレス 短縮ダイヤル　最大10箇所(注１) 識別着信　最大30箇所(注１) 発信者番号通知 非同期／同期PPP変換 128kbpsマルチリンクPPP BOD機能	(注１)データポート とアナログポートで 共用しています。

項　目		諸　元	備　考
(続き) パソコン インタフェース	(続き) サービス機能	スティルスコールバック 応答平均化 ユーザ間情報通知 無通信監視タイマ 強制切断タイマ 電子メール着信通知 遊遊メール UUIメール 回線状態・通信料金表示 PIAFS対応 OCNエコノミー対応 USBネットワーク CTI機能 優先着信ポート i・ナンバー対応 SmartWakeup!機能対応	
アナログ装置 インタフェース	コネクタ形状	6ピンモジュラジャック(RJ-11)	
	基本機能	ポート数:2ポート(IT21L) 3ポート(IT31L) 受信ダイヤル:PBのみ ブランチ接続:可(注2) 供給電圧:約-48V(無負荷時)	(注2) ・ナンバー・ディスプレイ対応機器をブランチ接続した場合、ナンバー・ディスプレイができません。 ・1つのポートに3台まで接続可。 (合計容量:3μF/2kΩ以下)
(続く)	アナログポート サービス機能 (続く)	アナログポート使用可/不可選択 端末機種選択:電話(音声) G3FAX(3.1kHz オーディオ) 発信者番号、着信番号 自己サブアドレス 発信者番号通知 内線通話・内線転送 優先着信ポート 疑似識別着信　最大30箇所(注3) 短縮ダイヤル　最大10箇所(注3) ダイヤル桁間タイマ 疑似キャッチホン 疑似三者通話 疑似着信転送 お出かけ設定 i・ナンバー対応 フレックスホン対応 INSボイスワープ対応 INSなりわけサービス グローバル着信選択 アナログ・ダイヤルイン	(注3)データポートとアナログポートで共用しています。

項目		諸元	備考
（続き） アナログ装置 インタフェース	（続き） アナログポート サービス機能	モデム・ダイヤルイン INSナンバー・ディスプレイ対応 キャッチホン・ディスプレイ対応 迷惑電話防止　最大20箇所 疑似なりわけ　最大30箇所 マイプライベート着信　最大30箇所 選択キャッチホン 識別着信転送 フッキング検出タイマ リバースパルス送出 テレホンUUIメール テレホン遊遊メール	
停電モード	アルカリ乾電池	待ち受け時間　約4時間 通話　　　　　約2時間	
診断機能		自己診断試験	
ヒューマン インタフェース		状態表示LED でかけるボタン ディップスイッチ INS回線リバーススイッチ	
電源		AC100±10V、50／60Hz	
使用条件	温度 湿度	0〜40℃ 10〜90%	 結露しないこと
外形寸法（W×H×D）		(W)65×(H)177×(D)134mm	突起部分を除く
質量		約0.5kg	
消費電力		約6.0W（最大）	

ディップスイッチ

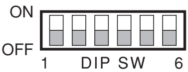
電池カバーを開けて電池をはずすとディップスイッチ(DIP SW)が見えます。下図の網かけ部 はお買い上げ時(工場出荷時)のスイッチの位置です。次の場合は、設定を変更してください。

(1) OCNエコノミーを利用するとき
(2) 工場出荷状態へ戻すとき
(3) 自己診断するとき
(4) 強制ローダモードでバージョンアップするとき

その他の場合は、工場出荷時の位置のままでお使いください。

お願い

電源を入れたままでディップスイッチの1から6を変更したときは、電源をいったん切って再び入れることにより設定が有効になります。



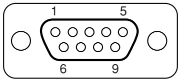
1	2	3	4	5	6	内　容
OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	INSネット64接続
ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OCNエコノミー
OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	自己診断
OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	工場出荷状態に戻す
OFF	ON	ON	ON	ON	ON	強制ローダモード

※ 網かけ部は工場出荷状態です。

D-SUB 9ピンインタフェース

コネクタ形状

9ピンコネクタ（メス型）



パソコンインタフェースの信号線

ピン番号		信号方向 パソコン　Aterm	名　称	機　能
シェル	（FG）		保安用接地	装置のフレームアースです
1	CD	←	キャリア検出	Atermが、パソコンにデータ受信を要求していることを示します ON:　パソコンにデータ受信を要求します OFF: パソコンにデータ受信を要求しません
2	RD	←	受信データ	Atermからパソコンへ送られるデータです
3	SD	→	送信データ	パソコンからAtermへ送られるデータです
4	ER	→	データ端末レディ	パソコンの動作準備ができているかどうかを示します ON:　パソコンが、データの授受の準備ができていることを示します OFF: パソコンが、データの授受の準備ができていないことを示します
5	SG		信号用接地	相互接続回路に基準電位をあたえます
6	DR	←	データセットレディ	Atermが動作準備ができているかどうかを示します ON:　パソコンとデータの授受を行う準備ができていることを示します OFF: パソコンとデータの授受を行う準備ができていないことを示します
7	RS	→	送信要求	データ送信許可を要求します ON:　データ送信許可を要求します OFF: データ送信許可を要求しません
8	CS	←	送信可	データ送信可能かどうかを示します ON:　データ送信が可能です OFF: データ送信してはいけません
9	CI	←	被呼表示	パソコンに着信していることを示します ON:　着信があることを示します OFF: 着信がないことを示します

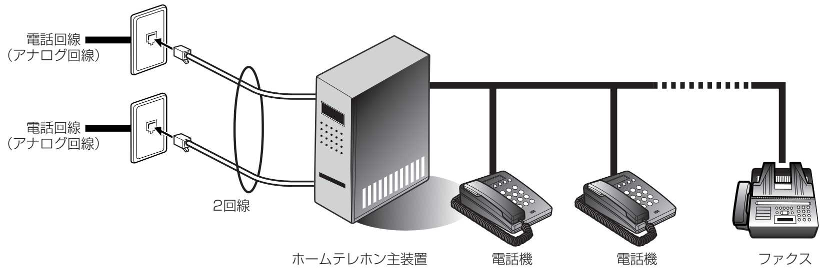
ホームテレホン／ビジネスホンの接続

ホームテレホンやビジネスホン（ボタン電話装置）を、Atermに接続することができます。

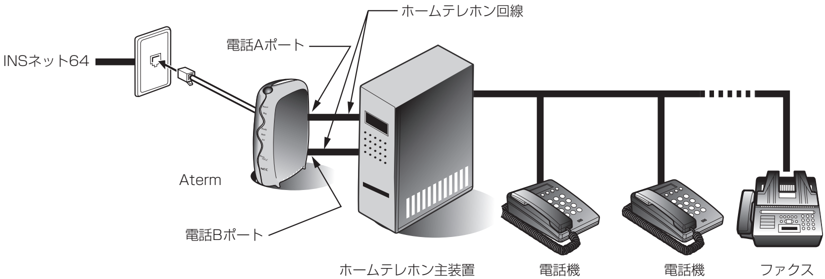
接続方法

1本のINSネット64で、電話回線（アナログ回線）2本分を収容することができます。

● 電話回線（アナログ回線）の場合



● INSネット64の場合



＊ホームテレホン主装置に接続する際は、電話Aポートと電話Bポートに接続してください。

設定のしかた（例）

1 使用しないアナログポートがある場合、「使用しない」に設定する（☞2-21ページ）

2 優先着信ポートを指定する（☞3-36ページ）

3 モデム・ダイヤルイン、アナログ・ダイヤルインの設定をする

●ダイヤルインサービスを使用してホームテレホンの内線を呼び分ける場合

1）ダイヤルインサービスの設定をします（☞3-21ページ）。

2）ホームテレホンがモデム・ダイヤルイン対応の場合は、モデム・ダイヤルインの設定をします（☞3-26ページ）。
ホームテレホンがアナログ・ダイヤルイン対応の場合は、アナログ・ダイヤルインの設定をします（☞3-30ページ）。

●i・ナンバーを使用してホームテレホンの内線を呼び分ける場合

1）「i・ナンバーを使用する」に設定します（☞3-18ページ）。

2）「i・ナンバー情報1、2または3を着信させるアナログポート」を設定します（☞3-20ページ）。

3）モデム・ダイヤルイン対応のホームテレホンを接続している場合は、モデム・ダイヤルインの設定をします（☞3-26ページ）。
i・ナンバー情報の電話番号で設定された番号でホームテレホンが呼び出されます。
アナログ・ダイヤルイン対応のホームテレホンを接続している場合は、アナログ・ダイヤルインの設定をします（☞3-30ページ）。
i・ナンバー情報の内線指定番号で設定された番号でホームテレホンが呼び出されます。

お願い

・上記の設定方法は一例です。お使いのホームテレホン／ビジネスホンによっては設定方法が異なる場合があります。

・優先着信ポートを設定しないと、1つの着信があったときにホームテレホン／ビジネスホンで2本分の着信ランプが点滅してしまいます。

・停電モードのときは、電話Aポートのみが動作します。ただし、電池が切れると、電話Aポートも使用できなくなります。なお、停電モードのときは、ホームテレホンなどの主装置が停電対策されている場合にのみホームテレホンを使うことができます。

別売りオプション

オプションとして次の商品を用意しています。

●S点ユニット(PC-IT/U03)

ターミナルアダプタやISDN通信機器を増設するときに使います。
「ターミナルアダプタの増設(S点ユニット)」(☞6-18ページ)

●DSU切り離しユニット(PC-IT/US1)

AtermからDSU機能を切り離すときに使います。
「DSU機能の切り離し(DSU切り離しユニット)」(☞6-20ページ)

お知らせ

・オプション品は、お近くの販売店のほか、オンラインショップ Shop@Aterm(http://shop.aterm.jp/)でもご購入いただけます。

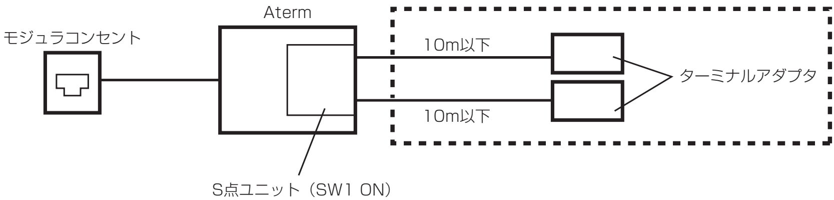
ターミナルアダプタの増設

（S点ユニット）

INSネット64にほかのターミナルアダプタやISDN通信機器を増設するときは、別売りのS点ユニットをお使いください。最大7台までのターミナルアダプタやISDN通信機器を増設できます。

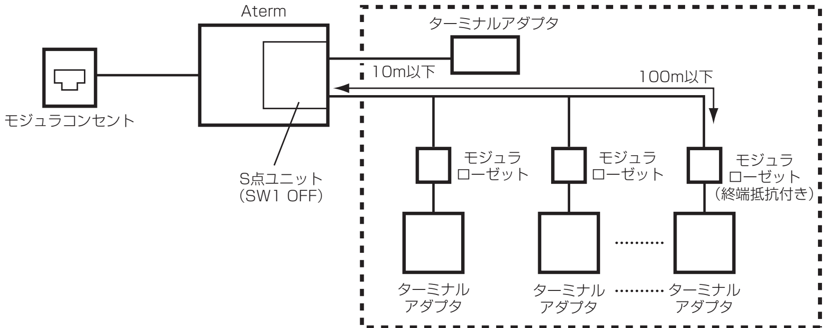
●2台までのターミナルアダプタを増設する場合

S点ユニットの2つのモジュラジャックには、2台までのターミナルアダプタを接続できます。



●3台以上のターミナルアダプタを増設する場合

3台以上のターミナルアダプタを増設するには、モジュラローゼットを使用します。



●S点ユニット(PC-IT/U03)について

Atermに、別のターミナルアダプタやISDN通信機器を増設できます。
AtermのS点ユニットスロットにS点ユニットを差し込んで使用します。S点ユニットはモジュラジャックを2個装備しているため、2台までは簡単に増設できます。
また、Atermに取り付けて、自分自身のDSU機能を切り離すことができます。DSU機能を切り離すと、DSUやほかのターミナルアダプタにAtermを接続できるようになります。

S点ユニットの取り付けかた、使用方法については、S点ユニット添付の取扱説明書をお読みください。

お願い

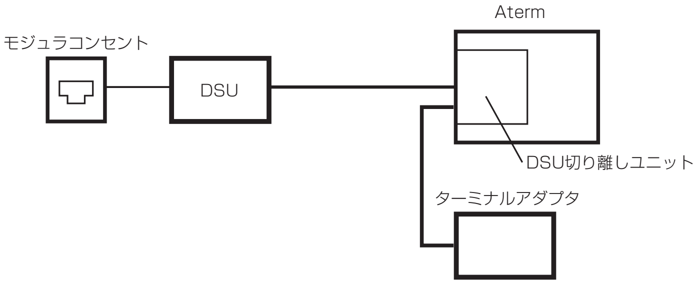
- DSUを切り離すだけの場合は、「DSU切り離しユニット」(PC-IT/US1)をお使いください。
- S点ユニットカバーを取りはずした際に、異物をスロット内部に入れないでください。故障の原因になります。
- ハンダ面にふれないようにしてください。けがをするおそれがあります。

DSU機能の切り離し（DSU切り離しユニット）

AtermからDSU機能を切り離すには、DSU切り離しユニット(PC-IT/US1)を使用します。

ポイント

DSUは、ターミナルアダプタなどの通信用端末をINSネット64に接続するために必要な装置(機能)ですが、AtermにはDSU機能が内蔵されているため、DSUは通常必要ありません。ただし、ほかのISDN対応端末を増設する場合など、DSU機能をAtermとは切り離したいときには、DSU切り離しユニットを使用します。



DSU切り離しユニットは、AtermのS点ユニットスロットに差し込んで利用します。DSU切り離しユニットの取り付けかた、使用方法については、DSU切り離しユニット添付の取扱説明書をお読みください。

お願い

- S点ユニットカバーを取りはずした際に、異物をスロット内部に入れないでください。故障の原因になります。
- ハンダ面にふれないようにしてください。けがをするおそれがあります。

文字コード一覧表

電話番号着信通知（☞データ通信ガイド「Atermで使えるメール機能」）を利用する場合など、電話機からメールアドレスなどを入力するときは、以下の文字コード一覧表を使って入力します。入力したい文字のコードを順番に押してください。

■ 文字コード一覧表 ■

文字	コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード
ア	11	イ	12	ウ	13	エ	14	オ	15
カ	21	キ	22	ク	23	ケ	24	コ	25
サ	31	シ	32	ス	33	セ	34	ソ	35
タ	41	チ	42	ツ	43	テ	44	ト	45
ナ	51	ニ	52	ヌ	53	ネ	54	ノ	55
ハ	61	ヒ	62	フ	63	ヘ	64	ホ	65
マ	71	ミ	72	ム	73	メ	74	モ	75
ヤ	81	(	82	ユ	83	)	84	ヨ	85
ラ	91	リ	92	ル	93	レ	94	ロ	95
ワ	01	ヲ	02	ン	03	゛	04	゜	05
A	16	B	17	C	18	D	19	E	10
F	26	G	27	H	28	I	29	J	20
K	36	L	37	M	38	N	39	O	30
P	46	Q	47	R	48	S	49	T	40
U	56	V	57	W	58	X	59	Y	50
Z	66	?	67	!	68	−	69	／	60
¥	76	&	77	_	78	,	79	%	70
＊	86	#	87	スペース	88	.	89	@	80
1	96	2	97	3	98	4	99	5	90
6	06	7	07	8	08	9	09	0	00
訂正	＊＊	頁めくり	＊1	ー	＊2	前回のデータ	＊3	[	＊4
大/小文字	＊5	]	＊6	スペース	＊8	_	＊91	;	＊92

お知らせ

・英字の大文字／小文字を切り替えるには、［＊］［5］を押します。

・数字を入力するには、［＊］［8］を押します。

用語解説

本書に出てくる通信・ネットワークに関する用語を中心に解説します。さらに詳しくは、本商品添付のCD-ROM(ユーティリティ集)の『用語解説』を参照してください。

アルファベット順

ATコマンド	米国ヘイズ社が開発した、モデムやターミナルアダプタを制御するためのコマンド。「AT」という文字列で始まることから、こう呼ばれている。
Bチャネル (B1チャネル・B2チャネル)	ISDN回線の情報チャネル(64kbps)。INSネット64にはB1・B2という2本のBチャネルがあり、電話をしながらインターネットに接続するなど、同時に2つの通信／通話を行うことができる。
bps	bit per secondの略。通信速度の基本単位。秒当たりに伝送されるビット数。
CCLファイル	MacOSで使用するモデム設定用のソフトウェア。
COM(コム)ポート	パソコンのシリアルポートのこと。複数ある場合は、COM1、COM2などと表示される。
DNS	Domain Name Systemの略。インターネットなど、TCP/IPを使ったネットワーク上でIPアドレスとドメイン名を相互変換するデータベースシステム。
DSU	Digital Service Unitの略。INSネット64とターミナルアダプタ・ISDN電話機などを接続するときのインタフェースとなる装置。
ER信号	Equipment Readyの略。RS-232Cインタフェースでやりとりされる信号の1つ。接続されているパソコンが動作可能な状態であることを示す。
ID	Identificationの略。セキュリティの目的で、特定の利用者であることを区別するために使用する記号や名前。ネットワークへログインするときに、パスワードと組み合わせて使うことが多い。
IP	Internet Protocolの略。インターネット接続などで使われる。一般的にTCP/IPと呼ばれているプロトコルの1つ。
IPアドレス	インターネット接続などのTCP/IPを使ったネットワーク上で、コンピュータなどを識別するための番号。32bitの値をもち、8bitずつ10進法で表した数値を、ピリオドで区切って表現する(例:192.168.0.10)。

PDFファイル	アドビシステムズ株式会社の提供する「Adobe Reader」で閲覧することができる文書形式。「Adobe Reader」はアドビシステムズ株式会社のホームページより無償でダウンロードできる。本商品添付のCD-ROM（ユーティリティ集）にも入っています。
PPP	Point to Point Protocolの略。遠隔地にある2台のコンピュータを接続するためのプロトコル。アナログ回線やINSネット64を使ってインターネット接続するために使われる。
アールエスニイサンニイシー RS-232C	シリアル（データをビット単位で順次転送するタイプ）インタフェースの規格。主にターミナルアダプタ／モデムなどの周辺機器とパソコンとを接続するために使用する。
エスティー S/T点端子	DSUとターミナルアダプタ／ISDN電話機などを接続するためのインタフェース。
URL	Uniform Resource Locatorの略。インターネット上のリソース（データなど）の場所とプロトコルを指定するための書式。一般にホームページ（Web）アドレスと呼ばれているものはその一例。
USB	Universal Serial Busの略。パソコンの周辺機器を数珠つなぎ式またはハブを使った星形に接続できる高速のインタフェース。
WWW	World Wide Webの略。「世界に広く張り巡らされた蜘蛛の巣」の意味で、インターネットを可能にした情報技術。

あ行

アカウント	コンピュータネットワークの中で特定のサービスを利用するために利用者に与えられるID。
アクセスポイント	プロバイダ（またはパソコン通信サービス）が各地に設けているダイヤルアップ接続するための電話番号。
インストール	パソコンの周辺機器やソフトウェアを実際に使えるようにすること。ソフトウェアは、CD-ROMやフロッピーディスクなどの媒体からパソコン本体のハードディスクに、インストーラと呼ばれるプログラムを使ってコピーされる。セットアップともいう。
オンラインサインアップ	パソコンからアナログ回線／INSネット64を通じてプロバイダ（パソコン通信サービス）などへの入会・契約手続きを行うこと。

か行〜さ行

自己解凍形式	圧縮ファイルにそのファイルの解凍プログラムを加えて実行形式のファイルにしたもの。そのファイルを実行すると、圧縮ファイルが自動的に解凍するので、解凍用のプログラムを必要としない。
終端抵抗	ターミネータともいう。S/T点に複数のターミナルアダプタ/ISDN電話機などをバス配線するときに最後の部分に付ける部品。通常はターミナルアダプタなどに内蔵されており、スイッチであり/なしを切り替えられる場合が多い。
初期化	ハードウェアやソフトウェアの設定値を初期状態に戻すこと。工場出荷時の値に戻す、登録した電話番号などは残したまま初期状態に戻すなどいくつかの初期化方法がある。
シリアルポート	シリアル(データをビット単位で順次転送するタイプ)インタフェース規格。ターミナルアダプタ/モデムなどの周辺機器とパソコンとの接続に利用される。

た行〜な行

ダイヤルアップ	プロバイダのアクセスポイントやRASサーバーに電話をかけ、INSネット64やアナログ回線を介してネットワークに接続すること。
同期通信	送信側と受信側でタイミングを合わせるための信号を加えてデータ通信すること。ほとんどのプロバイダとの接続ではPPPによる同期通信を行う。
ドメイン名・ドメインネーム	インターネットなどのネットワークに参加している組織などに一定の書式で名前を付けたもの。さらに、その組織内のコンピュータにはIPアドレスに対応したホスト名が付けられている。例えば、URL「http://www.nec.co.jp/」の「nec.co.jp」の部分がドメイン名にあたる。

は行

バス配線	複数のISDN通信機器をISDN回線のS/T点に接続すること。最大8台まで。
非同期通信	送信データの前後にそれらを示すビット列を加えて通信する方法。受信側とタイミングをあわせる必要がない。パソコンのシリアルポートでは通常非同期通信ができる。
ファームウェア	ハードウェアを動作させるために、ハードウェアにあらかじめ組み込まれているソフトウェア。
ブラウザ	ホームページを見るためのアプリケーション。Internet ExplorerやNetscape Navigatorがよく使われている。
ブランチ接続	1つのポートをコネクタなどで分岐させて複数の機器を接続すること。

プリンタポート	パソコンに備わっている、プリンタ接続用のコネクタ。Macintoshのプリンタポートはモデムポートと同じように使用できる。
プロトコル	通信規約。システム（コンピュータやネットワーク）同士が正しく通信できるようにするための約束。
プロバイダ	インターネット接続をサービスする通信事業者。
ホームページ	インターネットのWWWを一般的に指す言葉。本来は、WWWサーバーのURLを指定して、最初に表示されるページを指す。

ま行〜

モデム定義ファイル	Windowsで使用するモデム設定用のソフトウェア。
ユーザID	IDと同じ。
ルータ	複数のネットワークを相互接続し、データの転送先や経路を選択する装置。

Aterm設定記入シート

Atermに設定した内容をここに記入してください。お問い合わせなどの際の資料となります(「*」がついているものが初期値です)。

商品名(LOT No.)	

INS回線の電話番号の設定

電話番号テーブル				
i・ナンバー	□使用しない* □使用する			
グローバル着信	□グローバル着信しない □グローバル着信する*			
回線番号	電話番号	着信するポート	発信者番号通知の通知番号	内線指定番号
契約者回線番号		□A □B □C □シリアル □USB	□A □B □C □シリアル □USB	
ダイヤルイン番号1		□A □B □C □シリアル □USB	□A □B □C □シリアル □USB	
ダイヤルイン番号2		□A □B □C □シリアル □USB	□A □B □C □シリアル □USB	
ダイヤルイン番号3		□A □B □C □シリアル □USB	□A □B □C □シリアル □USB	
ダイヤルイン番号4		□A □B □C □シリアル □USB	□A □B □C □シリアル □USB	
ダイヤルイン番号5		□A □B □C □シリアル □USB	□A □B □C □シリアル □USB	
ダイヤルイン番号6		□A □B □C □シリアル □USB	□A □B □C □シリアル □USB	
ダイヤルイン番号7		□A □B □C □シリアル □USB	□A □B □C □シリアル □USB	

<i･ナンバー使用時>

i・ナンバー情報	電話番号	内線指定番号	着信するポート	発信するポート
i・ナンバー情報1			□A □B □C □シリアル □USB	□A □B □C □シリアル □USB
i・ナンバー情報2			□A □B □C □シリアル □USB	□A □B □C □シリアル □USB
i・ナンバー情報3			□A □B □C □シリアル □USB	□A □B □C □シリアル □USB

電話Aポート

よく利用する設定			
接続する機器	□電話機*　□FAX／モデム　□接続しない		
受話音量	音量：　□小　□中*　□大		
キャッチホン	□使用しない*　□INSキャッチホン　□疑似キャッチホン		
停電時の動作	□着信しない　□着信し、ブザーを鳴らす □着信し、リンガ(着信音)を鳴らす*		
発信者番号通知	□行う　□行わない　□INSネット64の申込通り*		
情報通知サービス	□使用しない*　□ナンバー・ディスプレイを使用する □モデム・ダイヤルインを使用する □アナログ・ダイヤルインを使用する □ナンバー・ディスプレイ＋モデム・ダイヤルインを使用する		
キャッチホン・ディスプレイ	□使用する　□使用しない*		
端末番号の送出方法	電話番号をそのまま送出	内線指定番号に変換してから送出	内線指定番号（最大４桁）
契約者回線番号	□	□	[　　　　]
ダイヤルイン１番	□	□	[　　　　]
ダイヤルイン２番	□	□	[　　　　]
ダイヤルイン３番	□	□	[　　　　]
ダイヤルイン４番	□	□	[　　　　]
ダイヤルイン５番	□	□	[　　　　]
ダイヤルイン６番	□	□	[　　　　]
ダイヤルイン７番	□	□	[　　　　]

高度な設定	
サブアドレス	[　　　　　　　　] □サブアドレスなし着信する* □発・着サブアドレスの通知(ナンバー・ディスプレイ／モデム・ダイヤルイン使用時)
ダイヤル桁間タイマ	□5秒*　□9秒　□11秒　□13秒
フッキング検出タイマ	□短い　□普通*　□長い
HLC	□HLCを設定しない*　□HLCを設定し、着信判定する □HLCを設定するが、着信判定しない
リバースパルス	□送出しない*　□送出する
識別着信	□使用しない*　□INSなりわけ識別着信　□疑似識別着信 通信中着信時のみ使用可能　□使用可能　□使用できない*
識別リンギング	□使用しない*　□INSなりわけ　□疑似なりわけ

電話Bポート

よく利用する設定			
接続する機器	□電話機* □FAX／モデム □接続しない		
受話音量	音量： □小 □中* □大		
キャッチホン	□使用しない* □INSキャッチホン □疑似キャッチホン		
発信者番号通知	□行う □行わない □INSネット64の申込通り*		
情報通知サービス	□使用しない* □ナンバー・ディスプレイを使用する □モデム・ダイヤルインを使用する □アナログ・ダイヤルインを使用する □ナンバー・ディスプレイ＋モデム・ダイヤルインを使用する		
キャッチホン・ディスプレイ	□使用する □使用しない*		
端末番号の送出方法	電話番号を そのまま送出	内線指定番号に 変換してから送出	内線指定番号 （最大4ケタ）
契約者回線番号	□	□	[ ]
ダイヤルイン1番	□	□	[ ]
ダイヤルイン2番	□	□	[ ]
ダイヤルイン3番	□	□	[ ]
ダイヤルイン4番	□	□	[ ]
ダイヤルイン5番	□	□	[ ]
ダイヤルイン6番	□	□	[ ]
ダイヤルイン7番	□	□	[ ]

高度な設定	
サブアドレス	[ ] □サブアドレスなし着信する* □発・着サブアドレスの通知（ナンバー・ディスプレイ／モデム・ダイヤルイン使用時）
ダイヤル桁間タイマ	□5秒* □9秒 □11秒 □13秒
フッキング検出タイマ	□短い □普通* □長い
HLC	□HLCを設定しない* □HLCを設定し、着信判定する □HLCを設定するが、着信判定しない
リバースパルス	□送出しない* □送出する
識別着信	□使用しない* □INSなりわけ識別着信 □疑似識別着信 通信中着信時のみ使用可能 □使用可能 □使用できない*
識別リンギング	□使用しない* □INSなりわけ □疑似なりわけ
通信中着信時のみ使用可能	□使用可能 □使用できない*

電話Cポート(IT31L)

よく利用する設定			
接続する機器	□電話機* □FAX／モデム □接続しない		
受話音量	音量： □小 □中* □大		
キャッチホン	□使用しない* □INSキャッチホン □疑似キャッチホン		
発信者番号通知	□行う □行わない □INSネット64の申込通り*		
端末番号の送出方法	電話番号を そのまま送出	内線指定番号に 変換してから送出	内線指定番号 (最大4ケタ)
契約者回線番号	□	□	[ ]
ダイヤルイン1番	□	□	[ ]
ダイヤルイン2番	□	□	[ ]
ダイヤルイン3番	□	□	[ ]
ダイヤルイン4番	□	□	[ ]
ダイヤルイン5番	□	□	[ ]
ダイヤルイン6番	□	□	[ ]
ダイヤルイン7番	□	□	[ ]

高度な設定	
サブアドレス	[ ] □サブアドレスなし着信する*
ダイヤル桁間タイマ	□5秒* □9秒 □11秒 □13秒
フッキング検出タイマ	□短い □普通* □長い
HLC	□HLCを設定しない* □HLCを設定し、着信判定する □HLCを設定するが、着信判定しない
リバースパルス	□送出しない* □送出する
識別着信	□使用しない* □INSなりわけ識別着信 □疑似識別着信 通信中着信時のみ使用可能 □使用可能 □使用できない*
識別リンギング	□使用しない* □INSなりわけ □疑似なりわけ

アナログポート共通設定

着信設定	
お出かけ設定	□電話着信転送モード　□INSボイスワープ転送モード □フラッシュモード
優先着信ポート	□指定しない　□電話Aポート　□電話Bポート　□電話Cポート

お出かけ設定で「電話着信転送モード」を選択した場合

着信転送機能の設定		
転送／通知モード	□NTT着信転送　□疑似着信転送*　□電話番号着信通知	
転送条件	□使用しない　□INSなりわけ時　□疑似識別着信時	
BIGLOBEのID#	[　　　　　　　　] 転送／通知モードで「電話番号着信通知」を選択したときだけ表示されます	
転送設定 <i・ナンバーを利用しない時>	転送元 [　　　　　　　　] [　　　　　　　　] [　　　　　　　　]	転送先 [　　　　　　　　] [　　　　　　　　] [　　　　　　　　]
転送設定 <i・ナンバー利用時>	i・ナンバー情報の転送先 [　　　　　　　　] [　　　　　　　　] [　　　　　　　　]	
トーキサービス	□なし　□転送トーキのみあり　□転送元トーキのみあり □転送トーキ／転送元トーキあり	

お出かけ設定で「INSボイスワープ転送モード」を選択した場合

INSボイスワープ転送モードの設定		
転送開始モード		起動電話番号
	□無条件に転送	[　　　　　　　　]
	□無応答時に転送	[　　　　　　　　]
	□話中時に転送	[　　　　　　　　]
	□無応答／話中時に転送	[　　　　　　　　]
	停止用電話番号	[　　　　　　　　]
契約電話番号	[　　　　　　　　]	

その他の設定	
通信中転送	□使用しない*　□使用する
アナログポート間内線通話	□内線通話・内線転送を使用する*　□使用しない
三者通話	□使用しない*　□三者通話　□疑似三者通話
[#]で発信	□[#]で発信しない　□[#]で発信*　□[#] [#]で発信

シリアルポート

電話番号	
発信者番号通知	通知番号[　　　　　　　　　]　□行わない　□行う □INSネット64の申込通り*
サブアドレス	[　　　　　　　　　　　　] □サブアドレスなし着信する*
	セパレータ：　□/　□#　□＊　（初期値は[/]）
識別着信	□識別着信を行わない*　□識別着信を行う
HLC	□設定する　□設定しない*　コード番号[　　　　　　　　]

MP・BOD機能	
MPの2本目接続時の認証	□認証する*　□認証しない
64kPPP・MP時の ACCMの付加	□ACCMを付加する*　□ACCMを付加しない
リソースBOD	□リソースBODを行う　□リソースBODを行わない*
スループットBOD	□使用しない*　□使用する リンク追加算出時間　[　　　　　　　　秒]（初期値は30秒） リンク削除算出時間　[　　　　　　　　秒]（初期値は10秒） リンク追加しきい値　[　　　　　　　　%]（初期値は70%） リンク削除しきい値　[　　　　　　　　%]（初期値は20%）

自動切断	
無通信監視タイマ	□監視しない　□1分　□2分　□3分　□4分　□5分 □6分　□7分　□8分　□9分　□10分*
強制切断タイマ	□監視しない　□1時間　□2時間　□3時間　□4時間 □5時間□6時間　□7時間　□8時間　□9時間 □10時間*

信号制御	
ER信号	□常時パソコンのERを見る*　□通信中のみパソコンのERを見る □常時ONにする
CD信号	□ER信号がONなら常にCD信号もON □通信中は常にCD信号をON*
DR信号	□ER信号がONなら常にDR信号もON* □通信中は常にDR信号をON

その他	
スティルスコールバック	□使用しない*　□使用する

USBポート

電話番号	
着信番号	[　　　　　　　]
発信者番号通知	通知番号[　　　　　　　] □行わない □行う □INSネット64の申込通り*
サブアドレス	[　　　　　　　　　] □サブアドレスなし着信する*
	セパレータ： □/ □# □＊ （初期値は[/]）
識別着信	□識別着信を行わない* □識別着信を行う
HLC	□設定する □設定しない* コード番号[　　　　　　]

MP・BOD機能	
MPの2本目接続時の認証	□認証する* □認証しない
64kPPP・MP時の ACCMの付加	□ACCMを付加する* □ACCMを付加しない
リソースBOD	□リソースBODを行う □リソースBODを行わない*
スループットBOD	□使用しない* □使用する リンク追加算出時間 [　　　　　　　秒]（初期値は30秒） リンク削除算出時間 [　　　　　　　秒]（初期値は10秒） リンク追加しきい値 [　　　　　　　%]（初期値は70%） リンク削除しきい値 [　　　　　　　%]（初期値は20%）

自動切断	
無通信監視タイマ	□監視しない □1分 □2分 □3分 □4分 □5分 □6分 □7分 □8分 □9分 □10分*
強制切断タイマ	□監視しない □1時間 □2時間 □3時間 □4時間 □5時間 □6時間 □7時間 □8時間 □9時間 □10時間*

信号制御	
ER信号	□常時パソコンのERを見る* □通信中のみパソコンのERを見る □常時ONにする
CD信号	□ER信号がONなら常にCD信号もON □通信中は常にCD信号をON*
DR信号	□ER信号がONなら常にDR信号もON* □通信中は常にDR信号をON

その他	
スティルスコールバック	□使用しない* □使用する

データポートの共通設定

電子メール	
UUIメール着信時のランプの点滅	□点滅させる* □点滅させない
電子メール着信通知時のランプの点滅	□点滅させる* □点滅させない

その他	
応答平均化	□平均化しない* □平均化する
接続台数(平均化する場合)	□1台 □2台 □3台 □4台 □5台 □6台 □7台 □8台
優先着信ポート	□指定しない* □USBポート □シリアルポート

電話帳

短縮ダイヤル			
短縮ダイヤル	名前	電話番号	サブアドレス
短縮ダイヤル00			
短縮ダイヤル01			
短縮ダイヤル02			
短縮ダイヤル03			
短縮ダイヤル04			
短縮ダイヤル05			
短縮ダイヤル06			
短縮ダイヤル07			
短縮ダイヤル08			
短縮ダイヤル09			

マイプライベート着信									
マイプライベート着信		□利用しない* □利用する							
	名前	電話番号	サブアドレス	非通知	表示圏外	公衆	A	B	C
00				□	□	□	□	□	□
01				□	□	□	□	□	□
02				□	□	□	□	□	□
03				□	□	□	□	□	□
04				□	□	□	□	□	□
05				□	□	□	□	□	□
06				□	□	□	□	□	□
07				□	□	□	□	□	□
08				□	□	□	□	□	□
09				□	□	□	□	□	□

疑似識別着信			
	名前	電話番号	サブアドレス
00			
01			
02			
03			
04			
05			
06			
07			
08			
09			

疑似なりわけ			
	名前	電話番号	サブアドレス
00			
01			
02			
03			
04			
05			
06			
07			
08			
09			

迷惑電話防止					
	名前	電話番号	非通知	表示圏外	公衆
00			□	□	□
01			□	□	□
02			□	□	□
03			□	□	□
04			□	□	□
05			□	□	□
06			□	□	□
07			□	□	□
08			□	□	□
09			□	□	□

索引

[記号・数字]

#発信 2-20, 3-14
186/184 3-53

[A ～ Z]

ACR 内蔵電話機 2-20
Act ランプ 1-8, 2-17
AtermStation 3-3
AT コマンド 1-7, 6-22
B1 チャネル 1-2, 6-22
B2 チャネル 1-2, 6-22
BIGLOBE 2-68
bps 6-22
B チャネル 1-2, 6-22
CCL ファイル 6-22
CD-ROM 1-7
COM ポート 6-22
Data ランプ 1-8
DNS 6-22
DSU 1-2, 6-22
D-SUB 9 ピンインタフェース 6-14
ER 信号 1-9, 6-22
i・ナンバー 2-6, 3-18, 4-4
ID 6-22
INS 回線の電話番号の設定 3-2
INS 回線リバーススイッチ 1-10
INS キャッチホン 2-7, 3-46
INS なりわけサービス 3-80, 3-90
INS なりわけ識別着信 3-80
INS ナンバー・ディスプレイ 2-7, 3-57
INS ナンバー・リクエスト 3-57
INS ネット 64 .... 2-6, 2-12
INS ボイスワープ 3-77
INS ボイスワープ・セレクト 3-64, 3-77
IP アドレス 6-22
Msg ランプ 1-8
PDF ファイル 6-23
Power ランプ 1-8
PPP 6-23
Ready ランプ 1-8
RS-232C 6-23
S/T 点端子 6-23
S 点ユニット 6-17, 6-18
TA 1-2
URL 6-23
USB ドライバ 3-3
　～のインストール
　........ 2-26, 2-27, 2-29, 2-31, 2-33
　～のアップデート 3-3
USB ネットワーク 1-4
WWW 6-23

[ア行]

相手を限定する
　キャッチホンの～ 3-90
　転送する～ 3-100
　電話を受ける～ 3-80
アカウント 6-23
アクセスポイント 2-56, 2-72, 6-23
アナログ・ダイヤルイン 3-30, 4-8
アナログ回線 1-2
アナログ通信機器 1-2
アナログポート 1-10, 4-4
アナログポートの簡単設定 . 2-40, 2-61, 3-2
アナログポートの詳細設定 3-2
アルカリ乾電池 6-4
インストール 6-23
　USB ドライバの～
　........ 2-26, 2-27, 2-29, 2-31, 2-33
　らくらくアシスタントの 2-23, 2-26

インターネット
　～のセットアップ 2-55, 2-71
　～へ接続する 2-59, 2-76
　～へ接続できない 2-82
インターネット接続の設定 3-2
インターネットプロバイダ 2-8
受ける
　キャッチホンを～ 3-48, 3-62
　電話を～ 2-20
お出かけ設定 3-64, 3-66
オプション品 6-17
オンラインサインアップ
　..... 2-68, 3-2, 6-23
オンラインバージョンアップ 3-3
オンラインユーザ登録 3-3

[カ行]

回線接続装置 1-2
各種情報 3-104
確認する
　設定内容を～ 3-106
かける
　サブアドレスを付けて～ 3-41
　短縮ダイヤルで～ 3-17
　電話を～ 2-19
疑似キャッチホン 3-46
疑似三者通話 3-49
疑似識別着信 3-80
疑似識別着信用の電話番号 3-83
疑似選択キャッチホン 3-90
疑似着信転送 3-68
疑似なりわけ 3-85
疑似なりわけ用の電話番号 3-88
キャッチホン 3-46, 4-4
　～の相手を限定する 3-90
　～を受ける 3-48, 3-62
キャッチホン・ディスプレイ 3-61, 4-4
グローバル着信 2-41, 3-21, 4-6
購入時の状態に戻す 5-12

[サ行]

サブアドレス 3-38, 3-41
三者通話 3-49
識別着信転送 3-100, 3-101
識別着信の方法 3-82
識別リンギング 3-85
自己解凍形式 6-24
自己サブアドレス 3-39, 4-6
自己診断 5-15
終端抵抗 6-24
受話音量調節 3-15
初期化 4-2, 5-12, 6-24
シリアルポート 1-11, 6-24
製造番号 1-11
診断情報 6-7
生成源表示 6-9
接続する
　INS ネット 64 へ～ 2-12
　インターネットへ～ 2-59, 2-76
　電話を～ 2-13
　パソコンを～ 2-27, 2-37
　ビジネスホンを～ 6-15
　ファクスを～ 2-13
　ホームテレホンを～ 6-15
　モデムを～ 2-15
切断理由 6-6
設定記入シート 6-26
設定する
　i・ナンバーを～ 3-19
　アナログ・ダイヤルインを～ 3-32
　疑似識別着信用の電話番号を～ 3-83
　疑似なりわけ用の電話番号を～ 3-88
　キャッチホン・ディスプレイを～ ... 3-61
　キャッチホンを～ 3-47
　三者通話を～ 3-50
　識別着信転送を～ 3-100
　識別着信の方法を～ 3-82
　自己サブアドレスを～ 3-39
　ダイヤルインサービスを～ 3-23
　短縮ダイヤルの電話番号を～ 3-16
　通信中転送を～ 3-75
　転送種類や転送条件を～ 3-70
　電話機から～ 4-2
　電話番号着信通知を～ 3-72
　電話番号を～ 3-35

なりわけの方法を～ 3-87
ナンバー・ディスプレイを～ 3-59
発信者番号通知を～ 3-54
ボイスワープ転送を～ 3-78
マイプライベート着信用の電話番号を～ .. 3-97
マイプライベート着信を～ 3-97
迷惑電話防止の電話番号を～ 3-93
モデム・ダイヤルインを～ 3-27
優先着信ポートを～ 3-37
設定値の確認・保存・復元 3-3, 3-106
設定値の初期化 3-2
設定内容を確認・記録する 3-106
全体接続図 2-9
選択キャッチホン 3-90
増設 6-18

[タ行]

ターミナルアダプタ 1-2, 6-18
ダイヤルアップ 6-24
ダイヤルイン 2-6, 3-21, 3-23, 4-6
ダイヤル桁間タイマ 2-20, 3-13, 4-4
短縮ダイヤル 3-16
着信
特定の電話機に～ 3-38
優先的に～ 3-36
着信音を使い分ける 3-85
着信ダイヤルイン複数選択 3-34
着信転送 3-68
通信情報と通信料金の確認 3-102
通信中転送 3-75
通信料金 3-102
ディップスイッチ 1-12, 6-13
停電対策 6-2
データポートの詳細設定 3-2
でかけるボタン
1-8, 2-60, 2-78, 3-64, 3-74, 3-79, 3-101
電子マニュアル 1-7
転送種類や転送条件 3-70
転送する
条件に応じて～ 3-77
通話中に～ 3-75, 3-77
電話を～ 3-68
特定の相手のみ～ 3-100
無応答時に～ 3-77
転送トーキ 3-69
転送元トーキ 3-69
電池のセット 6-4
電話
～がつながらない 2-19
～に出られない 3-64
～を受ける 2-20
～を受ける相手を限定する 3-80
～をかける 2-19
～を転送する 3-68
電話 A ポート 1-11
電話 B ポート 1-11
電話 C ポート 1-11
電話機能一覧 3-8
電話帳機能の設定 3-2
電話番号
～を相手に知らせる 3-53
～を設定する 3-35
～を表示する 3-57, 3-61
1 台の電話機で複数の～ 3-34
2 つの～ 3-18
複数の～ 3-21
電話番号着信通知 3-68, 3-72
同期通信 6-24
特定の電話機に着信 3-38
ドメイン名 6-24
トラブルシューティング 5-2

[ナ行]

内線指定番号 3-28, 3-29, 3-32, 3-33
内線通話 3-42, 4-2
内線転送 3-44
なりわけの方法 3-87
ナンバー・ディスプレイ 3-57, 4-4
ネットワーク転送型 3-77

[ハ行]

バス配線 6-24
パソコンからのセットアップ
.... 2-40, 2-61, 2-79
発信音 2-19
発信者番号通知 3-53, 4-4

ビジネスホン 6-15
ビッグローブ 2-54, 2-68
非同期通信 6-24
表示する
　　各種情報を～ 3-104
　　通信料金を～ 3-102
　　電話番号を～ 3-57, 3-61
ファームウェア 6-24
フッキング 3-11, 3-43
フッキング検出タイマ 3-11, 3-43, 4-4
ブラウザ 6-24
フラッシュモード 3-64
ブランチ接続 2-14, 6-24
プリンタポート 6-25
フレックスホン 3-46, 3-49, 3-69, 3-75
フレッツ・ISDN 5-10
プロトコル 6-25
プロバイダ 6-25
別売りオプション 6-17
ボイスワープ転送 3-78
ボイスワープ転送モード 3-64
ホームテレホン 6-15
ホームページ 2-80, 6-25

[マ行]

マイプライベート着信 3-96
マイプライベート着信用の電話番号 3-97
迷惑電話おことわりサービス 3-92
迷惑電話防止 3-92, 4-2
迷惑電話防止の電話番号 3-93
モデム 2-15
モデム・ダイヤルイン 3-26, 4-8
モデム定義ファイル 6-25

[ヤ行]

ユーザ ID 6-25
優先着信ポート指定 3-36, 4-8
ユーティリティのファイル情報 3-3
遊遊メール 3-69
呼び分け 3-18, 3-21, 3-26, 3-30

[ラ行]

らくらくアシスタント 2-5, 3-2
　　～のインストール 2-23, 2-26
　　～の使いかた 3-4, 3-6
　　～を起動する 2-49, 2-62
らくらくセットアップガイド 1-7
らくらくテレホン設定 4-2
らくらくバックアップ 3-106
リバースパルス 5-7
利用例 2-42, 2-61
累積料金 3-102
ルータ 6-25

[ワ行]

割込音 3-48

索引

MEMO

MEMO

MEMO

「ソフトウェアのご使用条件」

お客様へのお願い
添付のCD-ROMを開封される前に必ずお読みください。

このたびは、弊社Atermシリーズをお求め頂きありがとうございます。
本商品に添付のCD-ROMには、弊社がご提供する各種ユーティリティやドライバソフトウェアが含まれています。弊社がご提供するソフトウェアのお客様によるご使用およびお客様へのアフターサービスについては、下記の「NEC・NECアクセステクニカがご提供するソフトウェアのご使用条件」にご同意いただく必要がございます。

ご同意を頂けない場合は添付のCD-ROMを開封せずに、お求めになった取り扱い店にCD-ROMを含めた本商品一式をご返却くだされば、実際に支払われた本商品の代金をお返しします。添付のCD-ROMを開封された場合はご同意をいただけたものと致します。

NEC・NECアクセステクニカがご提供するソフトウェアのご使用条件

日本電気株式会社・NECアクセステクニカ株式会社(以下「弊社」とします。)は、本使用条件とともにご提供するソフトウェア製品(以下「許諾プログラム」とします。)の日本国内で使用する権利を、下記条項に基づきお客様に許諾し、お客様も下記条項にご同意いただくものとします。なお、お客様が期待された効果を得るための許諾プログラムの選択、許諾プログラムの導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

1.期間

(1) 本ソフトウェアの使用条件は、お客様が添付CD-ROMを開封されたときに発効します。
(2) お客様は1ケ月以上事前に、弊社宛に書面により通知することにより、いつでも本使用条件により許諾される許諾プログラムの使用権を終了させることができます。
(3) 弊社は、お客様が本使用条件のいずれかの条項に違反されたときは、いつでも許諾プログラムの使用権を終了させることができるものとします。
(4) 許諾プログラムの使用権は、上記(2)または(3)により終了するまで有効に存続します。
(5) 許諾プログラムの使用権が終了した場合には、本使用条件に基づくお客様のその他の権利も同時に終了するものとします。お客様は、許諾プログラムの使用権の終了後、直ちに許諾プログラムおよびその全ての複製物を破棄するものとします。

2.使用権

(1) お客様は、許諾プログラムを一時に1台のコンピュータにおいてのみインストールし、使用することができます。ただし、複数のコンピュータ接続ポートを持つAtermシリーズに同数のコンピュータを一時に接続しご使用になるお客様は、その接続ポート数までを限度としてコンピュータにインストールし、使用することができます。
(2) お客様は、前項に定める条件に従い、日本国内においてのみ許諾プログラムを使用することができます。

3.許諾プログラムの複製、改変、および結合

(1) お客様は、滅失、毀損等に備える目的でのみ、許諾プログラムを一部に限り複製することができます。
(2) お客様は、許諾プログラムの全ての複製物に許諾プログラムに付されている著作権表示およびその他の権利表示を付するものとします。

（3） 本使用条件は、許諾プログラムに関する無体財産権をお客様に移転するものではありません。

4.許諾プログラムの移転等

（1） お客様は、賃貸借、リースその他いかなる方法によっても許諾プログラムの使用を第三者に許諾してはなりません。ただし、第三者が本使用条件に従うこと、ならびにお客様が保有するAtermシリーズ、許諾プログラムおよびその他関連資料を全て引き渡すことを条件に、お客様は、許諾プログラムの使用権を当該第三者に移転することができます。

（2） お客様は、本使用条件で明示されている場合を除き許諾プログラムの使用、複製、改変、結合またはその他の処分をすることはできません。

5.逆コンパイル等

（1） お客様は、許諾プログラムをリバースエンジニア、逆コンパイルまたは逆アセンブルすることはできません。

6.保証の制限

（1） 弊社は、許諾プログラムに関していかなる保証も行いません。許諾プログラムに関し発生する問題は、お客様の責任および費用負担をもって処理されるものとします。

（2） 前項の規定に関らず、お客様による本商品のご購入の日から1年以内に弊社が許諾プログラムの誤り（バグ）を修正したときは、弊社は、かかる誤りを修正したプログラムもしくは修正のためのプログラム（以下「修正プログラム」といいます。）または、かかる修正に関する情報をお客様に提供するものとします。ただし、当該修正プログラムまたは情報をアフターサービスとして提供する決定を弊社がその裁量により為した場合に限ります。お客様に提供された修正プログラムは許諾プログラムと見なします。弊社では、弊社がその裁量により提供を決定した機能拡張のためのプログラムを提供する場合があります。このプログラムも許諾プログラムと見なします。

（3） 許諾プログラムの記録媒体に物理的欠陥（ただし、許諾プログラムの使用に支障をきたすものに限ります。）があった場合において、お客様が許諾プログラムをお受け取りになった日から14日以内にかかる日付を記した領収書（もしくはその写し）を添えて、お求めになった取扱店に許諾プログラムを返却されたときには弊社は当該記憶媒体を無償で交換するものとし（ただし、弊社が当該欠陥を自己の責によるものと認めた場合に限ります。）、これを持って記録媒体に関する唯一の保証とします。

7.責任の制限

（1） 弊社はいかなる場合もお客様の逸失利益、特別な事情から生じた損害（損害発生につき弊社が予見し、また予見し得た場合を含みます。）および第三者からお客様に対してなされた損害賠償請求に基づく損害について一切責任を負いません。また弊社が損害賠償責任を負う場合には、弊社の損害賠償責任はその法律上の構成の如何を問わずお客様が実際にお支払いになったAtermシリーズの代金額をもってその上限とします。

8.その他

（1） お客様は、いかなる方法によっても許諾プログラムおよびその複製物を日本国から輸出してはなりません。

（2） 本契約に関わる紛争は、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所として解決するものとします。

以上

● データ通信ガイドの記載内容の一部に誤りがありました。
お手数をおかけいたしますが、以下の通り修正いたしますので、読み替えてご使用くださいますようお願いいたします。

◎ データ通信ガイド
本商品添付のCD-ROM(ユーティリティ集)

該当ページ	誤	正
IT31L 2-49ページ 19 Smart-Wakeup!サービス	「Smart Wakeup!サービス」の記述	SmartWakeup!サービスは、2003年10月31日をもってサービスを終了いたしました。
3. Atermで使えるメール機能	「電子メール着信通知サービス」の記述	電子メール着信通知サービスは、2005年3月31日をもってサービスを終了いたしました。
	「遊遊メールサービス」の記述	遊遊メールサービスは、2003年3月31日をもってサービスを終了いたしました。

● 電子メール着信通知サービス、遊遊メールサービス、およびSmart Wakeup!サービスは終了させていただきました。
OCNエコノミーサービスの新規受付は終了しています。

● AtermStationのホームページURLの変更
(変更前)http://aterm.cplaza.ne.jp/
⬇
(変更後)http://121ware.com/aterm/
本文のAtermStationホームページのURLを読み替えてください。

● 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

● 輸出する際の注意事項

本商品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり外国の規格などには準拠しておりません。本商品を日本国外で使用された場合、当社はいっさい責任を負いません。また、当社は本商品に関し海外での保守サービスおよび技術サポートなどは行っておりません。

● 廃棄方法について

この商品を廃棄するときは地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは各地方自治体にお問い合わせ願います。

● ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載・無断複写することは禁止されています。
(2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り・記載もれなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
(4) 本商品の故障・誤動作・天災・不具合あるいは停電等の外部要因によって通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損失につきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
(5) せっかくの機能も不適切な扱いや不測の事態（例えば落雷や漏電など）により故障してしまっては能力を発揮できません。取扱説明書をよくお読みになり、記載されている注意事項を必ずお守りください。
(6) 本商品の対応OSは、Windows Vista Home Basic、Windows Vista Home Premiumの各日本語版かつ32 ビット(x86)版、WindowsXP/2000 Professional/Me/98/95/NT4.0（すべて日本語版、ただしWindows95/NT4.0はシリアルポート接続のみ）、MacOS 8.6J/9.0J/9.1J（すべて日本語版）です。
ただし、対応OSでご使用される場合でも、お客様のパソコンの環境などによっては、すべての動作を保証するものではありません。また、対応OS以外で使用される場合は、動作の保証はいたしませんのであらかじめご了承ください。

ご注意

掲載されているお問い合わせ先、修理受付窓口などは変更されている場合があります。

最新の情報は、本マニュアルが掲載されているページの ⚠必ずお読みください「お問い合わせ・アフターサービス(PDF)」を参照してください。

NECアクセステクニカ株式会社
Aterm IT21L/IT31L 取扱説明書　第 1 版

AM1-000579-001
2007 年 6 月

PRINTED WITH SOY INK 大豆インキを使用しています

AM1-000579-001+